

2014(平成26)年9月 実施

第43回 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／区の情報発信のあり方／
健康／ビューティフル・ウィンドウズ運動／
環境・地域活動／「孤立ゼロプロジェクト」など／ユニバーサルデザイン／区取り組み

はじめに

毎年9月に区民3千人を対象に実施している「世論調査」の結果がまとまりました。ご協力いただいた皆様に心から御礼を申し上げます。

足立区の回答率は例年平均約64.5%と、郵便回収で実施している自治体としてはトップクラスです。一つひとつのお声を無駄にすることの無いよう、今後の区政運営に活かしてまいります。

「足立区は現在変化の真ただ中にある」と言っても決して過言ではありません。新線の開業、駅前や拠点の開発が進み、人口は若年世帯を中心に増加傾向にあります。また交通の一大拠点である北千住駅を中心に5つの大学が揃い、若者の行き交う活気あふれる街として、マスコミ等でも取り上げられる機会が増えました。

一方、区の弱点とも言える「治安・学力・健康・貧困の連鎖」に対しても、正面から取り組みを進めた結果、一定の成果が現れはじめていることが今回の調査結果から読み取れます。残念ながら「区政満足度」は前回の調査に比べ低下しています。お住まいの地域やその他の回答との照合などを通じ原因分析の上、改善できるよう努めてまいります。

平成26年1月現在における足立区の高齢化率は23.5%と23区中2位となっており、今後福祉・医療・介護分野を中心に求められる区民サービスは質・量ともに増大することは確実です。限られた財源の中で、そうした要望にお応えしつつ持続可能な自治体として成長し続けるためには、施策の優先順位を的確に判断し、極力無駄を省き、創意工夫で事業を組み替えていく必要があります。時には痛みを伴う改革も避けては通れない時もあるでしょう。区民の皆様には、できる限りの情報を開示し、極力ご理解とご協力をいただきながら、丁寧な区政運営に心を砕いてまいります。

平成27年3月

足立区長 近藤 やすい

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 調査ブロック	4
5. 調査方法	5
6. 回収結果	5
7. 報告書の見方	7
8. 標本構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1. 定住性	17
2. 大震災などの災害への備え	18
3. 区の情報発信のあり方	19
4. 健康	20
5. ビューティフル・ウィンドウズ運動	21
6. 環境・地域活動	23
7. 「孤立ゼロプロジェクト」など	24
8. ユニバーサルデザイン	25
9. 区の取り組み	26
第3章 調査結果の分析	29
1. 定住性	33
(1) 居住地域の評価	33
(2) 居住地域評価の経年比較	43
(3) 地域の暮らしやすさ	49
(4) 特に暮らしにくいと感ずること	54
(5) 定住意向	57
2. 大震災などの災害への備え	67
(1) 備蓄や防災用具などの用意	67
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	71
(3) 備蓄量	74
(4) 災害発生時の水や食料の確保	79
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策	82
(6) 対策をしていない理由	85
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知	87
(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	91
3. 区の情報発信のあり方	97

(1) 区に関する情報の入手手段	97
(2) 区が発信する必要がある情報	100
(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況	102
(4) 区の情報得られない理由	104
(5) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況	105
4. 健康	109
(1) 糖尿病の認知状況	109
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	111
(3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知	113
(4) 1日野菜350g以上の摂取	115
(5) 体調や習慣	117
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	122
5. ビューティフル・ウィンドウズ運動	127
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	127
(2) 治安が改善していることの認知	130
(3) 居住地域の治安状況	133
(4) 区内の治安が良いと感じる点	136
(5) 区内の治安が悪いと感じる点	138
(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	141
(7) 駐輪時の鍵かけ状況	144
6. 環境・地域活動	149
(1) 環境のために心がけていること	149
(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	151
(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価	156
7. 「孤立ゼロプロジェクト」など	161
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	161
(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路	164
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況	165
(4) 「地域包括支援センター」の認知経路	168
(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	169
(6) 協力意向がある活動内容	172
(7) 「成年後見制度」の認知状況	174
8. ユニバーサルデザイン	179
(1) ユニバーサルデザインの認知状況	179
(2) ユニバーサルデザインへの関心度	181
(3) ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み	183
(4) ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み	185
9. 区の取り組み	189
(1) 満足度と重要度	189
(2) 区政への区民意見の反映度	217
(3) 区に対する気持ち	220

(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	231
(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	237
(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	244

第4章 使用した調査票	247
-------------	-----

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の内容

今回の調査では9項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 区の情報発信のあり方
- (4) 健康
- (5) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (6) 環境・地域活動
- (7) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (8) ユニバーサルデザイン
- (9) 区の取り組み

3. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 平成26年9月1日(月)～9月25日(木) |
| (6) 調査機関 | (株)サーベイリサーチセンター |

4. 調査ブロック

図1 ブロック区分図



表1 調査ブロックー町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

5. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

6. 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,846票 有効回収率 61.5%
 (3) 回収不能数 1,154票 回収不能率 38.5%

- (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロックー地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	559,833人	100.0%	3,000票	1,846票	61.5%
第1ブロック	63,175	11.3	335	223	66.6
第2ブロック	39,889	7.1	215	131	60.9
第3ブロック	35,527	6.3	191	126	66.0
第4ブロック	46,966	8.4	252	153	60.7
第5ブロック	51,589	9.2	278	169	60.8
第6ブロック	61,524	11.0	330	193	58.5
第7ブロック	44,864	8.0	242	146	60.3
第8ブロック	36,849	6.6	198	114	57.6
第9ブロック	27,487	4.9	147	86	58.5
第10ブロック	47,092	8.4	254	158	62.2
第11ブロック	35,377	6.3	190	122	64.2
第12ブロック	29,607	5.3	159	100	62.9
第13ブロック	39,887	7.1	209	125	59.8

(20歳以上人口は平成26年8月1日現在)

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,846票	61.5%
男性 (計)	1,480	808	54.6
20 代	201	61	30.3
30 代	250	101	40.4
40 代	316	154	48.7
50 代	222	139	62.6
60 代	243	167	68.7
70歳以上	248	185	74.6
女性 (計)	1,520	975	64.1
20 代	196	79	40.3
30 代	236	134	56.8
40 代	294	189	64.3
50 代	199	134	67.3
60 代	234	182	77.8
70歳以上	361	255	70.6
無 回 答		63	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」(計)の数とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。」という質問に対して、「暮らしやすい」と答えた人は、1,846人のうち21.9%であった。

回答者数が1,846人、回答率が20%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±1.86%であるから、「暮らしやすい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の20.04%から23.76%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

<p>b = 標本誤差 N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口) n = 比率算出の基数 (回答者数) P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p>
--

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,846	± 1.40	± 1.86	± 2.13	± 2.28	± 2.33
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,846	± 1.40	± 1.86	± 2.13	± 2.28	± 2.33
男性 (計)	808	± 2.11	± 2.81	± 3.22	± 3.45	± 3.52
20 代	61	± 7.68	±10.24	±11.73	±12.55	±12.80
30 代	101	± 5.97	± 7.96	± 9.12	± 9.75	± 9.95
40 代	154	± 4.83	± 6.45	± 7.39	± 7.90	± 8.06
50 代	139	± 5.09	± 6.79	± 7.77	± 8.31	± 8.48
60 代	167	± 4.64	± 6.19	± 7.09	± 7.58	± 7.74
70歳以上	185	± 4.41	± 5.88	± 6.74	± 7.20	± 7.35
女性 (計)	975	± 1.92	± 2.56	± 2.94	± 3.14	± 3.20
20 代	79	± 6.75	± 9.00	±10.31	±11.02	±11.25
30 代	134	± 5.18	± 6.91	± 7.92	± 8.46	± 8.64
40 代	189	± 4.36	± 5.82	± 6.67	± 7.13	± 7.27
50 代	134	± 5.18	± 6.91	± 7.92	± 8.46	± 8.64
60 代	182	± 4.45	± 5.93	± 6.79	± 7.26	± 7.41
70歳以上	255	± 3.76	± 5.01	± 5.74	± 6.14	± 6.26

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

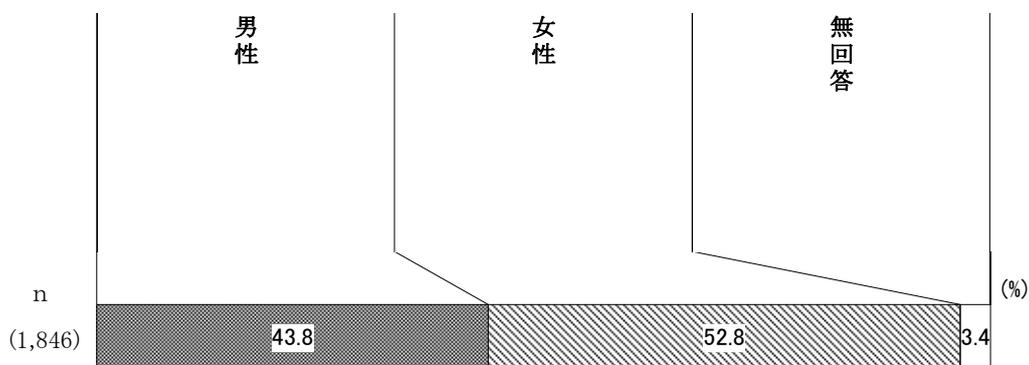
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域ブロック別……（13カテゴリ）
- ② 性別……（2カテゴリ）
- ③ 性・年代別……（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリ）
 - ・独身期 40歳未満の独身者
 - ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住居形態別……（8カテゴリ）
- ⑥ 職業別……（8カテゴリ）
- ⑦ 就労（就学場所）別……（6カテゴリ）
- ⑧ 居住年数別……（5カテゴリ）

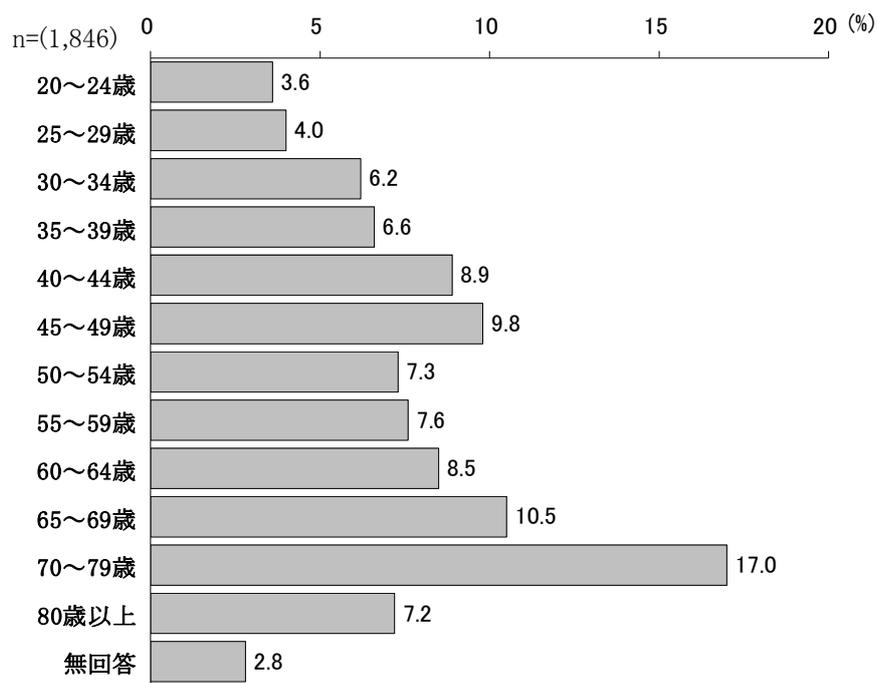
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

8. 標本構成

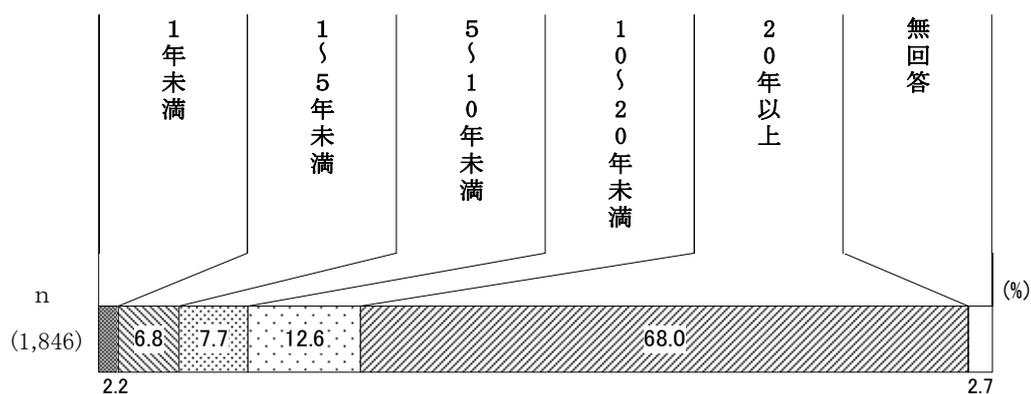
F 1 性別



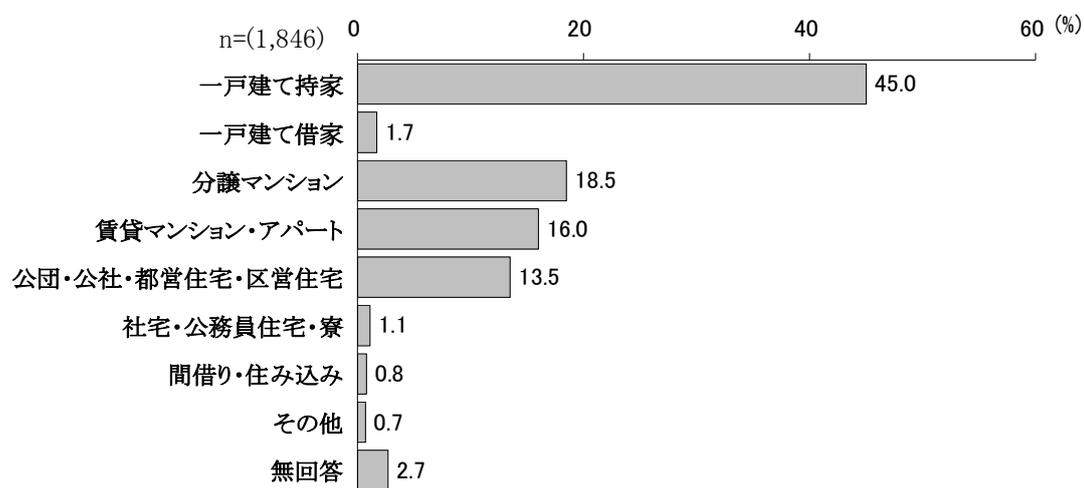
F 2 年齢



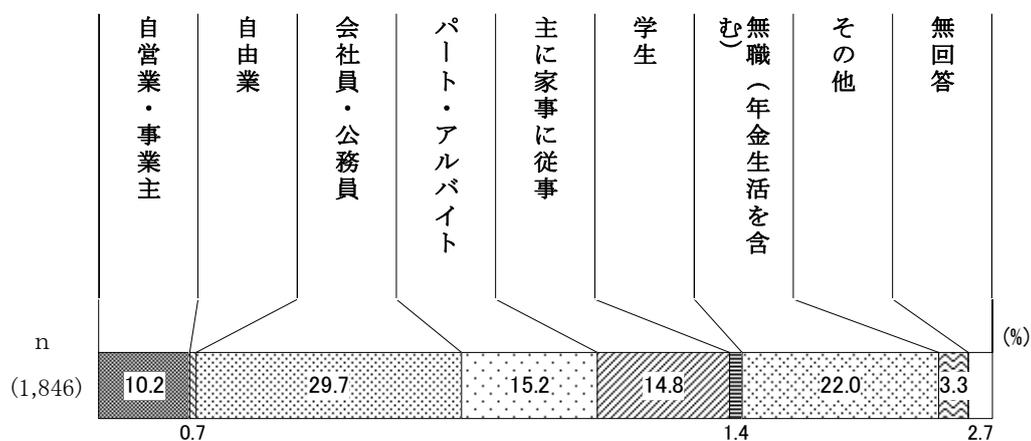
F 3 居住年数



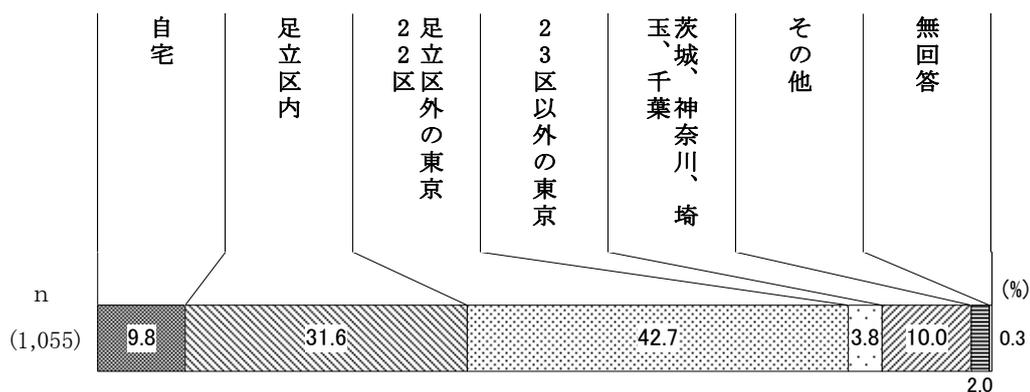
F 4 住居形態



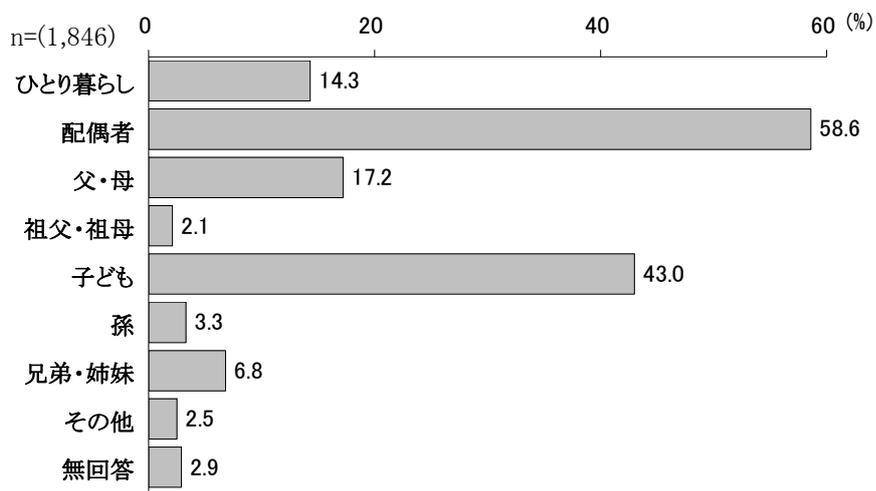
F 5 職業



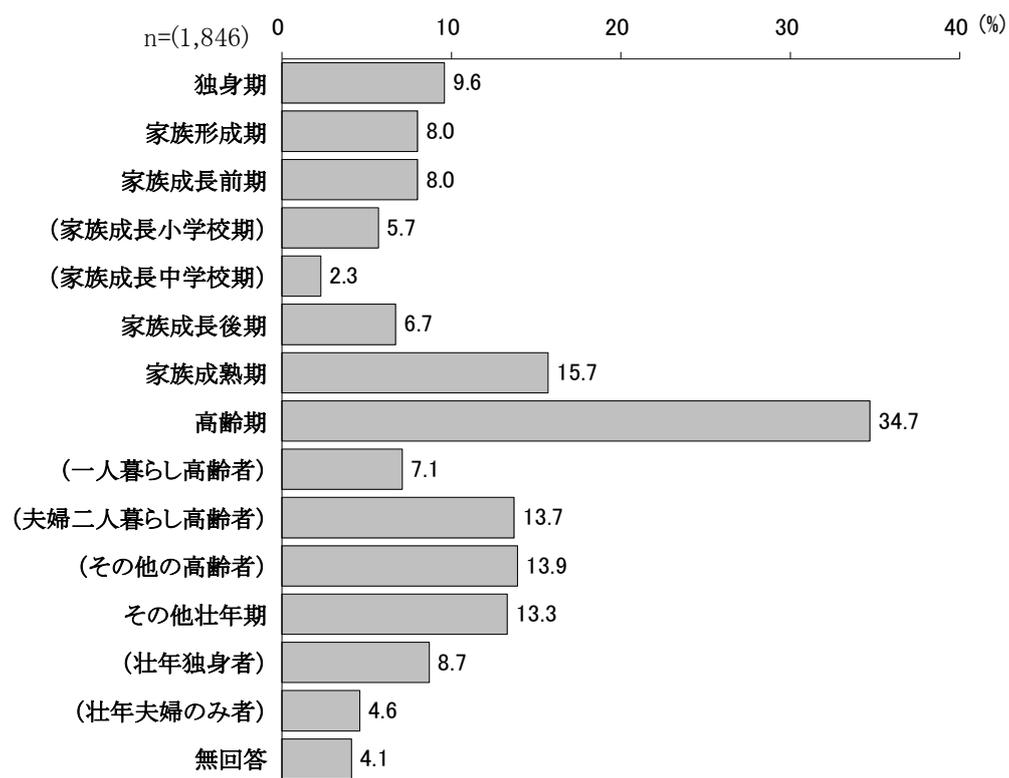
F 6 就労、就学場所



F 7 同居家族（複数回答）



F 8 ライフステージ



第2章 調査結果の要約

1. 定住性

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉の3項目が、平成25年度調査結果と比べて微増している。他の項目については、ほぼ横ばい、あるいは微減となっているなか、〈よく行く、または行きたい公園がある〉が、選択肢の文言の変化も関係して、激減している。ただし、全体としては区民の居住評価は高い水準で安定しているといえる。

しかしながら、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉は、肯定的な評価が微増しているとはいえ、依然として、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が6割を超えており、引き続き、区民のマナー意識の向上が求められる。

また、〈まちなかの花や緑〉〈防犯パトロール〉など、環境面、防犯面については、平成25年度調査に比べて、【増加している】（「どちらかといえば増えている」＋「明らかに増えている」）が、いずれも今回、微増、あるいはほぼ横ばいという結果となっている。

一方、〈ペットのふん〉については、【減少している】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）が、僅かながら増加しているものの、〈ごみやタバコのポイ捨て〉も含めて、区民のマナー意識のさらなる向上が求められる。

このように、居住地域の利便性の良さ、環境面、防犯面などの取り組みへの評価は比較的高い水準にあるものの、地域の暮らしやすさへの評価をみると、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は今回76.9%となっており、平成22年度（85.7%）以来の微減傾向は続いている。

また、地域ブロック別でみると、第2、第8、第12ブロックのように、【暮らしにくい】（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が、約3割と他のブロックより高くなっている地域もあり、依然として、暮らしやすさへの評価の地域差は解消されていない。

また、【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）についても、今回75.8%と、平成21年（78.2%）以降、微減傾向にあり、区民の暮らしやすさへの評価とほぼ対応した経年変化を示している。

今後も、評価の低い分野への取り組みを一層強化し、区の暮らしやすさへの評価を向上させることによって、区民の定住意向を強めていくことが課題である。

2. 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約3年半が経過したが、区民の防災意識や日頃の備えはどのようになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、今回は67.4%と、平成25年度調査結果（68.3%）とほぼ同様の数値となっており、依然として、震災後の平成24年度調査結果（73.9%）に比べて低い水準に留まっている。

このように、震災後に比べて、区民の防災への意識がやや低下している状況は続いており、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていない。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」「あかり」が8割を超えて高くなっているのに対して、「医薬品（常備薬を含む）」は4割強、「救急セット」「簡易トイレ」は2割前後に留まっており、備蓄内容には大きな差がある。

また、水と食料の備蓄量については、いずれも「1日分以上3日分未満」が4割を超えて高くなっており、「3日分以上1週間分未満」は2割台、「1週間分以上」は1割前後と留まっている。

この結果は、平成25年度調査結果とほぼ同様であり、今後も、医療やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、可能であれば1週間」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時に水や食料についてどうするかを「考えていない」という人が、平成25年度調査結果の37.3%から、今回41.3%へと増加しており、この数値にも区民の防災への危機意識の薄まりを読み取ることができる。30代の男性や20代の女性をはじめとして、防災意識の希薄な層に対して、災害時の物流の停止などの事態に関する情報を提供し、日頃から災害への備えをしてもらうように働きかけていくことが必要である。

次に、家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は、今回27.1%と、平成25年度調査結果（27.9%）とほぼ同様の結果となっている。

また、【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人は、その理由として、「面倒である」「建物の壁にキズをつけたくない」「室内に危険性のある家具類がないため不要である」等と回答する人が、いずれも2割を超えている。地震の際の家具転倒の危険性について十分に認識を持っていないことがわかる。

さらに、家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知については、平成25年度調査結果と同様1割台に留まっている。

以上の結果から、今後も、区民に対して、地震の際の家具転倒の危険性について粘り強く周知を図るとともに、家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の利用の促進に、引き続き取り組んでいくことが求められる。

最後に、大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「ライフラインやエネルギーの確保」「水・食料の備蓄の充実」「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」の3項目が、平成25年度調査結果と同様、いずれも5割を超えて、上位3位を占めている。この中で、「ライフラインやエネルギーの確保」は、行政の当然担うべき役割であるが、「水・食料の備蓄の充実」や「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」については、行政だけではなく、区民自身の取り組みも重要であることから、行政の防災対策の一層の充実を図るとともに、区民自身の防災意識を高め、主体的な取り組みを促進していくことも課題といえる。

3. 区の情報発信のあり方

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が76.1%と際立って高くなっており、性・年代別にみても、男女各年代にわたって、高い比率を示している。また、中高年層を中心として、「町会・自治会掲示板・回覧板」も3割台から6割台と高くなっている。

その一方、30代、40代、とくに女性で、「インターネット」の比率が、それぞれ53.0%、63.5%と高くなっている。こうした結果は、平成25年度調査結果と比べて大きく変わっていない。

こうしたことから、今後も、「あだち広報」のような紙媒体の重要性を再認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して、自ら積極的に情報を得ようとする区民に対しても、適切な情報を発信していくことが必要である。

次に、区が発信する必要がある情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が61.9%を占めて最も高くなっているほか、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」「災害や気象に関する情報」も5割近くを占めている。上位3項目は、やや比率の増減はあるものの、平成25年度調査結果と同様であり、区民の最大の関心事が、健康・福祉と防災にあるという状況は変わっていない。

また、こうした情報が必要なときに得られているか聞いたところ、【得られる】（「十分に得られる」＋「ある程度得られる」）が、平成25年度調査結果の60.5%から、今回64.5%へと増加しており、区民への情報提供体制の充実は徐々に進んでいることがわかる。

しかしながら、【得られない】（「得られないことが多い」＋「まったく得られない」）は依然として、2割近くを占めている事実を見逃してならない。

とくに、注目されるのは、【得られない】理由である。今回、新たに「情報の探し方がわからない」という選択肢を設けているが、調査結果では、この選択肢が30.8%と「情報が探しにくい」（34.2%）とほぼ並ぶ数値を示している。

今後、【得られる】という層を増やし、【得られない】という層を減らしていくためには、単に情報発信の仕方を工夫するだけではなく、区民が自分の必要とする情報を得るための方法や手段を身につけられるよう、様々な取り組みをしていくことが求められる。

また、今回、新たに「お問い合わせコールあだち」の利用状況を訊いたが、利用者は4.9%、【周知度】は28.9%となっており、さらなる制度の周知と利用の促進を図っていくことが重要である。

4. 健康

糖尿病という病気については、【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」）が97.8%と、極めて認知度は高くなっている。性・年代別でも、性別、年齢にかかわらず、その認知度は極めて高い。

また、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについては、今回「足の壊疽」が67.4%と、平成25年度調査結果の61.3%より高くなっているほか、「失明」「口の渇き」「人工透析」についても高い数値が示されている。

しかしながら、「網膜症」や「白内障」のような《糖尿病の危険の兆候》を示すものについては、依然として【知っている】が2割から3割程度に留まっている。糖尿病という病気についての認識は広まっているものの、その危険性について、一層の区民の理解を深めていくことが重要である。

糖尿病の予防には、「食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である」と言われているが、このことを【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、聞いたことがある」）は今回77.9%と、平成25年度調査結果の72.5%から増加している。

しかしながら、性・年代別でみると、20代、30代の男性、20代の女性といった若い世代での認知度が低くなる傾向は依然として続いており、引き続き、若い世代に糖尿病の予防の大切さや、その具体的な方法を伝えていくことが重要である。

一方、野菜の摂取量については、「1日350g以上」が目標とされているが、実際に、【できている】（「できている」＋「だいたいできている」）は38.2%と平成25年度調査結果（40.5%）とほとんど変わっていない。とくに、【できている】は20代から60代の男性、20代の女性で低くなっており、引き続き、この年代を中心に健康維持のための野菜摂取の重要性を啓発していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、〈現在の健康状態はよい〉〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉については、6割台半ばが「あてはまる」と回答しており、区民の多くは健康であり、医療環境にも恵まれていると考えていることがわかる。しかし、日頃の生活の中では、40代、50代の男性で喫煙習慣のある人が4割台半ばを占めている。

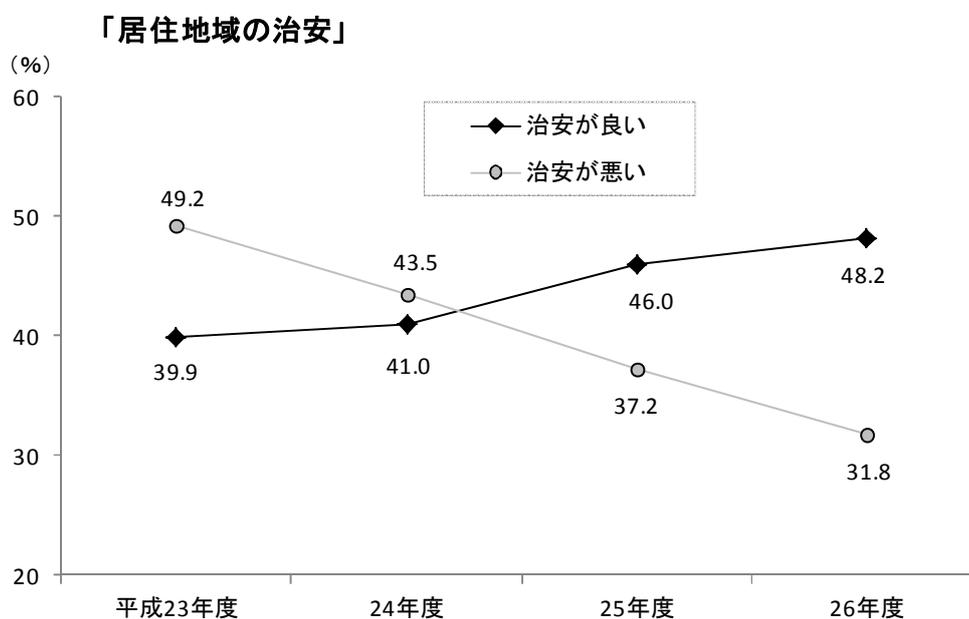
最後に、健康維持のために実行している、心がけているものとしては、平成25年度調査結果も、今回も「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割を超えて高くなっている。

しかしながら、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」は、今回も43.3%と平成25年度調査結果（42.0%）とほぼ同様の結果となっており、平成24年度調査結果の52.0%に比べて低いという状況が続いている。前述したように、「1日350g以上」の野菜を摂っている人が4割に満たない現状を考え合わせると、今後も、野菜の摂取も含めて、バランスのとれた食生活を送ることの重要性を、区民に周知させるための取り組みに一層力を入れていくことが重要である。

5. ビューティフル・ウィンドウズ運動

ビューティフル・ウィンドウズ運動については、【知っている】（「知っている、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行ってない」）は今回41.0%と、平成22年度以降、最も高い数値となっており、この運動が広く区民に認知されてきている状況がわかる。しかしながら、地域や年齢によって、【知っている】の数値が異なるほか、「知っている、活動を実践している」区民は、いずれの年代、地区でも1割に満たない状況にある。今後は、この取り組みへの理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことも重要である。

また、居住地域の治安状況については、平成25年度調査結果では、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が、【悪い】（「悪い」＋「どちらかといえば悪い」）を10ポイント近く上回り、平成23年度以来、はじめて【良い】が【悪い】を上回った。今回は、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が、【悪い】（「悪い」＋「どちらかといえば悪い」）を16.4ポイント上回っており、治安状況の改善はさらに進んでいることがわかる。



しかしながら、治安状況に対する評価にはかなり地域差があるほか、20代、30代の女性では、【悪い】との評価が【良い】との評価を上回っている。今後も、地域や性別、年齢にかかわらずすべての区民が、安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいくことが必要である。

【良い】と回答した人に、その理由をきいたところ、平成25年度調査結果と同様に「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が最も多くなっているが、今回新たに選択肢に加えた「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」が18.7%と2割近くを占めていることが注目される。治安対策として区に力を入れてほしいこととしても、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」が50.7%と、平成25年度調査結果と同様に最も高くなっており、防犯カメラに対する区民の期待は極めて高くなっている。また「安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール」「安全に配慮した道路、公園の整備」も、4割前後と高くなっている。

第2章 調査結果の要約

さらに、治安が【悪い】と感じる人では、今回、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」は、平成25年度調査結果に比べて減少しているものの、その一方で、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は、今回60.0%と前回調査結果の51.9%より高くなっており、区内の治安に係わる課題は依然として残っている。前述したように、半数近い区民は区内の治安状況が改善していると評価をしているが、足立区をさらに安心安全な街にしていくため、治安の向上のための様々な事業に、区民と行政、関係機関がそれぞれ役割を分担しながら緊密に連携して、取り組んでいくことが重要である。

6. 環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が、今回も86.8%と最も高くなっており、平成23年度以降、毎年僅かな数値の増減はあるものの、8割台半ばを超えており、《ごみの分別》が区民の間にほぼ定着したことがわかる。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も、今回53.6%と、平成25年度調査結果（52.9%）とほぼ同様の結果となっている。

一方、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、今回56.1%と、平成23年度調査結果（69.6%）以降減少傾向にある。こうした結果は、震災をきっかけに高まった省エネ行動の意識が年月の経過とともに、薄れてきたことを示しているといえる。今後も省エネルギーのための行動の大切さを周知する取り組みを充実させていくことが必要である。

また、「ごみと資源の分別を実行している」、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、男女とも、20代では他の年代に比べて低くなっており、若い世代に、環境の維持のための取り組みを働きかけていくことが必要である。

次に、この1年間に参加した地域活動をみると、「特に参加していない・特にない」は、今回32.7%と、平成24年度調査結果（46.2%）以降、減少傾向にある。

その内容としては、平成25年度調査結果（22.8%）と同様に、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、今回も19.8%と最も高くなっている。また、今回は「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」が14.2%と、平成25年度調査結果の7.4%から増加している。一方、今後の参加意向をみても、この傾向はほぼ同様となっている。

最後に、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価については、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が、今回27.7%と、平成25年度調査結果の30.0%から微減している。また、「わからない」という回答が、前回調査結果と同様に5割近くを占めており、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の内容や、その進捗状況を、区民が客観的に評価できる仕組みをどうするか、という課題は依然として残っている。

7. 「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っている、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が今回27.6%と、平成25年度調査結果（29.8%）とほぼ同様の結果となっている。

地区ブロック別でみると、第3、第5、第9、第11、第13ブロックでは【知っている】がいずれも3割を超えて、性・年代別でみると70歳以上の男性、60代、70歳以上の女性で高くなっており、地域や年齢によって、かなりの差がある。

その認知手段をみると、「あだち広報」は今回62.9%と、平成25年度調査結果（67.1%）よりやや低下しているものの、依然として第1位を占めている。

今後も、「あだち広報」を中心として、町会・自治会、民生委員などと連携して、区民すべてに、このプロジェクトを認知してもらうことが重要である。

また、高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は、今回17.8%と、平成25年度調査結果（18.6%）とほぼ同様の結果となっており、見守り活動への協力意向に大きな変化はない。地域ブロック別でみると、【協力したい】は最も高い第3ブロックで26.2%、最も低い第11ブロックで9.8%と、かなりの地域差がある、また性・年代別でみると、70歳以上の男性、60代、70歳以上の女性で2割を超えて、高くなっている。

次に協力意向のある人では、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」「『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」は、平成25年度調査と選択肢の表現がやや異なっていることを考慮する必要はあるが、前回調査結果より増加している。

また、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などの人権を擁護するための成年後見制度が注目されている。この制度を【知っている】（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）は、今回55.7%と、平成25年度調査結果（55.1%）とほぼ同様の結果となっている。

以上のように、地域包括支援センターの周知度が、今回49.3%と、平成25年度調査結果の44.5%より増加しているものの、孤立ゼロプロジェクトの周知度、協力意向、成年後見制度の周知度は前回とほとんど変わっていない。地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、事業や制度の周知に粘り強く取り組み、活動への協力者の増加や制度の利用促進を図っていくことが重要である。

8. ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインについては、【知っている】（「具体的な取り組み事例なども知っている」＋「言葉の意味は知っている」＋「言葉を聞いたことがある」）は、今回42.1%と、平成25年度調査結果（43.0%）とほぼ同様の結果となっている。性・年代別でみると、男女とも、20代から50代に比べて、60代、70歳以上の【知っている】が低くなる傾向も前回調査結果と共通している。

また、ユニバーサルデザインへの関心度をみても、【関心がある】（「非常に関心がある」＋「少しは関心がある」）は、今回28.5%と、平成25年度調査結果（30.4%）とほぼ同様である。

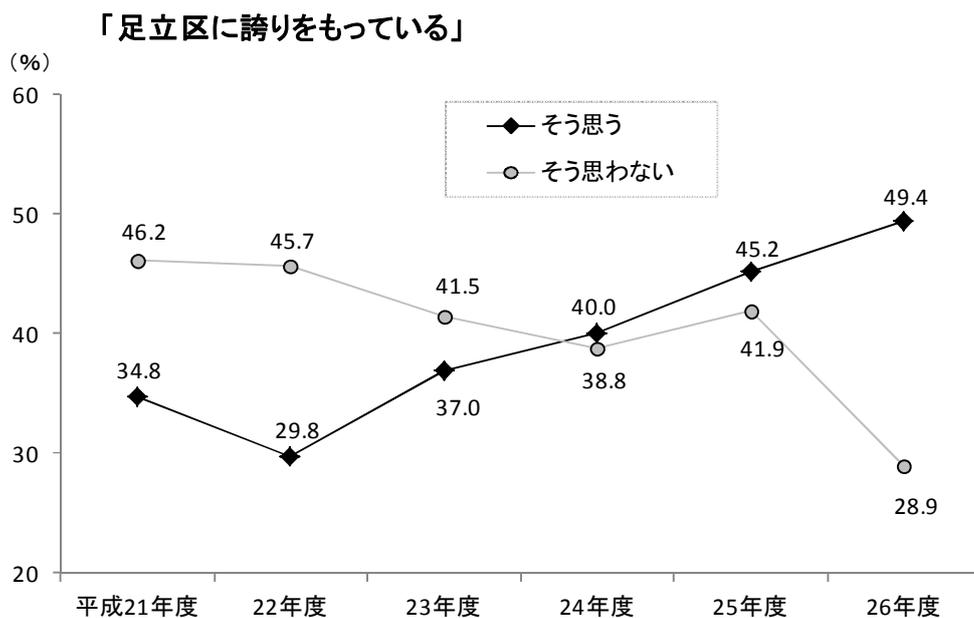
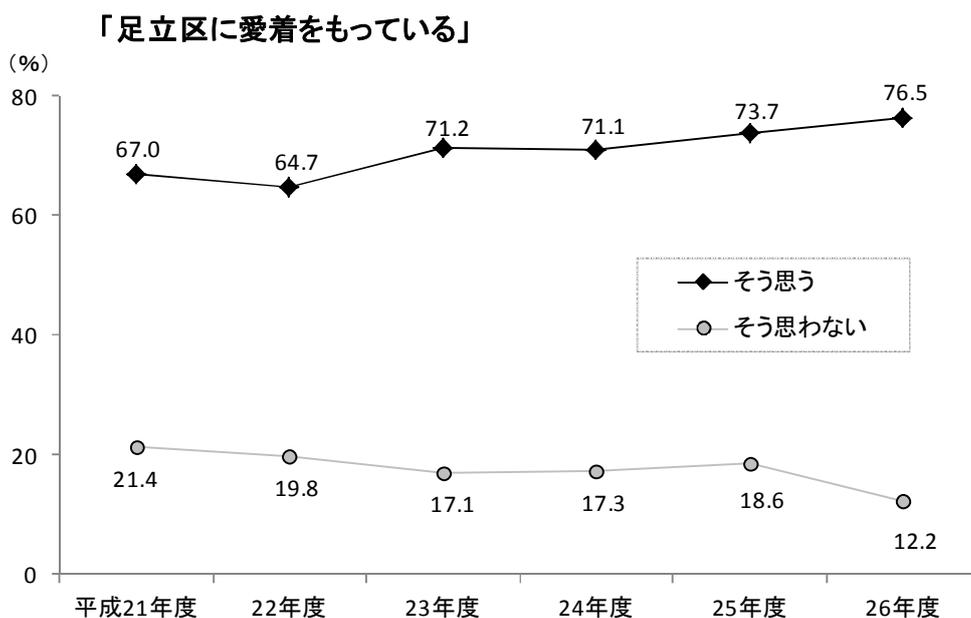
このように、ユニバーサルデザインという考え方については、区民の認知度、関心度とも、ここ1年では大きく変化していないことがわかる。今後も、ユニバーサルデザインという考え方の重要性について様々な機会や場を通じて啓発していくことが必要である。

とくに、ユニバーサルデザインに【関心がある】という人では、今後、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」や「地域の人と一緒に、日常生活上不便や不安に思われるところを見つけ、改善したい」が高くなる傾向は今回も前回調査結果と共通しており、この考え方の広まりが、地域福祉の推進にとっても重要な意味のあることは明らかである。

最後に、ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組みを聞くと、「ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりや施設整備」「ユニバーサルデザインに関する情報提供」「ユニバーサルデザインに関する教育や人づくり」が、上位3位を占めるという結果は、平成25年度調査結果と共通しており、今後も引き続いて、ハード面の整備、関連情報の提供と人材の育成に力を入れていくことが必要である。

9. 区の取り組み

区に対する気持ちを〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目に分けて聞くと、いずれの項目についても、【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえばそう思う**」）が、ここ数年上昇傾向にあり、今回、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉は、それぞれ76.5%、49.4%、46.7%と、過去最高の数字となっている。このことは、区民の区に対する愛着の深まりを端的に示している。



また、前述したように、足立区の重要な政策課題である治安の問題についても、【良い】との評価が、今回48.2%と、平成23年度調査結果（39.9%）から10ポイント近く増加しており、ここ数年で大きく改善されている。

しかし、その一方で、すでに述べたように区民の暮らしやすさへの評価、定住意向は、高い比率を示しているものの、ここ数年微減傾向を示していることも事実である。この区民の厳しい評価を端的に示しているのが、区政全体に対する満足度の結果であり、【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は今回53.2%と、平成25年度調査結果の59.1%から減少している。

今回調査においても、前回調査と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細197頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、「重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が、平均値より低い」分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「行政改革」「交通対策」であるとの結果は変わっていない。今回の調査結果では、「交通対策」が微増、「治安対策」がほぼ横ばいとなっているが、他の分野はいずれも現状評価（満足度）の比率が僅かながら低下しており、これが、区政全体に対する評価の低下をもたらしたものと考えられる。

区政全体に対する満足度が高くなるほど、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」とも増加しており、両者の間の相関関係は明らかである。また、同様に、暮らしやすさへの評価や定住意向が高い層ほど、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」も増加している。

今後も、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「行政改革」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、一層積極的に取り組むことによって、区民の区政全体への満足度を向上させ、それを区民の定住意向の高まりへとつなげ、足立区を、すべての区民が愛着と誇りの持てる「まち」に発展させていくことが求められる。

第3章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住地域の評価
 - (2) 居住地域評価の経年比較
 - (3) 地域の暮らしやすさ
 - (4) 特に暮らしにくいと感じること
 - (5) 定住意向
-

1. 定住性

(1) 居住地域の評価

■ 〈普段の買い物が便利である〉と感じている人は7割を超える

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

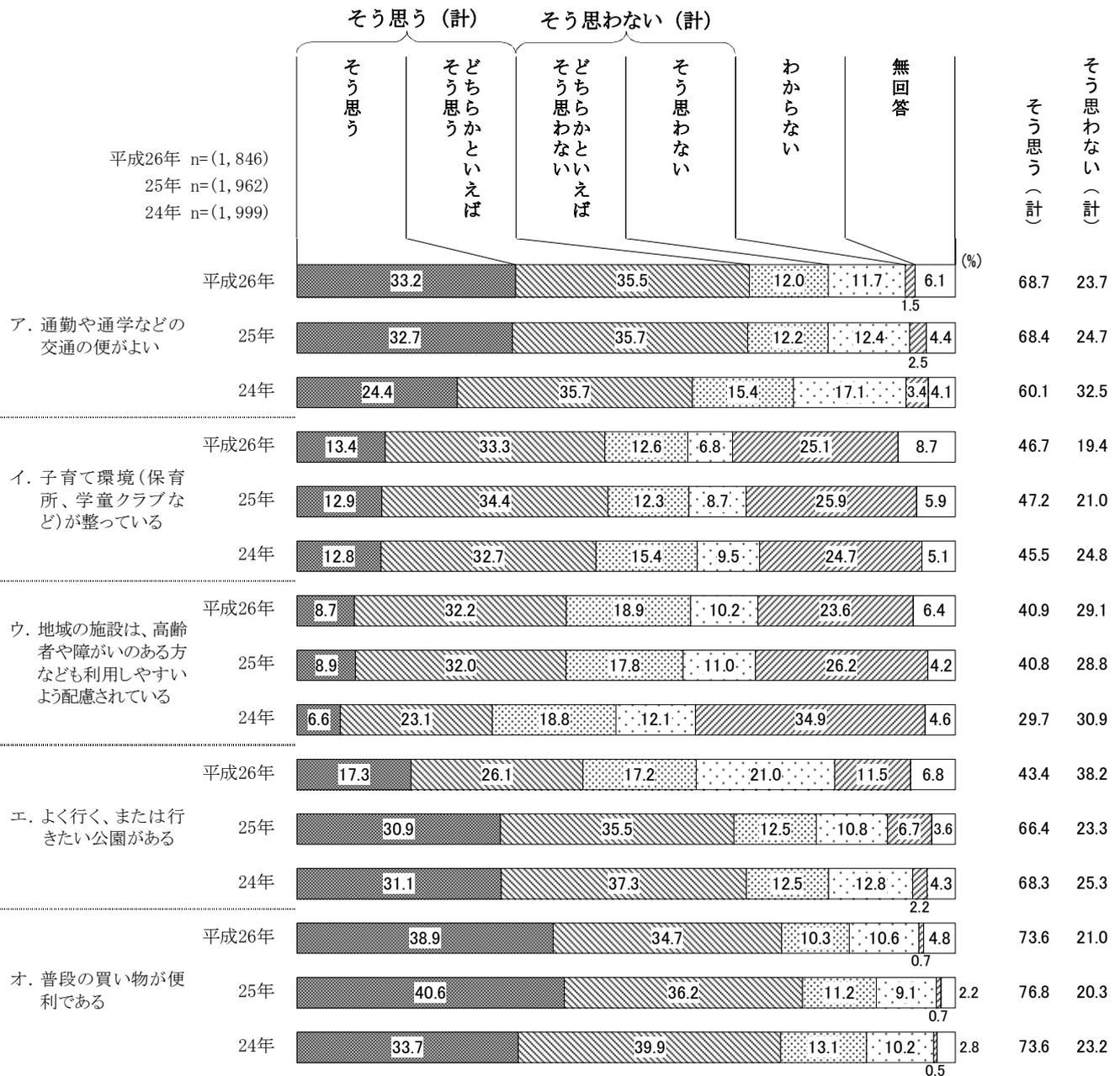
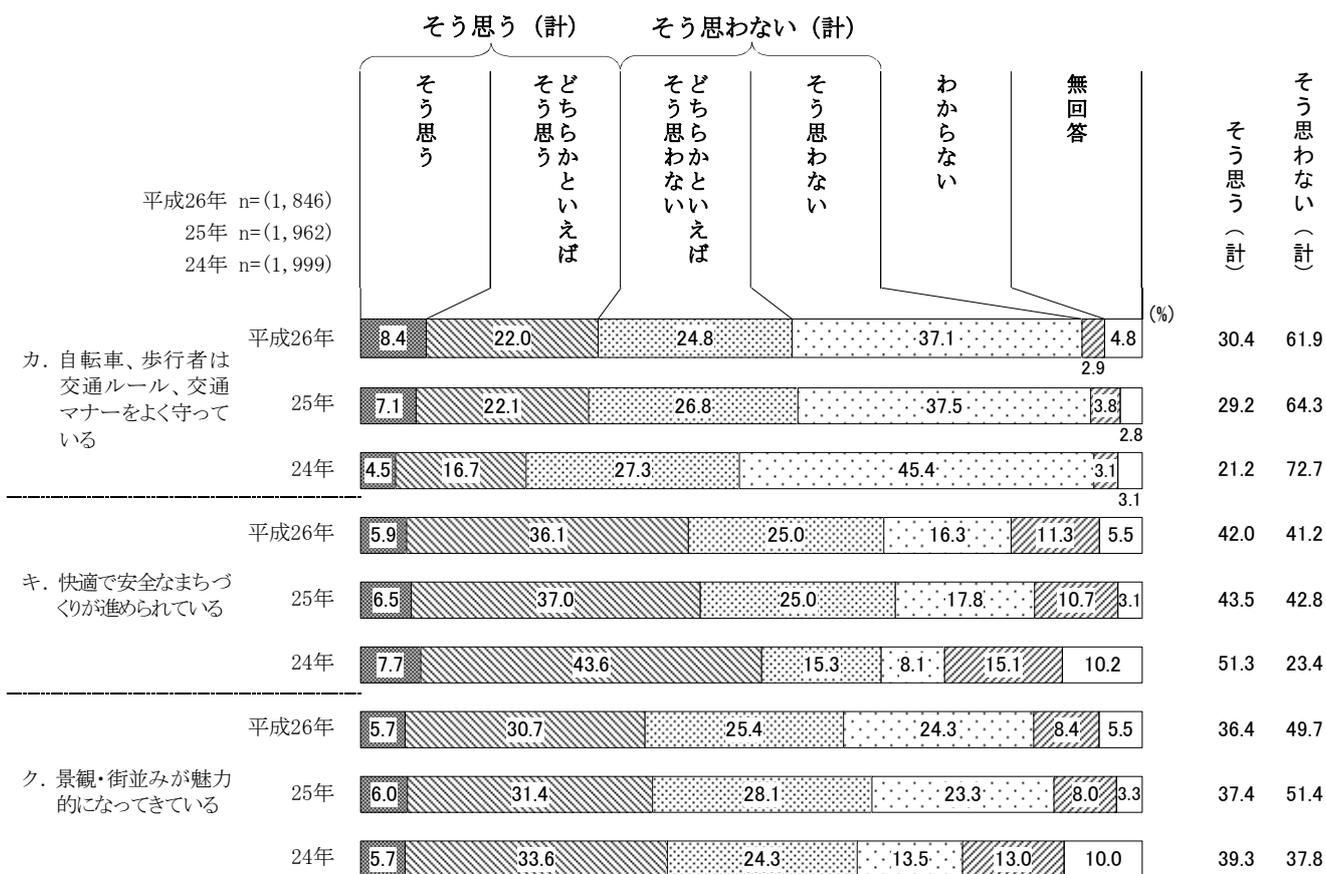


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価



※ウは、24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえた。
 ※エは、25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。

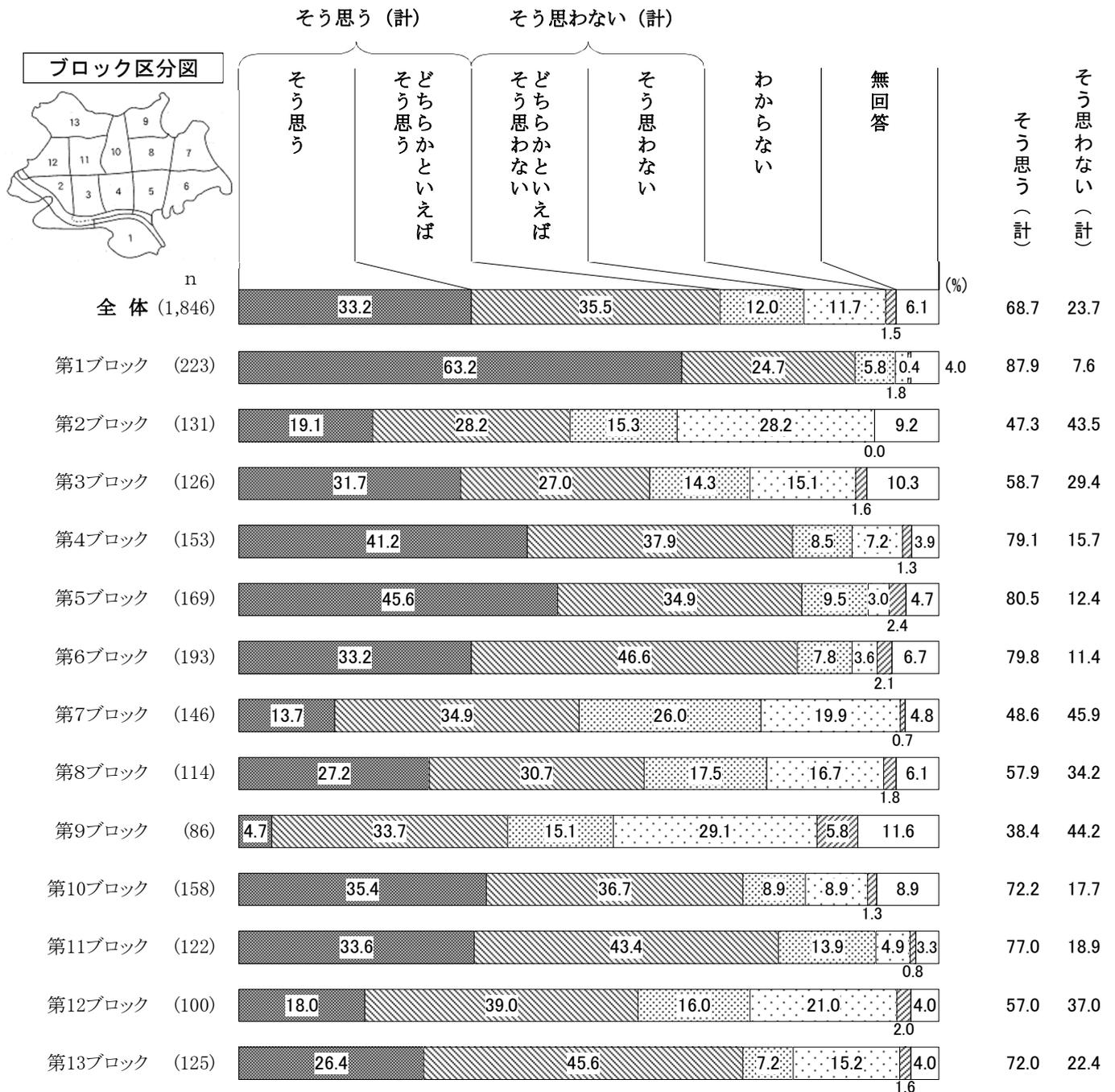
住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が73.6%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便がよい〉68.7%、〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉46.7%の順となっている。

経年で比較すると、今回の調査では、8項目のうち3項目で【そう思う】が平成25年調査に比べて微増しているが、他の項目はやや減少する傾向にある。とくに〈よく行く、または行きたい公園がある〉は、選択肢の文言の変化も関係して、前回の66.4%から、今回43.4%へと減少している。

次に、各項目について、地域ブロック別でみた。

〈通勤や通学などの交通の便がよい〉について、【そう思う】は第1ブロックが87.9%と最も高く、次いで第5ブロックが80.5%となっている。【そう思わない】は第2ブロック、第7ブロック、第9ブロックで4割を超え高くなっている。

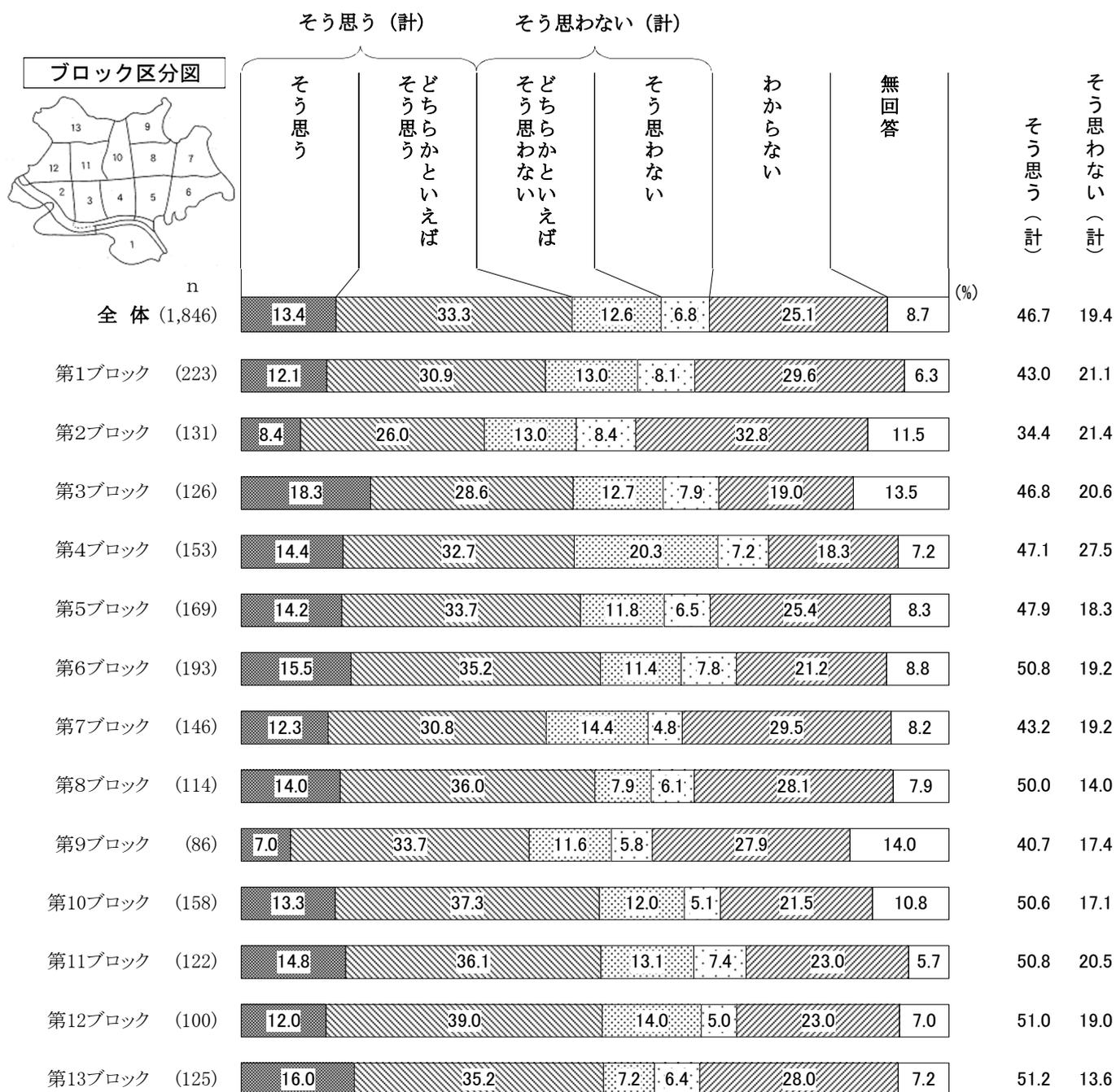
図1-1-2-① 地域ブロック別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便がよい



第3章 調査結果の分析

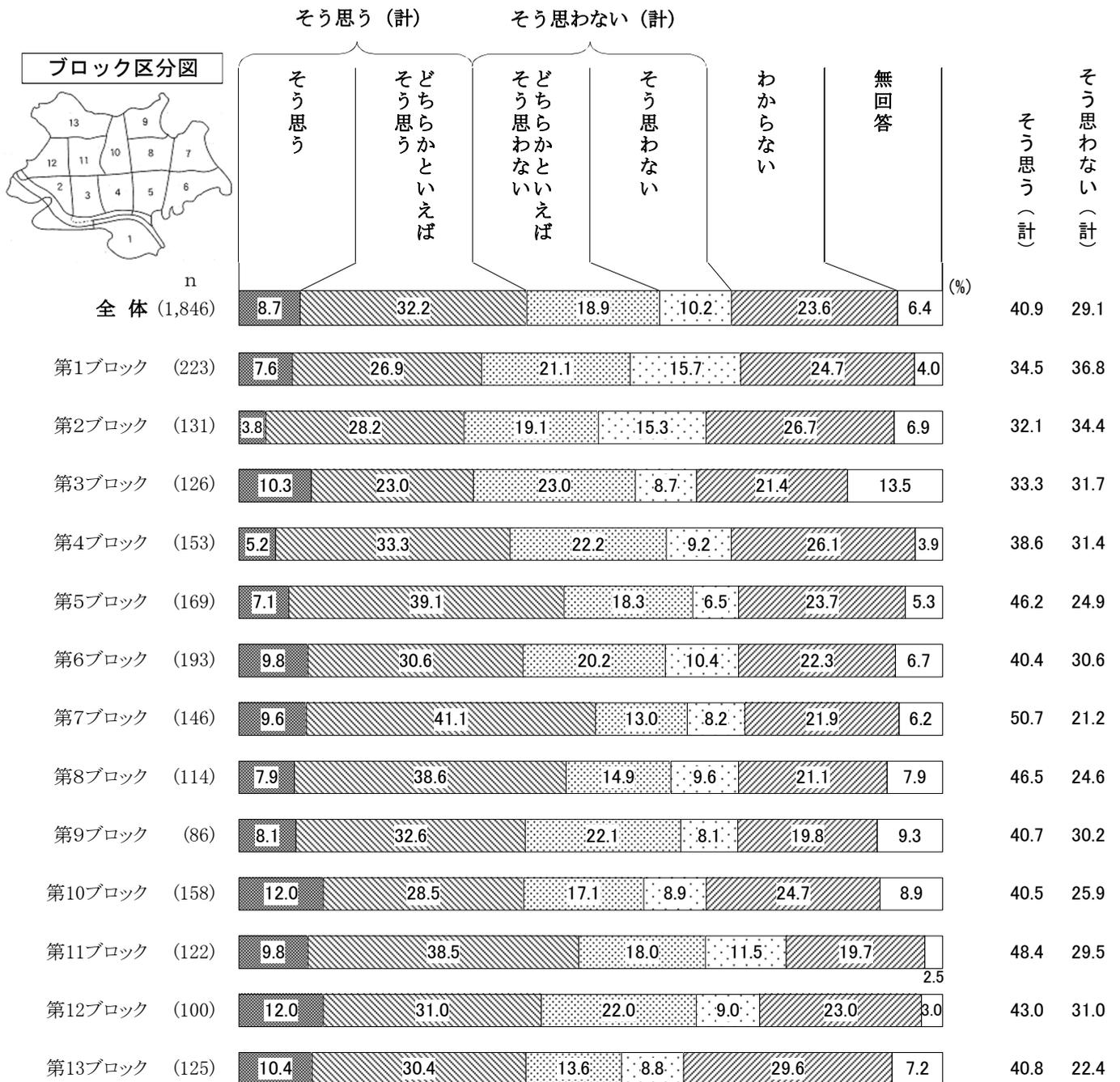
〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第6ブロック、第8ブロック、第10ブロック、第11ブロック、第12ブロック、第13ブロックで、いずれも5割を超えている。【そう思わない】は第4ブロックで、27.5%と3割近くを占めて、最も高くなっている。

図1-1-2-② 地域ブロック別／居住地域の評価／子育て環境が整っている



〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【そう思う】は第7ブロックが50.7%で最も高く、次いで第11ブロックが48.4%となっている。【そう思わない】は第1ブロックで36.8%と最も高くなっている。

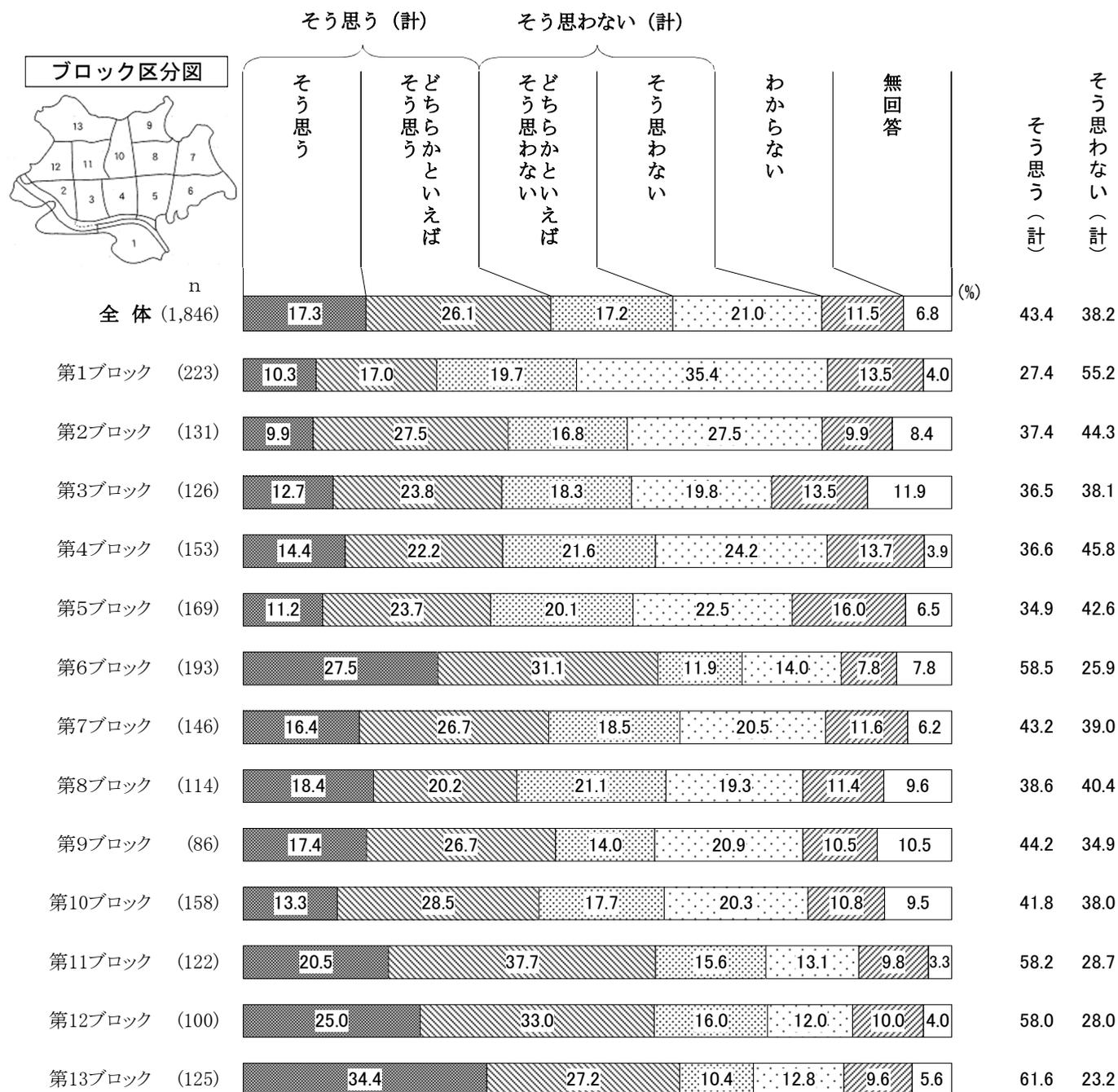
図1-1-2-③ 地域ブロック別／居住地域の評価
／地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



第3章 調査結果の分析

〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【**そう思う**】は第6ブロック、第11ブロック、第12ブロック、第13ブロックで、いずれも6割前後を占めて、他のブロックより高くなっている。【**そう思わない**】は第1ブロックで、55.2%と最も高くなっている。

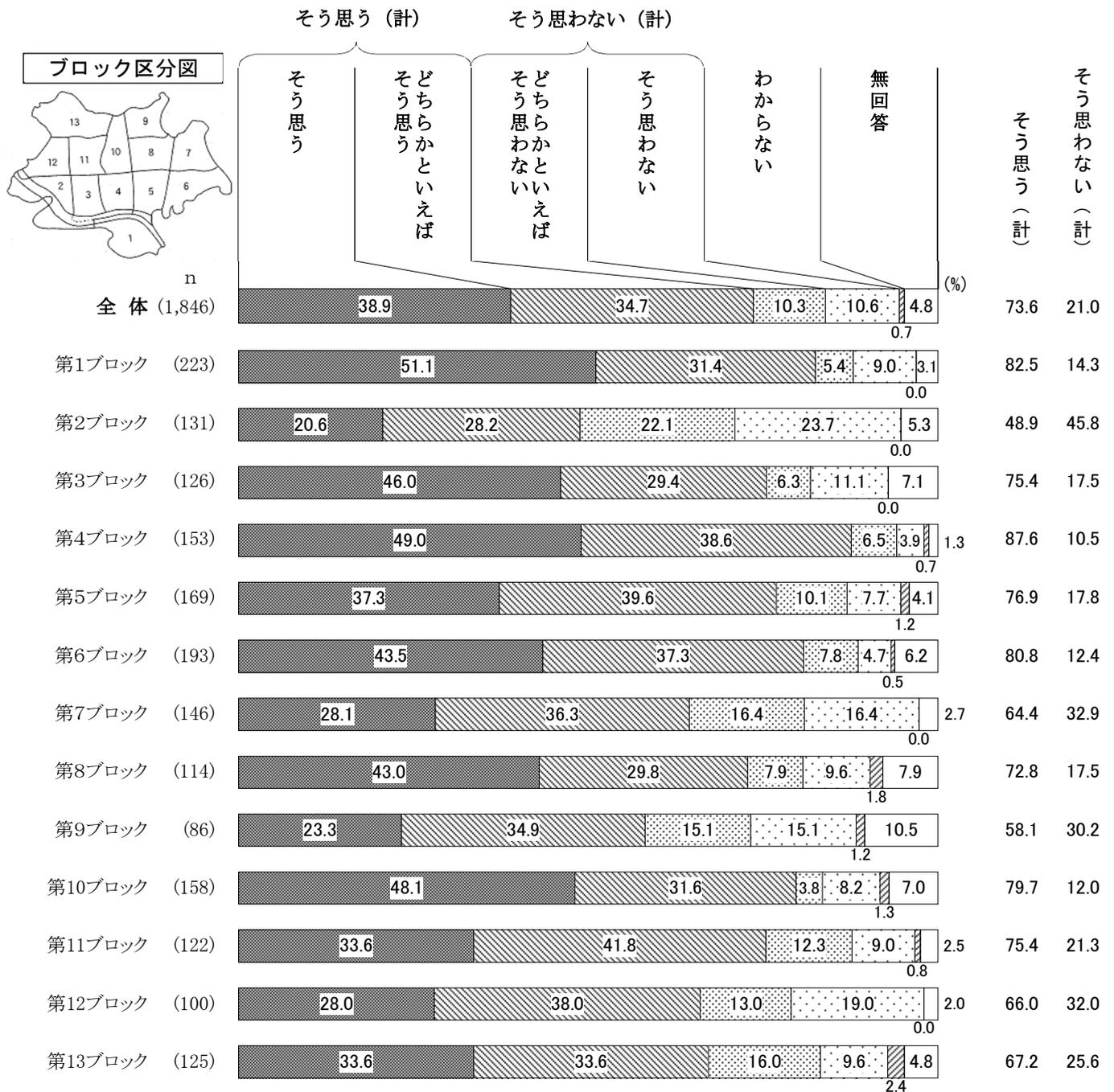
図1-1-2-④ 地域ブロック別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



〈普段の買い物が便利である〉について、【**そう思う**】は第4ブロックが87.6%と最も高く、以下、第1ブロックが82.5%、第6ブロックが80.8%が続いている。

【**そう思わない**】は第2ブロックで45.8%と高くなっているほか、第7ブロック、第9ブロック、第12ブロックでも3割を超えている。

図1-1-2-⑤ 地域ブロック別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である

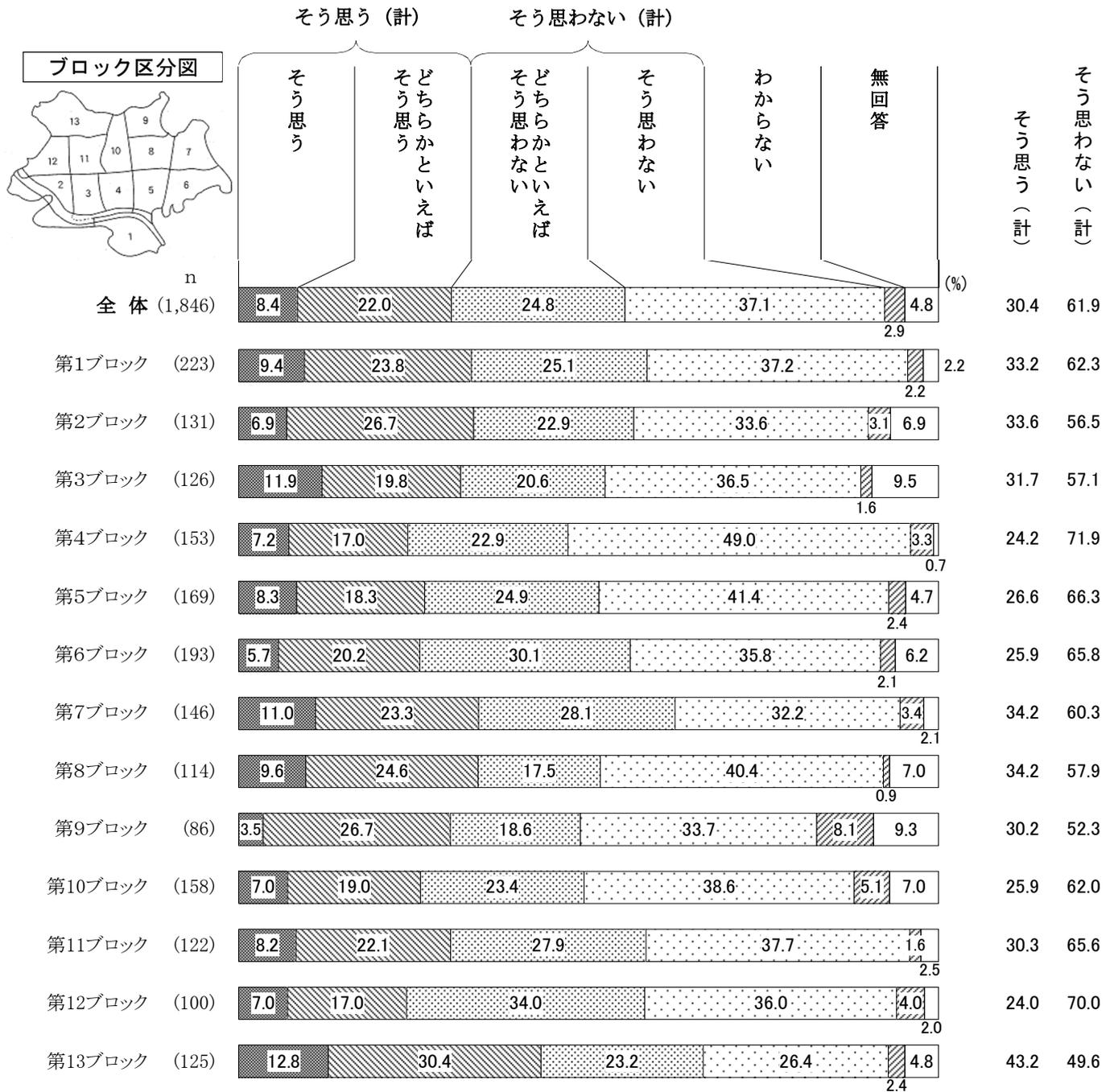


第3章 調査結果の分析

〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉について、【そう思わない】は第4ブロック（71.9%）、第12ブロック（70.0%）で7割を超えて、高くなっている。【そう思う】は第13ブロックで43.2%を占め、最も高くなっている。

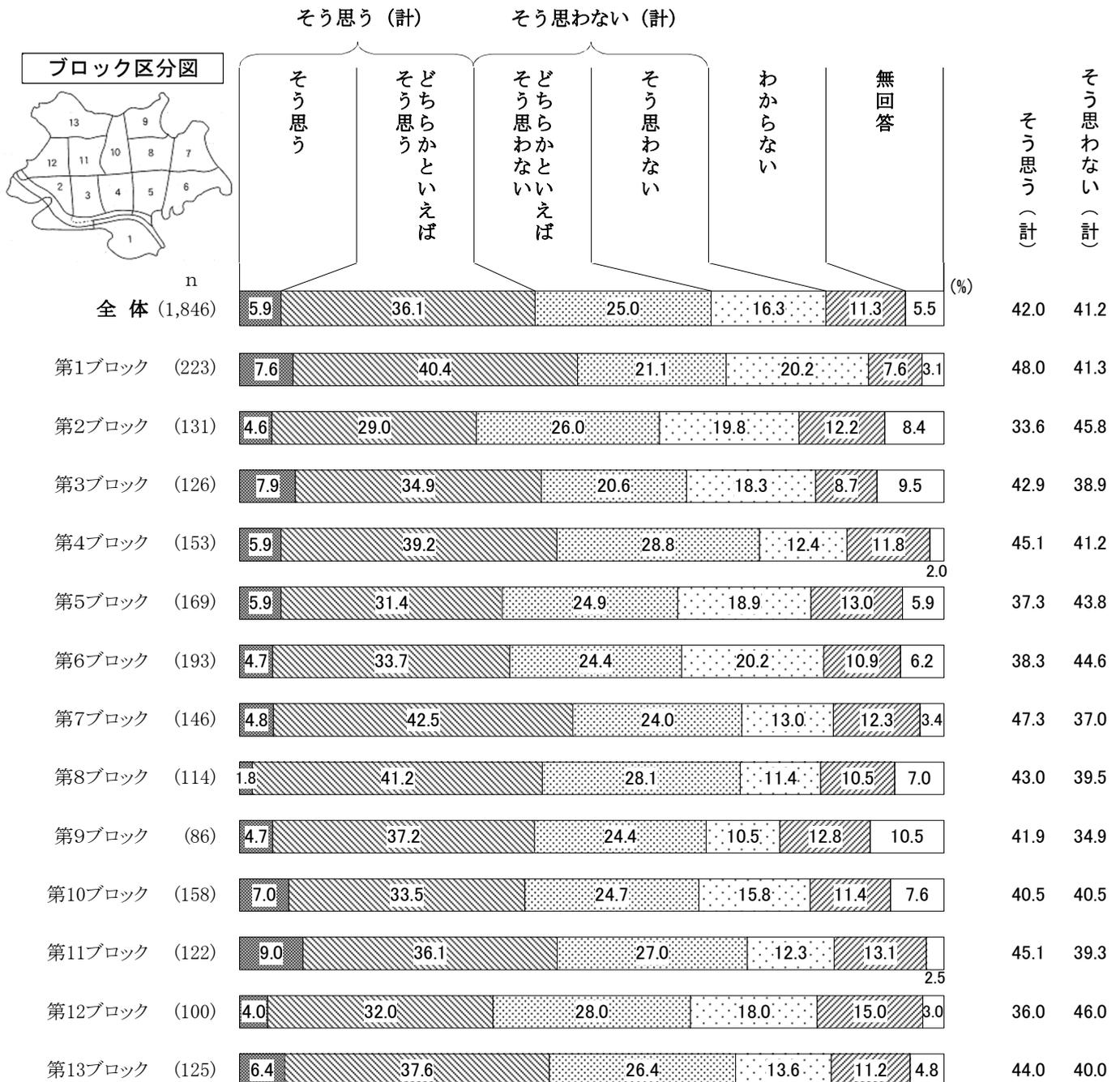
図1-1-2-⑥ 地域ブロック別／居住地域の評価

／自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



〈快適で安全なまちづくりが進められている〉について、【**そう思う**】は第1ブロック(48.0%)、第7ブロック(47.3%)で5割近くを占め、高くなっている。【**そう思わない**】は第2ブロック、第12ブロックで、それぞれ45.8%、46.0%と4割台半ばを超えて、高くなっている。

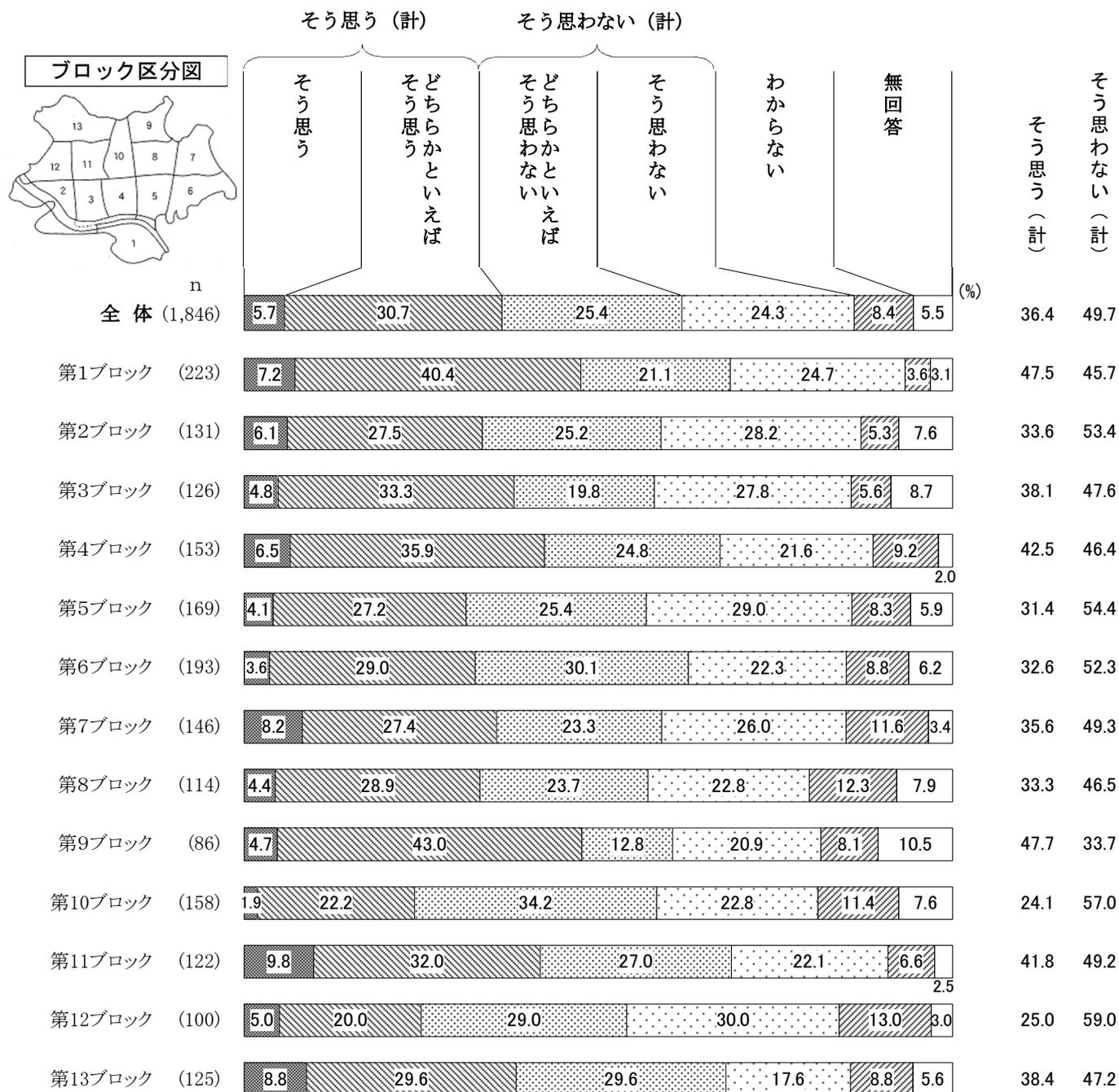
図1-1-2-⑦ 地域ブロック別／居住地域の評価／快適で安全なまちづくりが進められている



第3章 調査結果の分析

〈景観・街並みが魅力的になってきている〉について、【そう思わない】は第10ブロック、第12ブロックで、それぞれ57.0%、59.0%と5割台半ばを超えて高くなっている。【そう思う】は第1ブロックと第9ブロックで、それぞれ47.5%、47.7%と5割近くを占めて高くなっている。

図1-1-2-⑧ 地域ブロック別／居住地域の評価／景観・街並みが魅力的になってきている

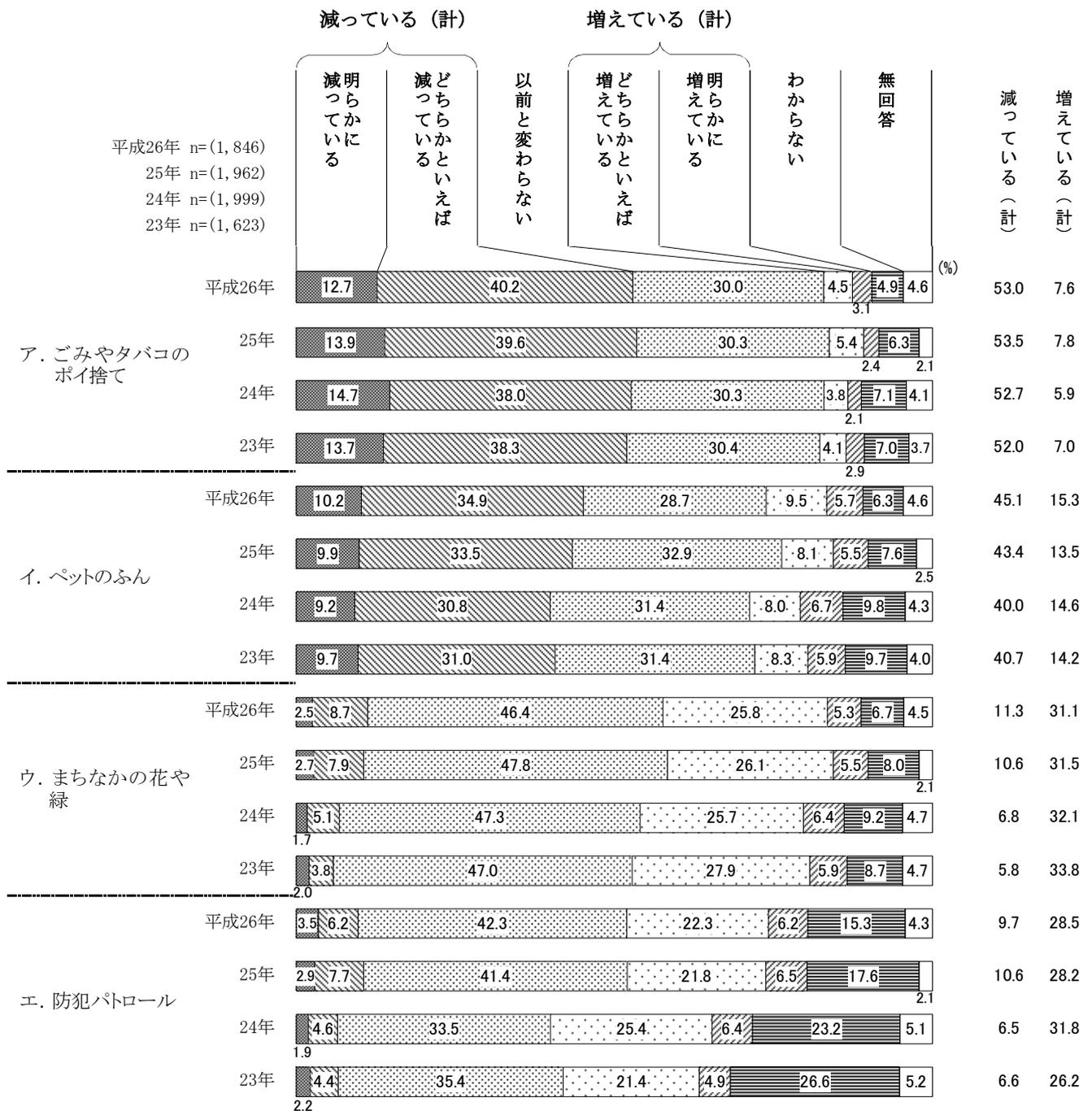


(2) 居住地域評価の経年比較

■ 〈ごみやタバコのポイ捨て〉は、半数の人が以前より【減っている】と感じている

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図1-2-1 経年比較／居住地域評価の経年比較



第3章 調査結果の分析

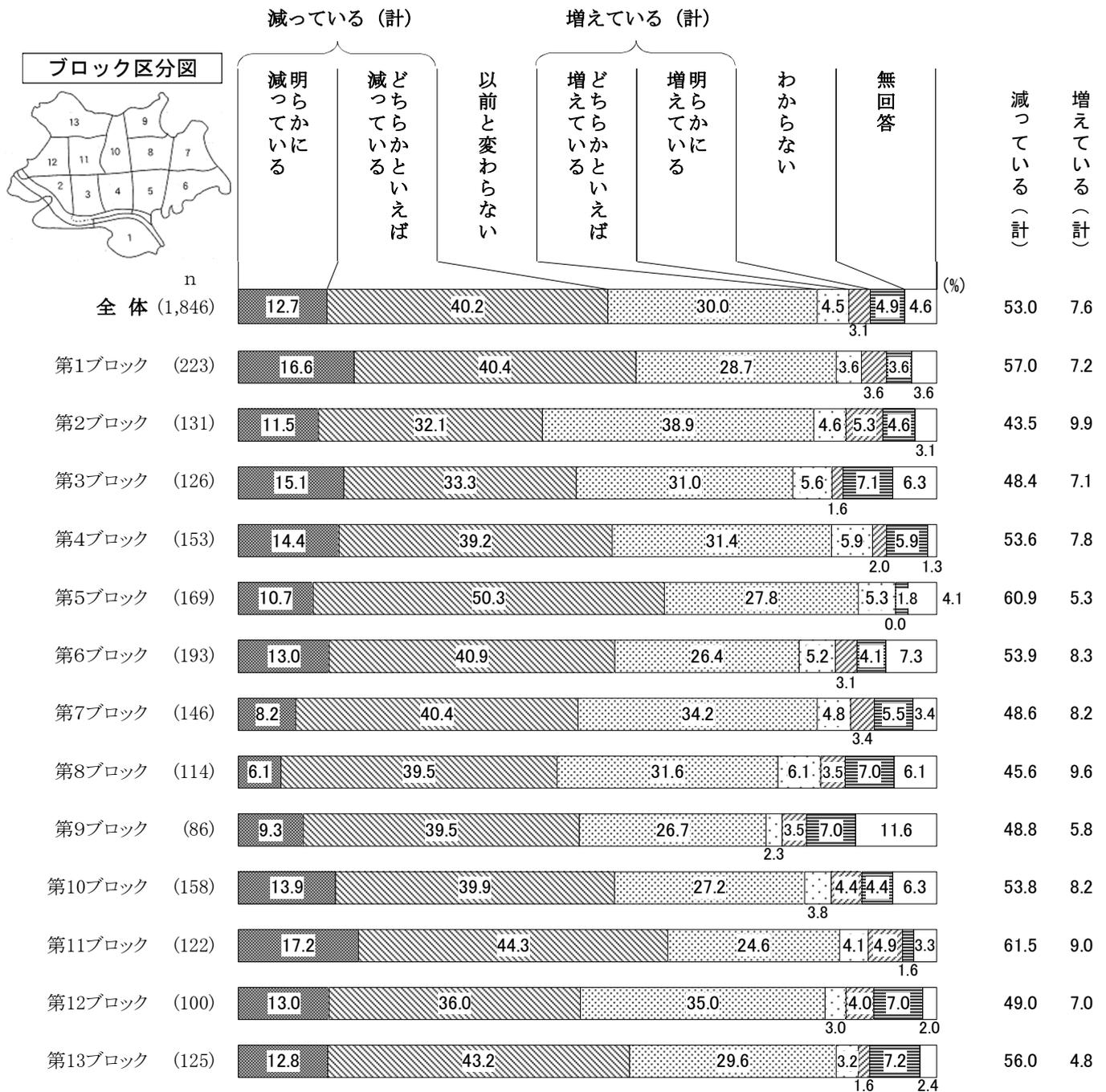
お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】を高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が53.0%で最も高く、次いで〈ペットのふん〉の45.1%となっている。一方、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】は、〈まちなかの花や緑〉が31.1%、〈防犯パトロール〉が28.5%と高くなっている。

経年で比較すると、〈ペットのふん〉は、【減っている】が前年より1.7ポイント上昇している。

各項目について、地域ブロック別でみた。

〈ごみやタバコのポイ捨て〉について、【減っている】は第5ブロック、第11ブロックでそれぞれ60.9%、61.5%と高くなっている。【増えている】は第2ブロック（9.9%）で最も高くなっている。

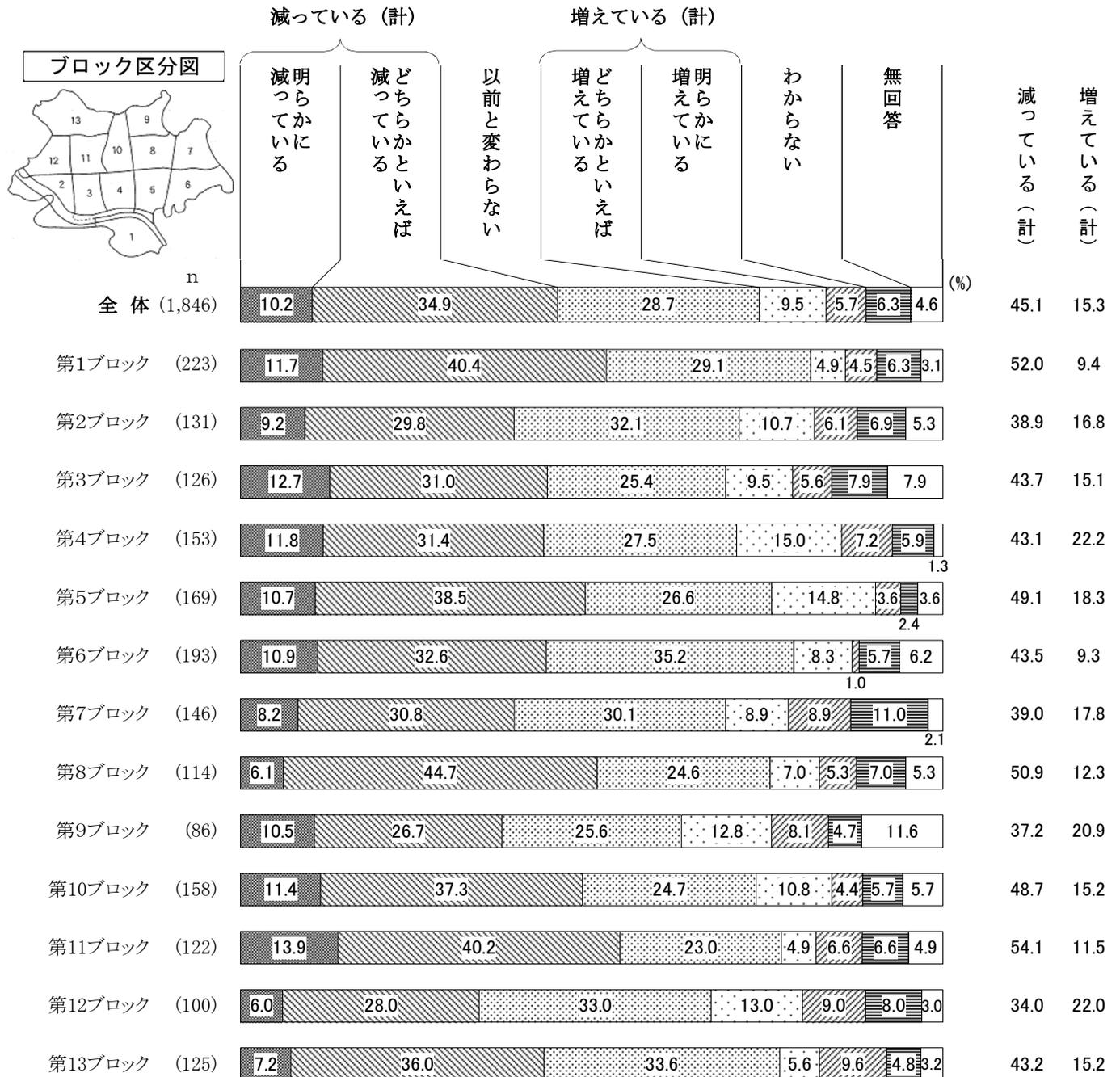
図1-2-2-① 地域ブロック別／ごみやタバコのポイ捨て



第3章 調査結果の分析

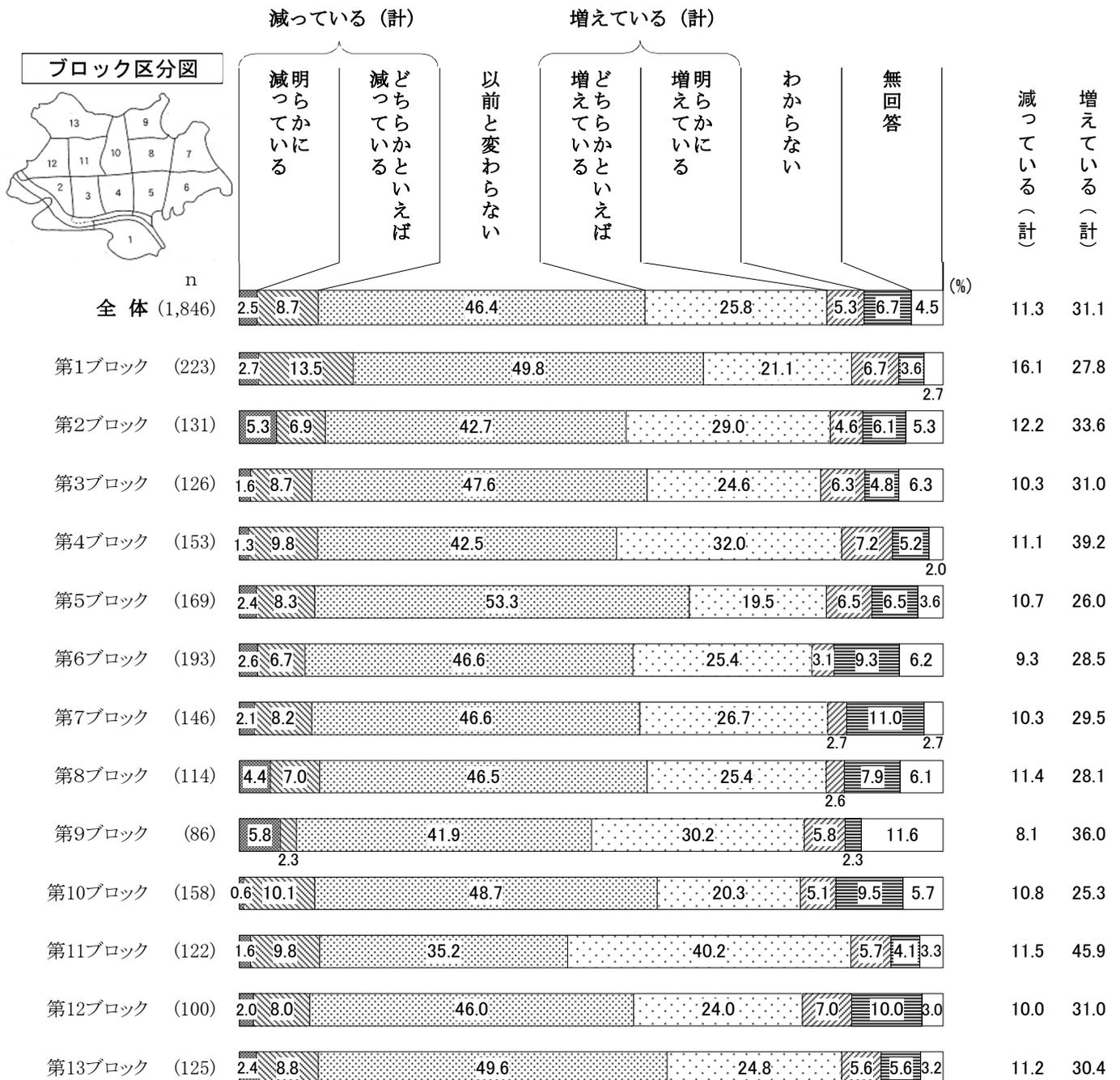
〈ペットのふん〉について、【減っている】は第1ブロック、第8ブロック、第11ブロックで5割を超えて高くなっている。【増えている】は第4ブロック、第9ブロック、第12ブロックで2割を超えている。

図1-2-2-② 地域ブロック別／ペットのふん



〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は第11ブロックで45.9%と最も高く、以下第4ブロック（39.2%）、第9ブロック（36.0%）の順となっている。【減っている】は第1ブロック（16.1%）で最も高くなっている。

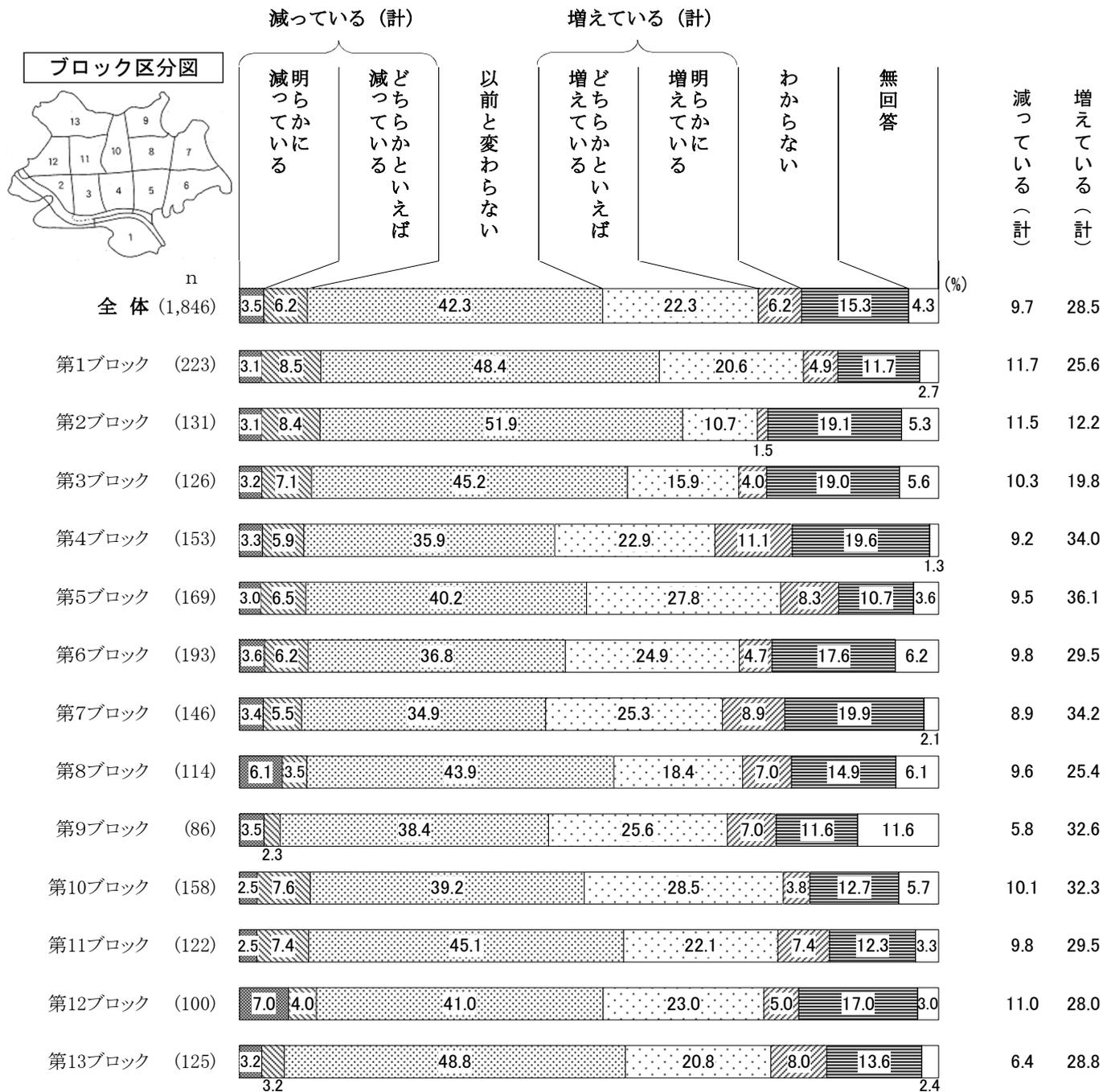
図1-2-2-③ 地域ブロック別／まちなかの花や緑



第3章 調査結果の分析

〈防犯パトロール〉について、【増えている】は第4ブロック、第5ブロック、第7ブロックでいずれも3割台半ば前後を占めている。【減っている】は第1ブロック（11.7%）で最も高くなっている。

図1-2-2-④ 地域ブロック別／防犯パトロール

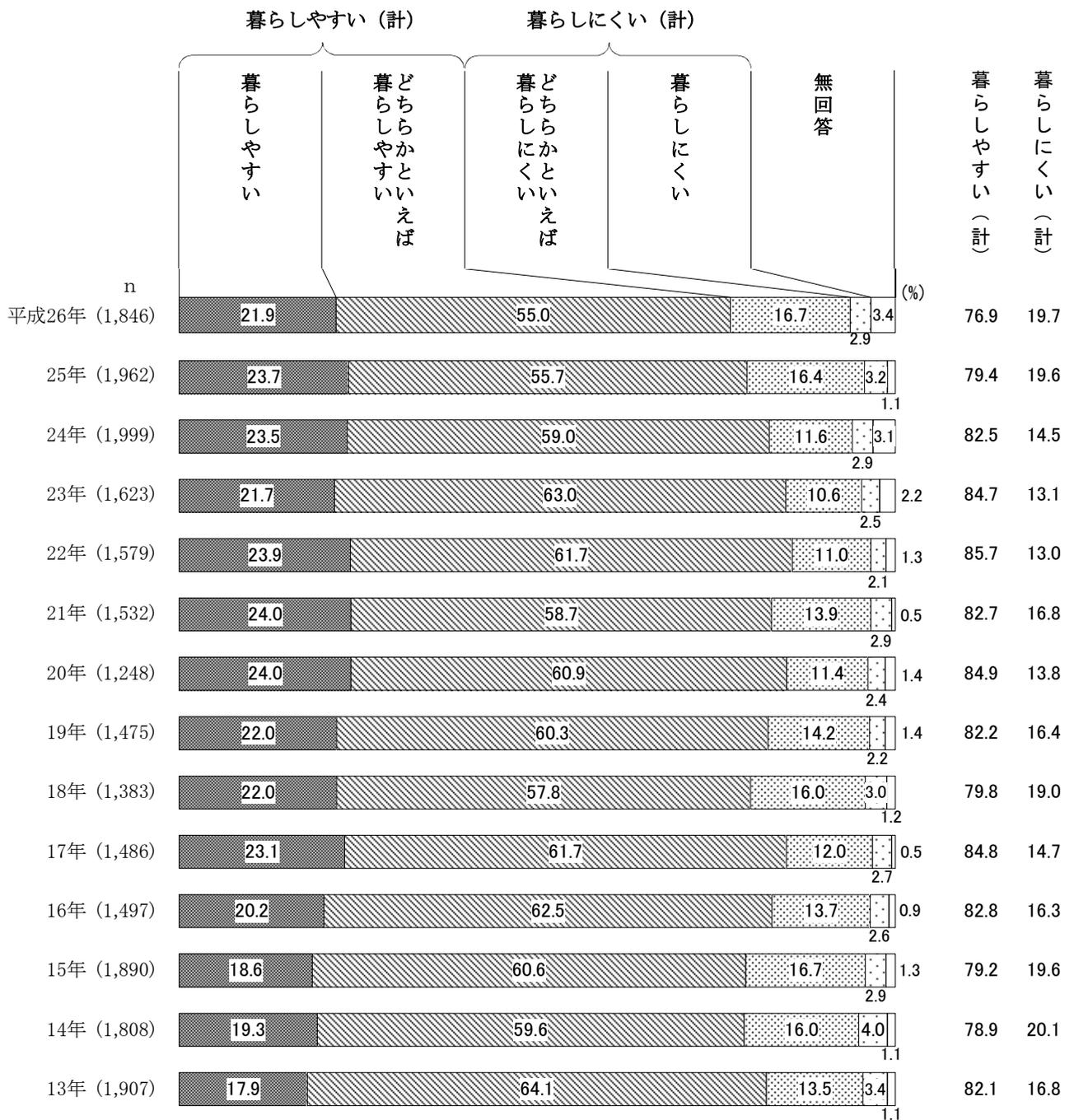


(3) 地域の暮らしやすさ

■ 【暮らしやすい】は徐々に低下し、7割台半ば

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(〇は1つだけ)

図1-3-1 経年比較/地域の暮らしやすさ



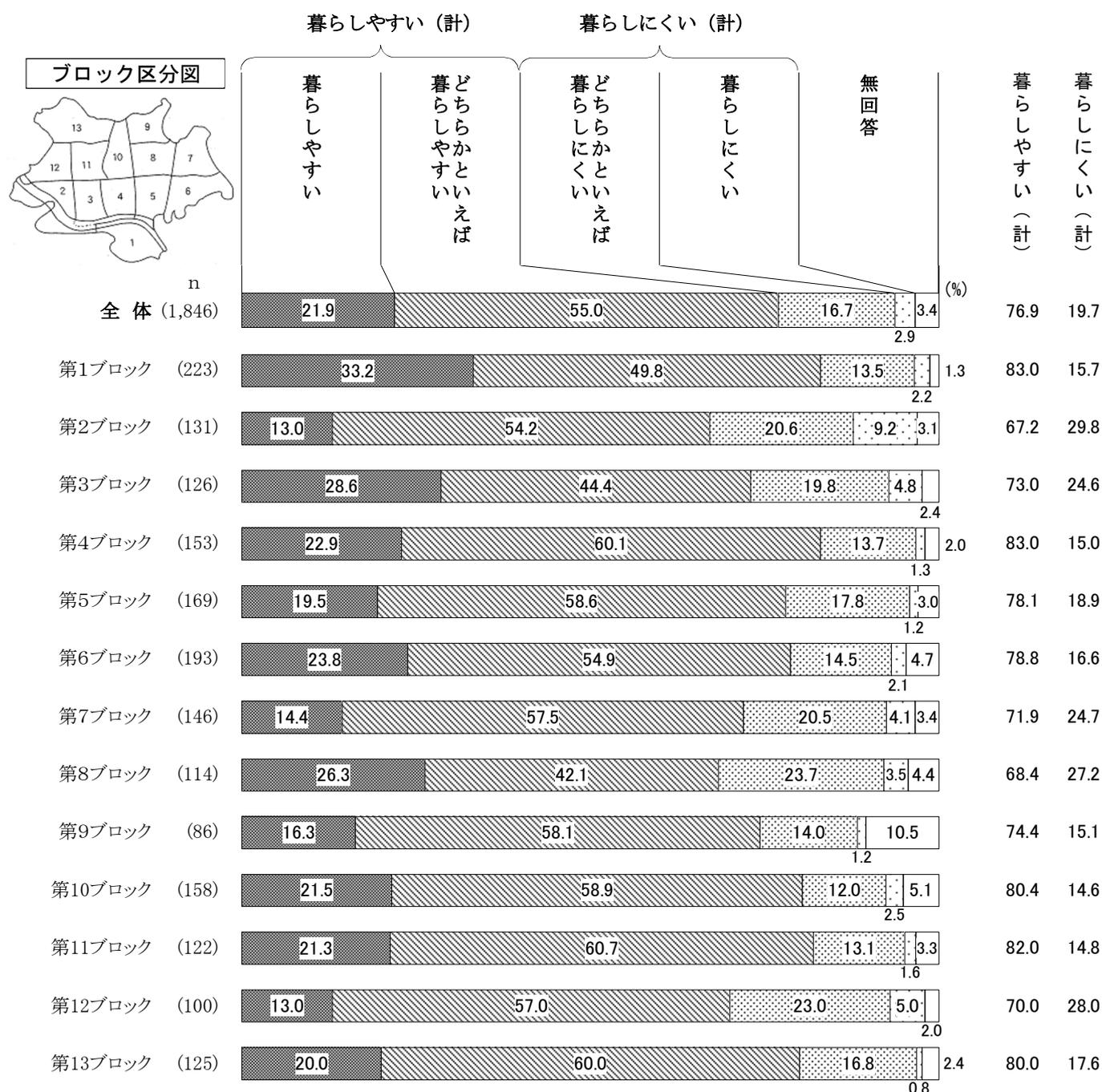
第3章 調査結果の分析

暮らしやすさを経年で比較すると、「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせた【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%から微減傾向にあり、今回の調査では76.9%となっている。一方、「どちらかといえば暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、平成22年以降微増傾向にあり、今回の調査では19.7%となっている。

地域ブロック別でみると、【暮らしやすい】は、第1ブロック、第4ブロックで、83.0%と最も高くなっているほか、第10ブロック、第11ブロック、第13ブロックでも8割を超えている。

一方、第2ブロック、第8ブロック、第12ブロックでは【暮らしにくい】が、それぞれ29.8%、27.2%、28.0%と他のブロックより高くなっている。

図1-3-2 地域ブロック別/地域の暮らしやすさ

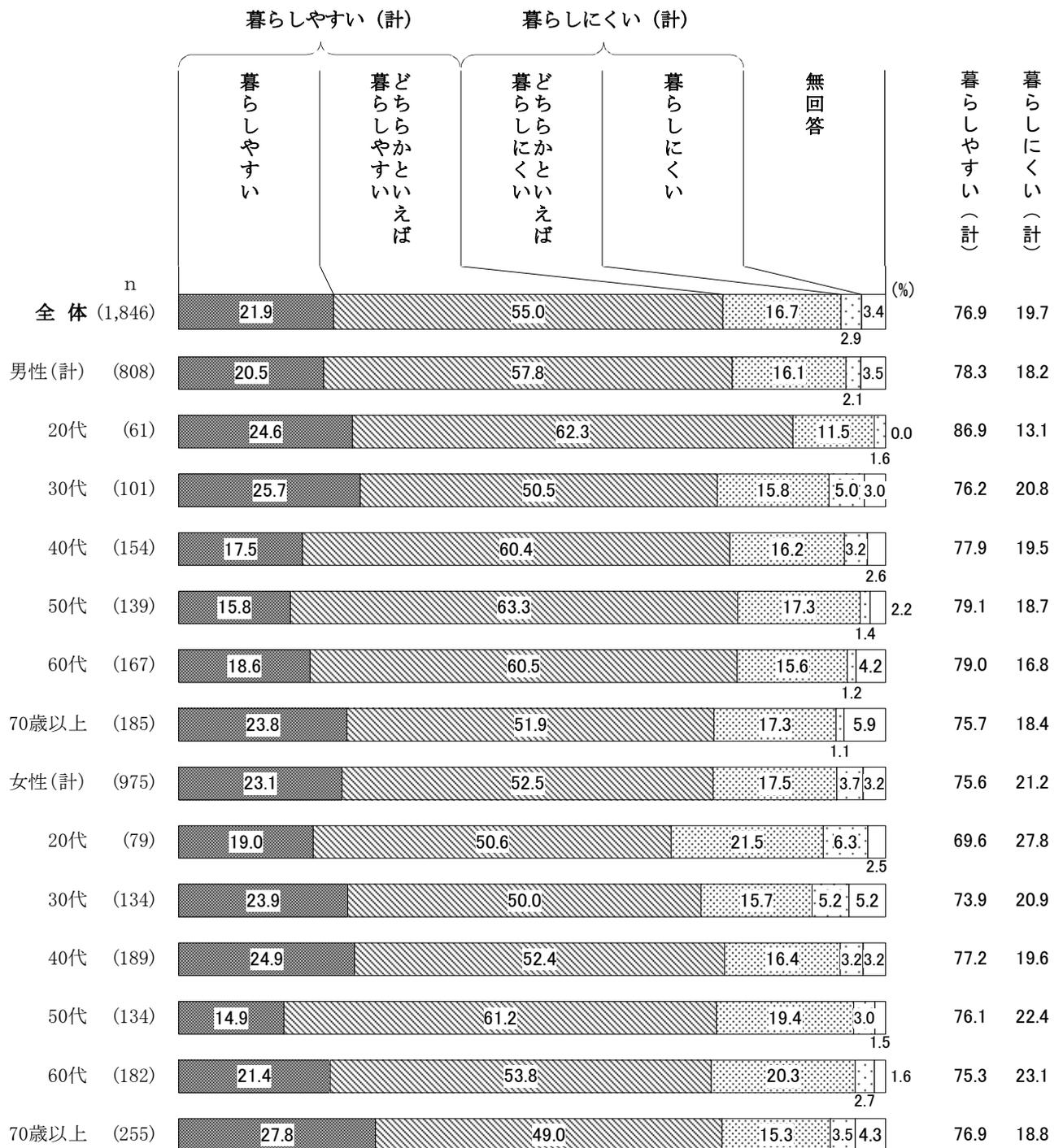


性別でみると、【暮らしやすい】は男性78.3%、女性75.6%と大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男性では20代で【暮らしやすい】が86.9%を占めているものの、他の年代ではいずれも8割を下回っている。

女性では20代で【暮らしやすい】が69.6%と低く、30代以上は7割を上回っている。

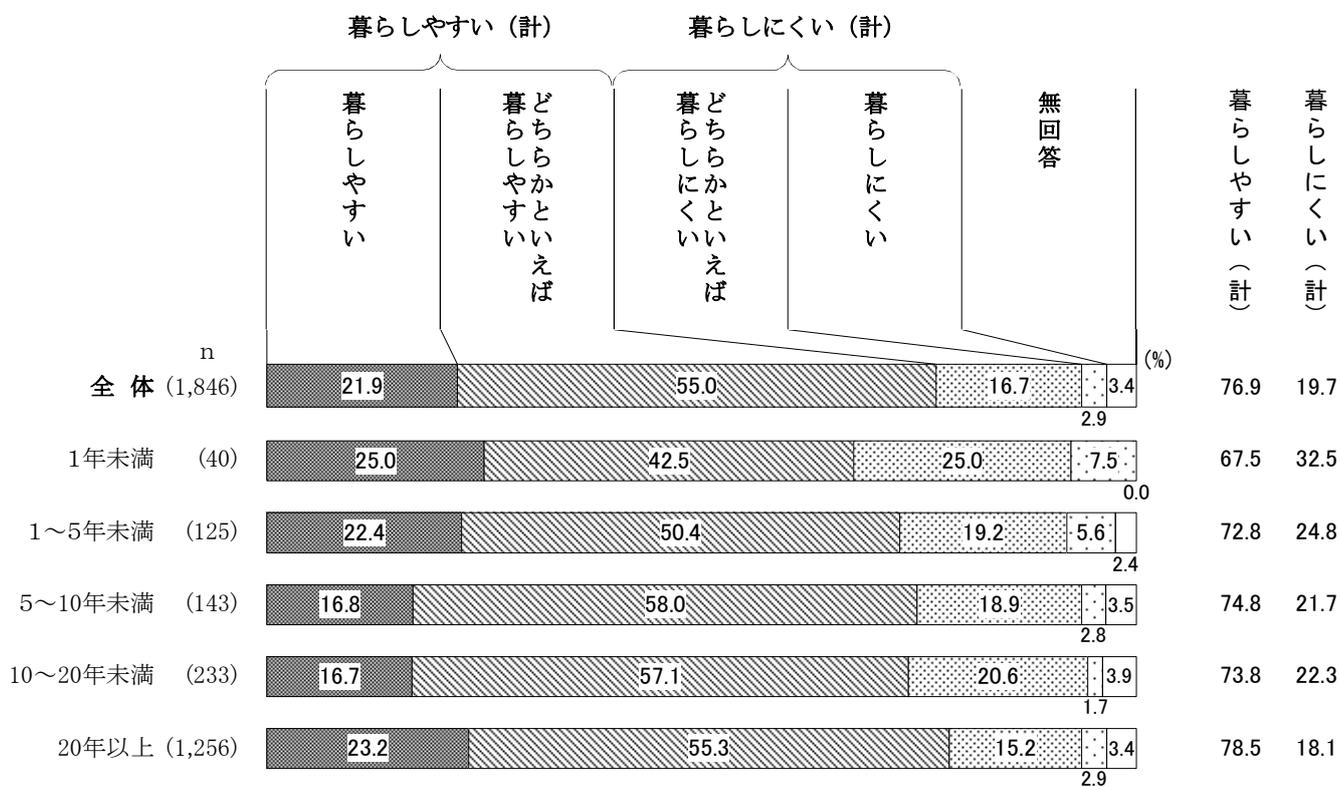
図1-3-3 性別、性・年代別/地域の暮らしやすさ



第3章 調査結果の分析

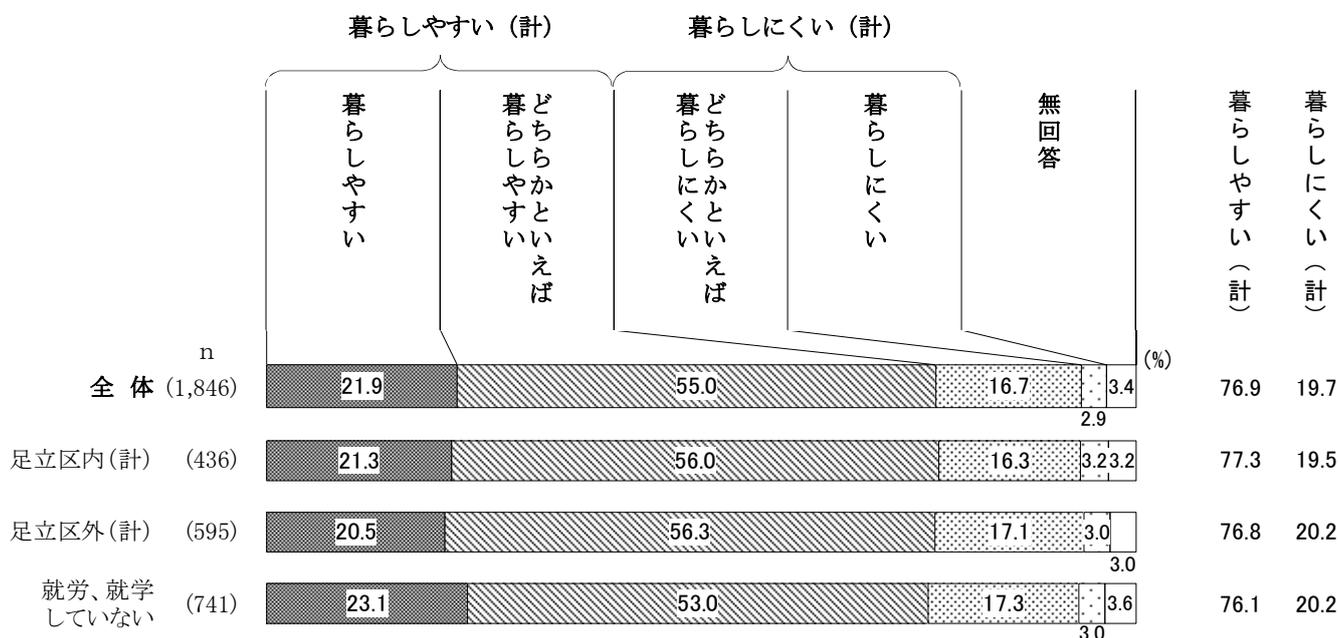
居住年数別でみると、〈1年未満〉では【暮らしやすい】が67.5%であるが、居住年数が長くなるにつれて増加し、〈20年以上〉では【暮らしやすい】が78.5%となっている。

図1-3-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



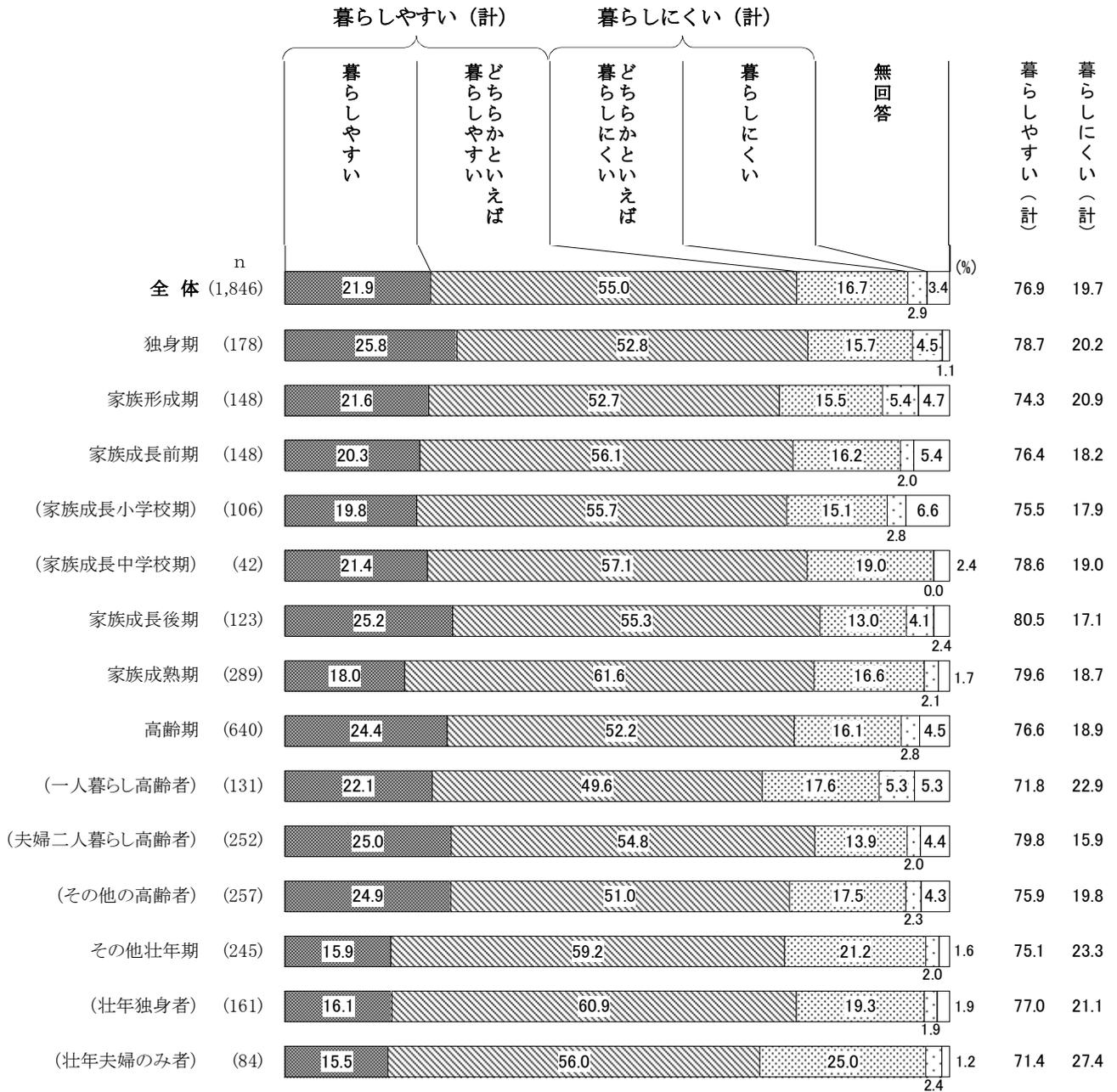
就労・就学場所別にみると、大きな差はみられない。

図1-3-5 就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



ライフステージ別でみると、家族成長後期で【暮らしやすい】が80.5%と高くなっている。

図1-3-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

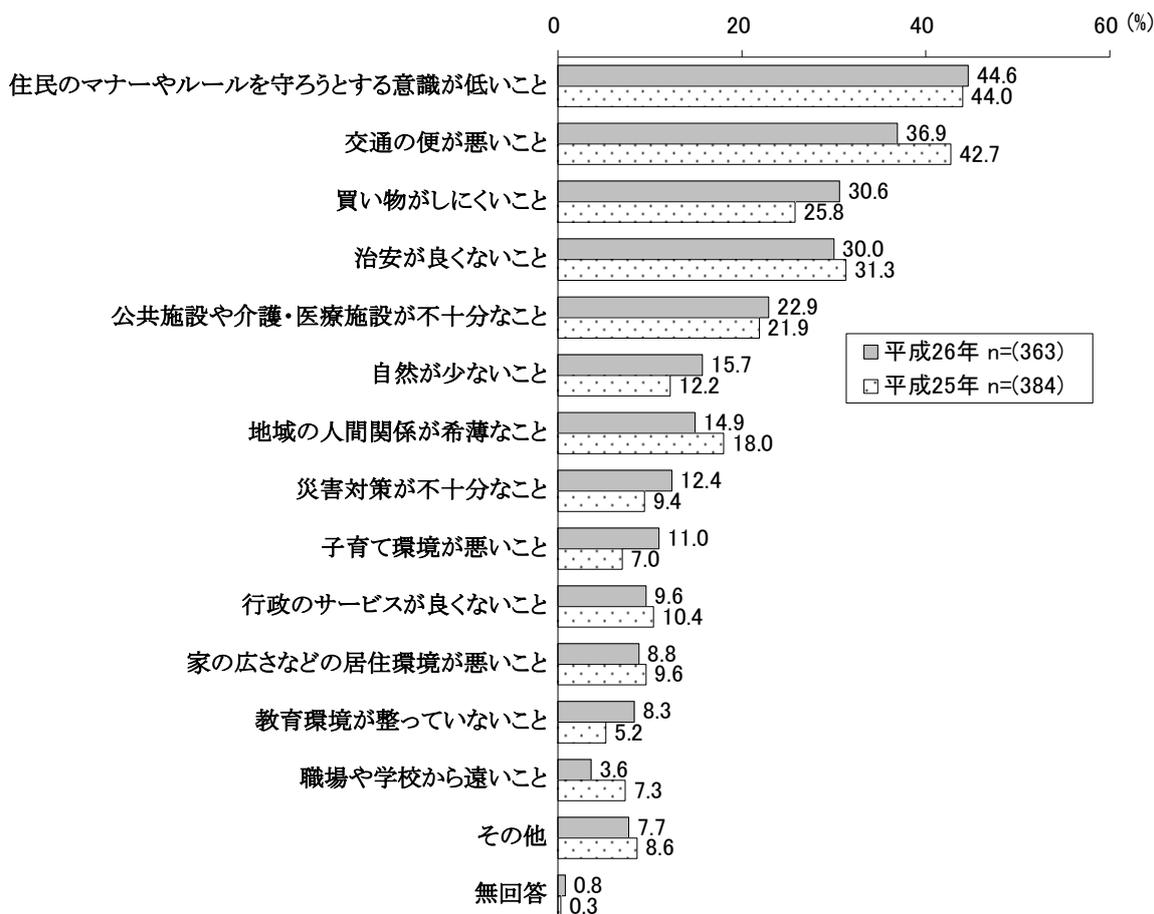


(4) 特に暮らしにくいと感じること

■ “マナーやルールへの意識の低さ”が4割台半ば

問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に
 問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか。(〇は3つまで)

図1-4-1 前回調査比較/特に暮らしにくいと感じること



【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が44.6%で最も高く、以下「交通の便が悪いこと」(36.9%)、「買い物がしにくいこと」(30.6%)の順で続いている。また、「治安が良くないこと」も30.0%と3割を超えている。

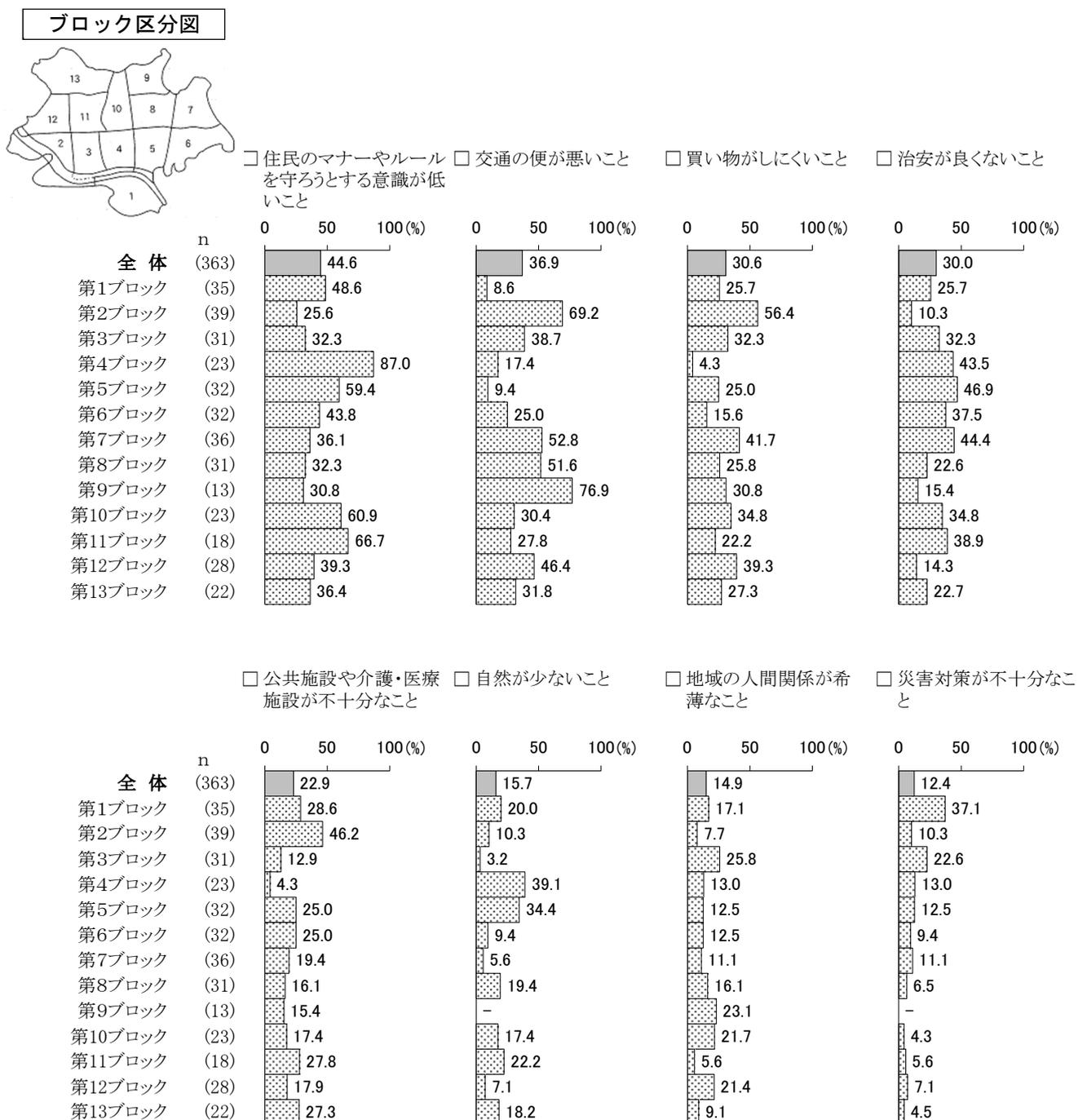
前回結果と比較すると、「交通の便が悪いこと」が42.7%から36.9%と低くなっている一方、「買い物がしにくいこと」は25.8%から30.6%と高くなっている。

地域ブロック別でみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」については、第4ブロックで87.0%と最も高く、第10ブロック、第11ブロックでも6割を超えている。「交通の便が悪いこと」については、第9ブロックで76.9%で最も高く、これに第2ブロックが69.2%で次いでいる。

また、「買い物がしにくいこと」についても第2ブロックでは56.4%と全ブロック中最も高くなっている。

さらに「治安が良くないこと」については、第4ブロック、第5ブロック、第7ブロックで、いずれも4割を超えている。「公共施設や介護・医療施設が不十分なこと」は、第2ブロックで46.2%と全ブロック中最も高くなっている。

図1-4-2 地域ブロック別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



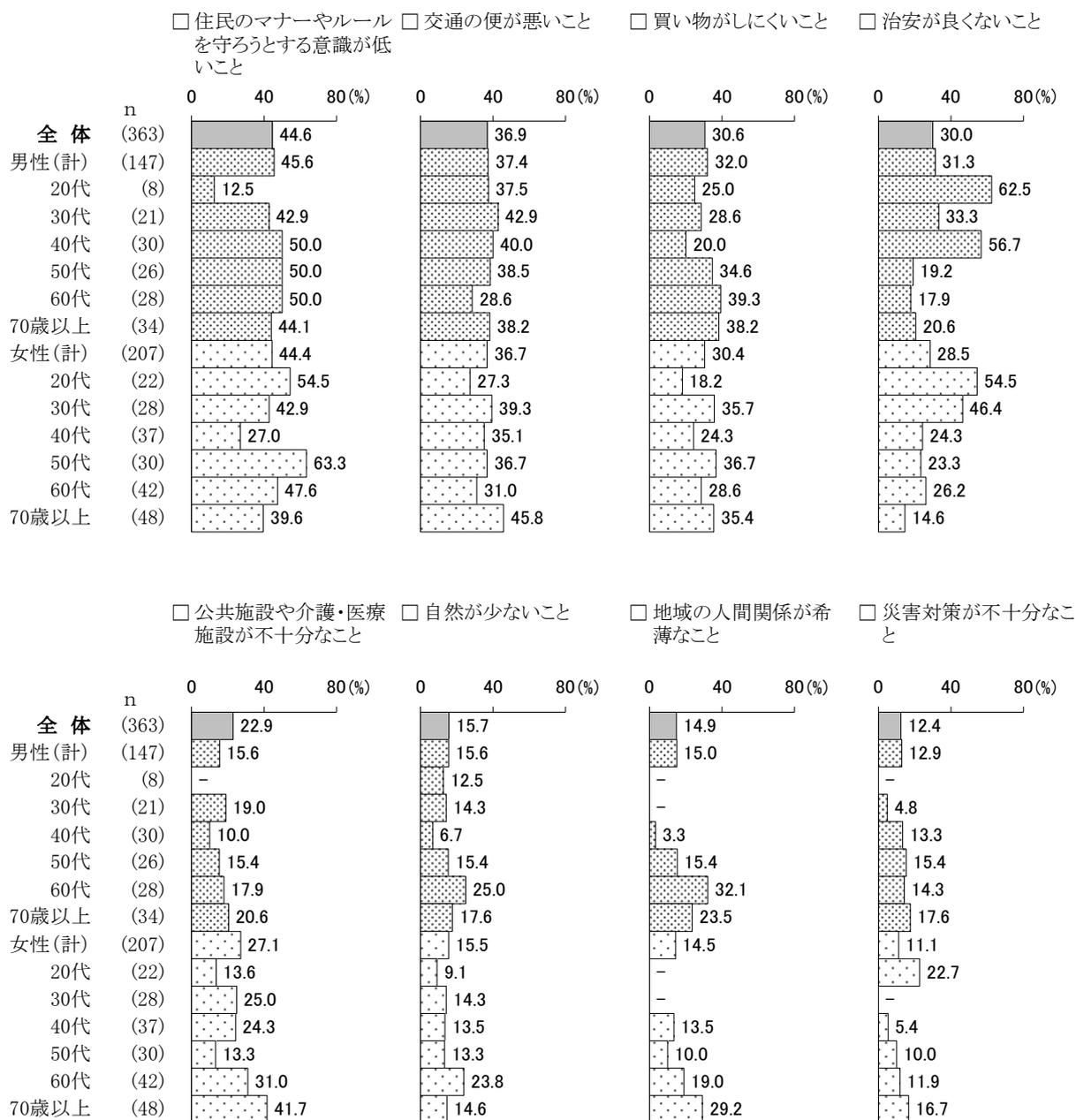
第3章 調査結果の分析

性別で見ると、男性では「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は男性45.6%、女性44.4%とほぼ同様の結果になっているほか、「交通の便が悪いこと」「治安が良くないこと」も大きな男女差は認められない。

性・年代別で見ると、男性では「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」について、40代、50代、60代で5割と高くなっている。「治安が良くないこと」については、40代で56.7%と高くなっている。

女性では、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」について、50代で63.3%と高くなっている。また、「治安が良くないこと」については、若い年代ほど数値が高い傾向にあり、30代では46.4%、20代では54.5%となっている。

図1-4-3 性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

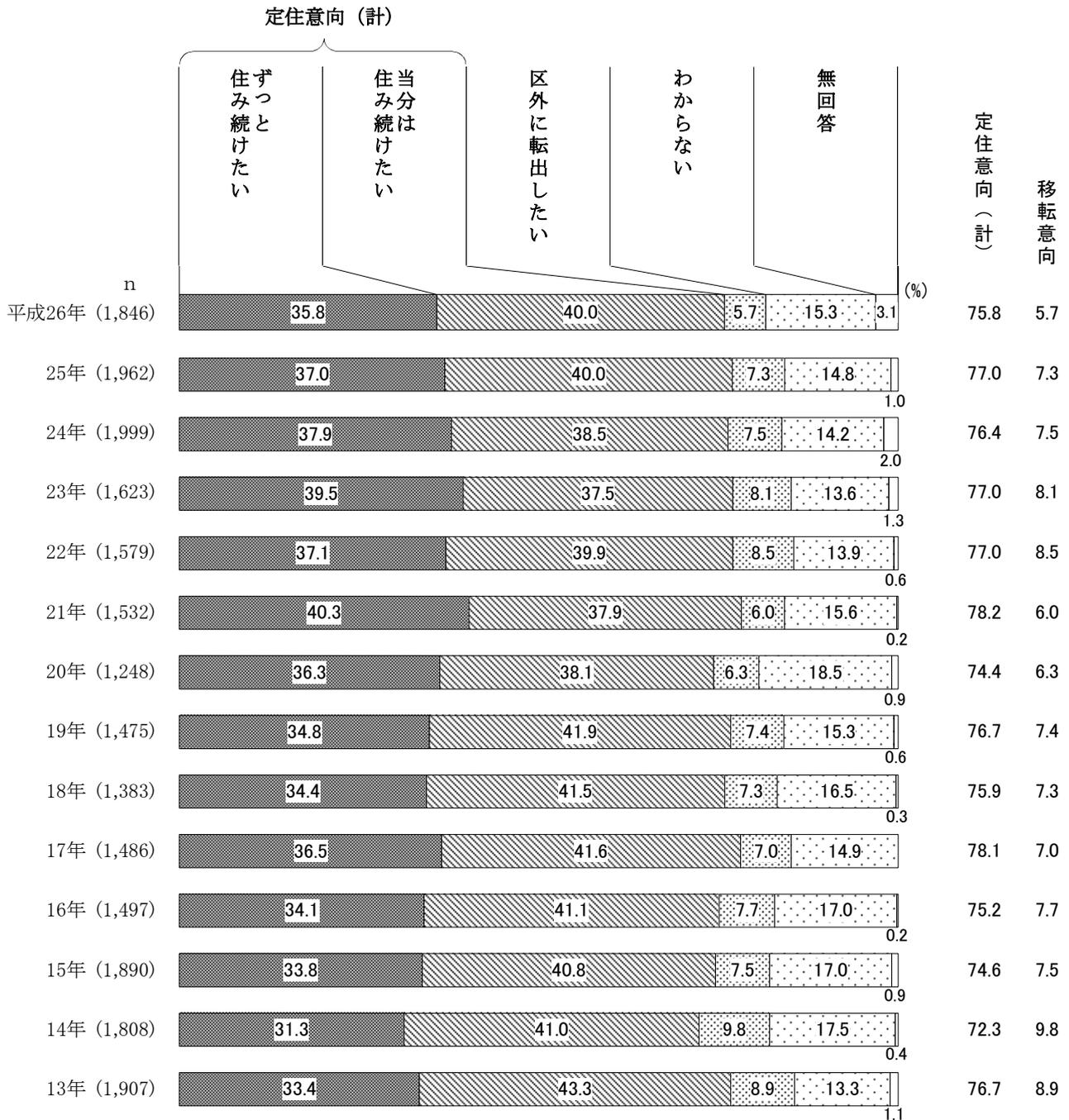


(5) 定住意向

■ 【定住意向】をもっている人は7割台半ば

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-5-1 経年比較/定住意向

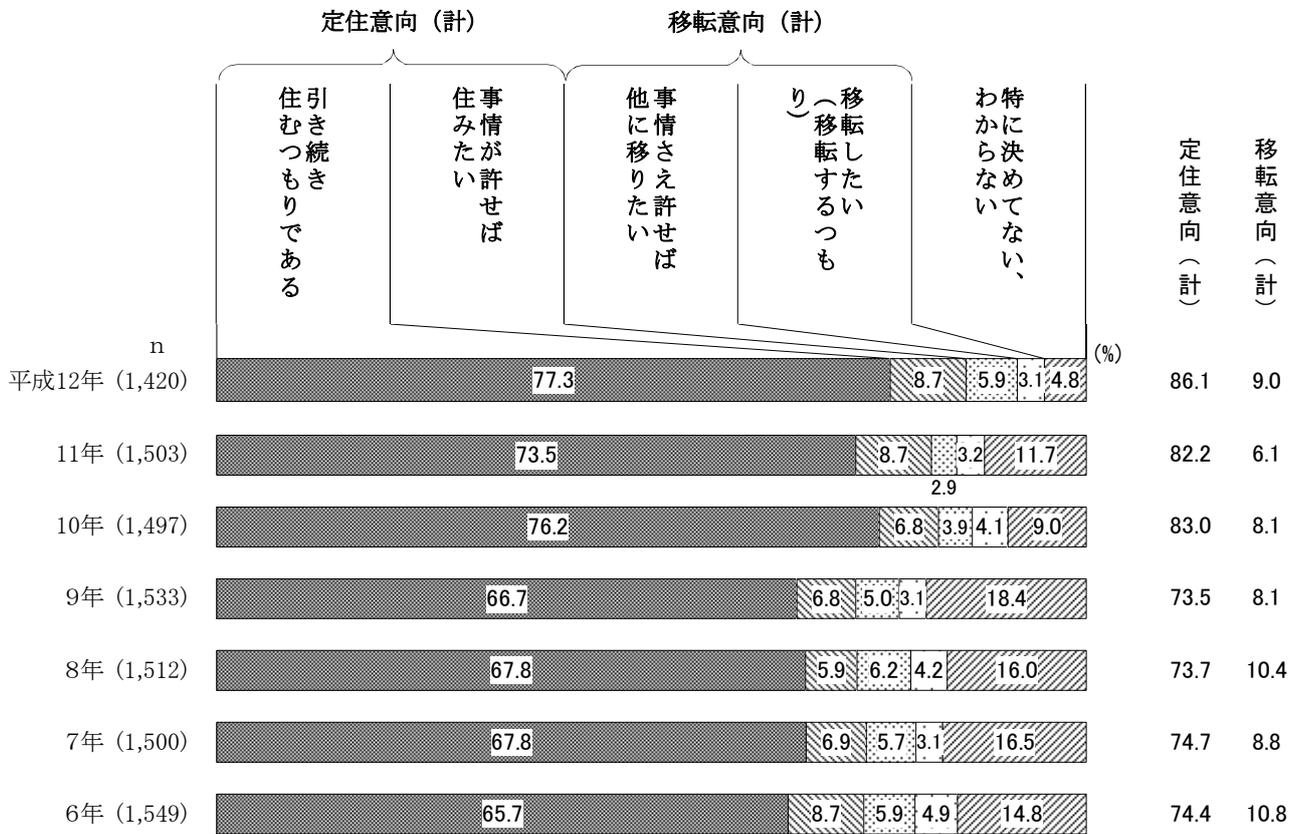


足立区への定住意向を経年でみると、今回調査では「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた【定住意向】は75.8%となっており、前回より1.2ポイントと僅かに減少している。

参考／定住・移転意向の推移

問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください

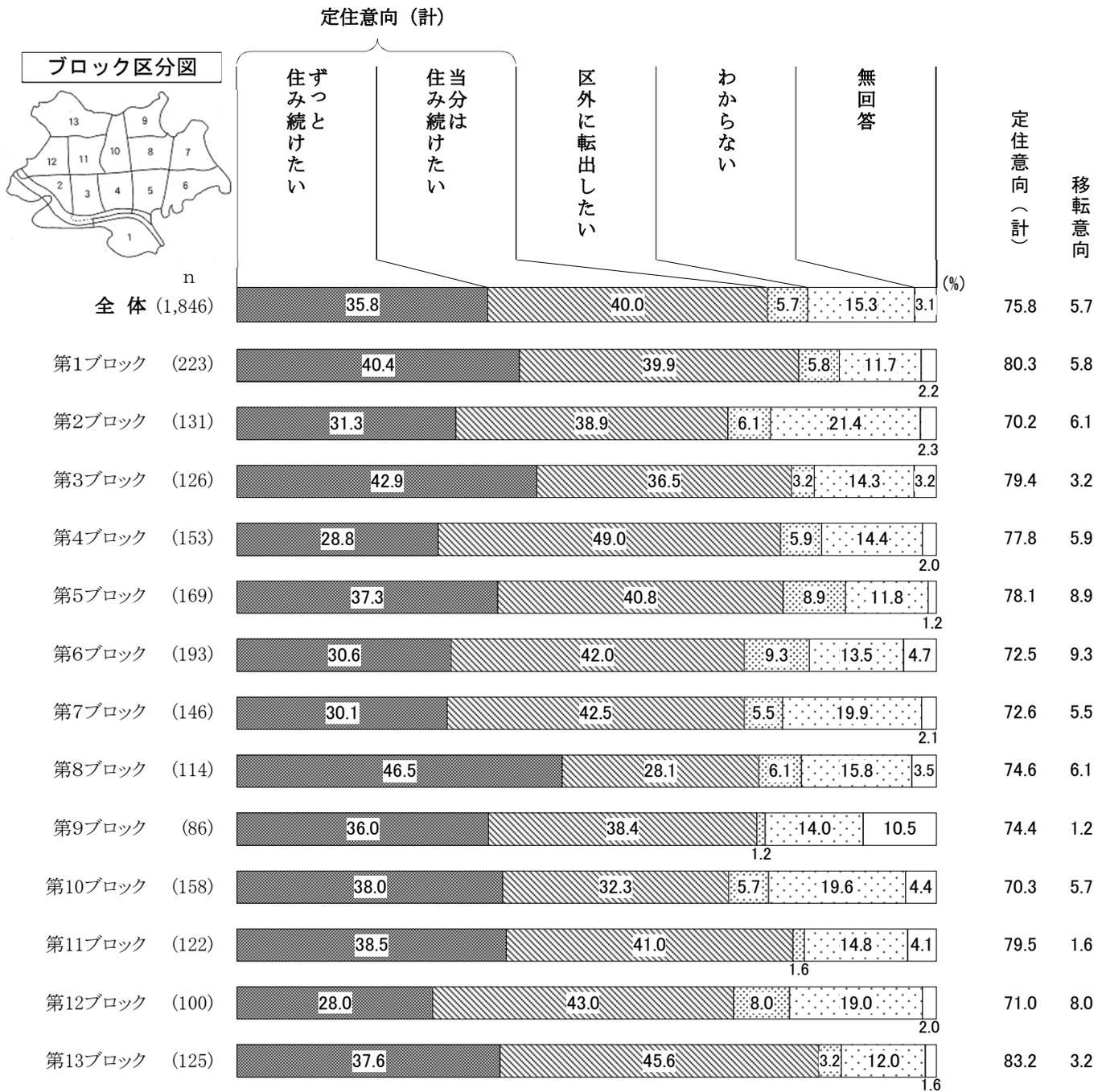
(○は1つ)



※ 平成12年までと平成13年以降では、調査方法（平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別でみると、【定住意向】は第13ブロックで83.2%と最も高く、以下、第1ブロック（80.3%）、第11ブロック（79.5%）の順となっている。

図1-5-2 地域ブロック別／定住意向



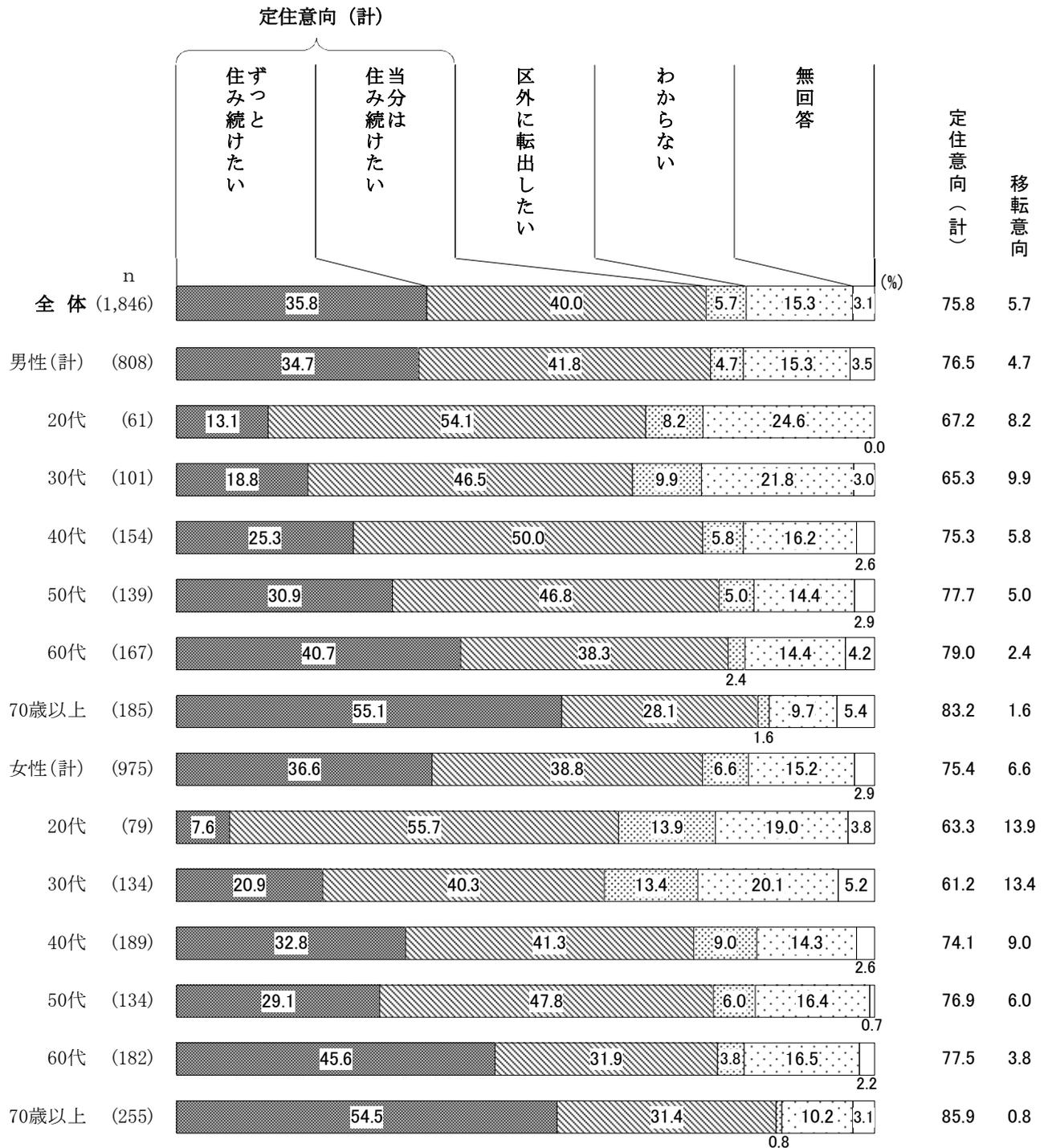
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【定住意向】は男性76.5%、女性75.4%となっている。

性・年代別でみると、男性30代で【定住意向】は65.3%と最も低く、70歳以上では83.2%と8割を超えている。

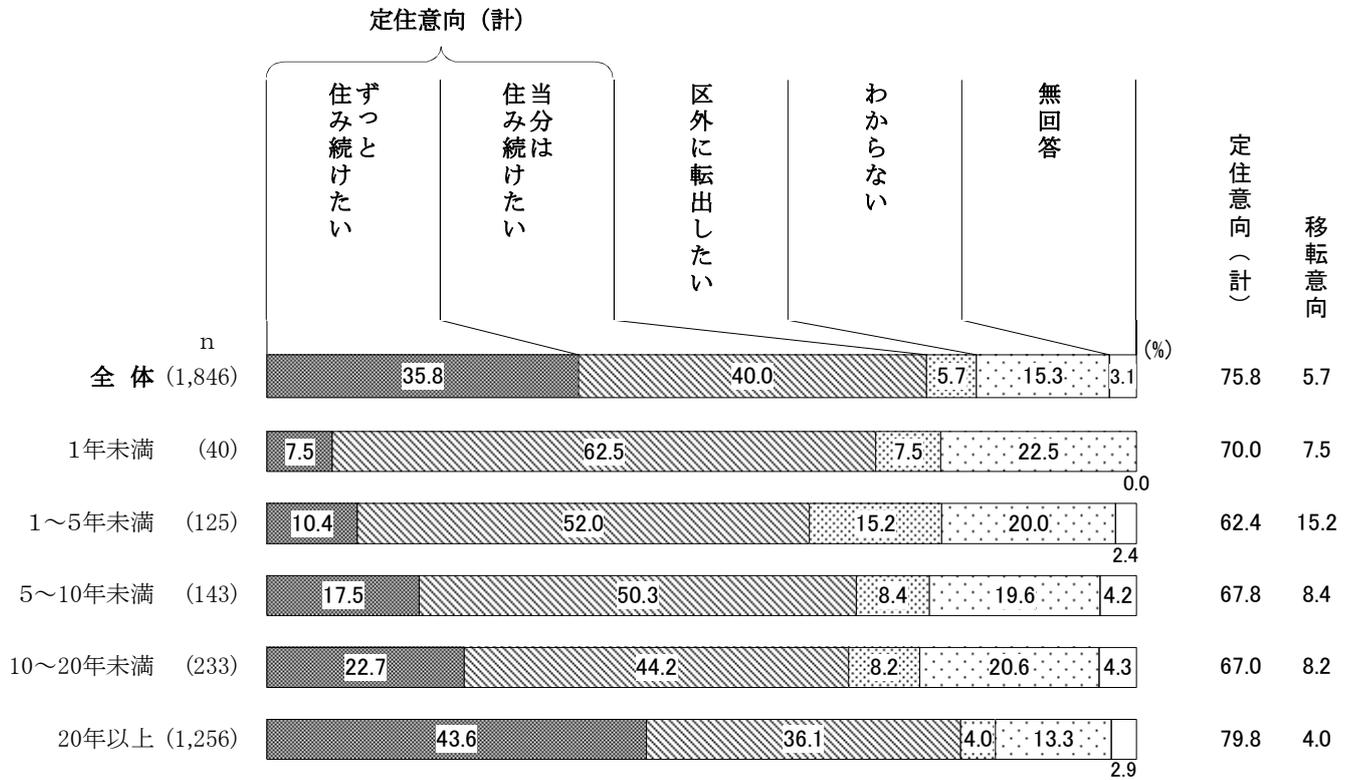
女性では、加齢とともに【定住意向】は増加する傾向にあり、70歳以上では85.9%となっている。

図1-5-3 性別、性・年代別／定住意向



居住年数別で見ると、1～5年未満で【定住意向】はやや低下するが、〈5年以上〉では居住年数が長くなるにつれて増加する傾向を示している。

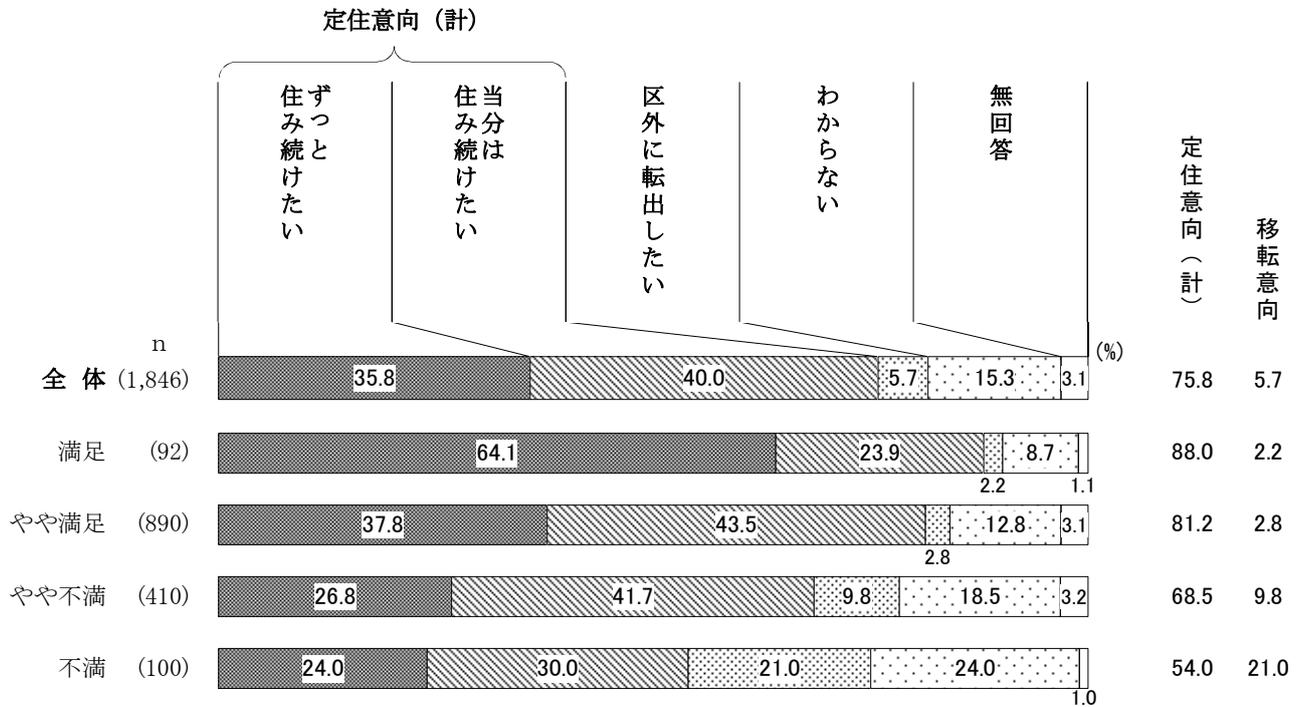
図1-5-4 居住年数別／定住意向



第3章 調査結果の分析

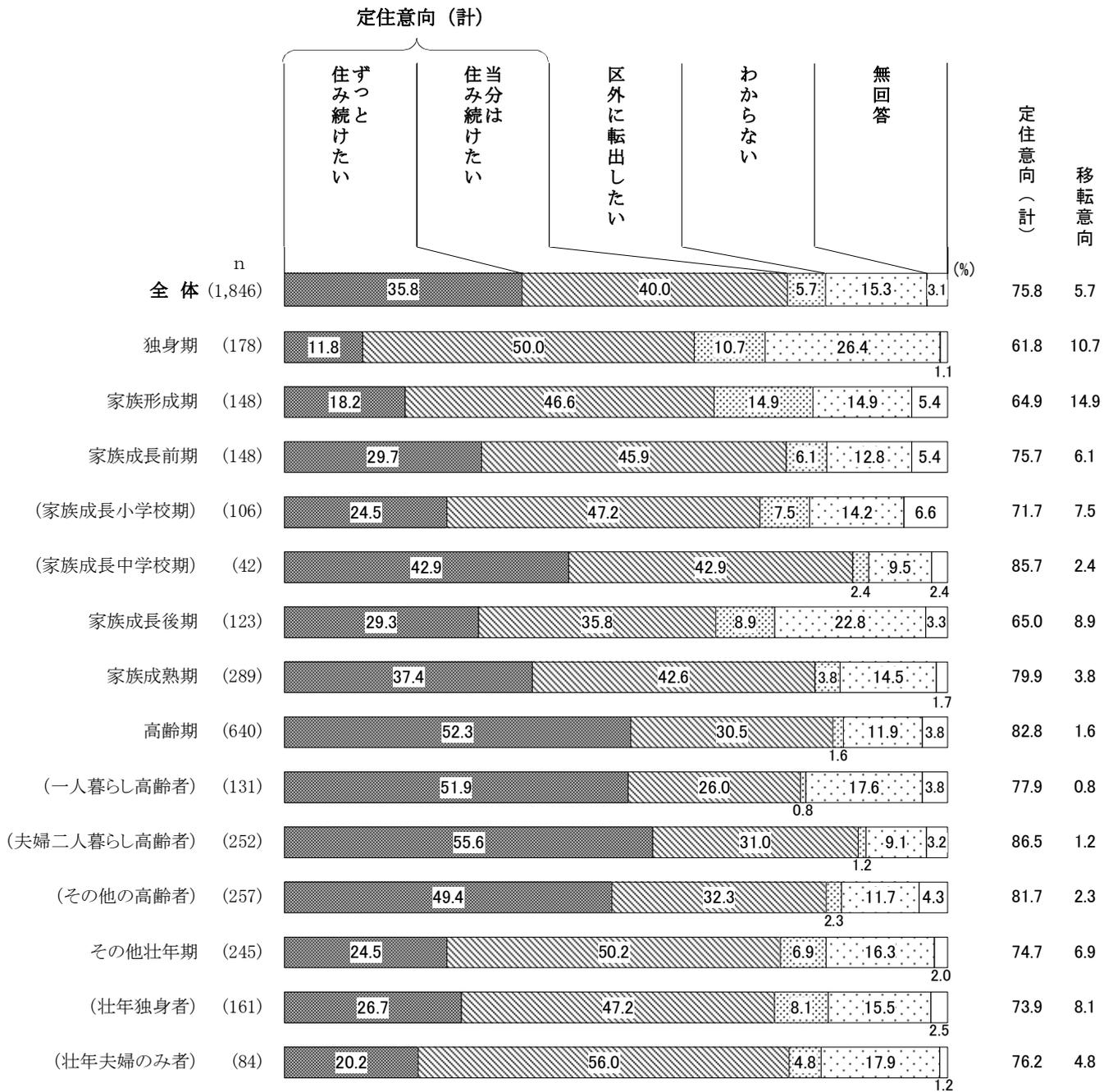
区政満足度別にみると、満足度が高くなるにつれて【定住意向】は高くなり、満足という層では88.0%となっている。

図1-5-5 区政満足度別／定住意向



ライフステージ別で見ると、家族成長中学校期、夫婦二人暮らし高齢者で【定住意向】が、それぞれ85.7%、86.5%と高くなっている。

図1-5-6 ライフステージ別/定住意向



2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知
 - (8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

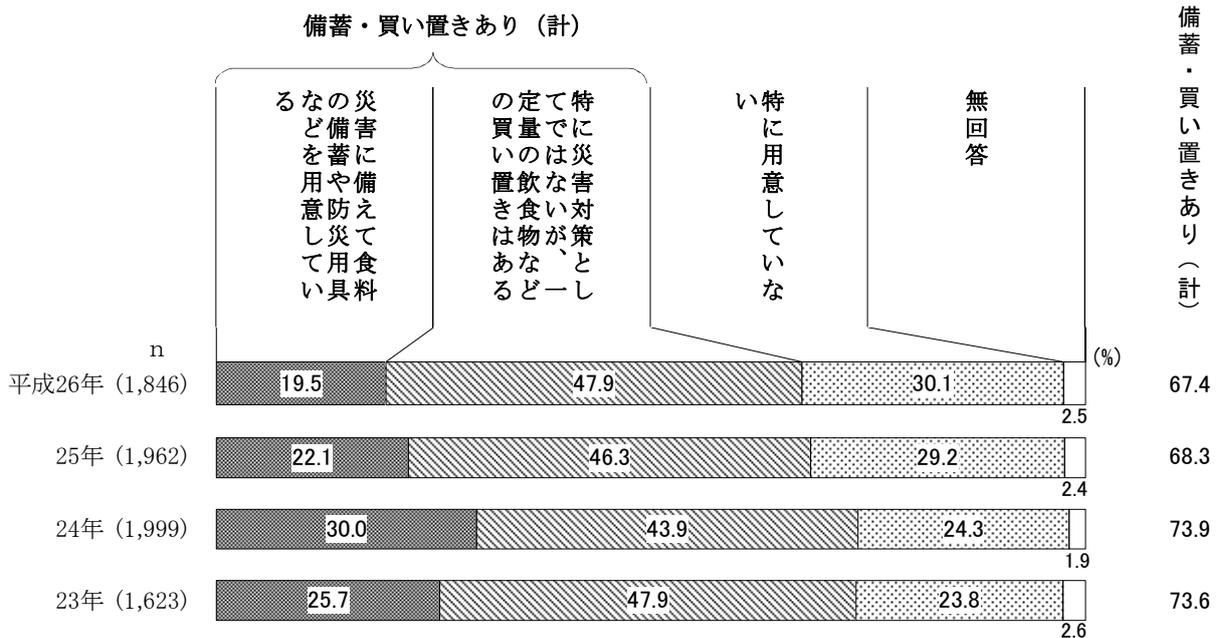
2. 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 備蓄をしていない方が3割で、徐々に増加

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。(〇は1つだけ)

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が19.5%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.9%、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は67.4%となっている。一方、「特に用意していない」は30.1%となっている。

経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の22.1%から、今回19.5%と2.6ポイント微減している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は今回47.9%と、前回の46.3%より1.6ポイント微増している。

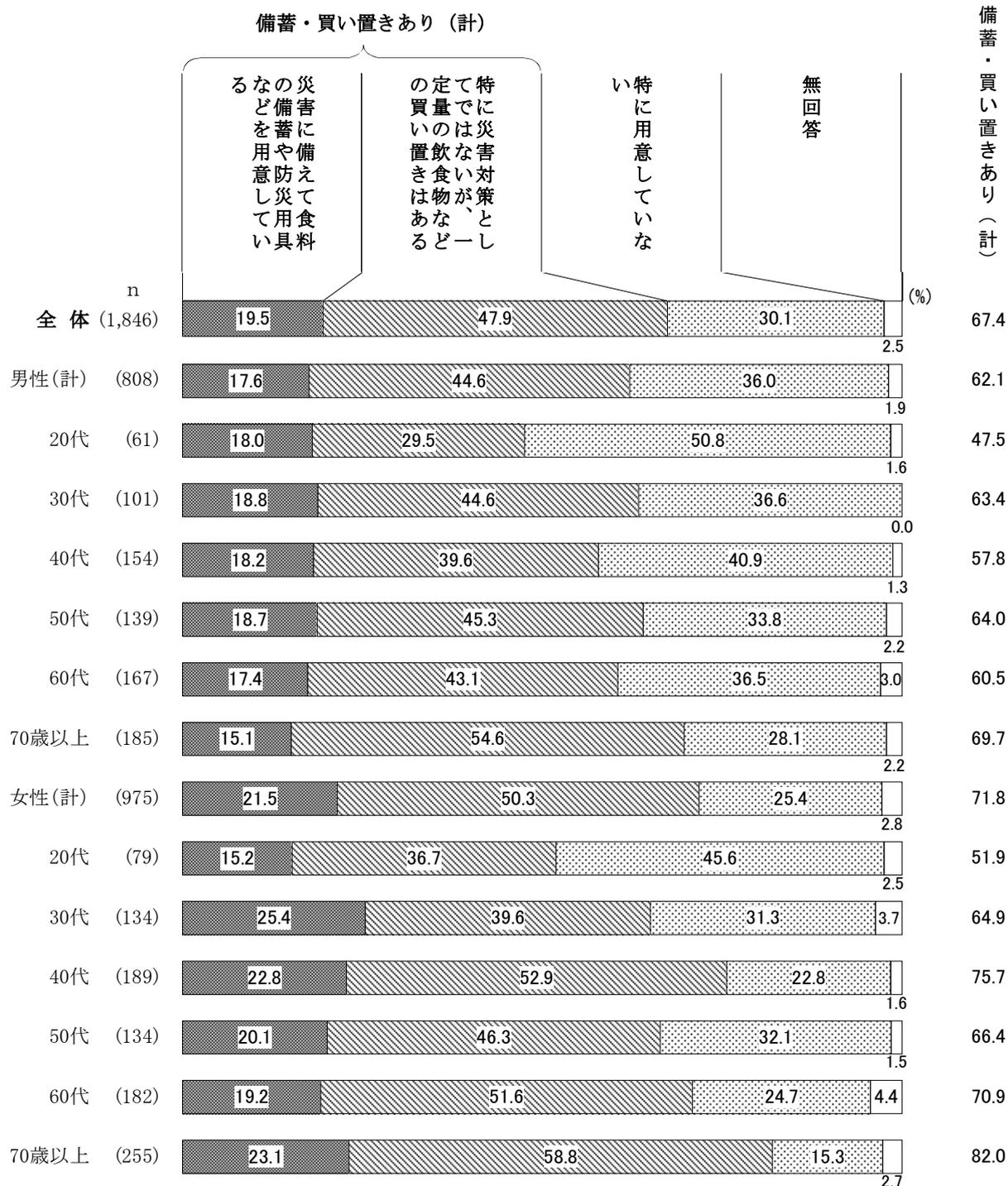
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【備蓄・買い置きあり】は男性62.1%、女性71.8%と女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、30代、50代、60代、70歳以上で【備蓄・買い置きあり】が6割を超えて、他の年代より高くなっている。

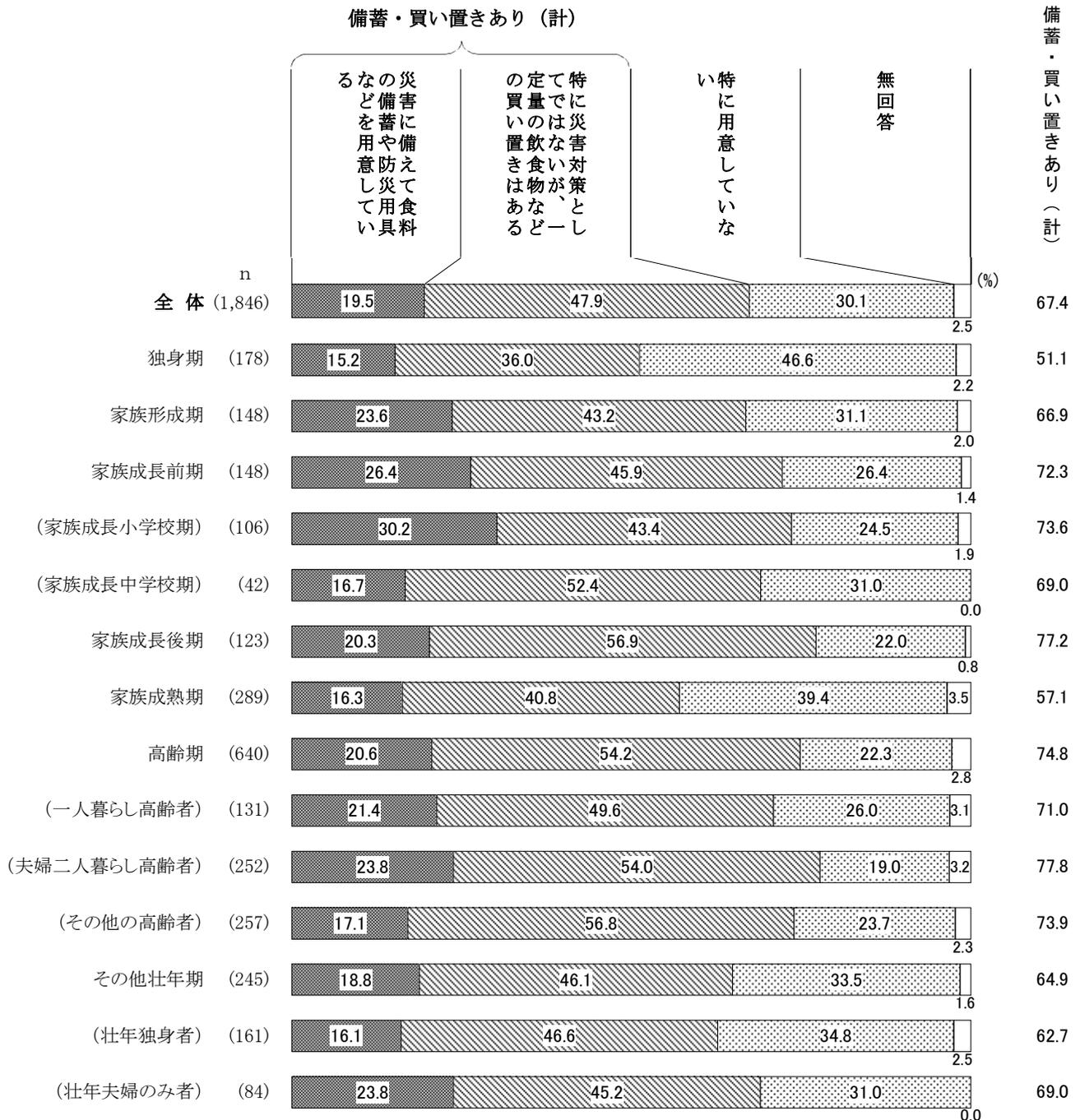
女性の場合、40代、60代、70歳以上で【備蓄・買い置きあり】が7割を超え、高くなっている。「特に用意していない」は男性20代で5割を超え、最も高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は高齢期、中でも夫婦二人暮らし高齢者で77.8%と高くなっている。一方、「特に用意していない」は独身期（46.6%）で4割を超え高くなっている。

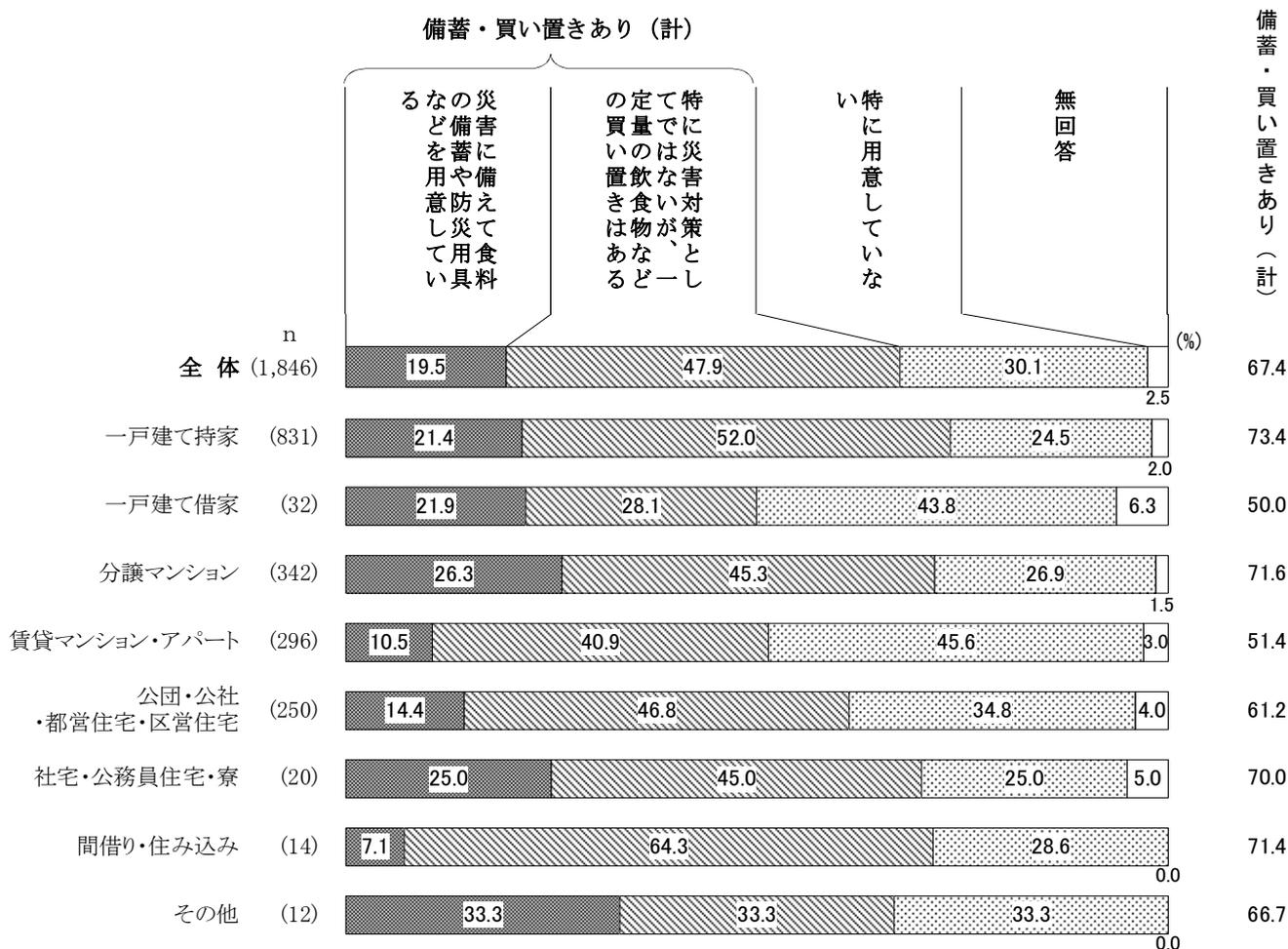
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮、間借り・住み込みでは、【備蓄・買い置きあり】が、いずれも7割を超えている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ50.0%、51.4%と低くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

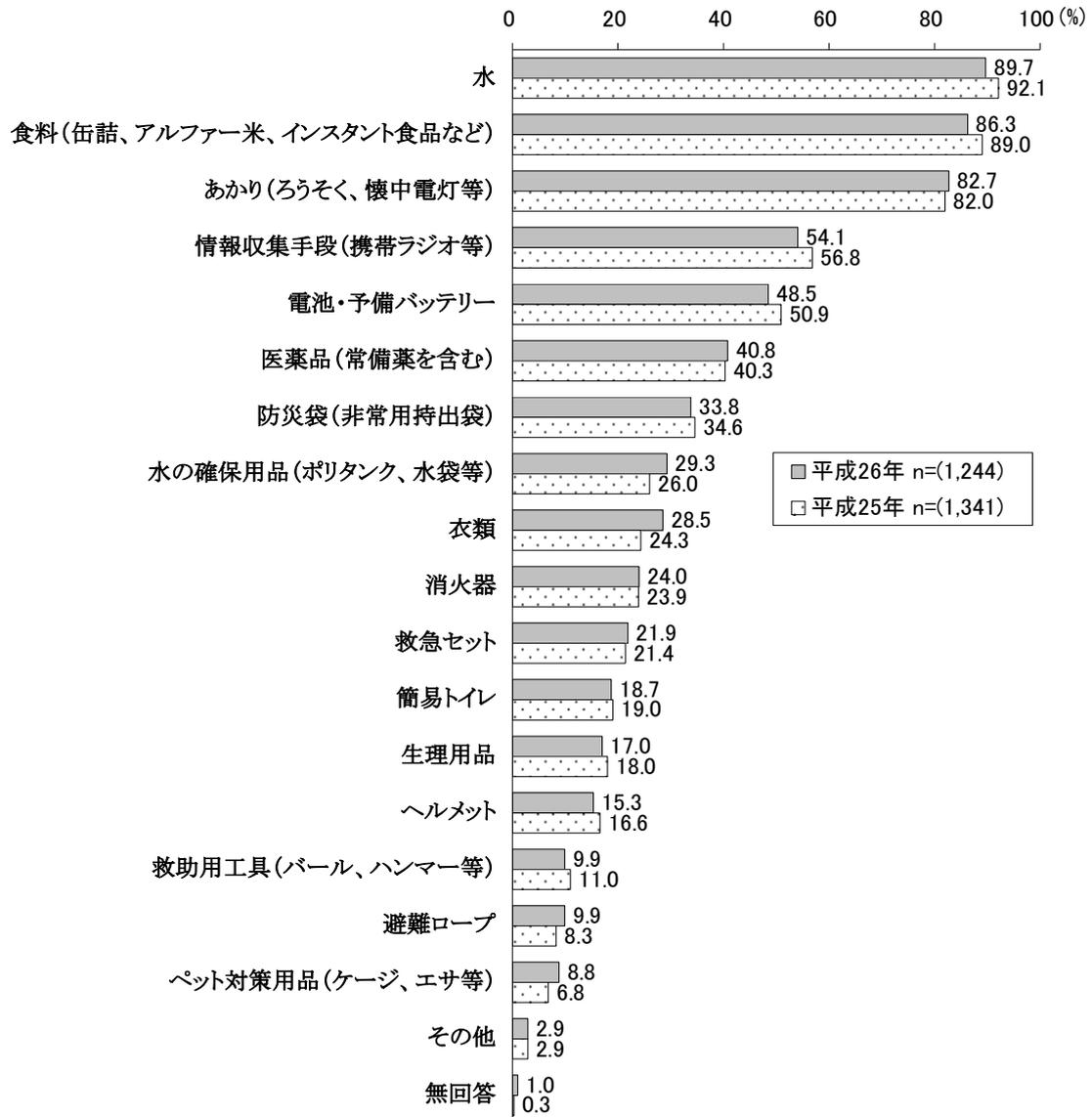
■ 「水」「食料」「あかり」が8割台

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(○はあてはまるものすべて)

図2-2-1 前回調査比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が89.7%で最も高く、以下「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」(86.3%)、「あかり(ろうそく、懐中電灯等)」(82.7%)の順となっている。

前回結果と比較しても、大きな差はみられない。

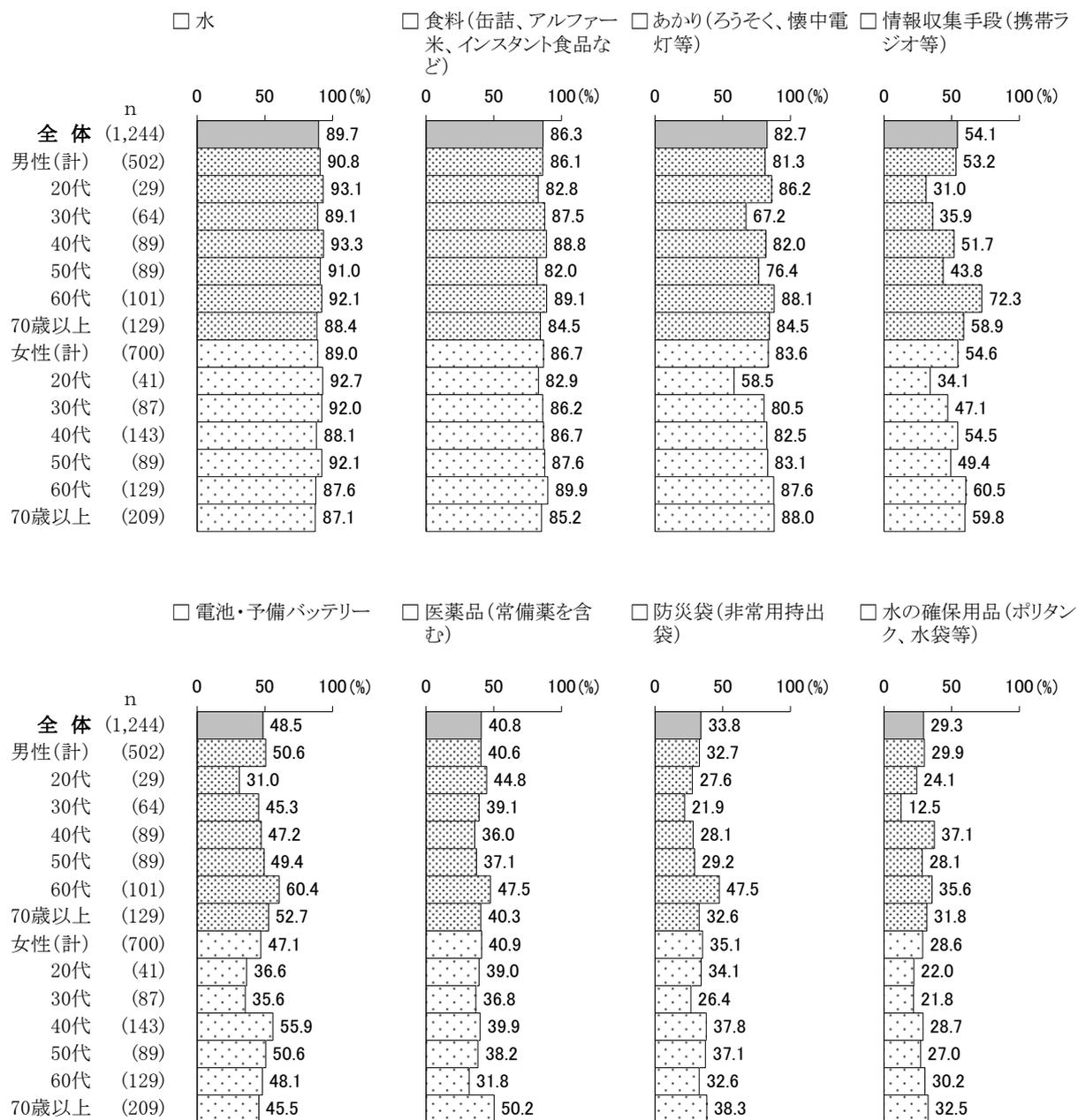
第3章 調査結果の分析

性別でみると、いずれの項目についても大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は、男女とも各年代にわたって高くなっている。

また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」は、男性では60代で72.3%と高く、女性では60代、70歳以上で6割前後と高くなっている。

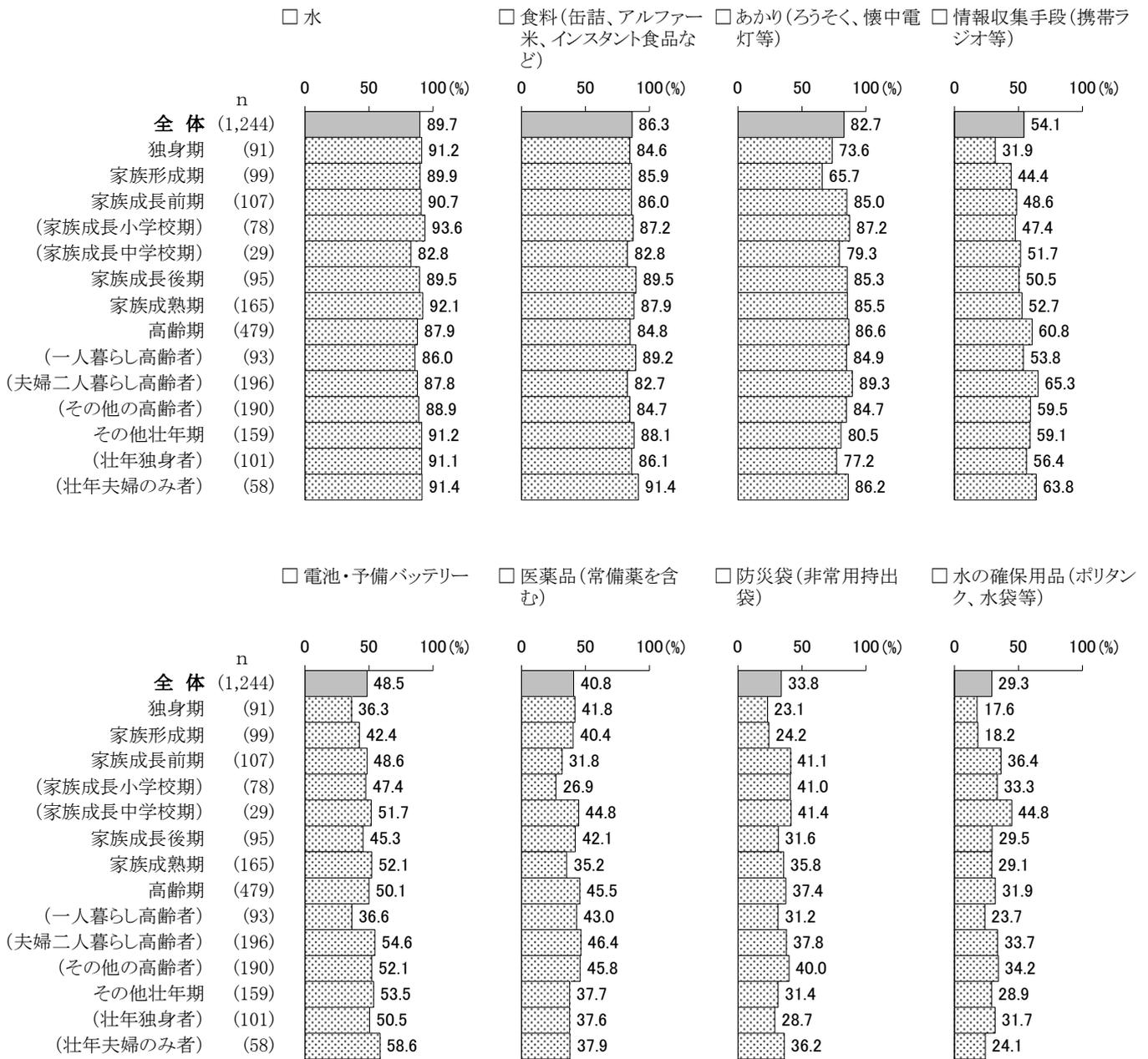
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は、各ステージを通じて高くなっている。

また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」については、ステージが進行するにつれて高くなる傾向がある。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

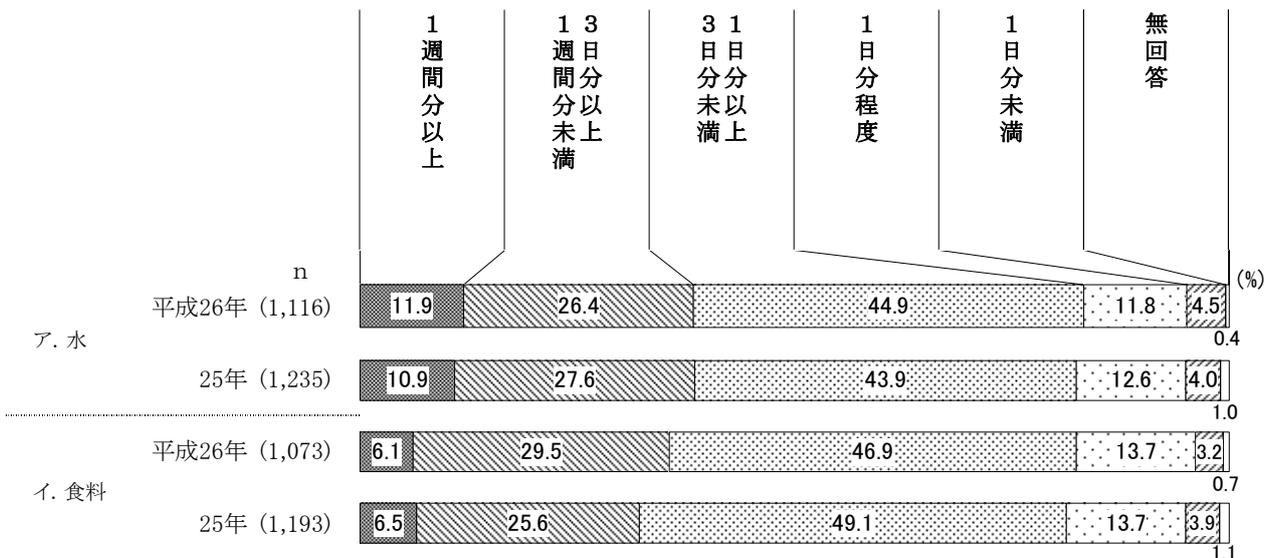
■ 〈水〉〈食料〉とも「1日分以上3日分未満」の備蓄が多く、4割台

問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

図2-3-1 前回調査比較/備蓄量



〈水〉〈食料〉を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については「1日分以上3日分未満」が44.9%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(26.4%)となっている。

〈食料〉については、「1日分以上3日分未満」が46.9%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(29.5%)となっている。

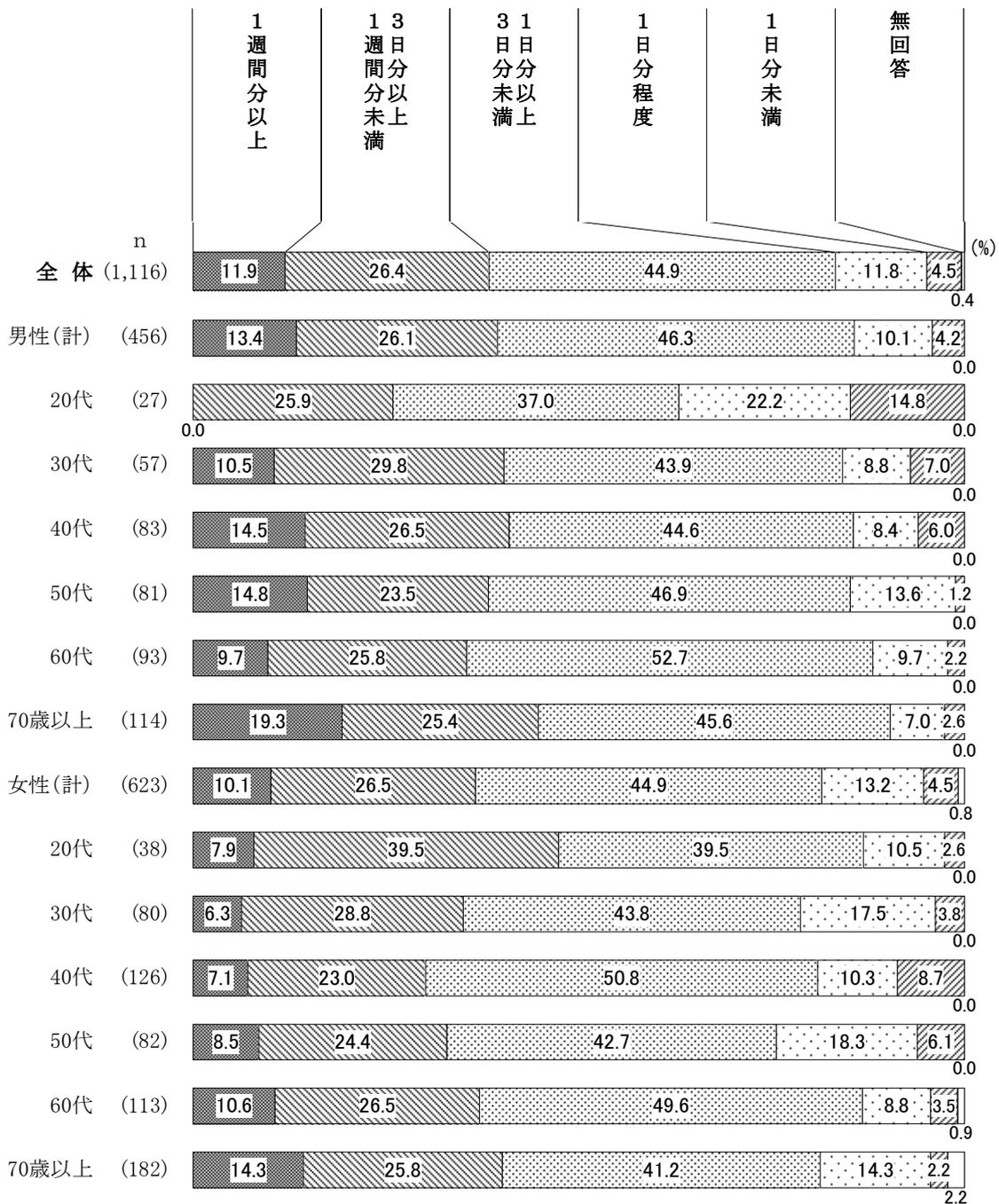
前回結果と比較すると、〈食料〉では「3日分以上1週間分未満」が25.6%から29.5%と、微増している。

水の備蓄量を性別で見ると、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、男性の場合、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高くなっている。

女性の場合、30代以上で「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高くなっているが、20代では「1日分以上3日分未満」(39.5%)と「3日分以上1週間分未満」(39.5%)で同じ数値となっている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



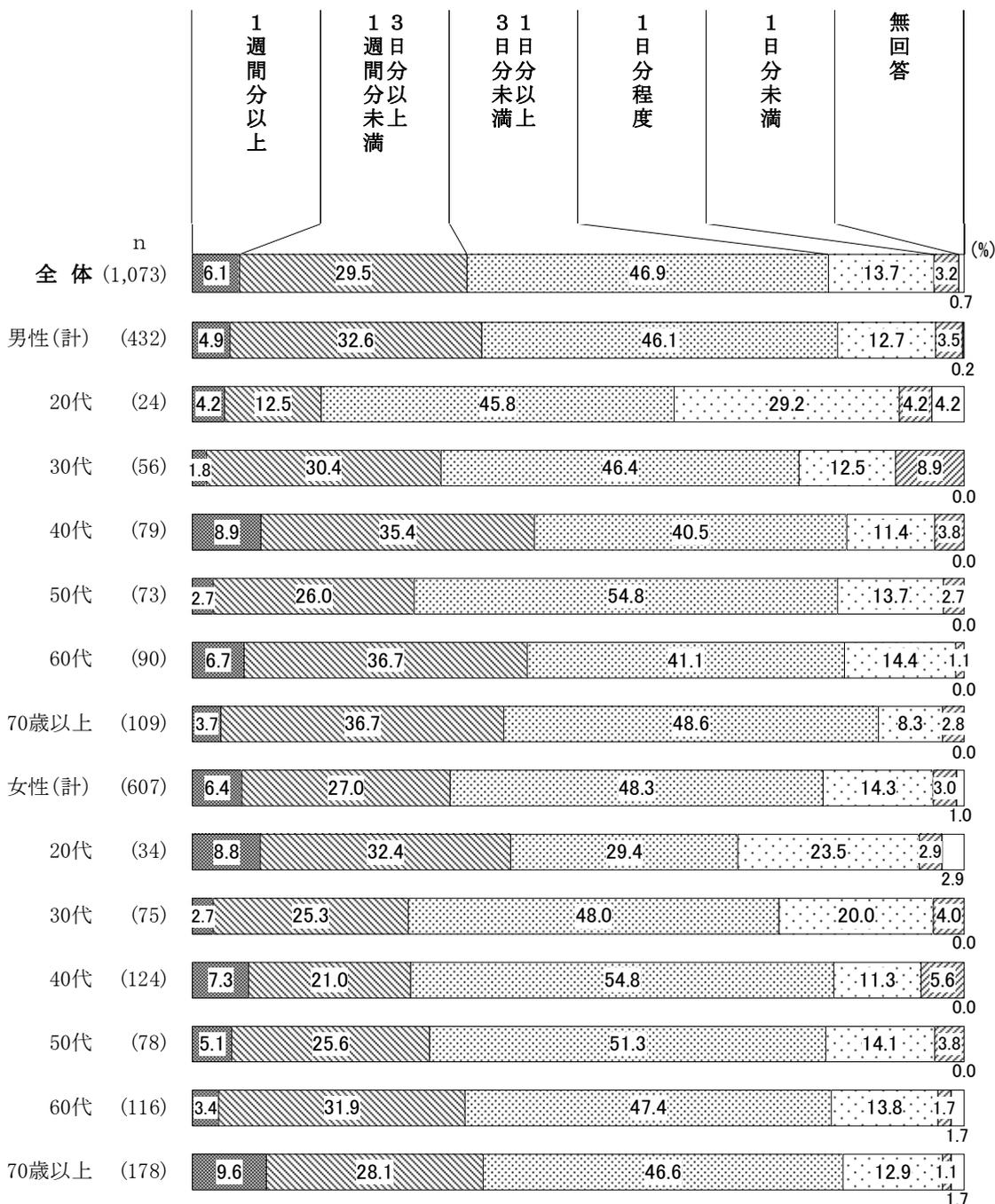
第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量を性別で見ると、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、男性の場合、いずれの年代でも「1日分以上3日分未満」が高くなっている。また、50代では「1日分以上3日分未満」が54.8%と、他の年代より高くなっている。

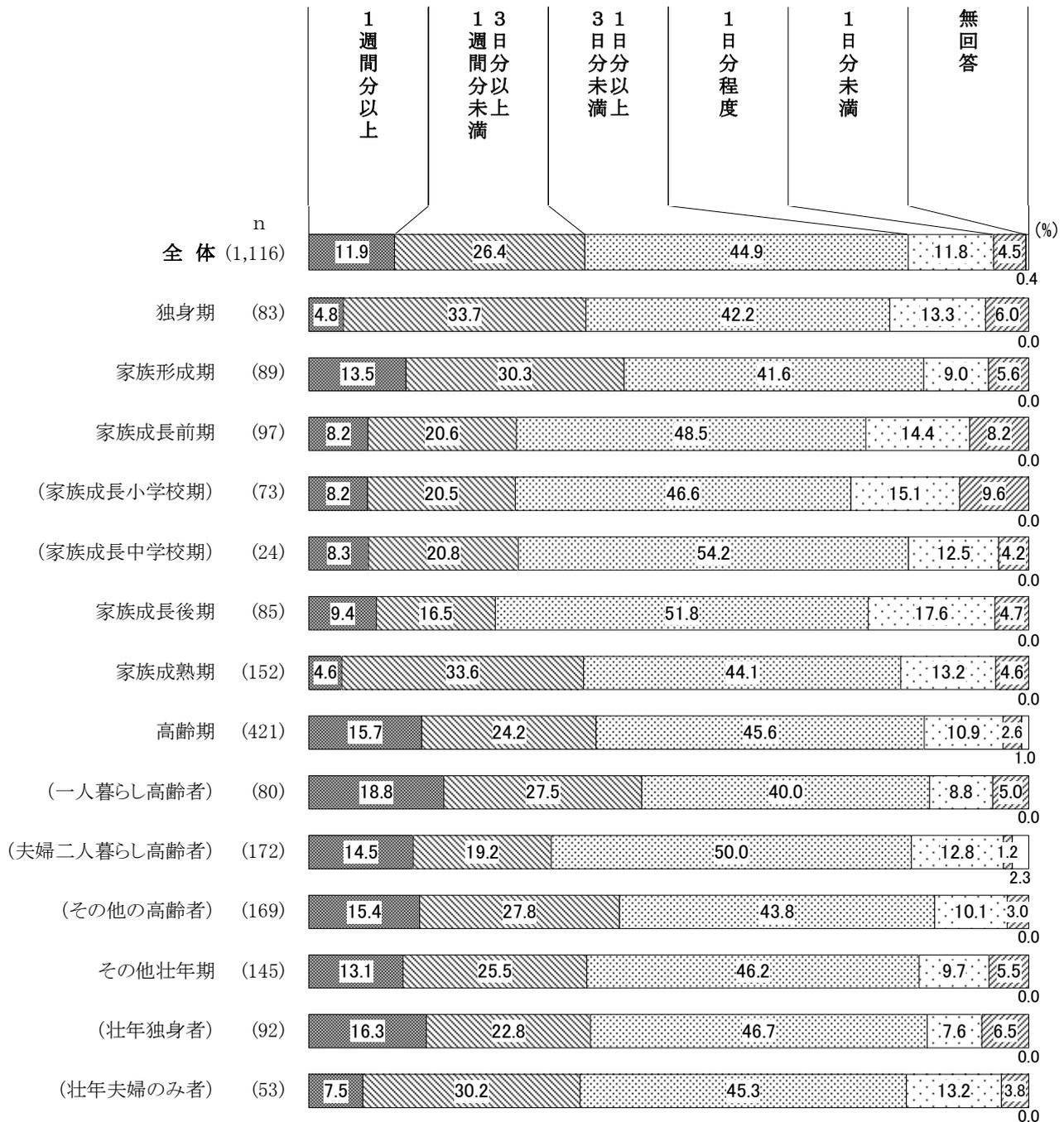
女性の場合、20代を除くと、いずれの年代でも「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高く、とくに40代では54.8%となっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



水の備蓄量をライフステージ別で見ると、すべてのライフステージで、「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

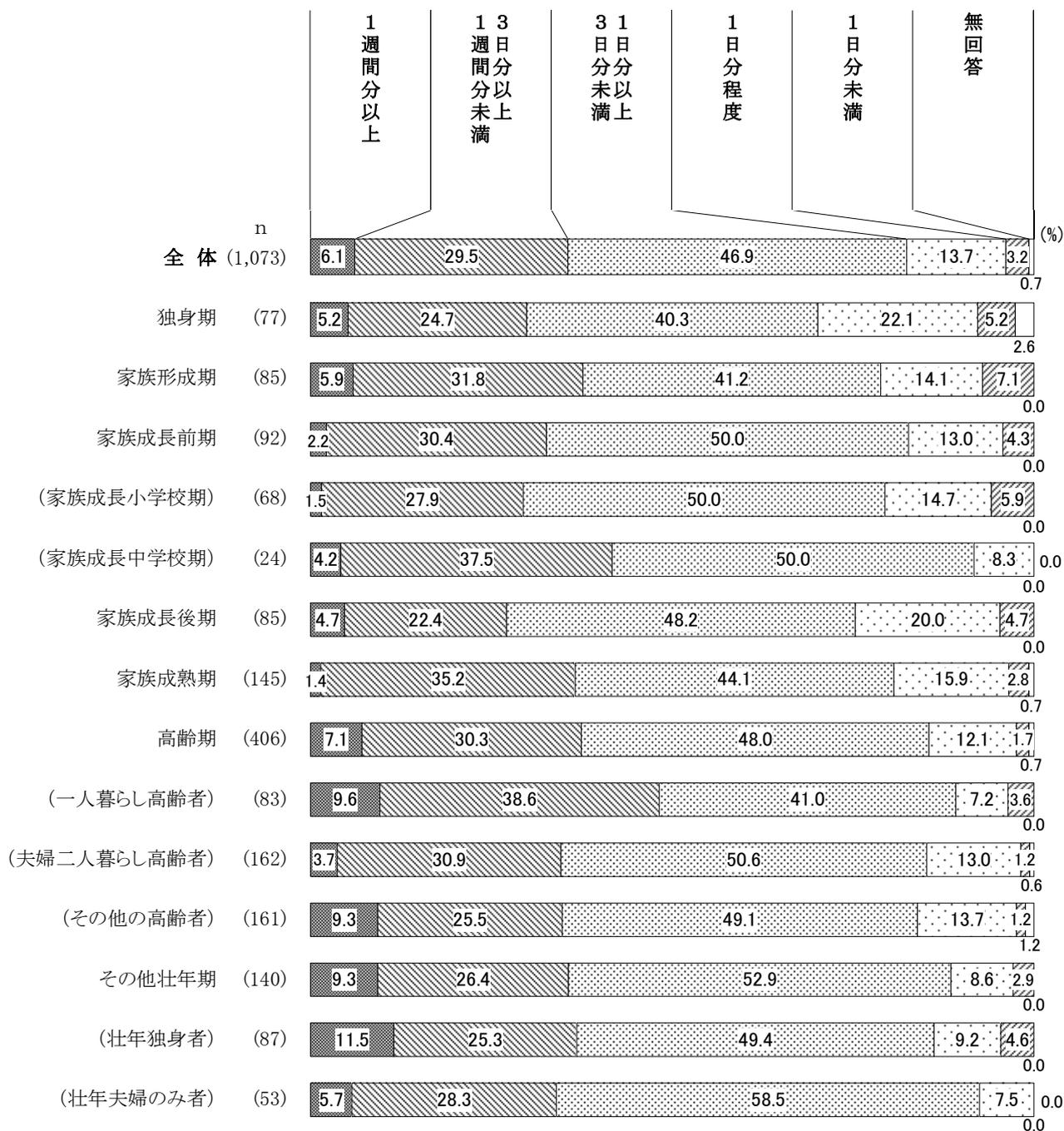
図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量をライフステージ別で見ると、いずれのステージでも、「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高くなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

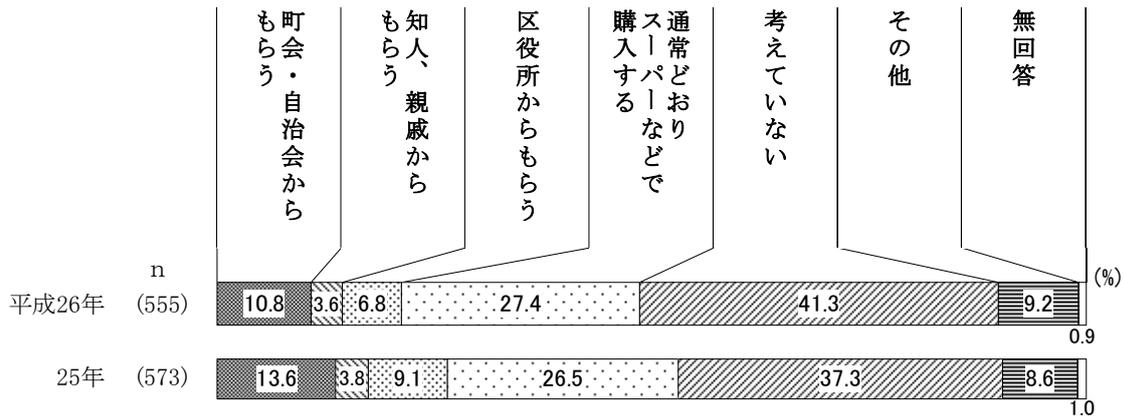
■ 「通常どおりスーパーなどで購入する」が2割台半ばも、「考えていない」が4割強

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか。

(○は1つだけ)

図2-4-1 前回調査比較／災害発生時の水や食料の確保



備蓄や買い置きを「特に用意していない」という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が27.4%で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」(10.8%)となっている。一方、「考えていない」が41.3%と4割を超えている。

前回結果と比較すると、「考えていない」が37.3%から41.3%と、微増している。

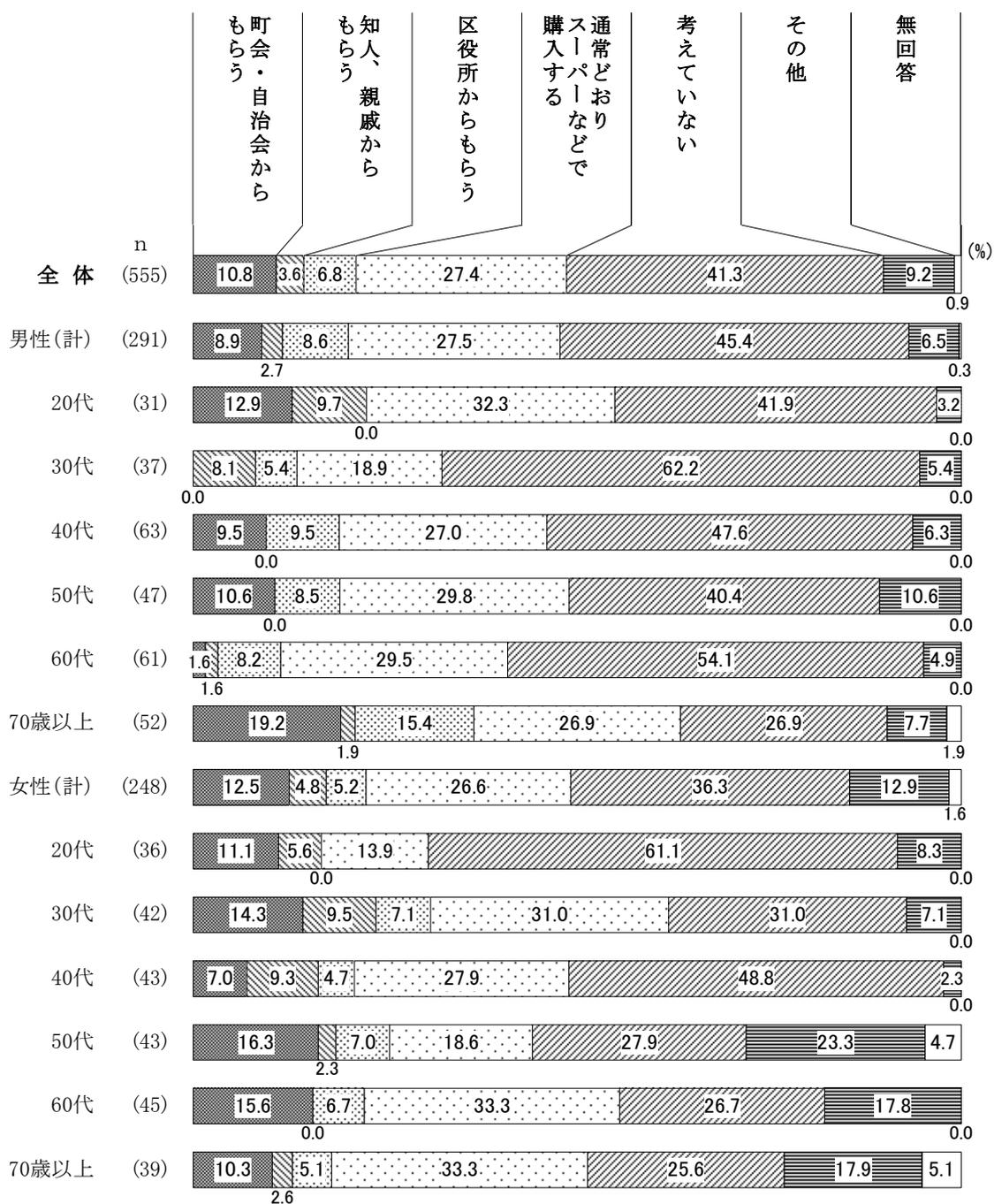
第3章 調査結果の分析

性別で見ると、男性では「考えていない」が45.4%と、女性（36.3%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、30代、60代では「考えていない」が5割を超えている。70歳以上では「町会・自治会からもらう」が19.2%と、他の年代より高くなっている。また、30代を除くと、いずれの年代でも「通常どおりスーパーなどで購入する」が2割台半ばを超えている。

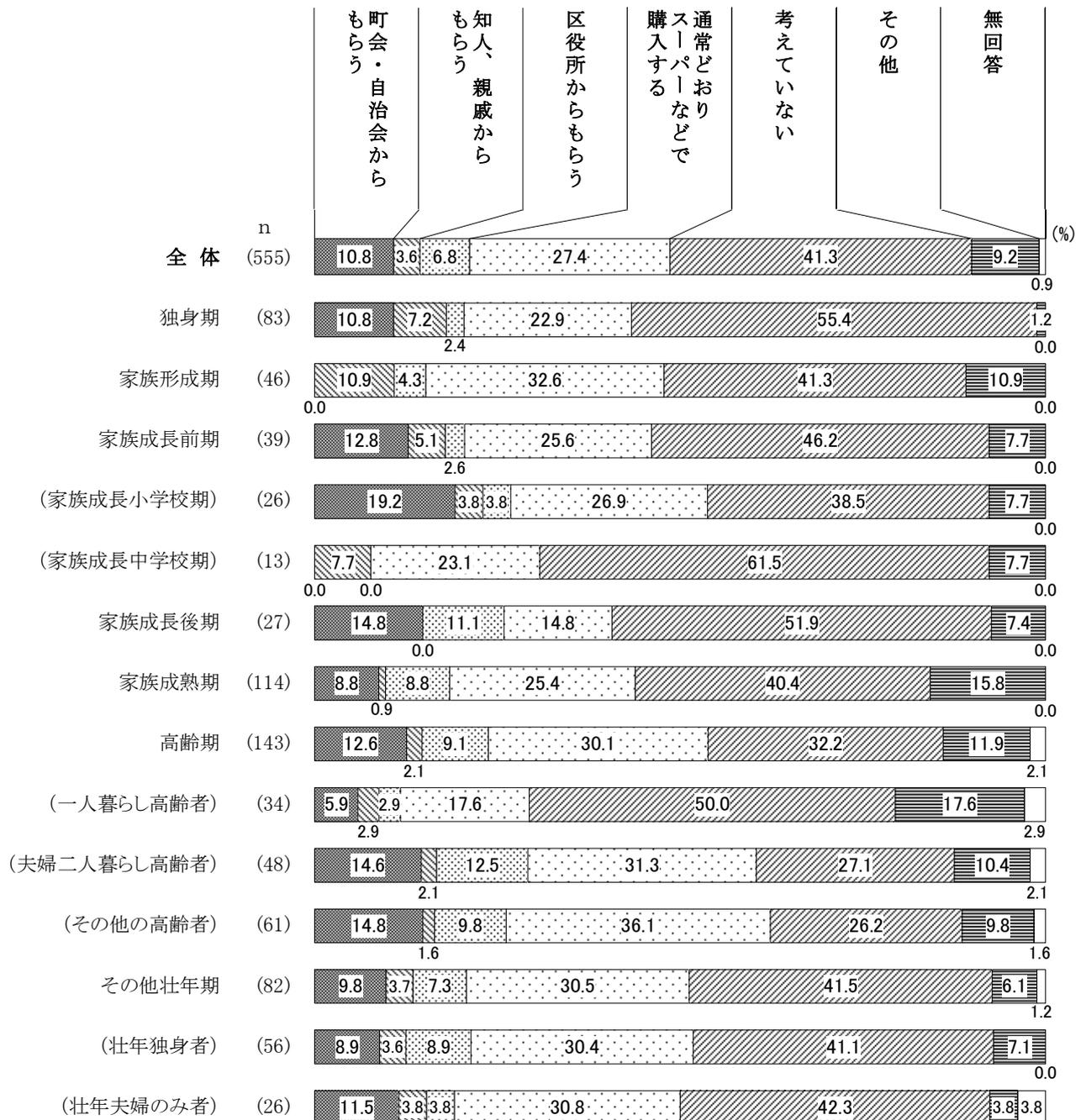
女性の場合、20代では「考えていない」が61.1%と、他の年代より高くなっている。一方、30代、40代、60代、70歳以上では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割前後と、他の年代より高くなっている。

図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別で見ると、独身期、家族成長中学校期、家族成長後期、一人暮らし高齢者では「考えていない」が5割以上と高くなっている。家族形成期、高齢期、夫婦二人暮らし高齢者、その他の高齢者、壮年独身者、壮年夫婦のみ者では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割を超え、他のステージより高くなっている。家族成長小学校期では、「町会・自治会からもらう」が19.2%と、他のステージより高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



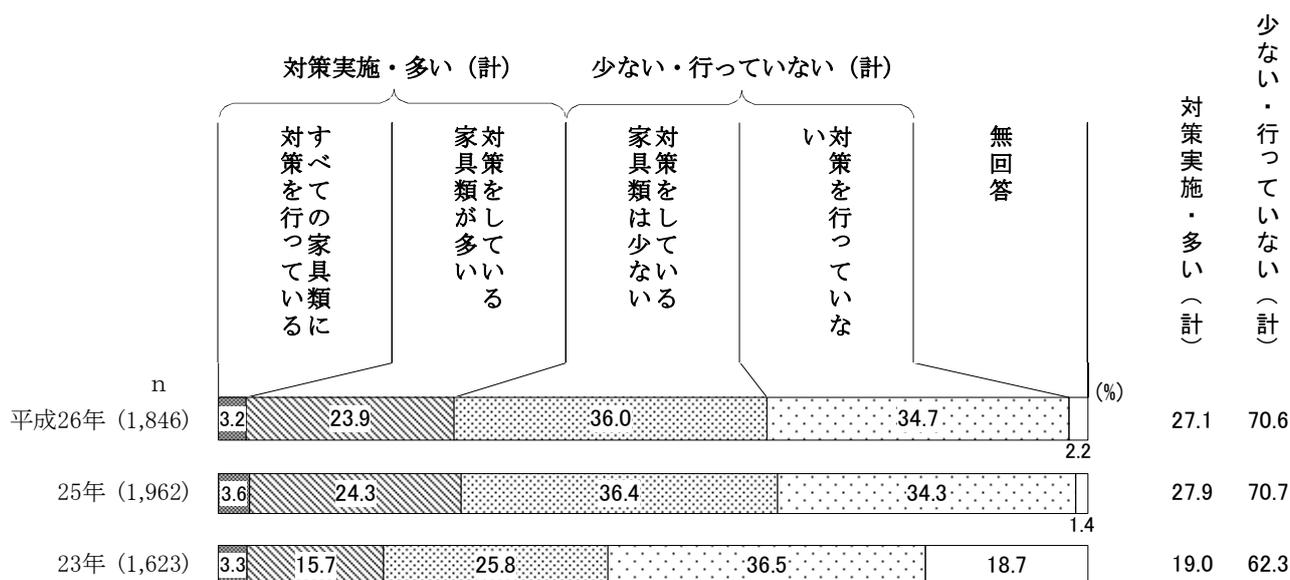
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない方が約7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか。(○は1つだけ)

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較/家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.2%で、これに「対策をしている家具類が多い」の23.9%を合わせた【対策実施・多い】が27.1%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.0%、「対策を行っていない」は34.7%となっている。

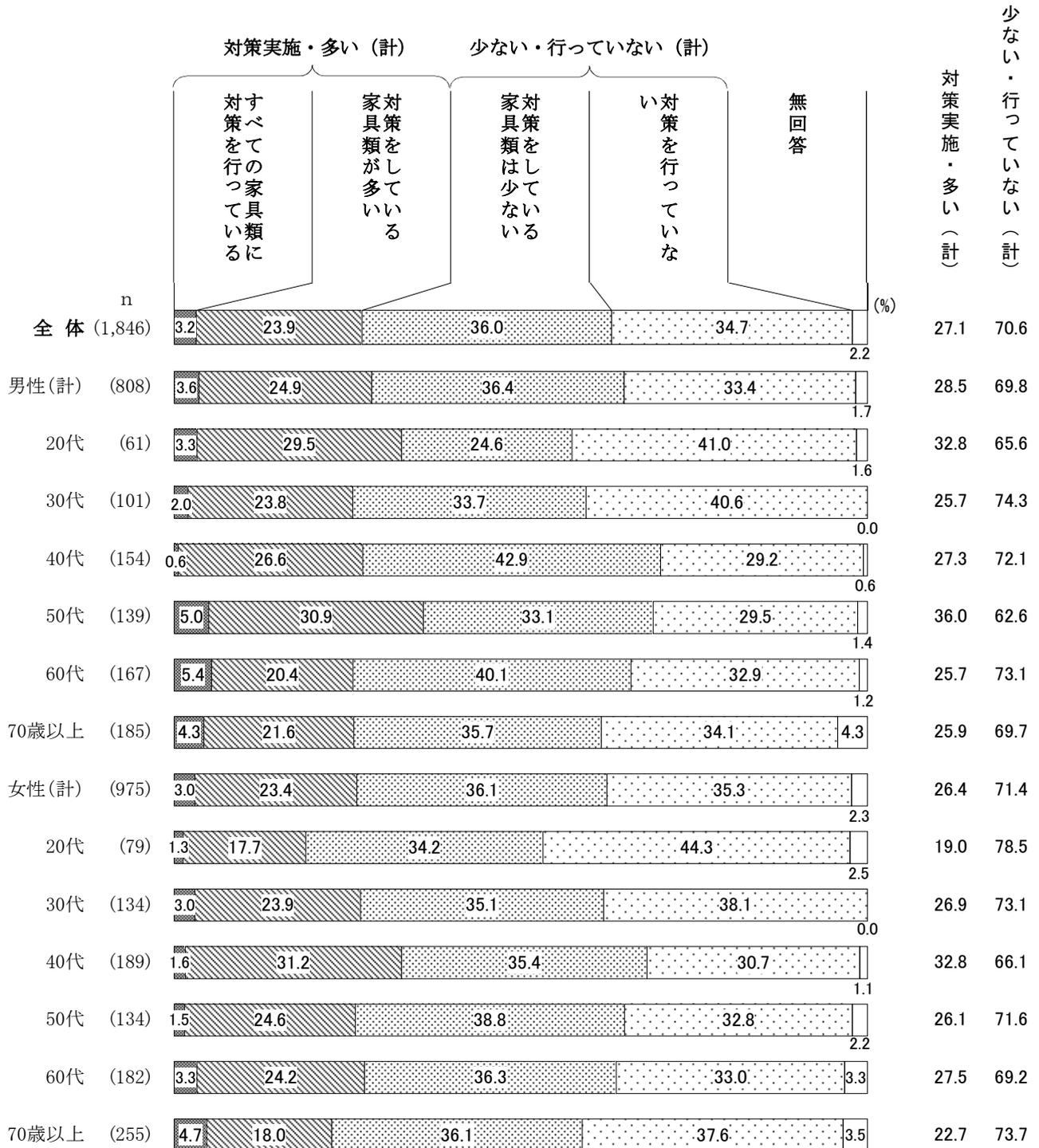
平成25年度調査と比較すると、【対策実施・多い】は27.9%から27.1%で、ほぼ横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】も、70.7%から70.6%で、ほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、20代、50代では【対策実施・多い】が、それぞれ32.8%、36.0%と、高くなっている。

女性の場合、40代で【対策実施・多い】が32.8%と、他の年代より高くなっている。

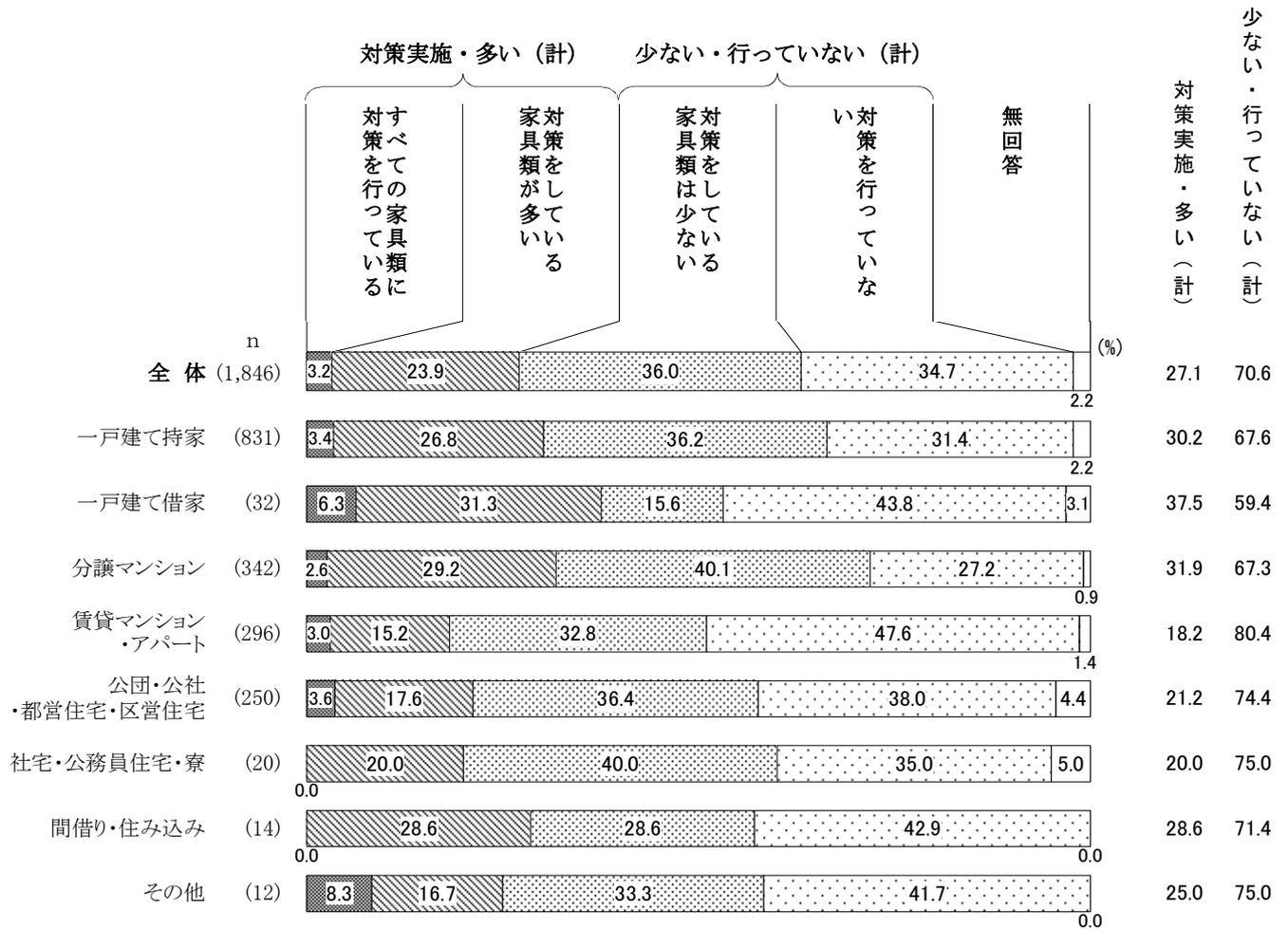
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、分譲マンションでは【対策実施・多い】が、いずれも3割を超えて他の住居形態よりやや高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



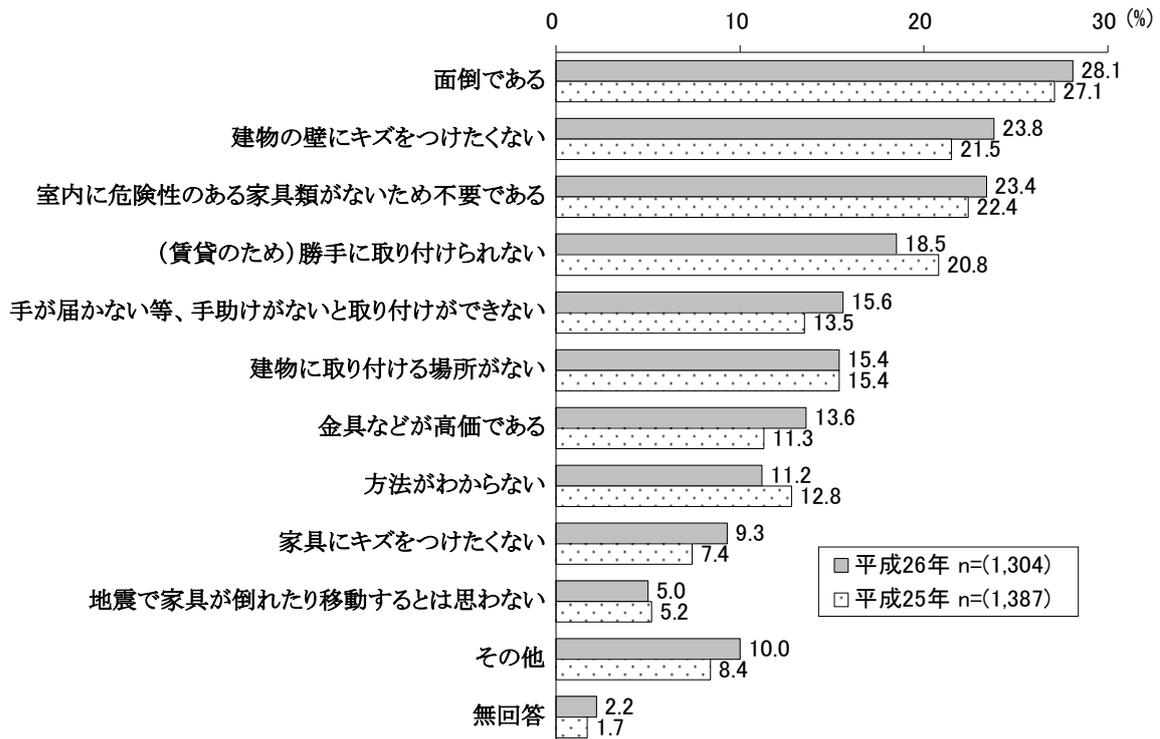
(6) 対策をしていない理由

■ “面倒” “キズをつけたくない” “不要” が2割台

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方へ

問7-1 どのような理由からですか。(〇はあてはまるものすべて)

図2-6-1 前回調査比較/対策をしていない理由



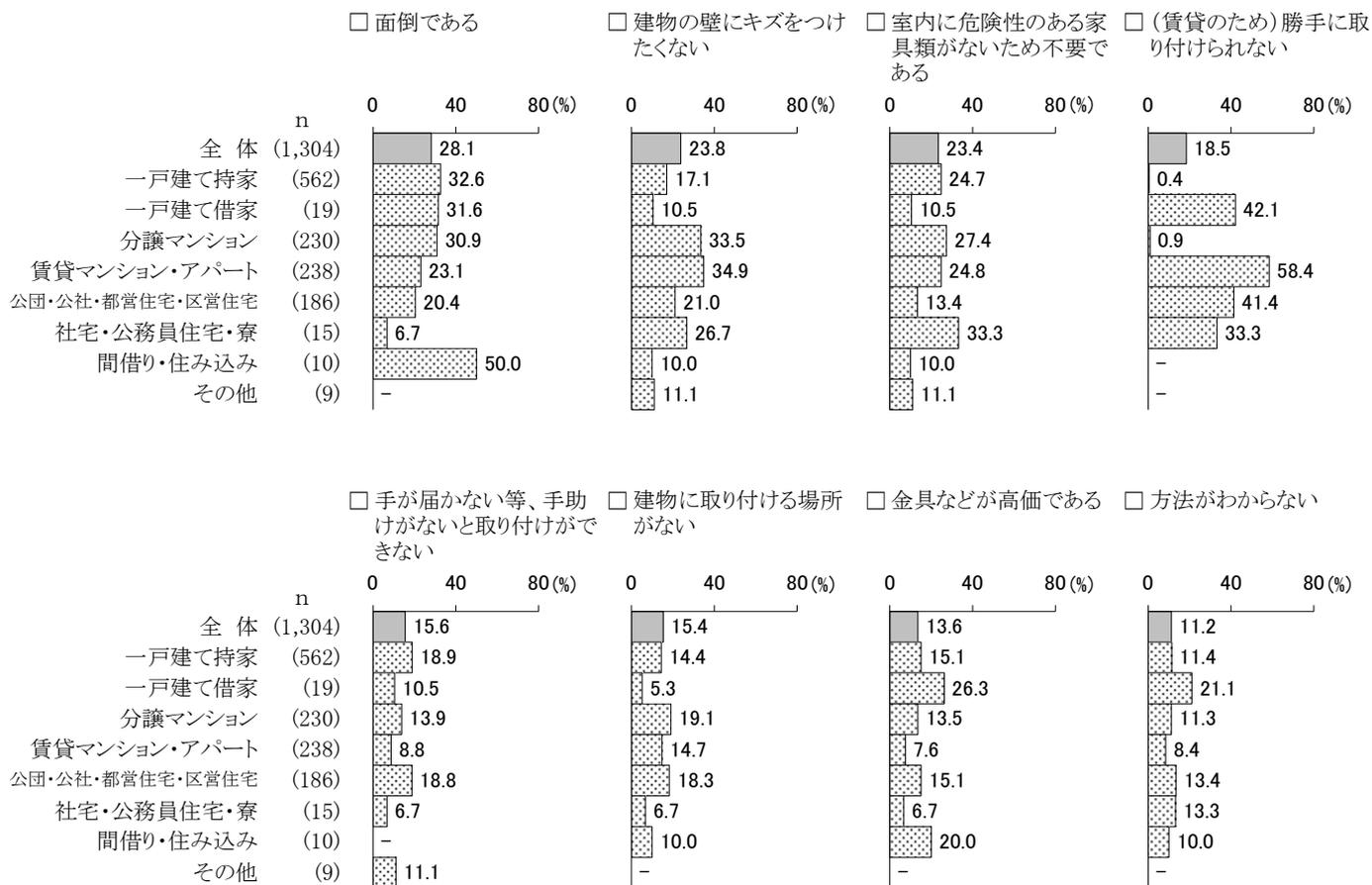
【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が28.1%で最も高く、以下「建物の壁にキズをつけたくない」(23.8%)、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(23.4%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(18.5%)の順となっている。

前回結果と比較すると、上位3項目はそれぞれ微増している。

第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、分譲マンションでは、「面倒である」がいずれも3割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートでは、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が58.4%と6割近くを占めているほか、「建物の壁にキズをつけたくない」も34.9%と高くなっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



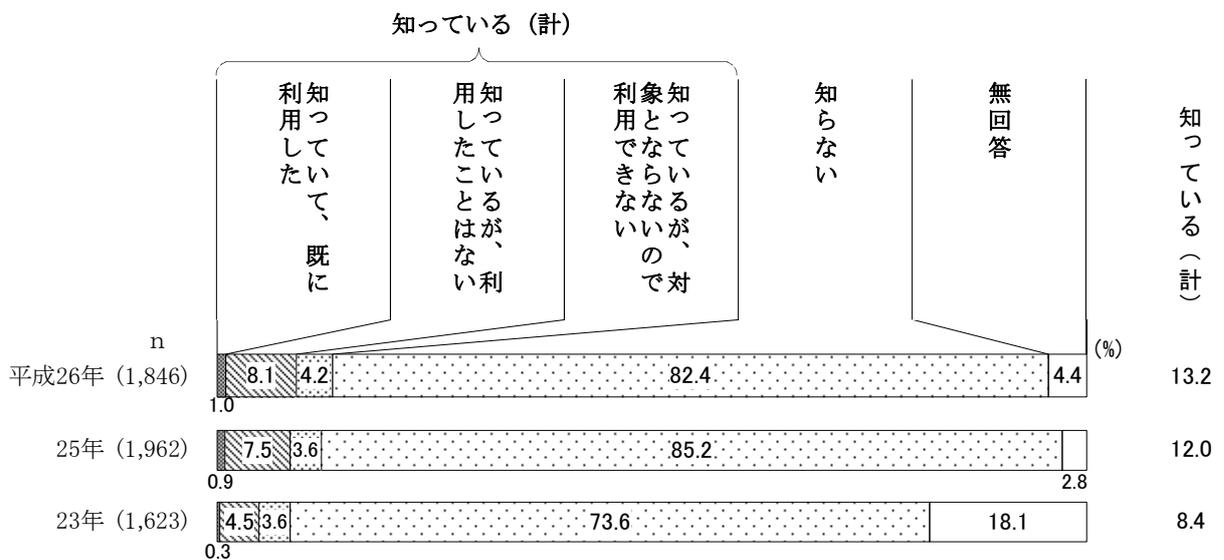
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

■ 「知らない」は8割以上

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか。(〇は1つだけ)

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

図2-7-1 経年比較/家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



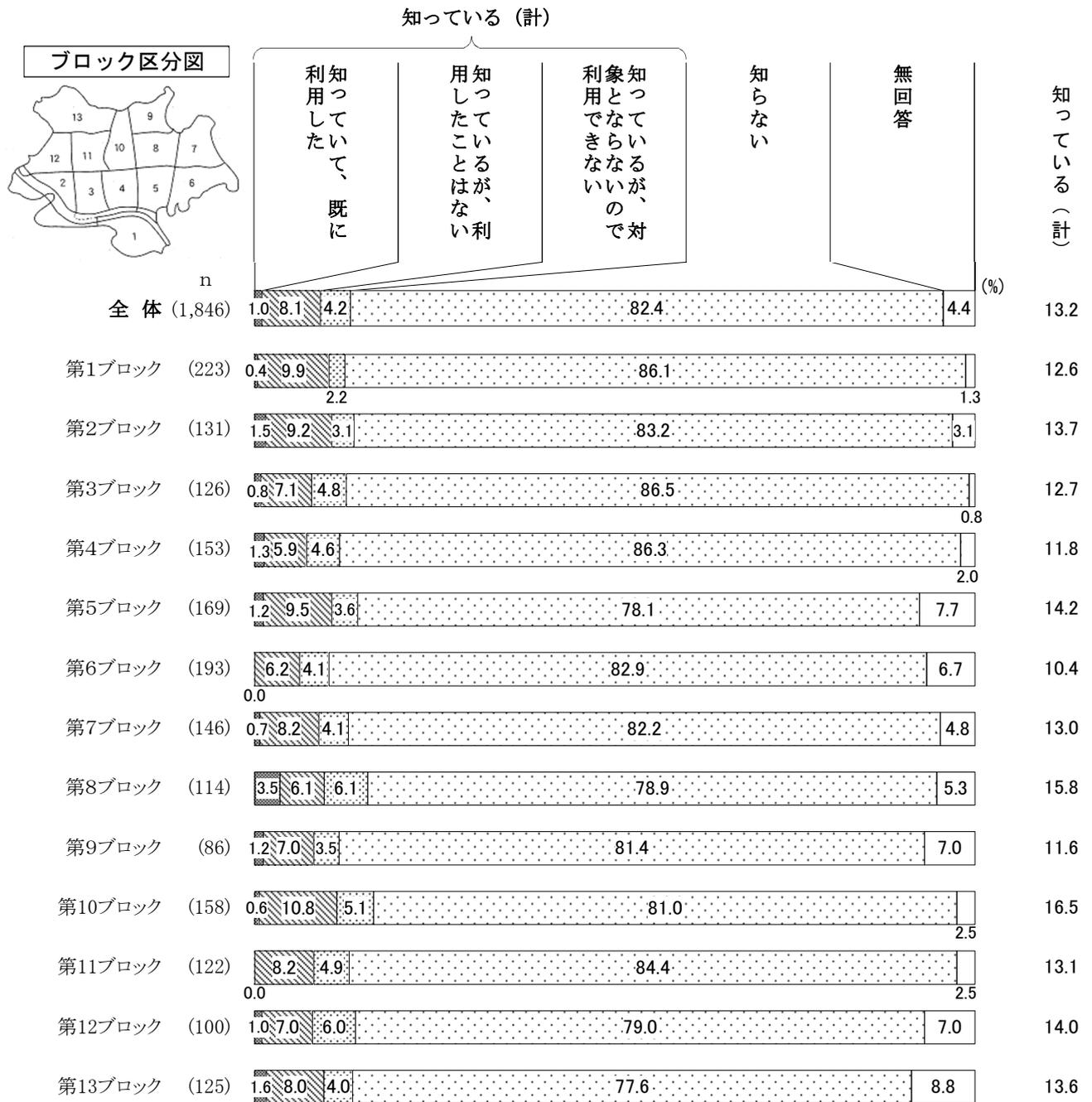
家具転倒防止器具取付、ブロック塀倒壊防止、窓ガラス飛散防止の工事についての費用助成制度について、「知っていて、既に利用した」は1.0%で、これに「知っているが、利用したことはない」(8.1%)、「知っているが、対象とならないので利用できない」(4.2%)を合わせた【知っている】は13.2%となっている。

平成25年度調査と比較すると、【知っている】は12.0%から13.2%へと1.2ポイント微増している。また、「知らない」は85.2%から82.4%と2.8ポイント微減している。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第8ブロック、第10ブロックでは、【知っている】はそれぞれ15.8%、16.5%と、他のブロックに比べてやや高くなっている。

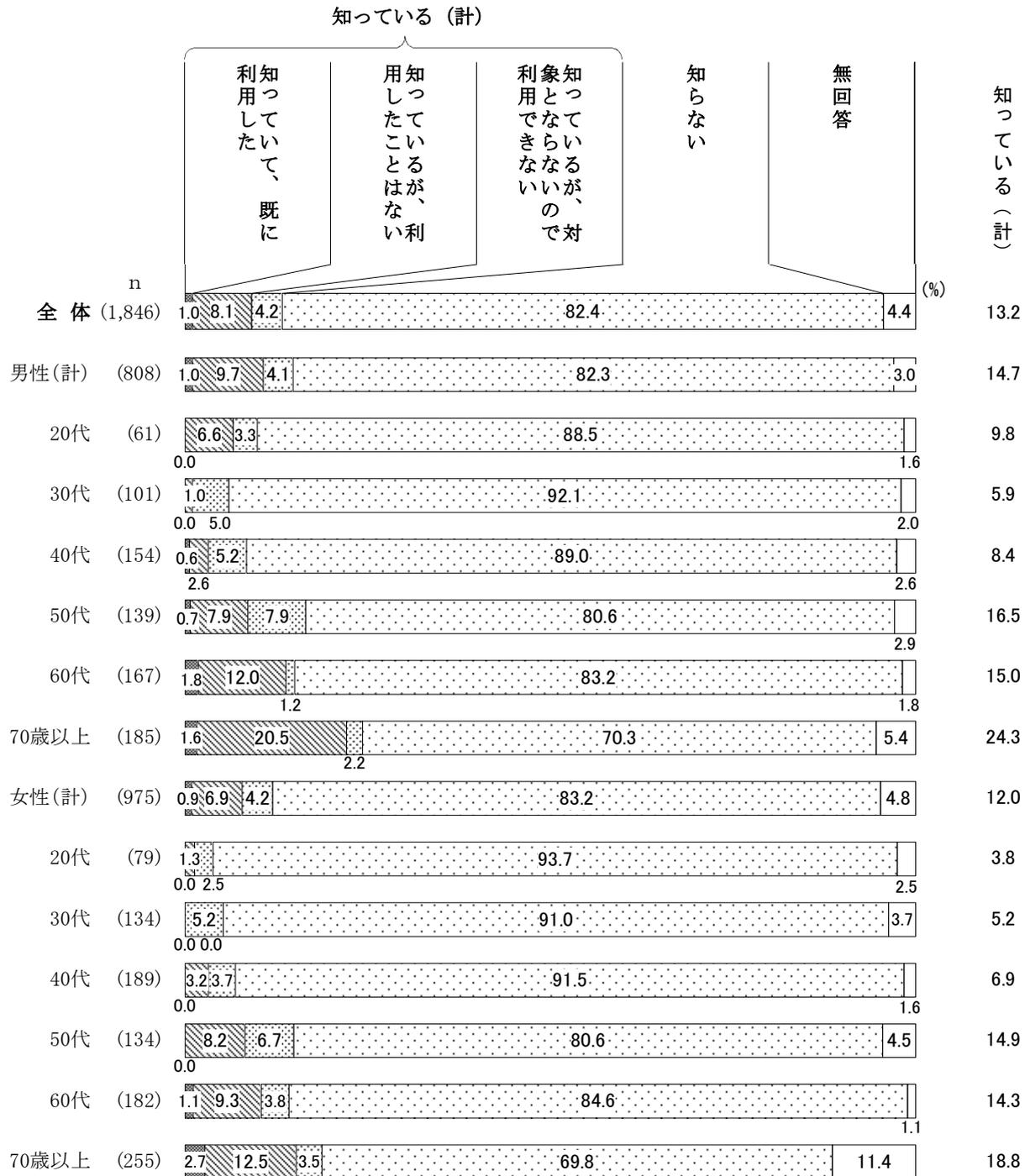
図2-7-2 地域ブロック別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



性別でみると、【知っている】は、男性14.7%、女性12.0%となっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男女とも若年層では低く加齢とともに増加し、男性の70歳以上では24.3%となっている。

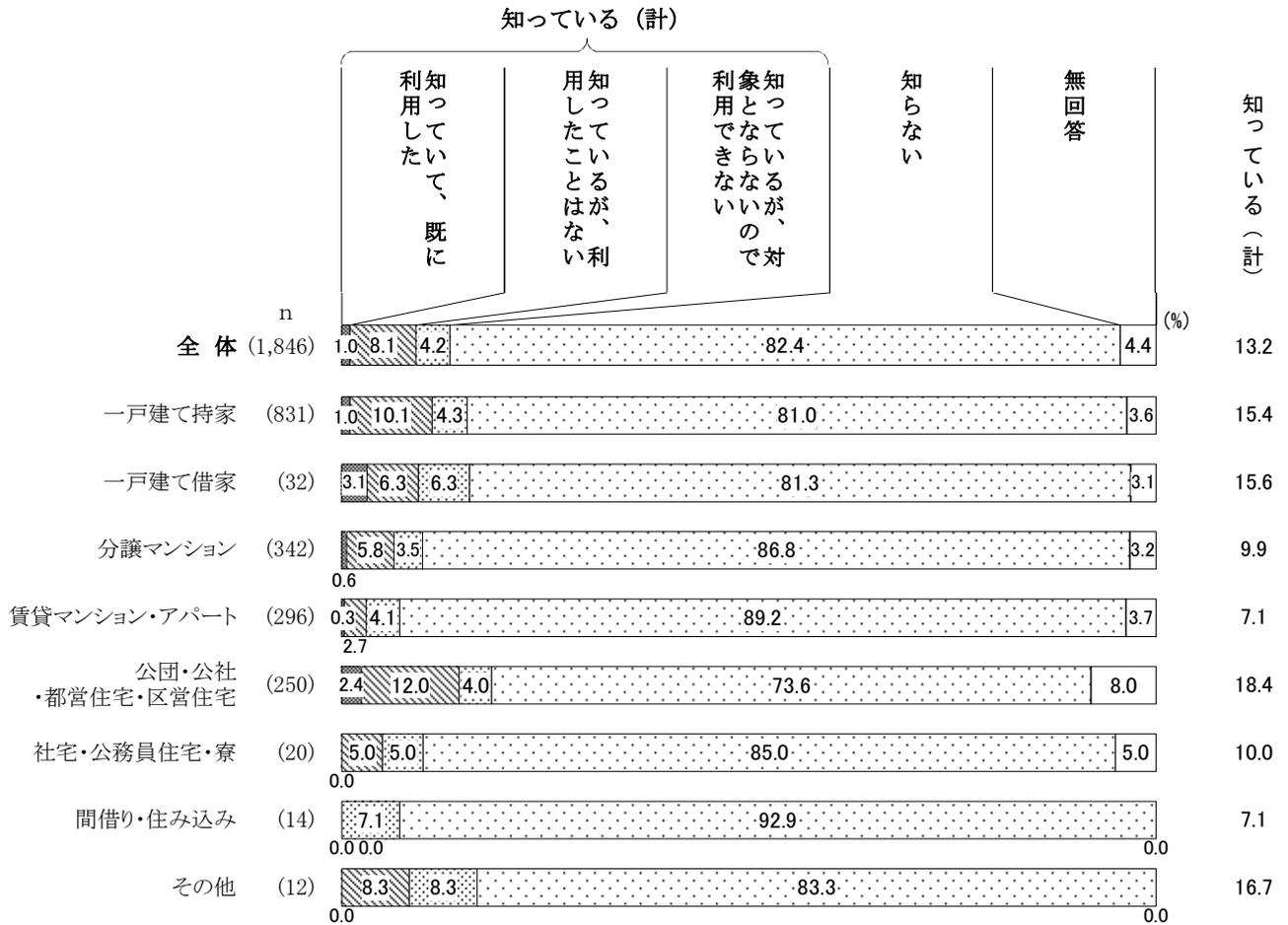
図2-7-3 性別、性・年代別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、公団・公社・都営住宅・区営住宅では【知っている】が、いずれも1割台半ばを超えて、他の住居形態より高くなっている。

図2-7-4 住居形態別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

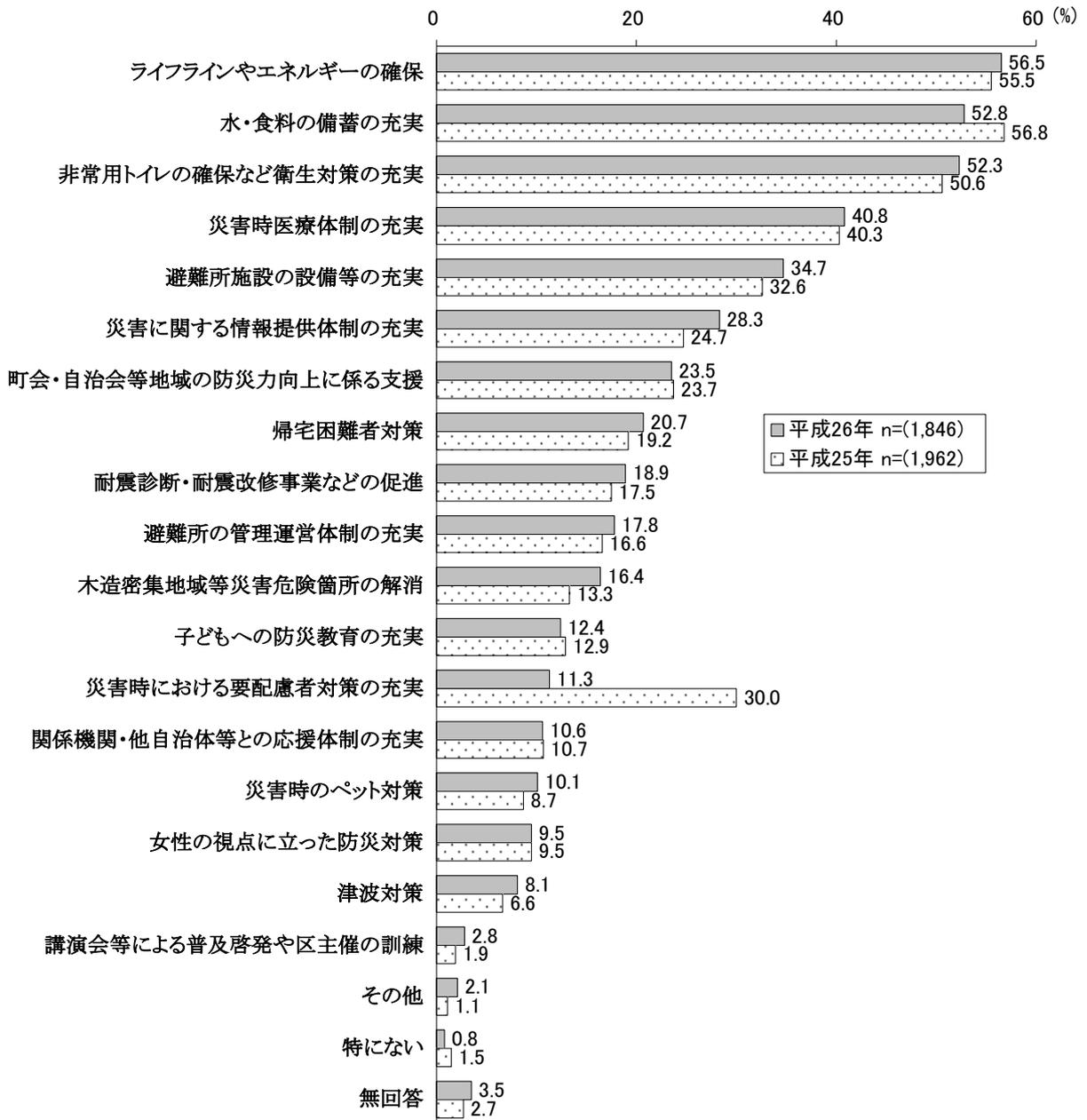


(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “ライフラインやエネルギーの確保” “備蓄の充実” “衛生対策の充実” が5割台

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(〇は5つまで)

図2-8-1 前回調査比較/大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※ 「水・食料の備蓄の充実」は、25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※ 「災害時における要配慮者対策の充実」は、25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「ライフラインやエネルギーの確保」が56.5%と最も高く、以下「水・食料の備蓄の充実」(52.8%)、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(52.3%)の順となっている。

第3章 調査結果の分析

前回結果と比較すると、微増している項目が多いなか、「水・食料の備蓄の充実」は56.8%から52.8%と、微減している。

なお、選択肢表記に違いがあり参考に過ぎないが、「災害時における要配慮者対策の充実」が前回から大幅減となっている。

性別で見ると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」については、男性48.5%、女性55.8%と女性で7.3ポイント高くなっている。

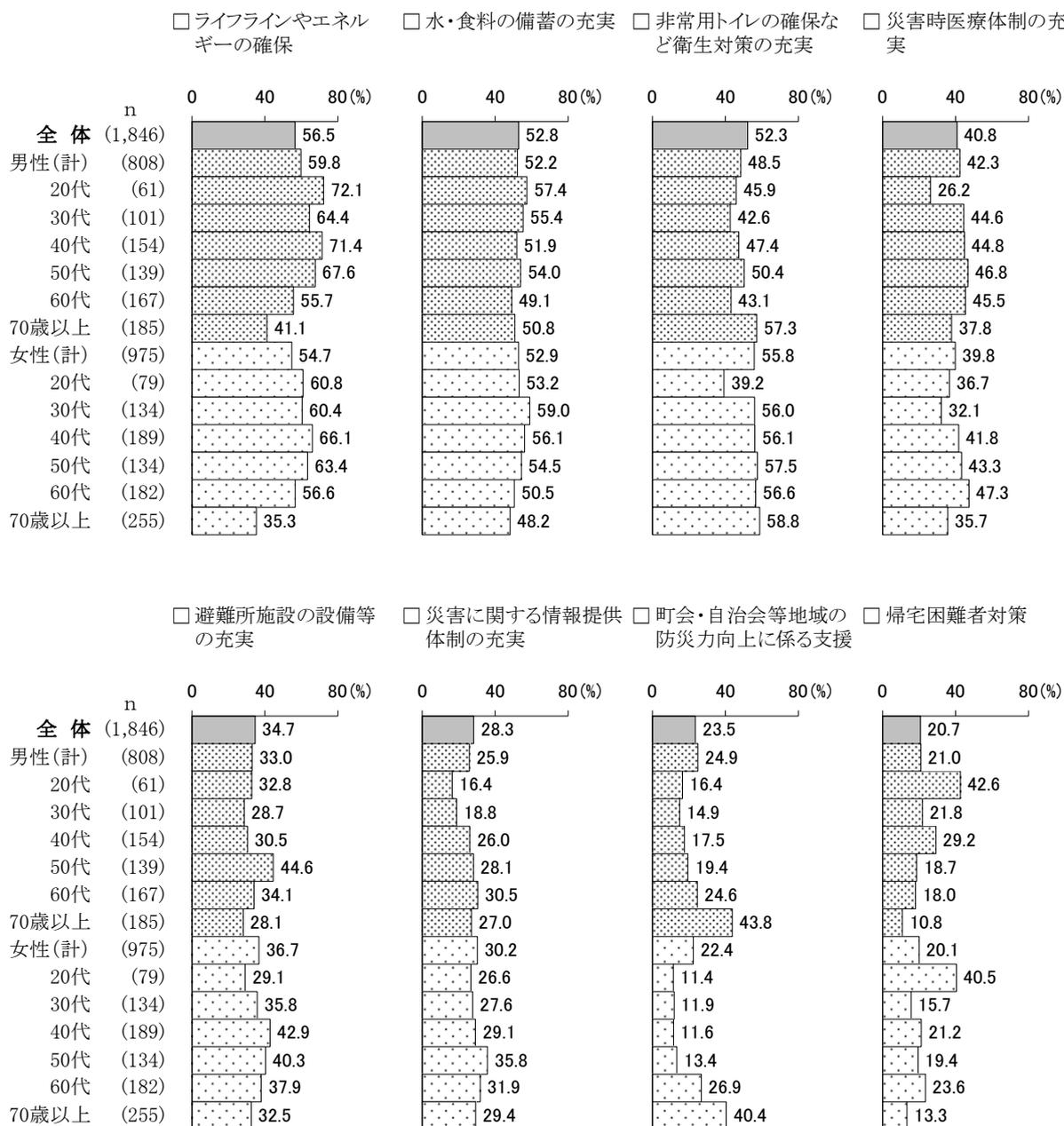
性・年代別で見ると、「ライフラインやエネルギーの確保」については、男性では、20代、40代でそれぞれ72.1%、71.4%と、他の年代よりも高くなっている。

女性では、60代以上を除くと、いずれの年代でも6割を超えている。

また、「避難所施設の設備等の充実」では、男性の50代、女性の40代、50代で4割を超え、他の年代より高くなっている。

図2-8-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

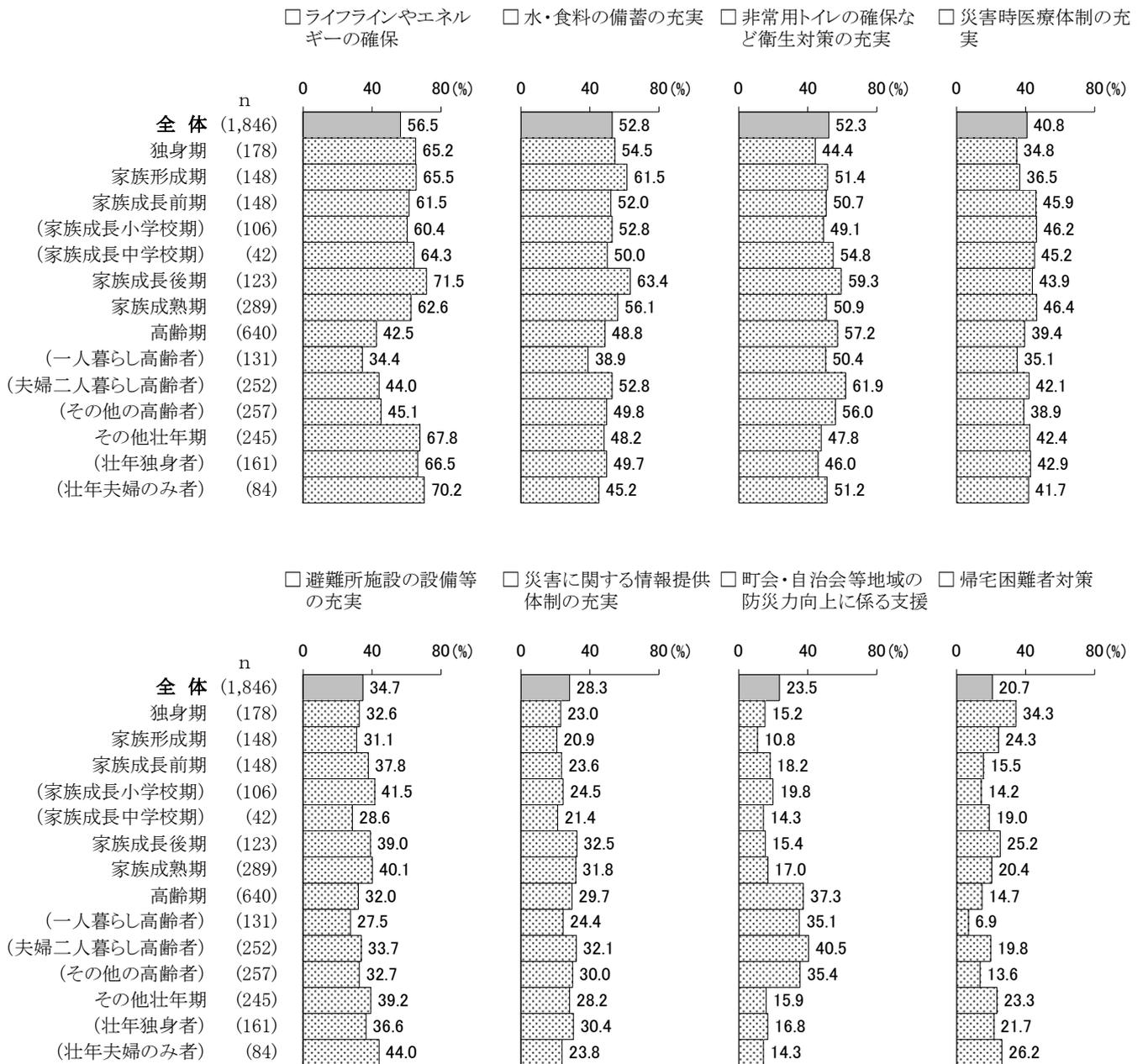
／上位8項目



ライフステージ別で見ると、「水・食料の備蓄の充実」は、家族形成期、家族成長後期で6割を超えて高くなっている。また、「ライフラインやエネルギーの確保」は、家族成長後期で71.5%と、他のステージより高くなっている。

図2-8-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



3 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区に関する情報の入手手段
 - (2) 区が発信する必要がある情報
 - (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
 - (4) 区の情報得られない理由
 - (5) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況
-

3. 区の情報発信のあり方

(1) 区に関する情報の入手手段

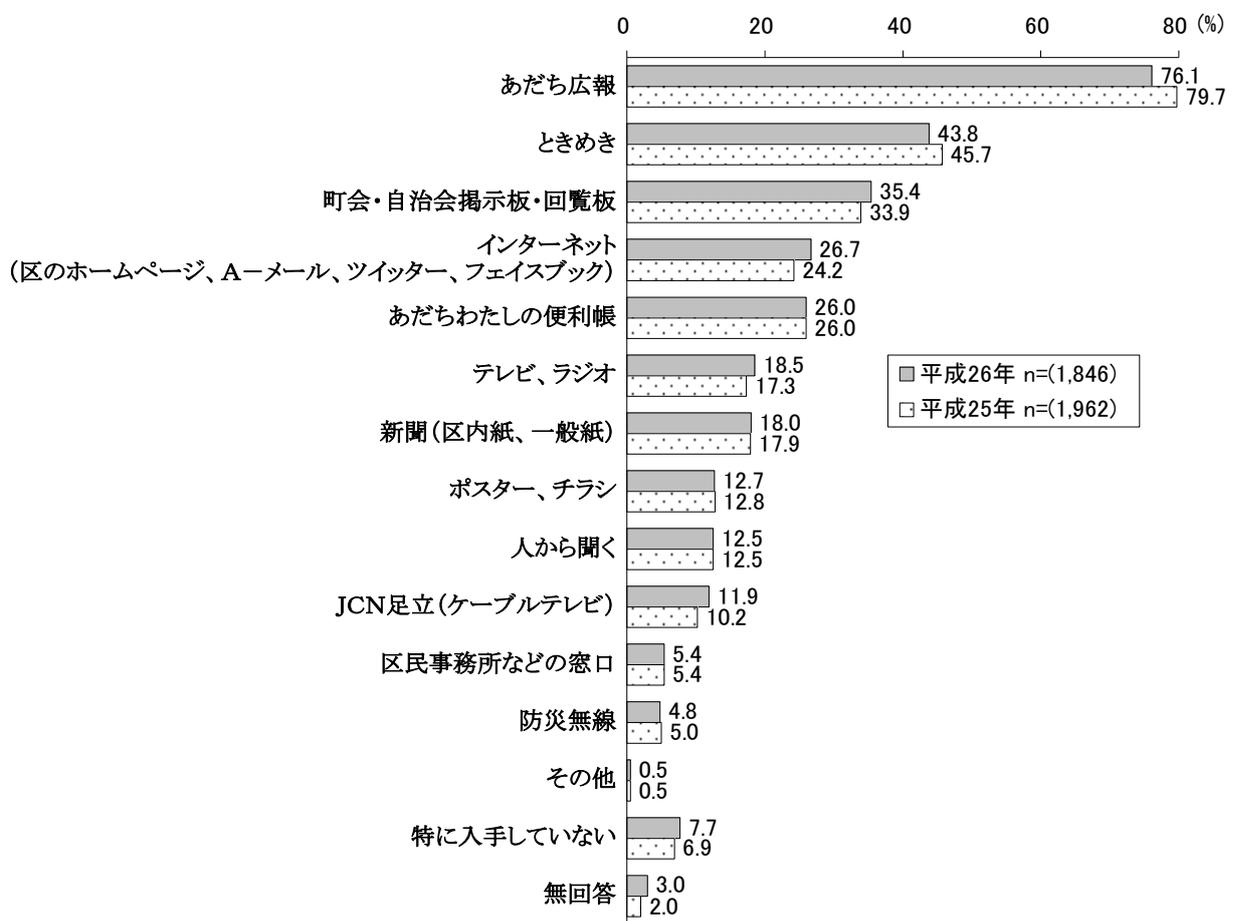
■ 「あだち広報」が7割台半ば

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム（A-メール）等で区の情報発信するほか、25年度からはツイッターやフェイスブックなどによる情報発信も開始しました。

問10 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。

(○はあてはまるものすべて)

図3-1-1 前回調査比較／区に関する情報の入手手段



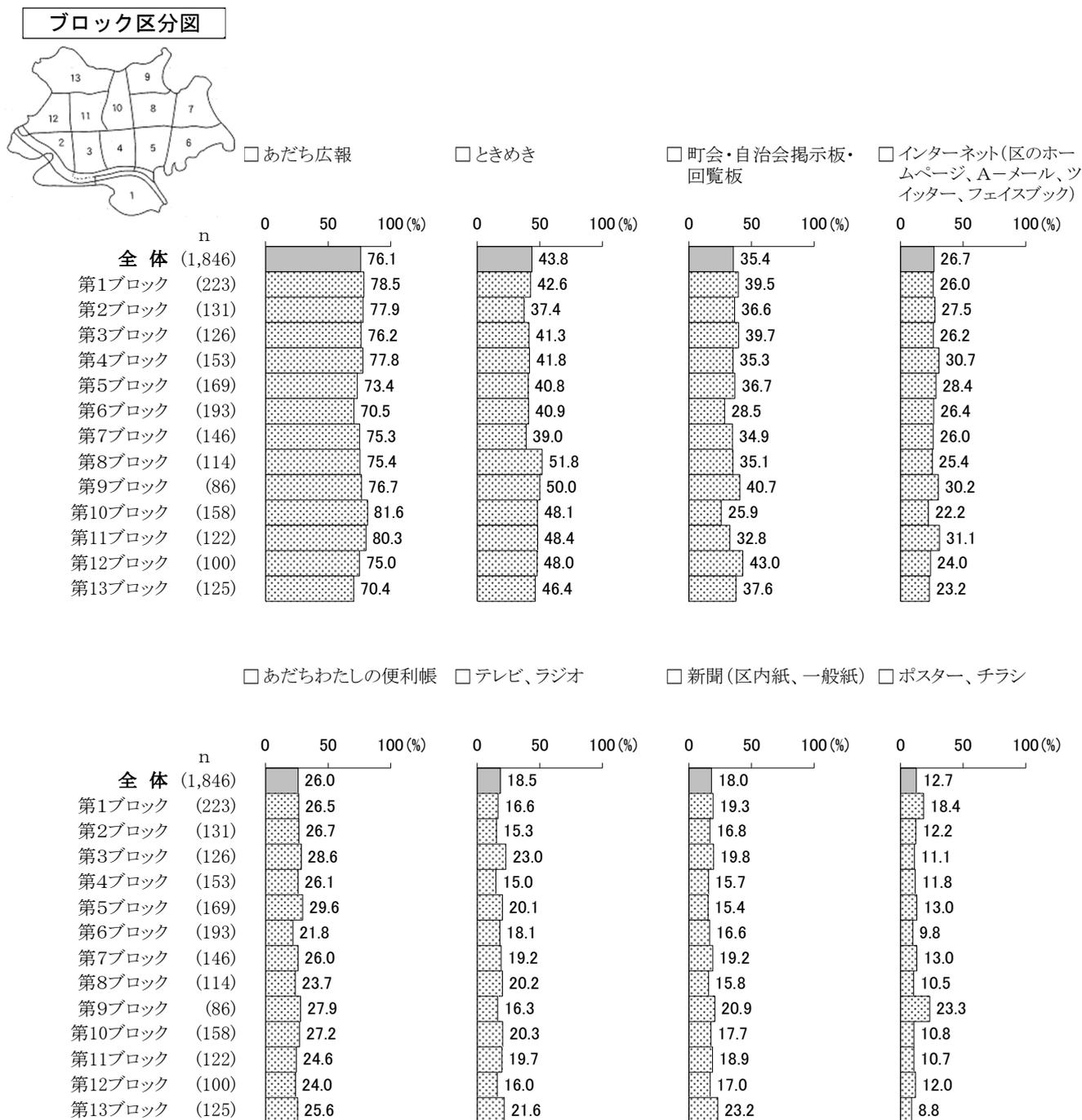
足立区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が76.1%で最も高く、以下「ときめき」(43.8%)、「町会・自治会掲示板・回覧板」(35.4%)の順となっている。

前回結果と比較すると、「あだち広報」は79.7%から76.1%と、微減している。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、すべてのブロックで「あだち広報」は高くなっている。また、「ときめき」については、第8ブロック、第9ブロック、第10ブロック、第11ブロック、第12ブロックで、いずれも5割前後を占め、他のブロックより高くなっている。

図3-1-2 地域ブロック別／区に関する情報の入手手段／上位8項目

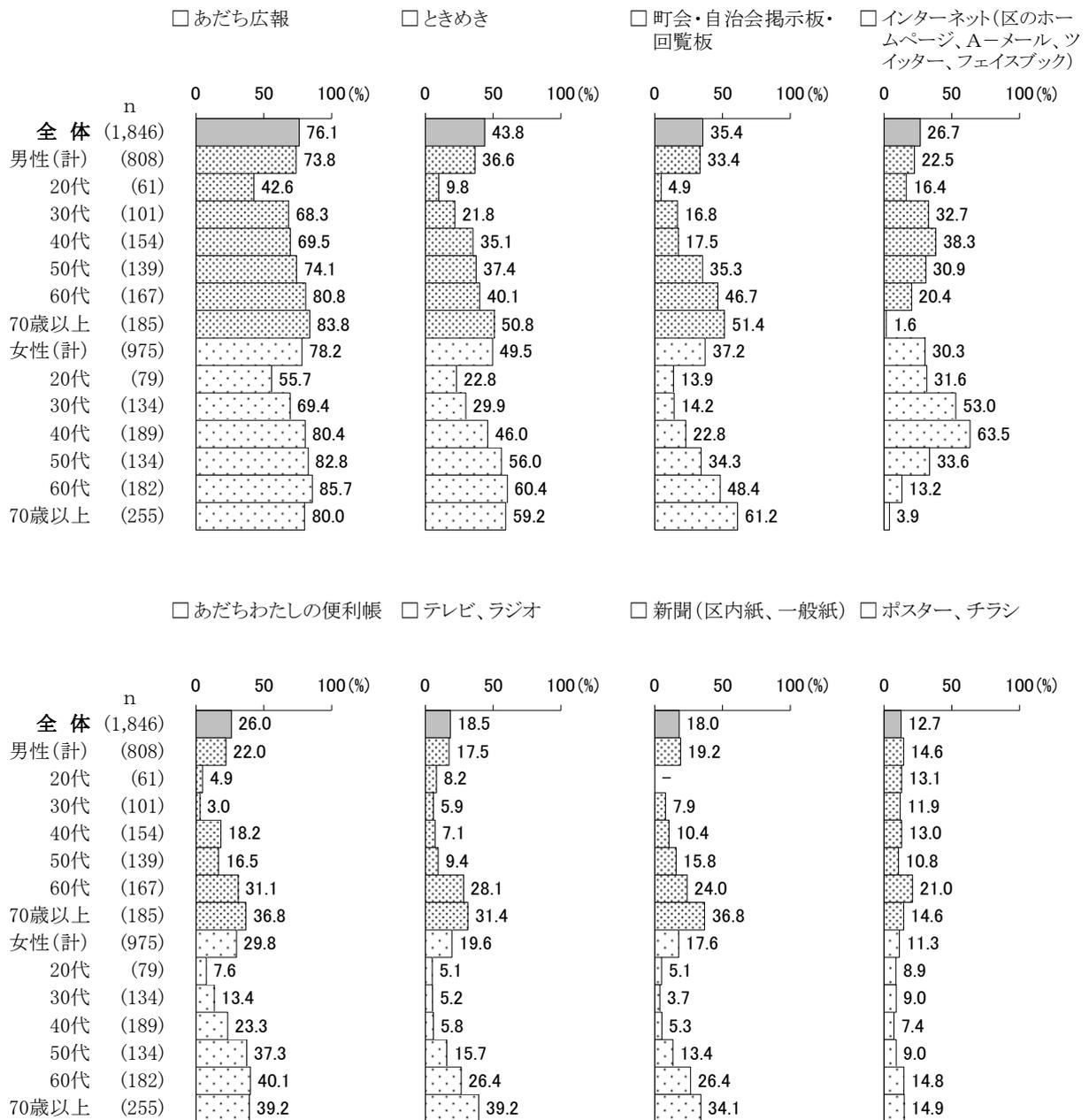


性別でみると、「あだち広報」は、男性73.8%、女性78.2%、「ときめき」は男性36.6%、女性49.5%と、上位8項目のうち、6項目で男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、30代、40代、50代では「インターネット」が、いずれも3割を超えて他の年代より高くなっている。女性では、40代で「インターネット」が63.5%を占めているほか、30代でも53.0%となっている。

「町会・自治会掲示板・回覧板」は、男女とも60代、70歳以上で5割弱から6割強と高くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別/区に関する情報の入手手段/上位8項目



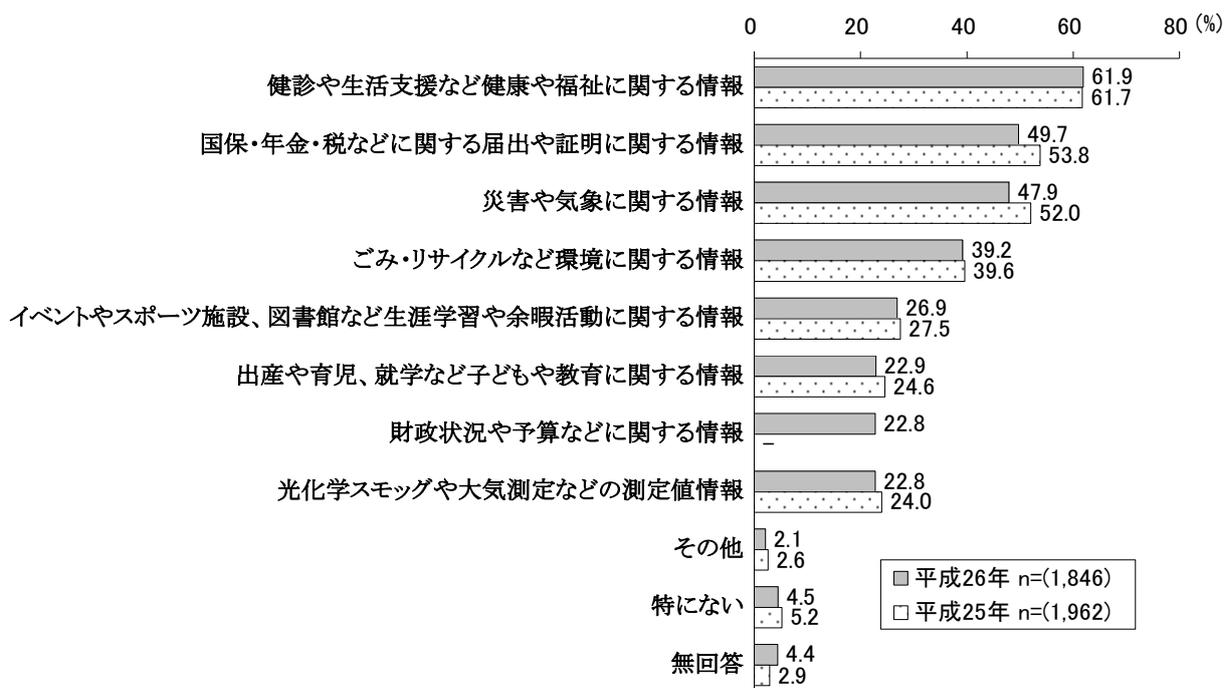
(2) 区が発信する必要がある情報

■ 「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が6割を超える

問11 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

図3-2-1 前回調査比較／区が発信する必要がある情報



※「財政状況や予算などに関する情報」は、今年度新設。

必要とする区の情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が61.9%で最も高く、以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(49.7%)、「災害や気象に関する情報」(47.9%)の順で続いている。

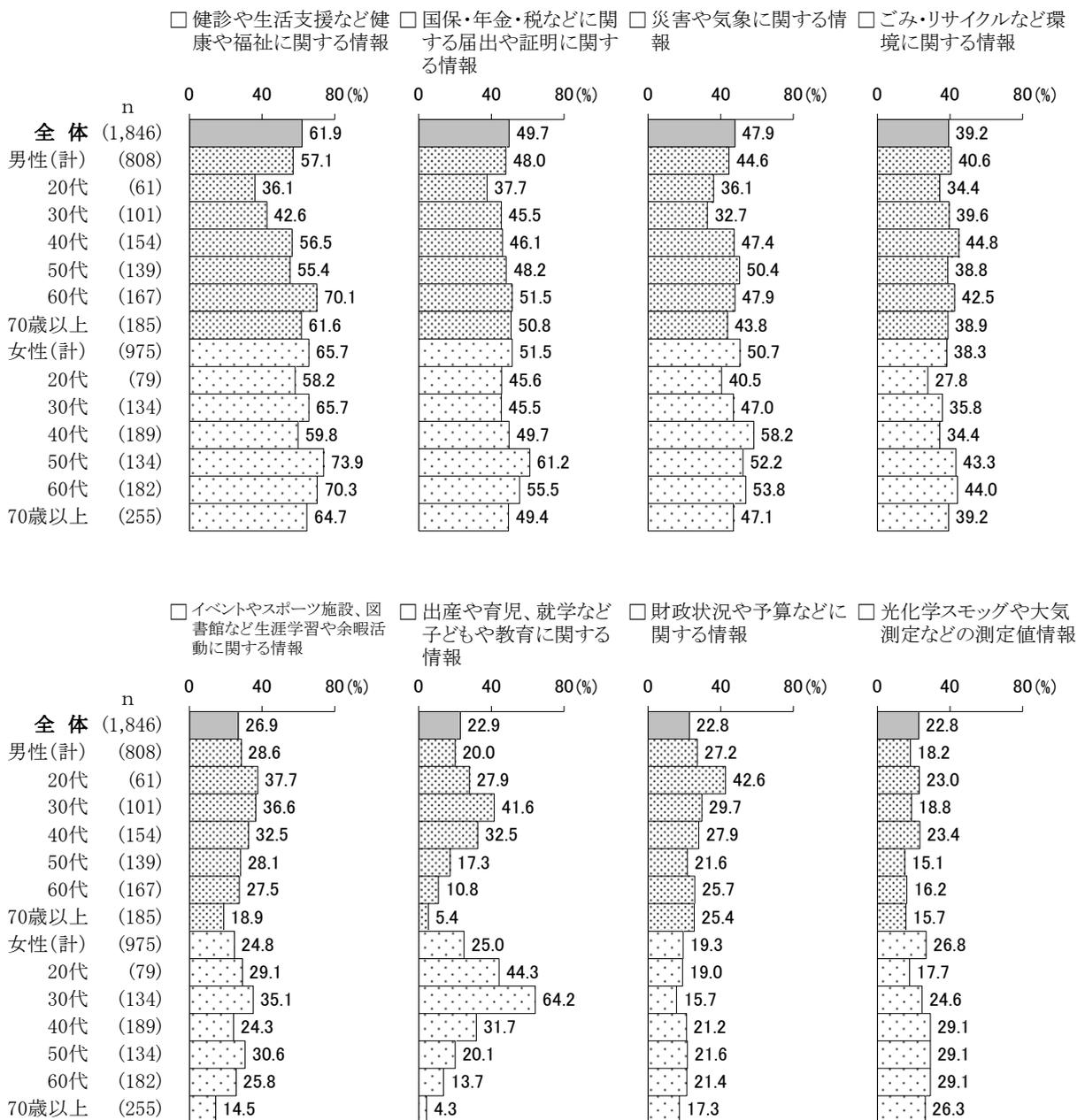
前回結果と比較すると、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」「災害や気象に関する情報」が、ともに約4ポイント低くなっているほか、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」を除く、すべての項目で微減している。

性別でみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は、男性57.1%、女性65.7%と男性より女性が8.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が、60代、70歳以上でそれぞれ70.1%、61.6%と高くなっている。また、50代以上では「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」が5割前後を占めている。

女性では、50代、60代で「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が、それぞれ73.9%、70.3%と高くなっている。また、40代、50代、60代では、「災害や気象に関する情報」がいずれも5割を超えている。

図3-2-2 性別、性・年代別／区が発信する必要がある情報

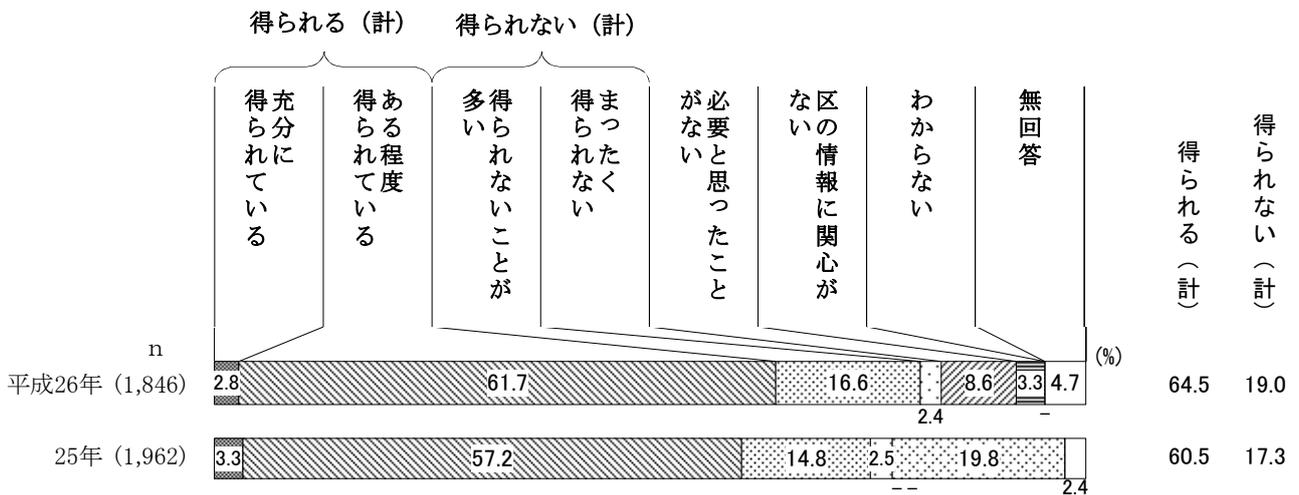


(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況

■ 必要な時に【得られる】が6割台半ば

問12 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか。(○は1つだけ)

図3-3-1 前回調査比較/必要な時に必要とする区の情報の入手状況



※「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、今年度新設。
 ※「わからない」は、今年度削除。

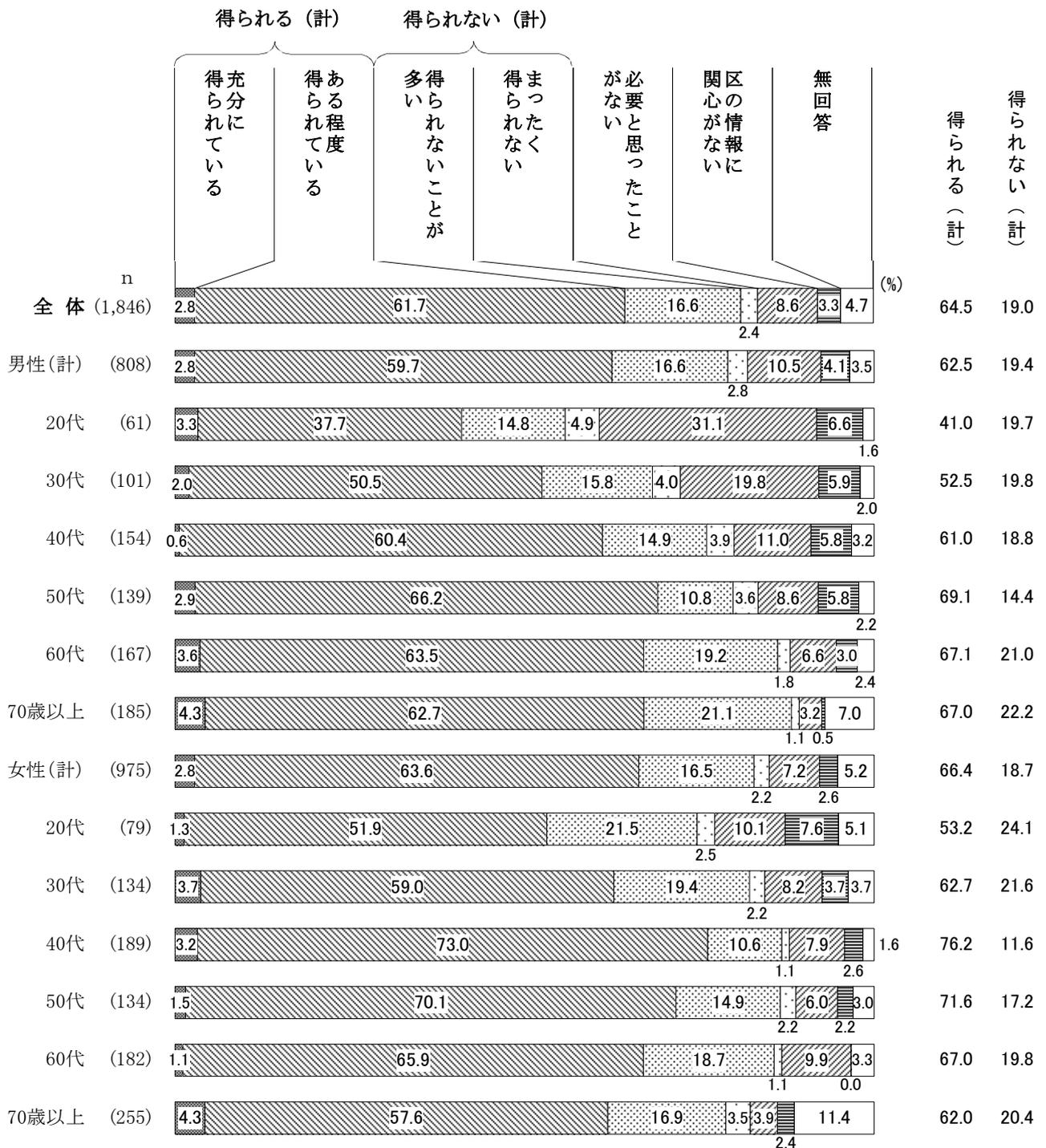
必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が2.8%で、これに「ある程度得られている」の61.7%を合わせた【得られる】は64.5%となっている。一方、【得られない】は19.0%となっている。

前回結果と比較すると、【得られる】は60.5%から64.5%と高くなっている。

性別でみると、【得られる】は男性62.5%、女性66.4%となっている。

性・年代別でみると、男性では50代、60代、70歳以上で【得られる】が、いずれも7割近くを占めて高くなっている。女性では40代、50代で【得られる】が、それぞれ76.2%、71.6%と高くなっている。

図3-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況

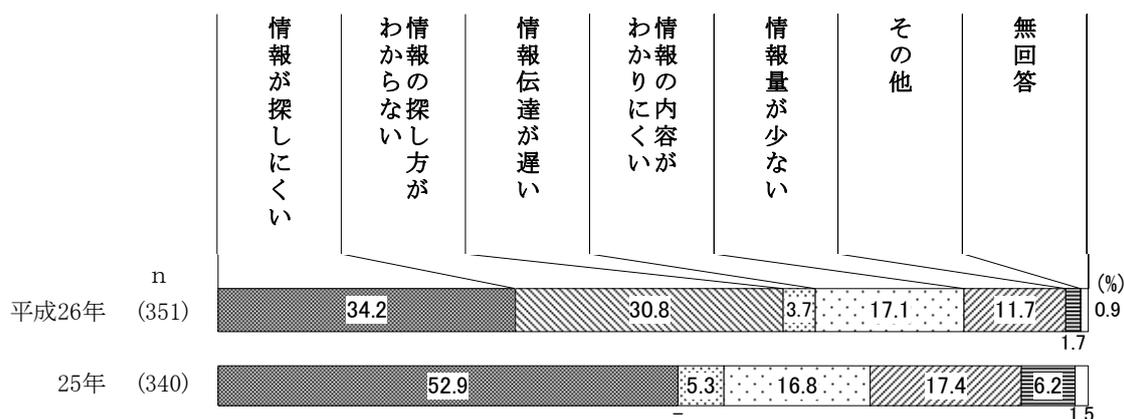


(4) 区の情報得られない理由

■ “探しにくい” “探し方がわからない” が、ともに3割を超える

問12で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問12-1 どのような理由からですか。(〇は1つだけ)

図3-4-1 前回調査比較/区の情報得られない理由

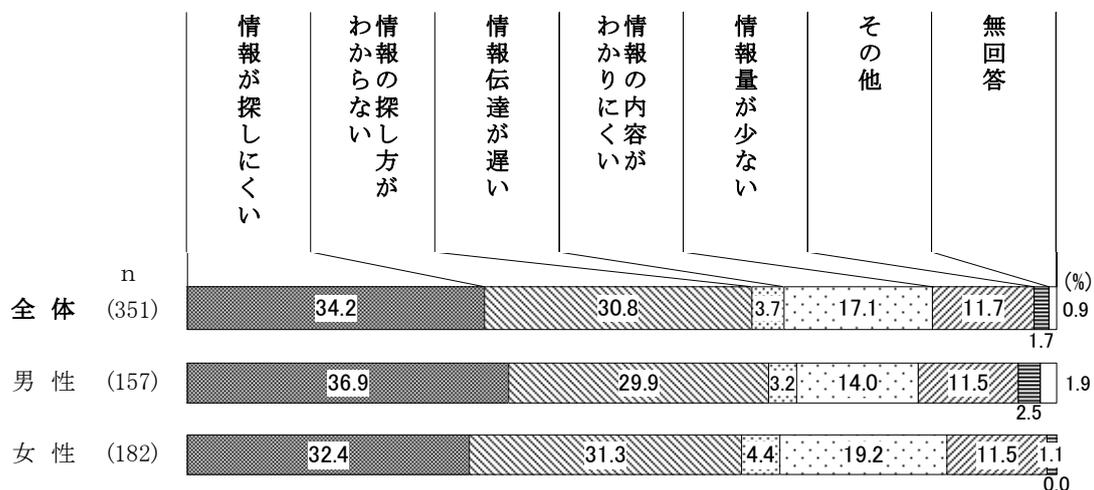


※「情報の探し方がわからない」は、今年度新設。

【得られない】という人に、その理由を聞いたところ、「情報が探しにくい」が34.2%で最も高く、次いで「情報の探し方がわからない」(30.8%)となっている。

性別でみると、「情報が探しにくい」が男性36.9%、女性32.4%と女性より男性で高くなっている。

図3-4-2 性別/区の情報得られない理由

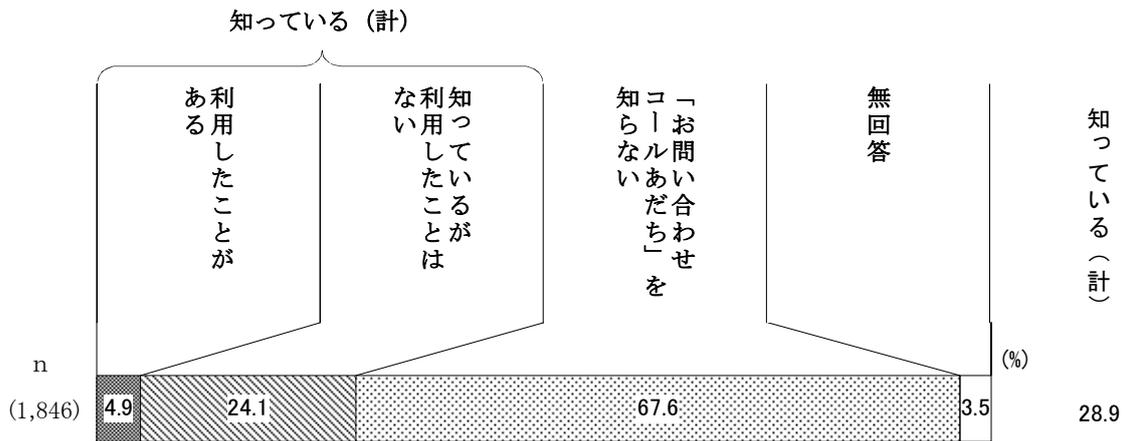


(5) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況

■ 【知っている】は3割弱

問13 あなたは、「お問い合わせコールあだち」を利用したことがありますか。
 (○は1つだけ)

図3-5-1 「お問い合わせコールあだち」の利用状況



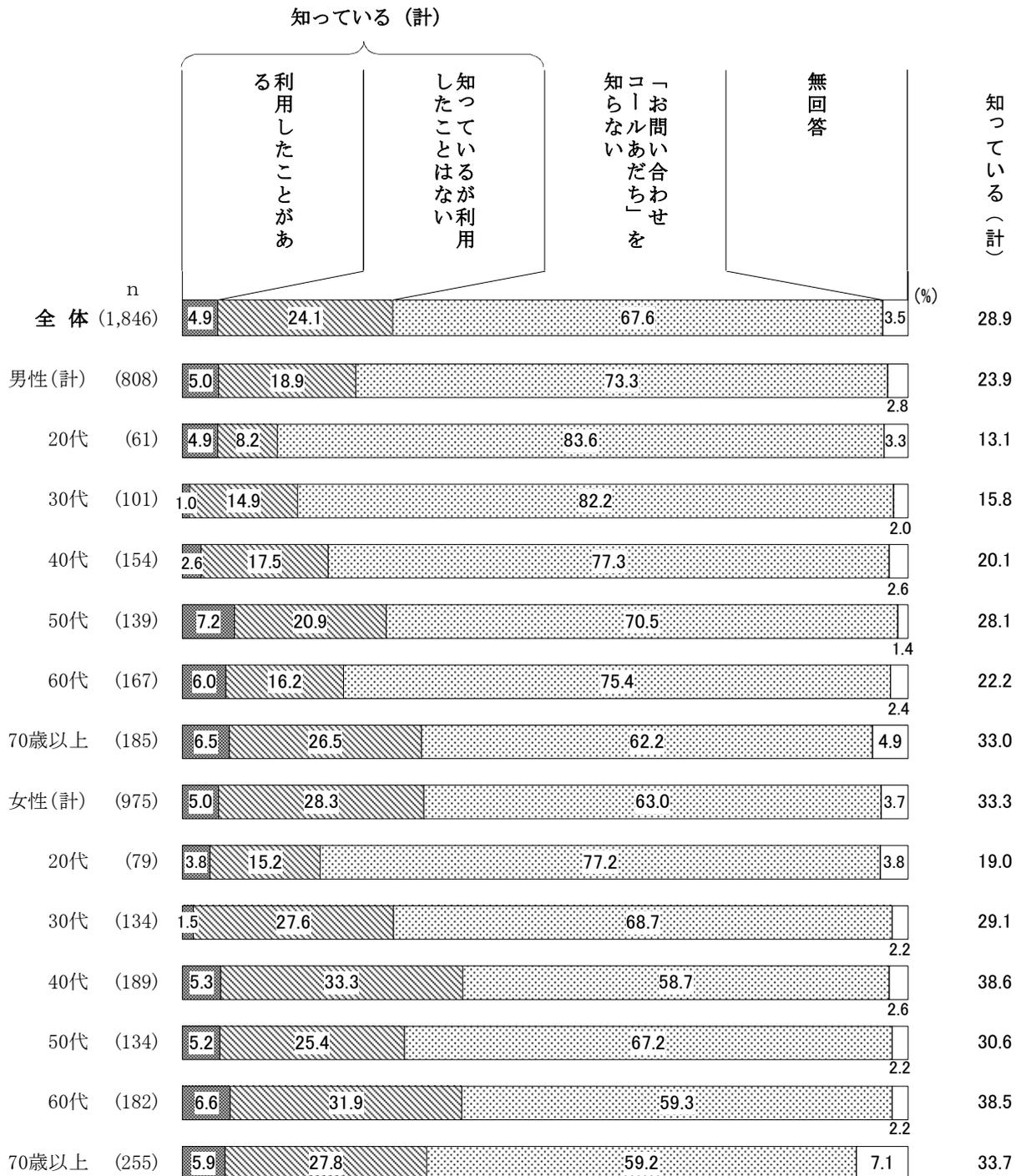
「お問い合わせコールあだち」について、「利用したことがある」が4.9%で、これに「知っているが、利用したことはない」(24.1%)を合わせた【知っている】は28.9%である。一方、『お問い合わせコールあだち』を知らない」は67.6%となっている。

第3章 調査結果の分析

性別でみると、【知っている】は男性23.9%、女性33.3%と女性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、50代、70歳以上で【知っている】が3割前後を占め、他の年代より高くなっている。女性では、40代、60代で【知っている】が4割近くと高くなっている。

図3-5-2 性別、性・年代別／「お問い合わせコールあだち」の利用状況



4 健康

-
- (1) 糖尿病の認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
-

4. 健康

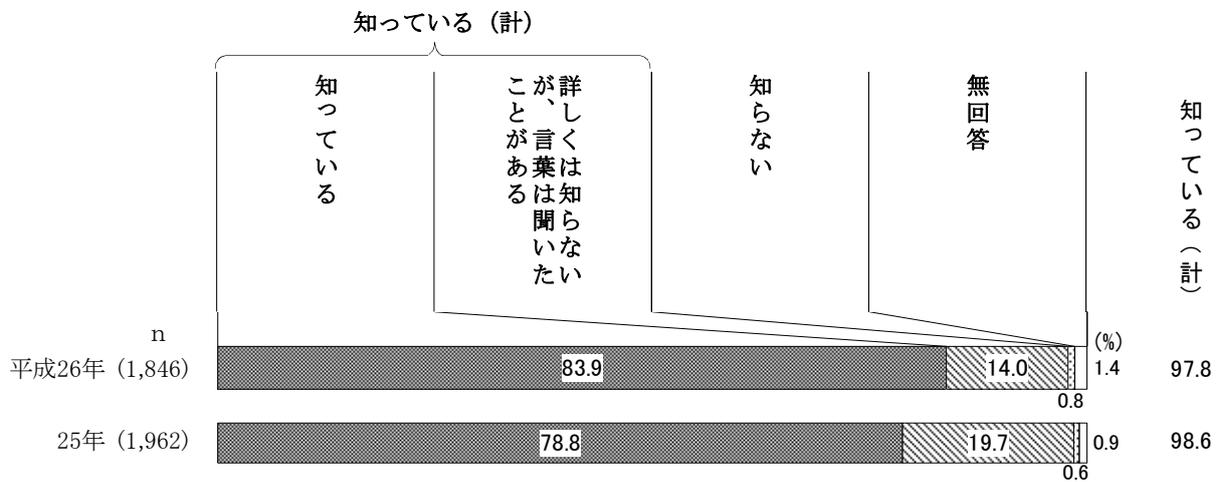
(1) 糖尿病の認知状況

■ ほぼ全員の方が糖尿病を認知している

問14 あなたは、糖尿病という病気を知っていますか。(○は1つだけ)

※ 糖尿病とは血液中のブドウ糖の濃度（血糖値）が高くなり、その状態が続いてしまう病気です。インスリンという血糖値を調節するホルモンの量が不足したり、働きが悪くなったりすることが原因です。日本人の糖尿病の大部分は、過食・肥満・運動不足・ストレスといった生活習慣や遺伝が要因となっているため、予防が大切です。

図4-1-1 前回調査比較／糖尿病の認知状況



糖尿病を「知っている」が83.9%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」の14.0%を合わせた【知っている】は97.8%となっている。

前回結果と比較すると、【知っている】としては、ほぼ横這いだが、「知っている」は78.8%から83.9%と高くなっている。

第3章 調査結果の分析

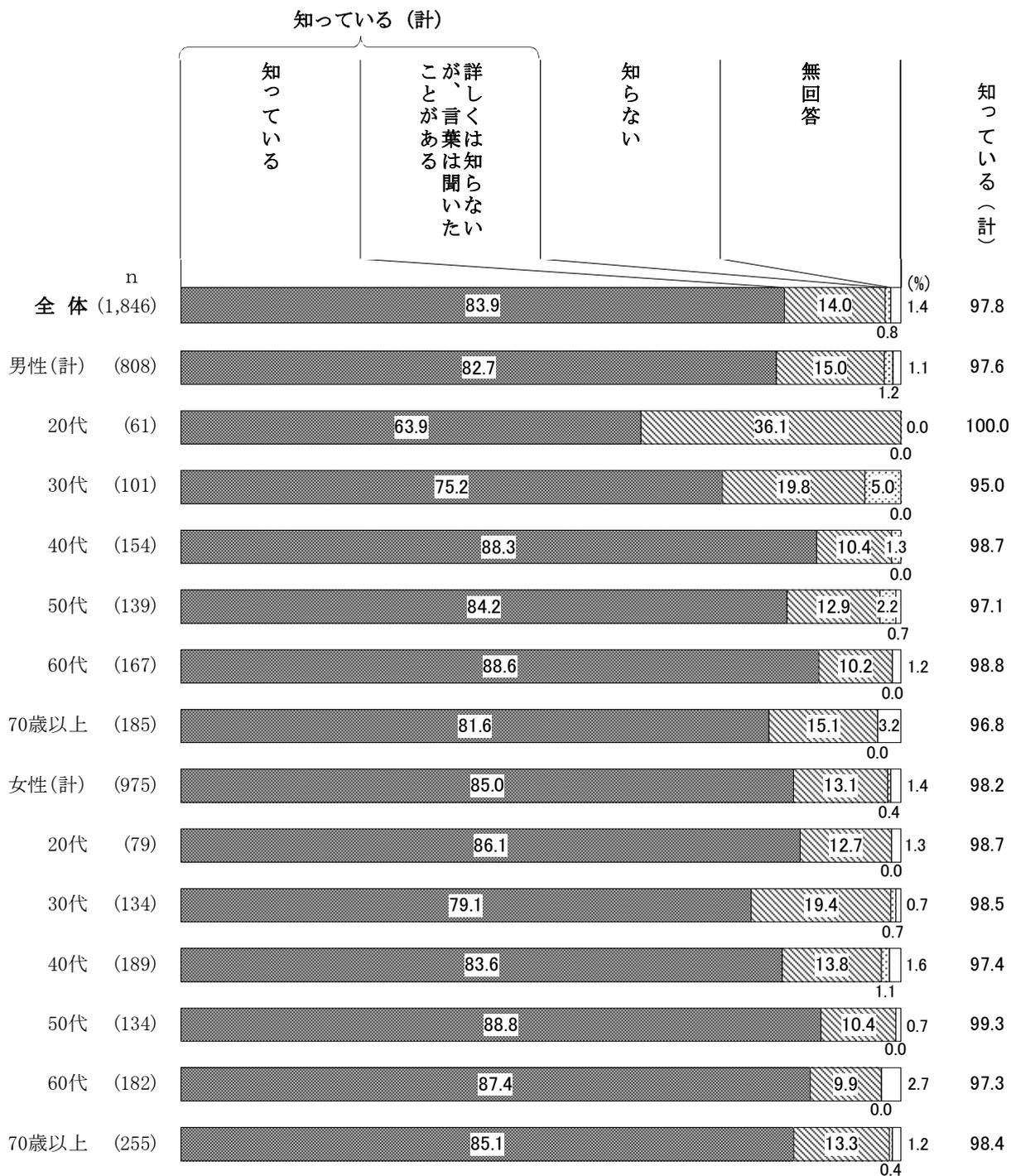
性別でみると、【知っている】は男性97.6%、女性98.2%となっている。

性・年代別でみると、男性では、20代、30代を除くと、いずれの年代でも「知っている」が8割を超えている。

女性では、30代を除くといずれの年代でも「知っている」が8割を超えている。

また、男女とも【知っている】は、すべての年代で極めて高くなっている。

図4-1-2 性別、性・年代別／糖尿病の認知状況

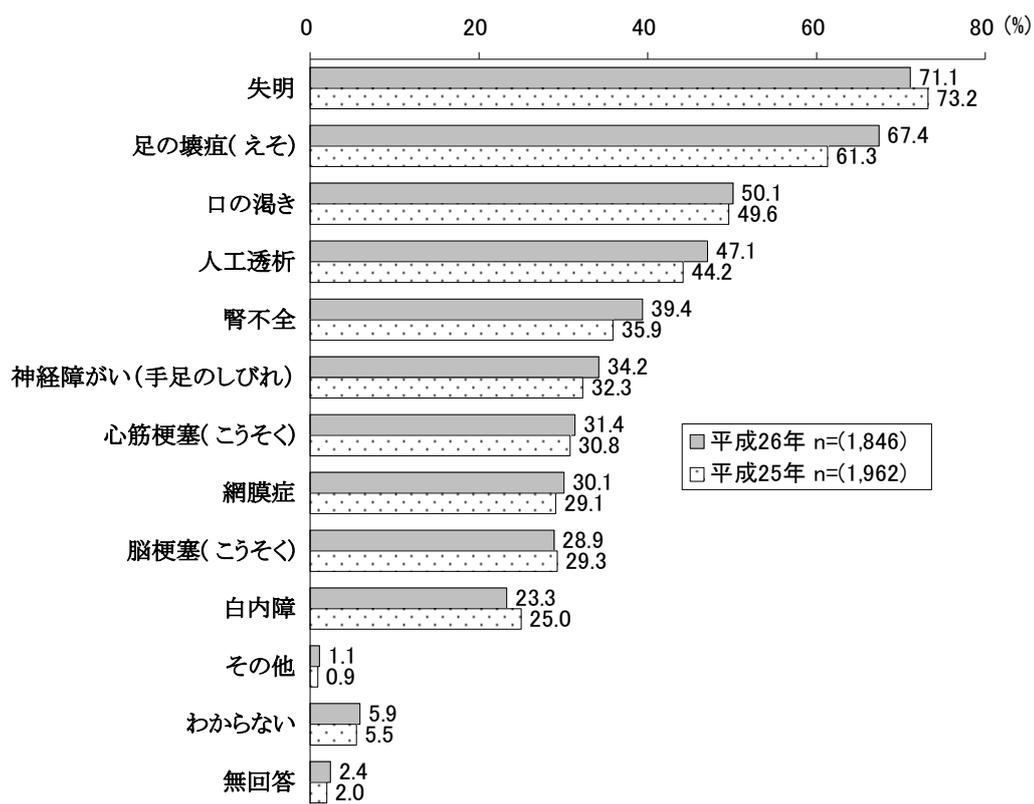


(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

■ 「失明」が7割、「足の壊疽」が6割台半ばを超えている

問15 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

図4-2-1 前回調査比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識



糖尿病が進行すると現れると思う病気や障がいとしては、「失明」が71.1%で最も高く、以下「足の壊疽(えそ)」(67.4%)、「口の渇き」(50.1%)、「人工透析」(47.1%)の順となっている。

前回結果と比較すると、「足の壊疽(えそ)」が61.3%から67.4%と高くなっている。

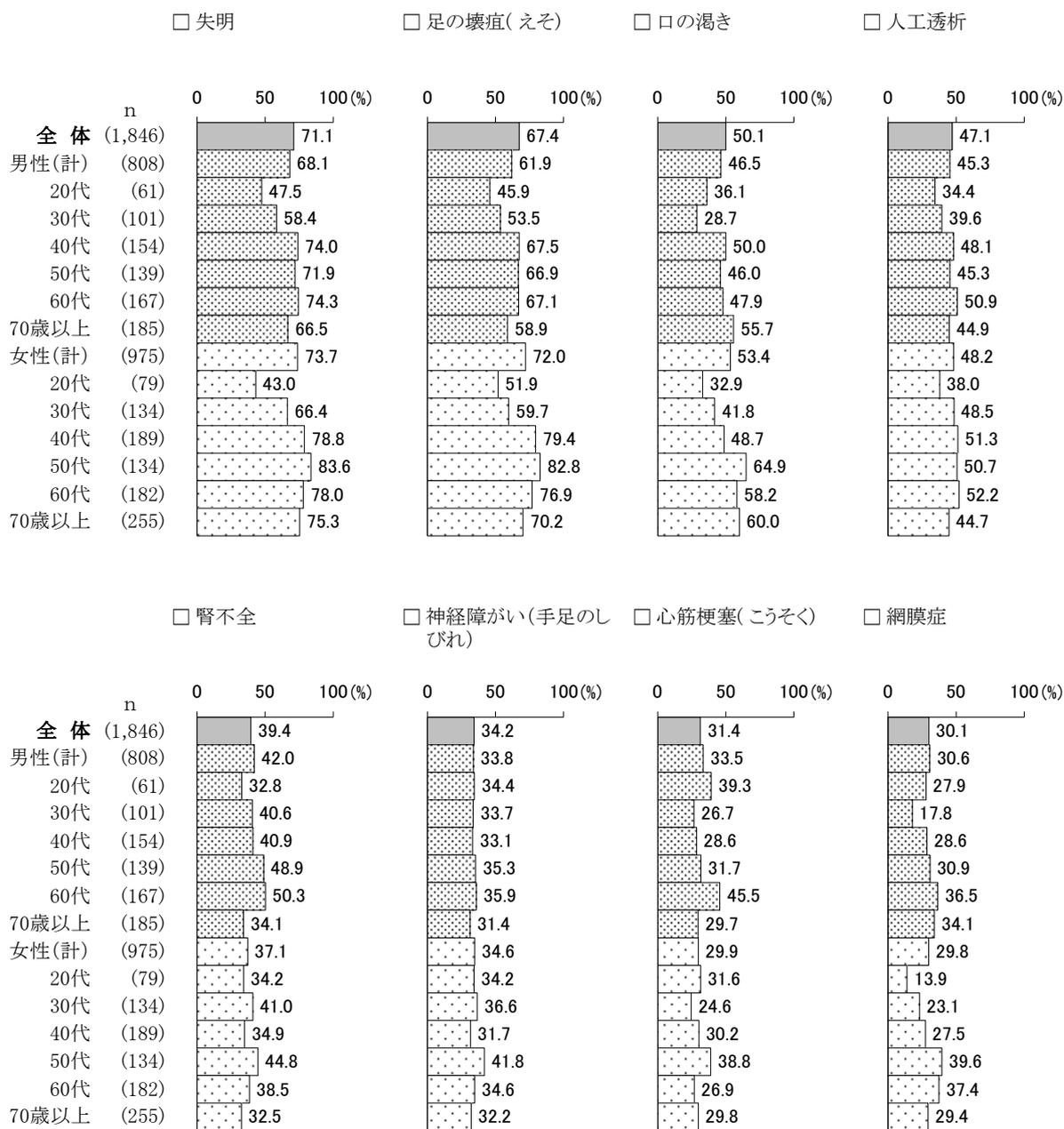
第3章 調査結果の分析

性別でみると、「足の壊疽（えそ）」は男性61.9%、女性72.0%、「口の渇き」は男性46.5%、女性53.4%と、上位8項目のうち5項目で男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「失明」が40代、50代、60代で、いずれも7割を超え高くなっている。また、「足の壊疽（えそ）」についても、これらの年代では7割近くを占めている。

女性では、「失明」が40代、50代、60代で、8割前後と他の年代より高くなっている。「足の壊疽（えそ）」は、40代、50代で8割前後を占め高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



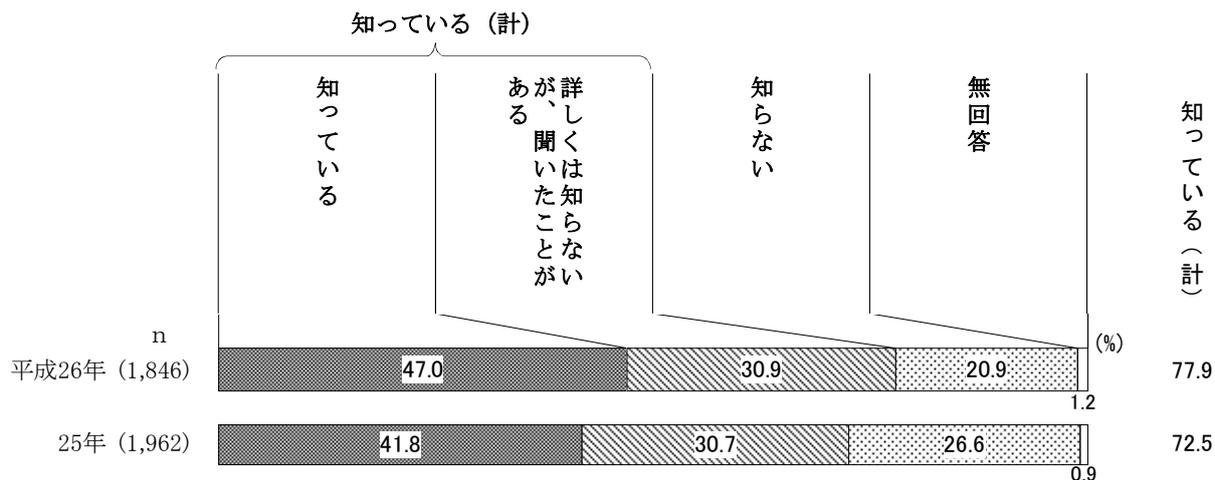
(3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知

■ 【知っている】は8割に迫る

問16 あなたは、食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

図4-3-1 前回調査比較

食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知



食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを「知っている」は47.0%で、これに「詳しくは知らないが、聞いたことがある」の30.9%を合わせた【知っている】は77.9%となっている。一方、「知らない」は20.9%である。

前回結果と比較すると、【知っている】は前回の72.5%から今回77.9%へと5.4ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析

性別で見ると、【知っている】は、男性75.9%、女性79.8%と男性より女性が高くなっている。

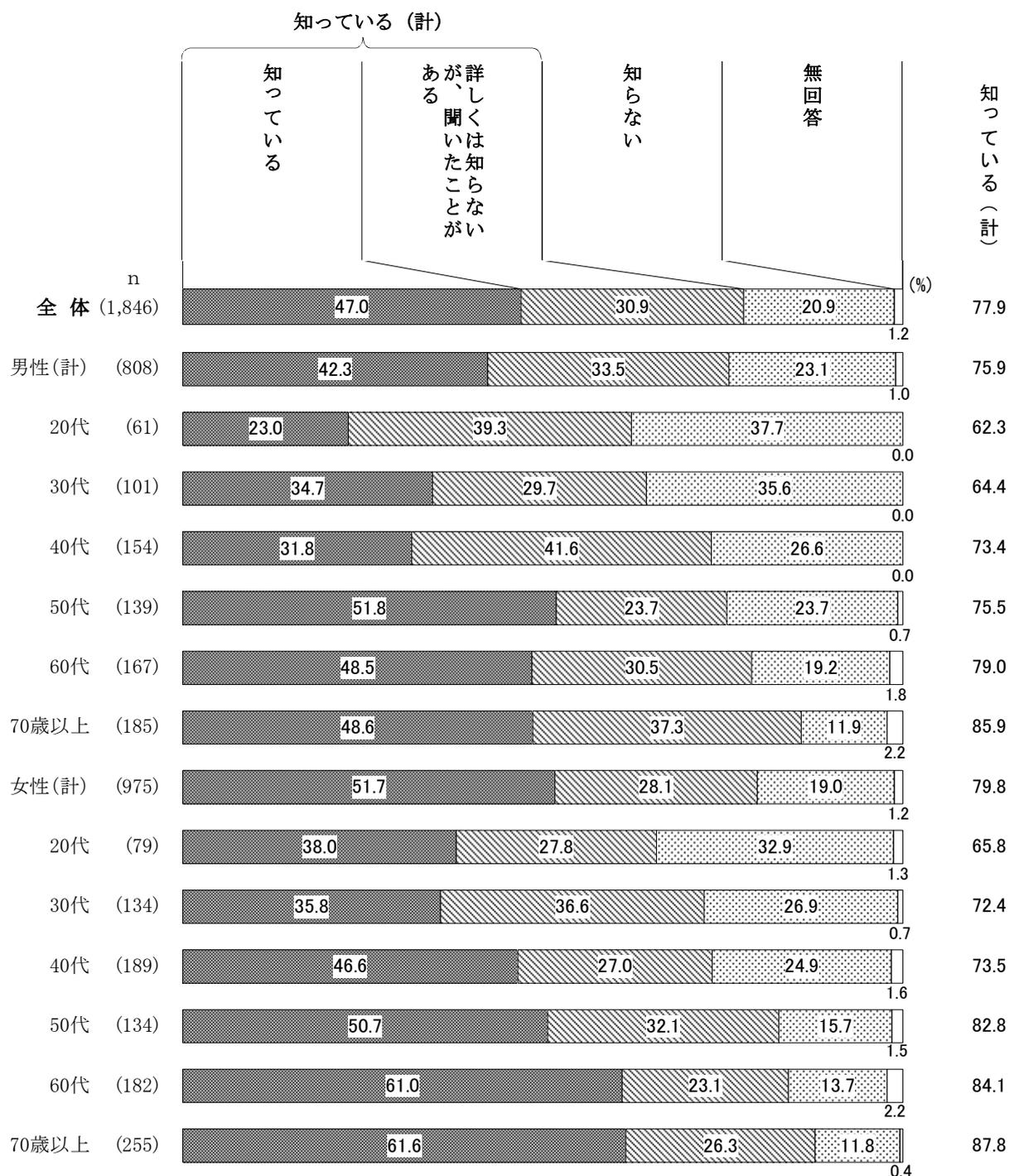
性・年代別で見ると、男性では、20代で【知っている】は62.3%であるが、加齢とともに増加し、70歳以上では85.9%と最も高くなっている。

女性では、20代で【知っている】は65.8%であるが、加齢とともに増加傾向で、50代以上では、いずれの年代でも8割を超えている。

「知らない」は、男性の20代、30代、女性の20代で3割を超えている。

図4-3-2 性別、性・年代別

／食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知



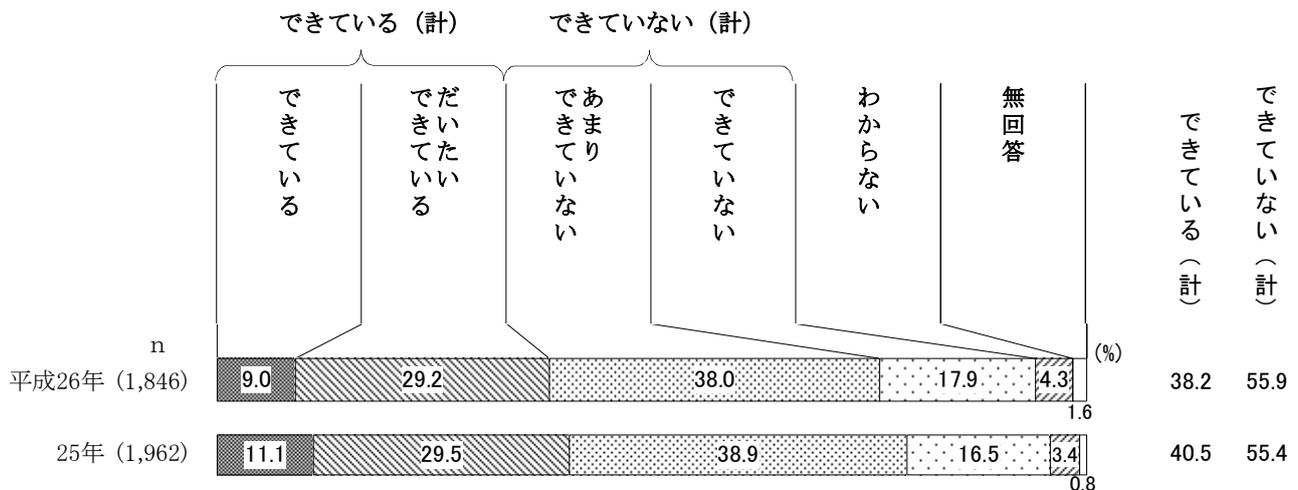
(4) 1日野菜350g以上の摂取

■ 【できていない】人が半数を超えるも、【できている】という人も4割弱

問17 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか。（○は1つだけ）

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図4-4-1 前回調査比較／1日野菜350g以上の摂取



※ 「だいたいできている」は、25年度では「まあできている」。

毎日350g以上の野菜を摂取しているかについては「できている」が9.0%で、これに「だいたいできている」の29.2%を合わせた【できている】は38.2%となっている。一方、「あまりできていない」(38.0%)と「できていない」(17.9%)を合わせた【できていない】は55.9%となっている。

前回結果と比較すると、大きな差はみられない。

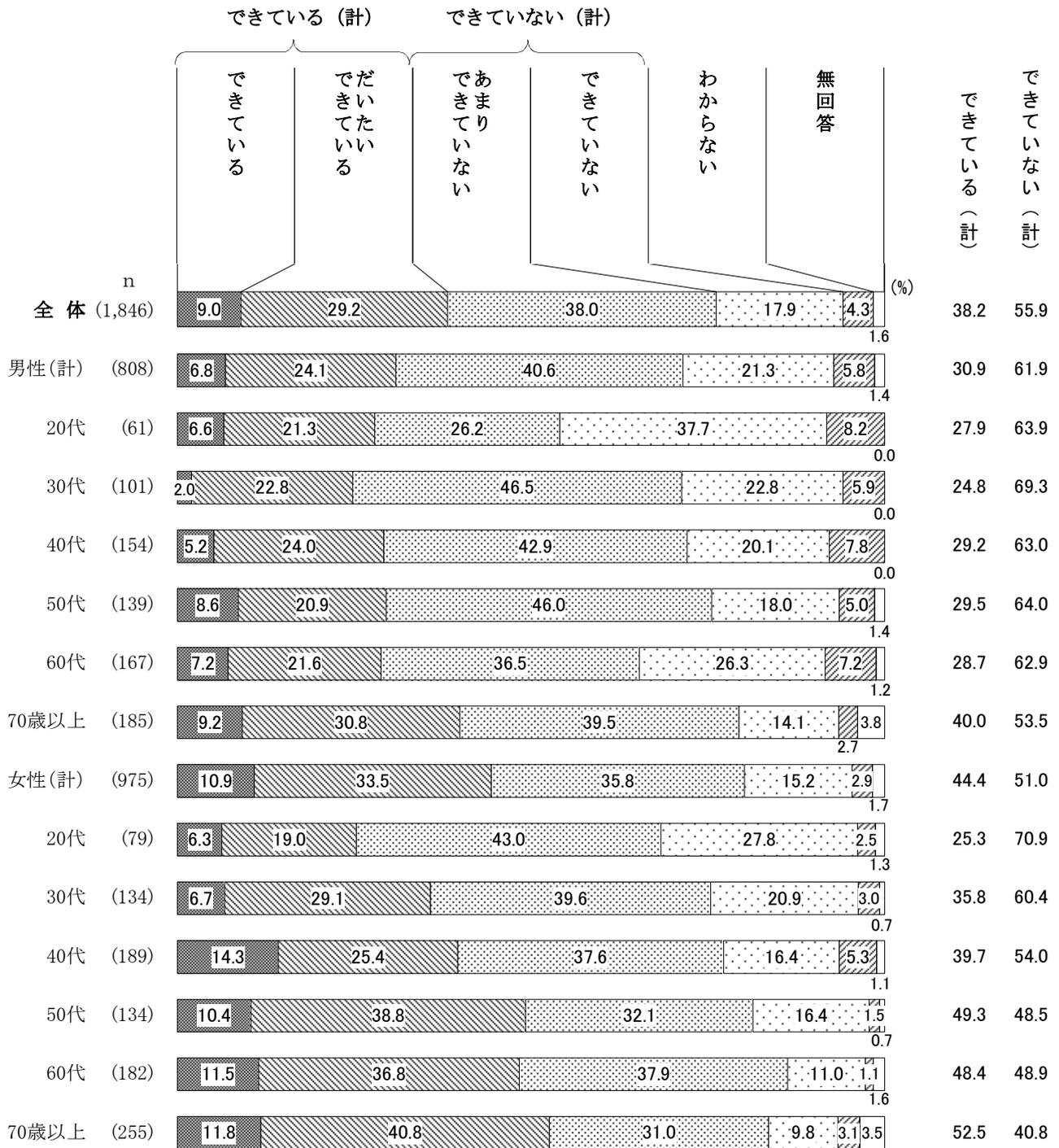
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【できている】は、男性30.9%、女性44.4%と、男性より女性が高くなっている。
 性・年代別でみると、男性では、20代、40代、50代、60代で【できている】が3割弱であるが、
 70歳以上では40.0%となっている。

女性では50代、60代、70歳以上で【できている】が5割前後を占めている。

【できていない】は、女性20代で70.9%と高くなっている。

図4-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



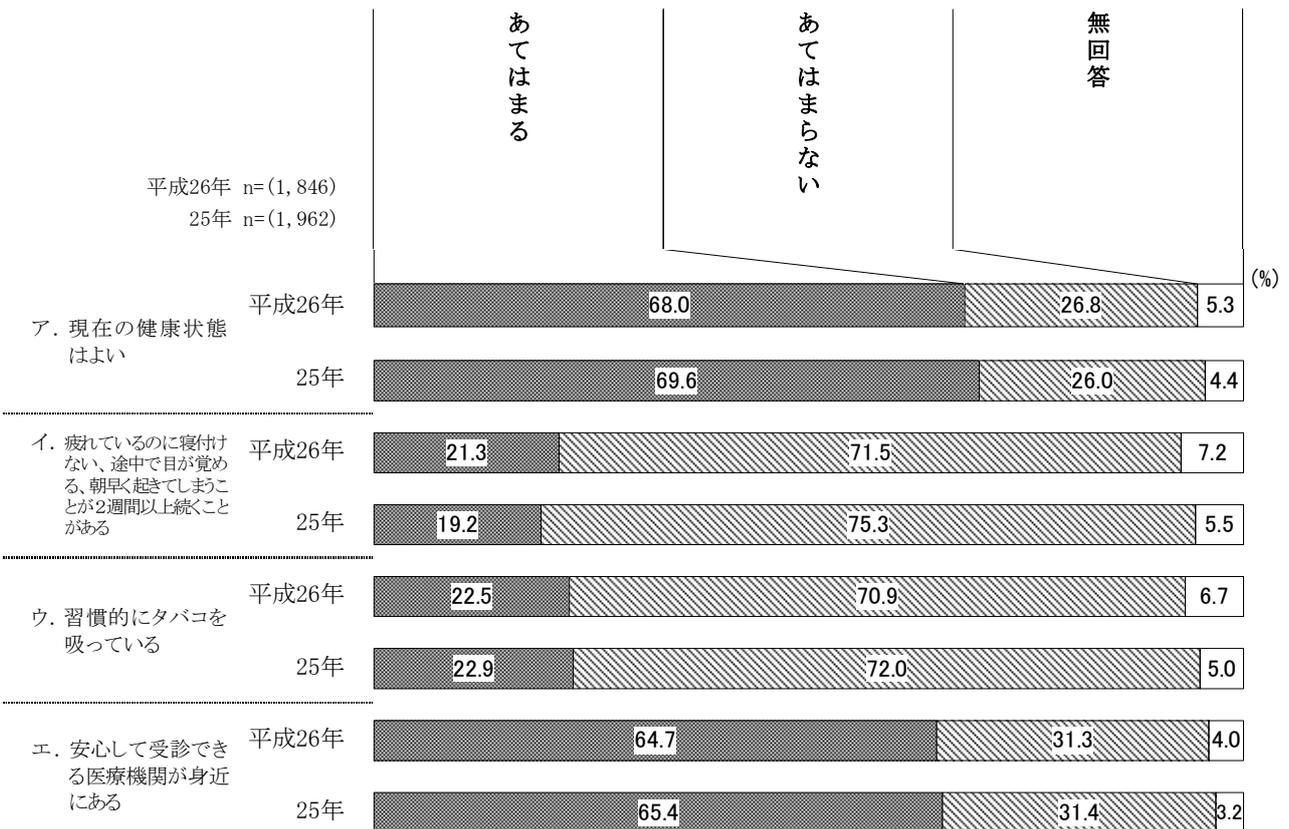
(5) 体調や習慣

■ 〈現在の健康状態はよい〉という人は7割弱

問18 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

図4-5-1 前回調査比較／体調や習慣



体調や習慣について、「あてはまる」の高い順にみると、〈現在の健康状態はよい〉(68.0%)と〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉(64.7%)が、いずれも6割を超えている。

一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」が、それぞれ21.3%、22.5%と2割前後となっている。

前回結果と比較すると、大きな差はみられない。

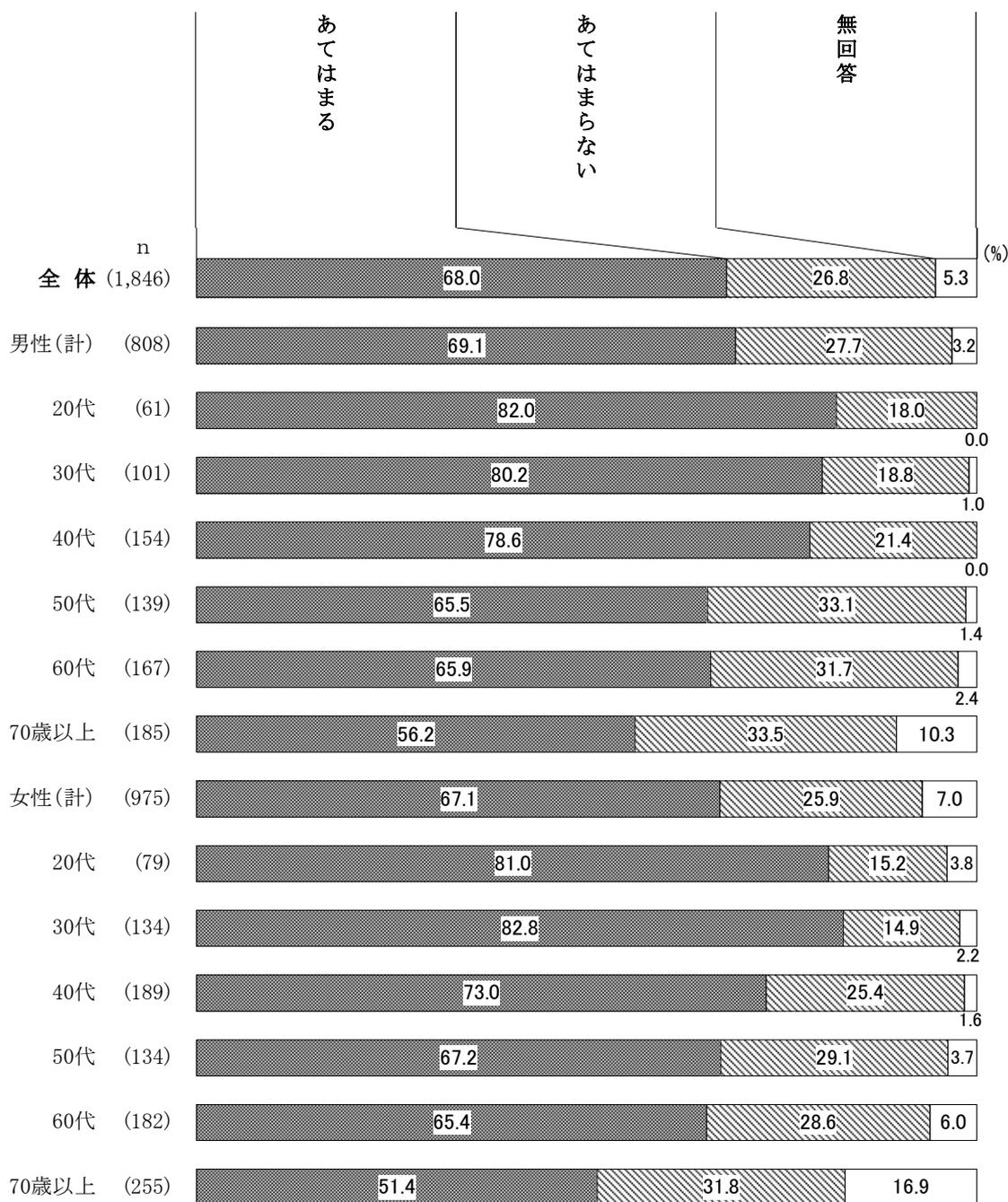
第3章 調査結果の分析

〈現在の健康状態はよい〉については、性別で見ると、「あてはまる」は男性69.1%、女性67.1%となっている。

性・年代別で見ると、男性20代では「あてはまる」が82.0%であるが、加齢とともに減少傾向で、70歳以上では56.2%となっている。

女性では、20代、30代で「あてはまる」が8割を超えているが、加齢とともに低下し70歳以上では51.4%となっている。

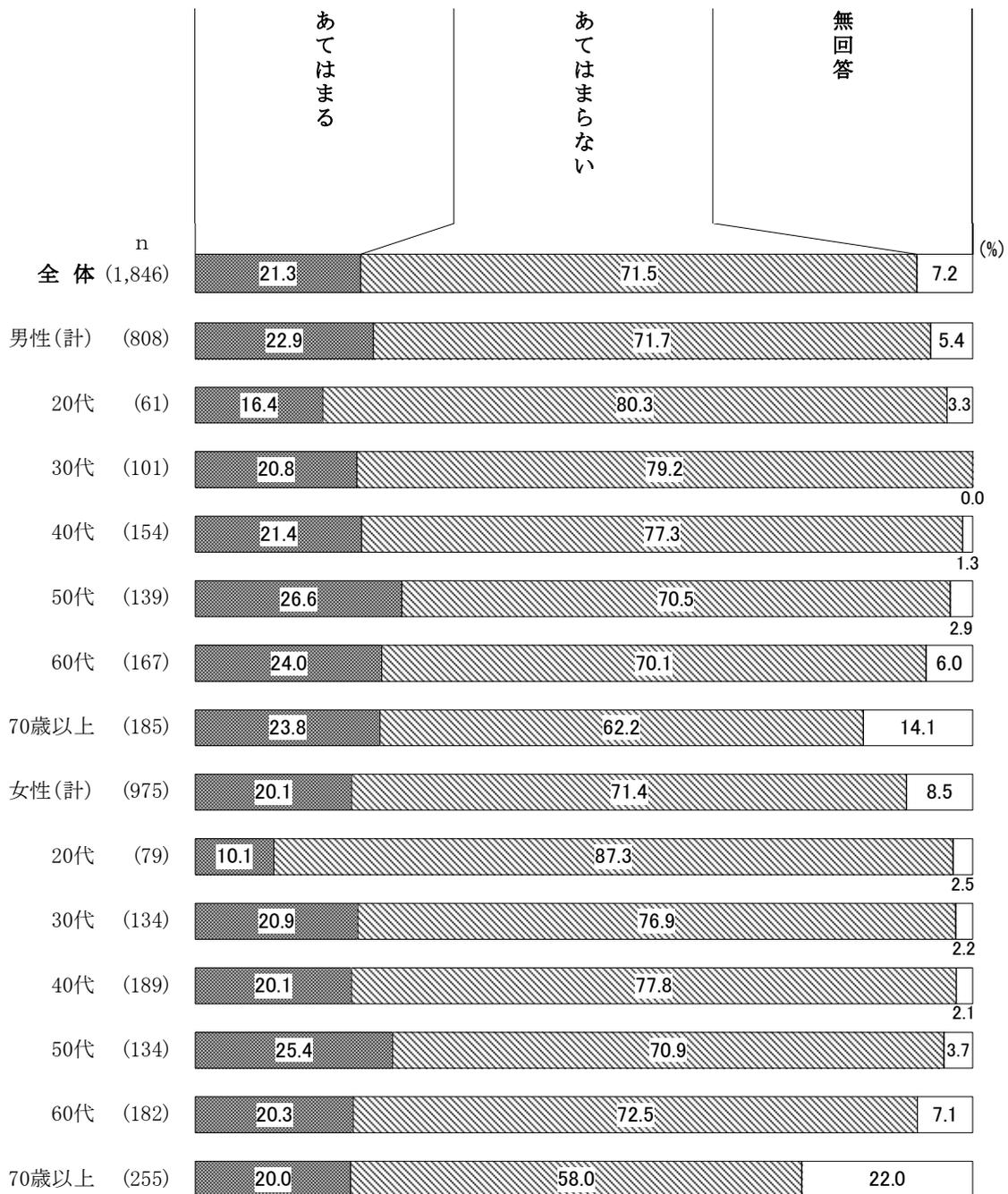
図4-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣／現在の健康状態はよい



〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性22.9%、女性20.1%となっている。性・年代別で見ると、男女とも20代を除くと「あてはまる」が2割を超えている。

図4-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣

／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある

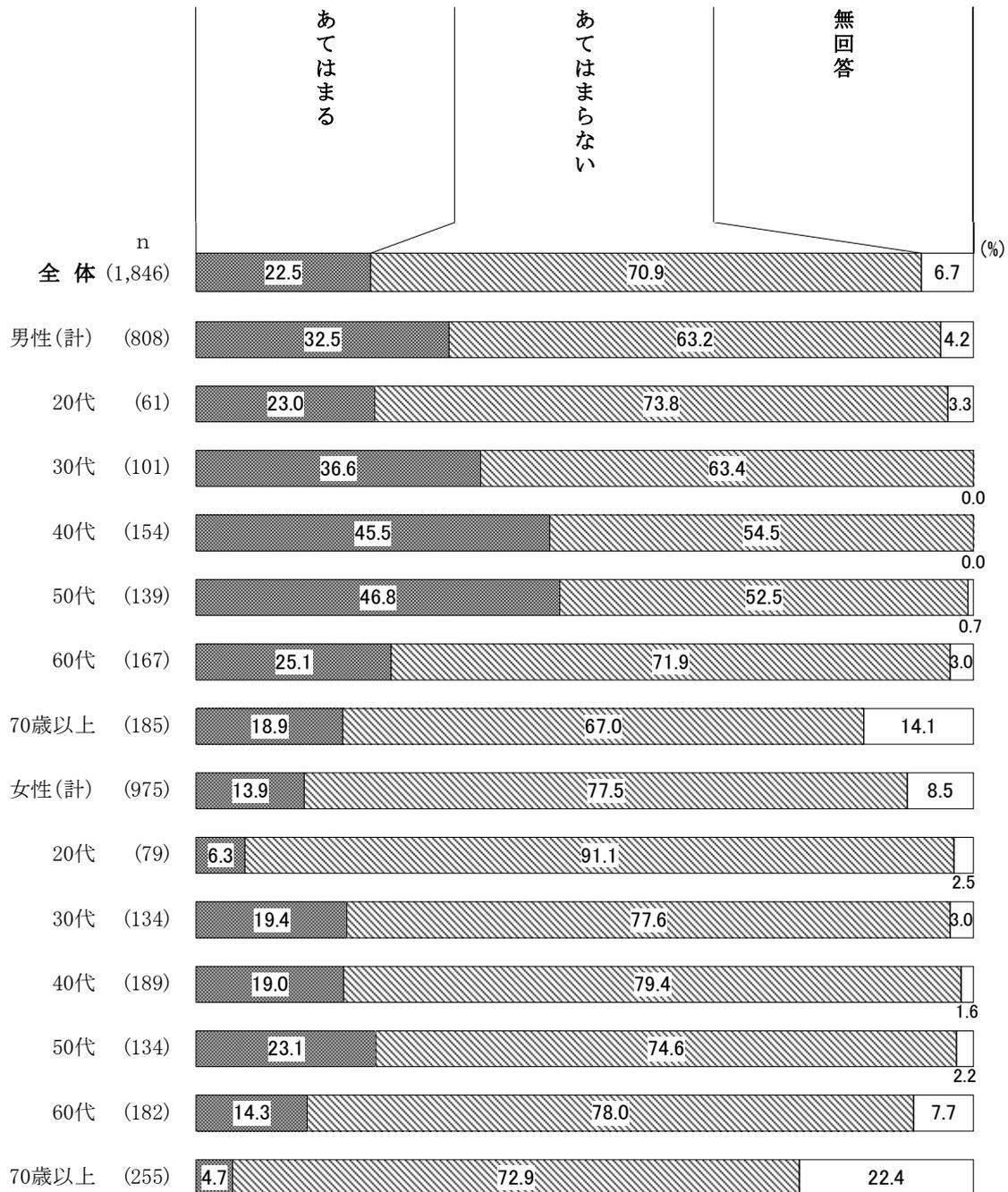


第3章 調査結果の分析

〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性32.5%、女性13.9%と男性が18.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では、20代から50代にかけて「あてはまる」が増加し、50代では46.8%となっているが、60代以降は低下している。女性では、50代で「あてはまる」が23.1%と他の年代よりやや高くなっている。

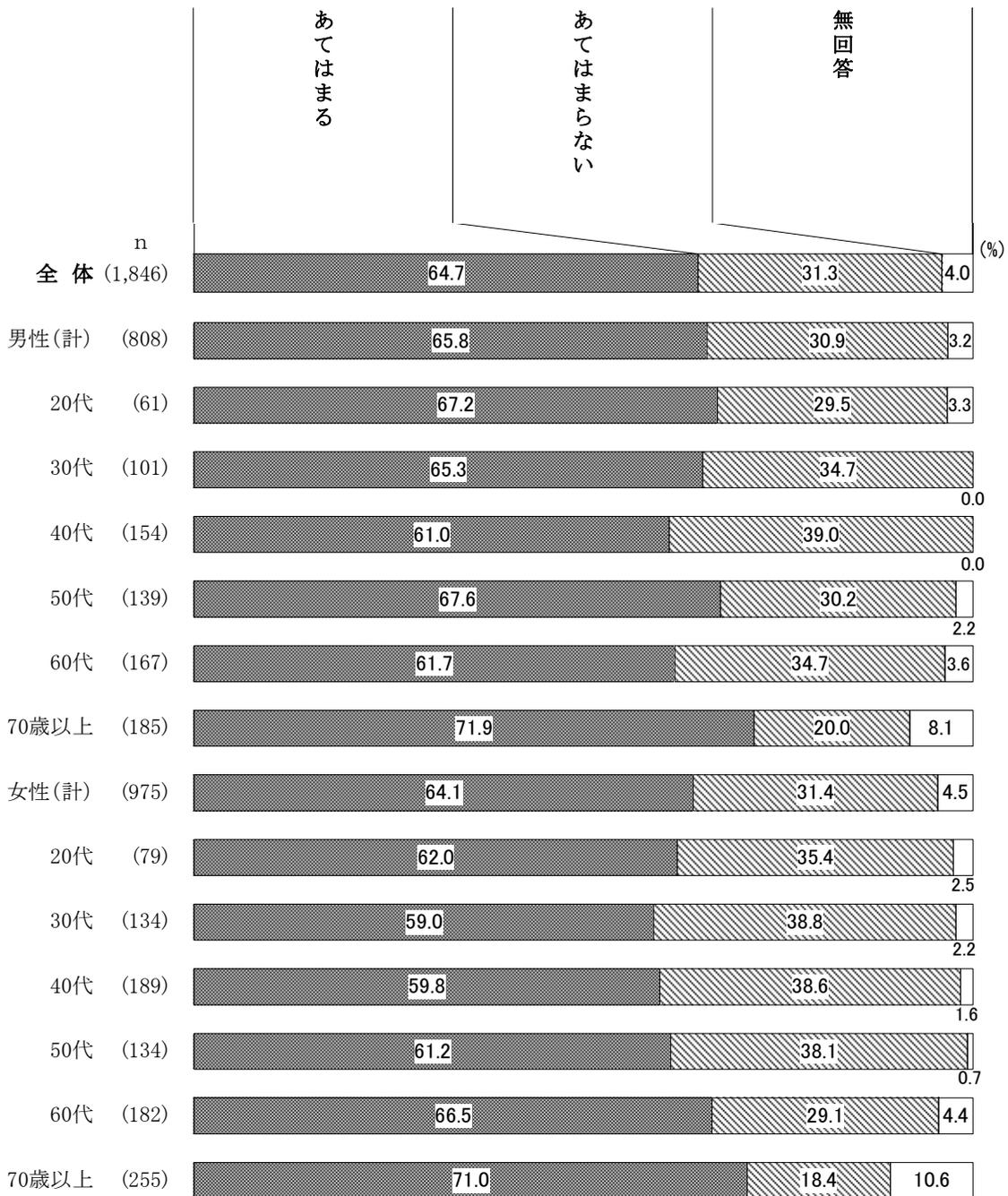
図4-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている



〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性65.8%、女性64.1%となっている。

性・年代別で見ると、男性では、いずれの年代でも「あてはまる」は6割を超えている。女性では、いずれ年代でも「あてはまる」が6割弱から7割強を占めている。

図4-5-2-④ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある

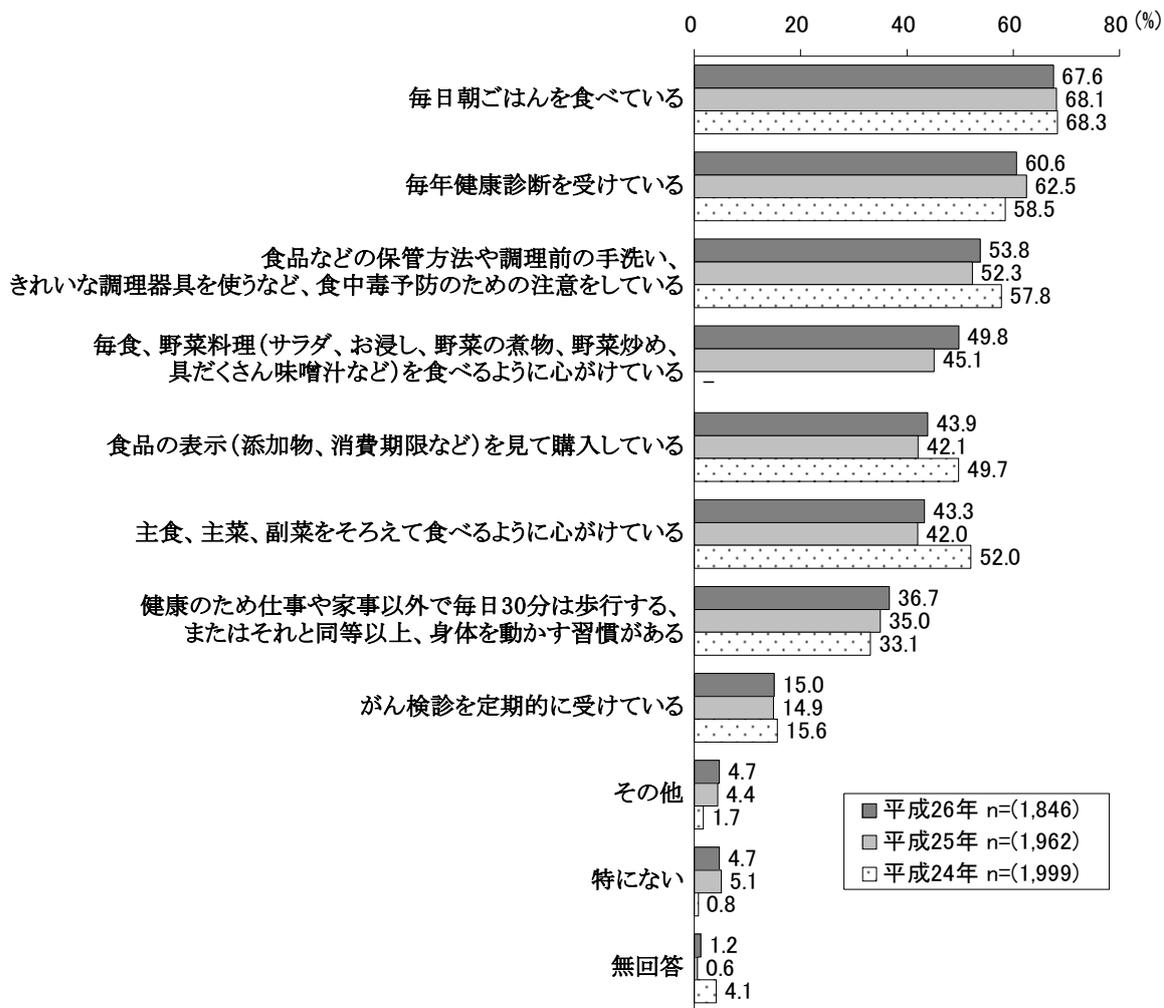


(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■ 「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割台

問19 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

図4-6-1 経年比較/健康維持のために実行している、心がけているもの



※「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は、25年度新設。

※「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」は、25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。

健康維持のために実行している、心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」が67.6%で最も高く、以下「毎年健康診断を受けている」(60.6%)、「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(53.8%)の順となっている。

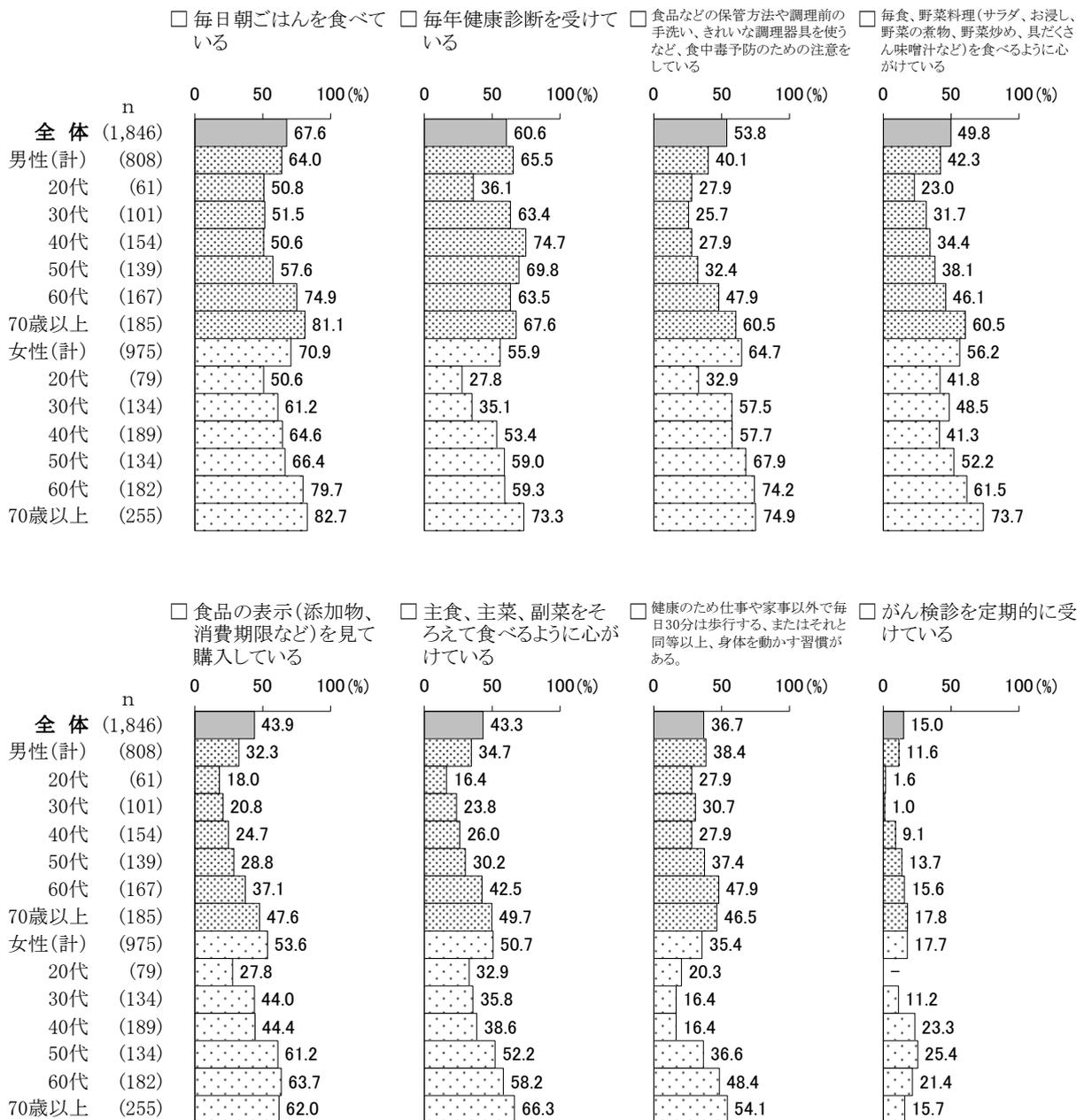
経年で比較すると、「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は、前回の45.1%から今回49.8%へと4.7ポイント増加している。他の項目については、ほぼ横ばい状況にある。

性別でみると、「毎日朝ごはんを食べている」は男性64.0%、女性70.9%、「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は男性40.1%、女性64.7%、「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は男性42.3%、女性56.2%と、8項目のうち6項目で男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「毎日朝ごはんを食べている」「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は加齢とともに増加する傾向がある。「毎年健康診断を受けている」については、40代で74.7%と高くなっている。また、「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は70歳以上で60.5%と高くなっている。

女性では、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」は加齢とともに増加する傾向がある。「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒の予防のための注意をしている」は、60代、70歳以上でそれぞれ74.2%、74.9%と高くなっている。

図4-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの



5 ビューティフル・ウィンドウズ運動

-
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
 - (2) 治安が改善していることの認知
 - (3) 居住地域の治安状況
 - (4) 区内の治安が良いと感じる点
 - (5) 区内の治安が悪いと感じる点
 - (6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
 - (7) 駐輪時の鍵かけ状況
-

5. ビューティフル・ウィンドウズ運動

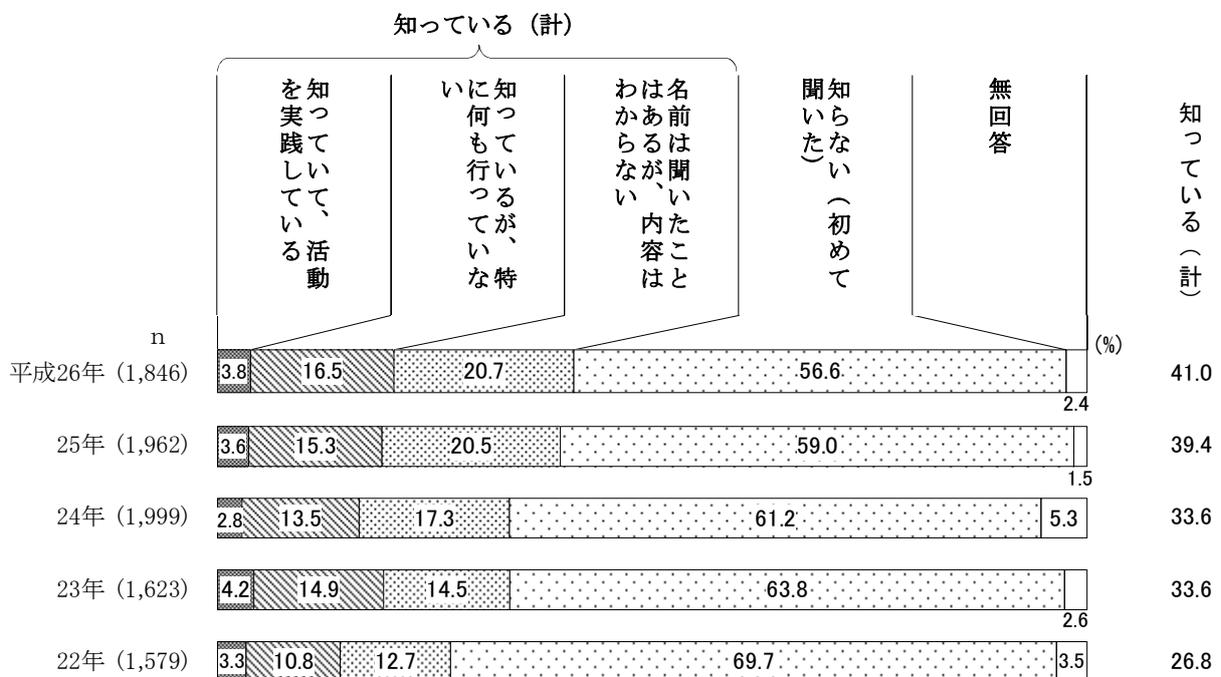
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

■ 【知っている】は初めて4割を超え、認知度は年々上昇している

問20 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

図5-1-1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は3.8%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」(16.5%)、「名前はあるが、聞いたことがわからない」(20.7%)を合わせた【知っている】は41.0%となっている。

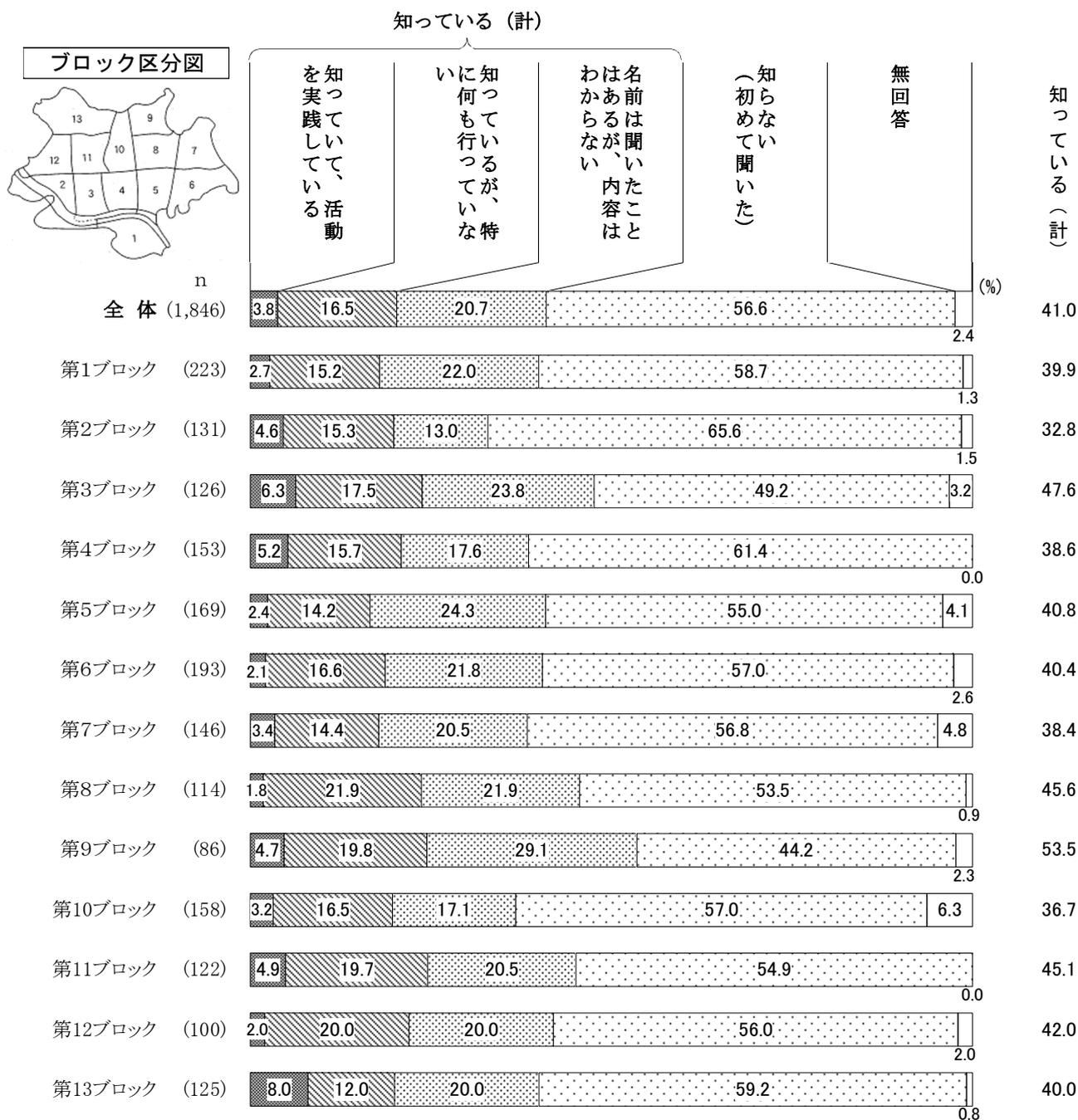
経年で見ると、【知っている】は、平成22年の26.8%から今回の41.0%まで、年々上昇していることがわかる。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第9ブロックでは、【知っている】が53.5%を占めているほか、第3ブロック、第8ブロック、第11ブロックでも4割台半ばを超えて、やや高くなっている。

また、第13ブロックでは、「知っている、活動を実践している」が8.0%と、全ブロック中最も高くなっている。

図5-1-2 地域ブロック別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

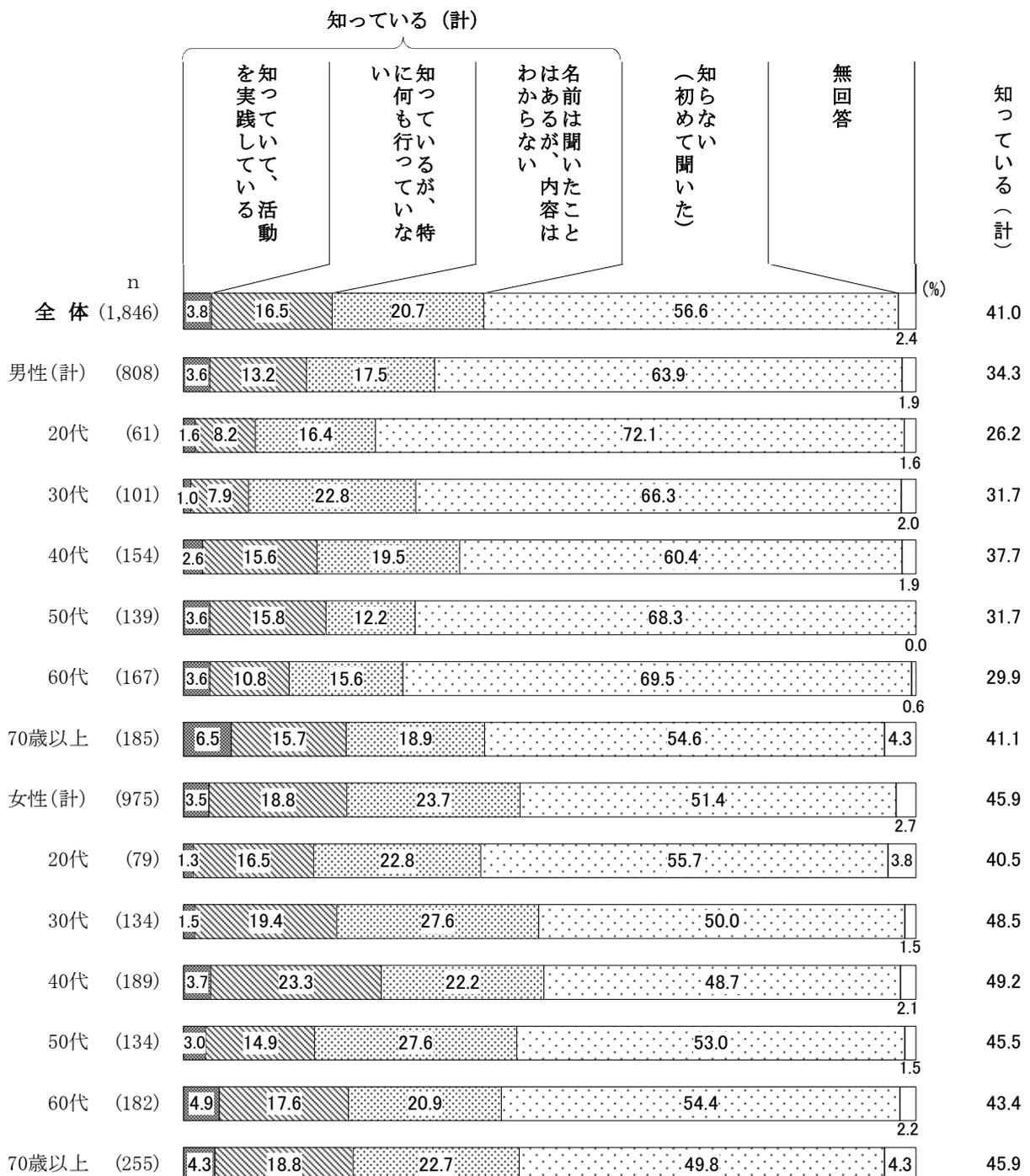


性別で見ると、【知っている】は男性34.3%、女性45.9%と、男性より女性が11.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では、40代、70歳以上で【知っている】が、それぞれ37.7%、41.1%と、他の年代より高くなっている。70歳以上では、「知っていて、活動を実践している」が6.5%と高くなっている。

女性では、いずれの年代でも【知っている】が4割を超えている。60代、70歳以上では、「知っていて、活動を実践している」が、それぞれ4.9%、4.3%と、他の年代よりやや高くなっている。「知らない（初めて聞いた）」は20代男性で72.1%と最も高くなっている。

図5-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



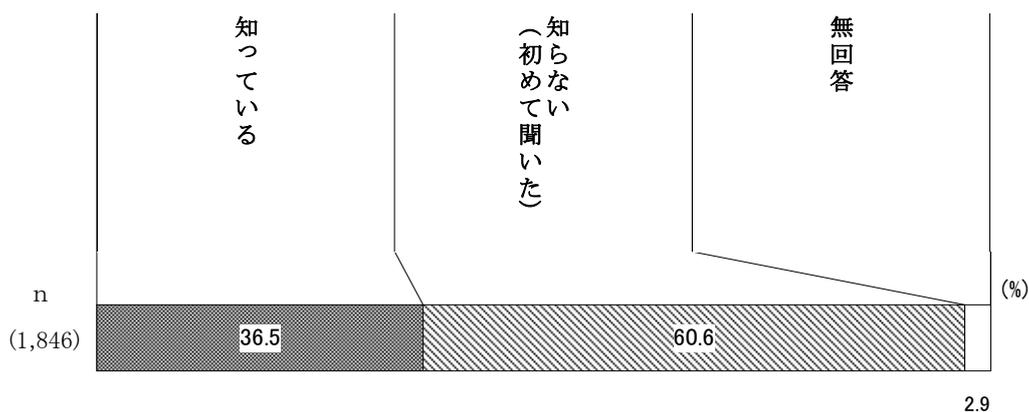
(2) 治安が改善していることの認知

■ 「知っている」は3割台半ば

問21 あなたは、平成25年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が減少し、治安が改善していることを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 警察が犯罪について、被害の届出等によりその発生を確認した件数。ただし、交通違反等を除きます。

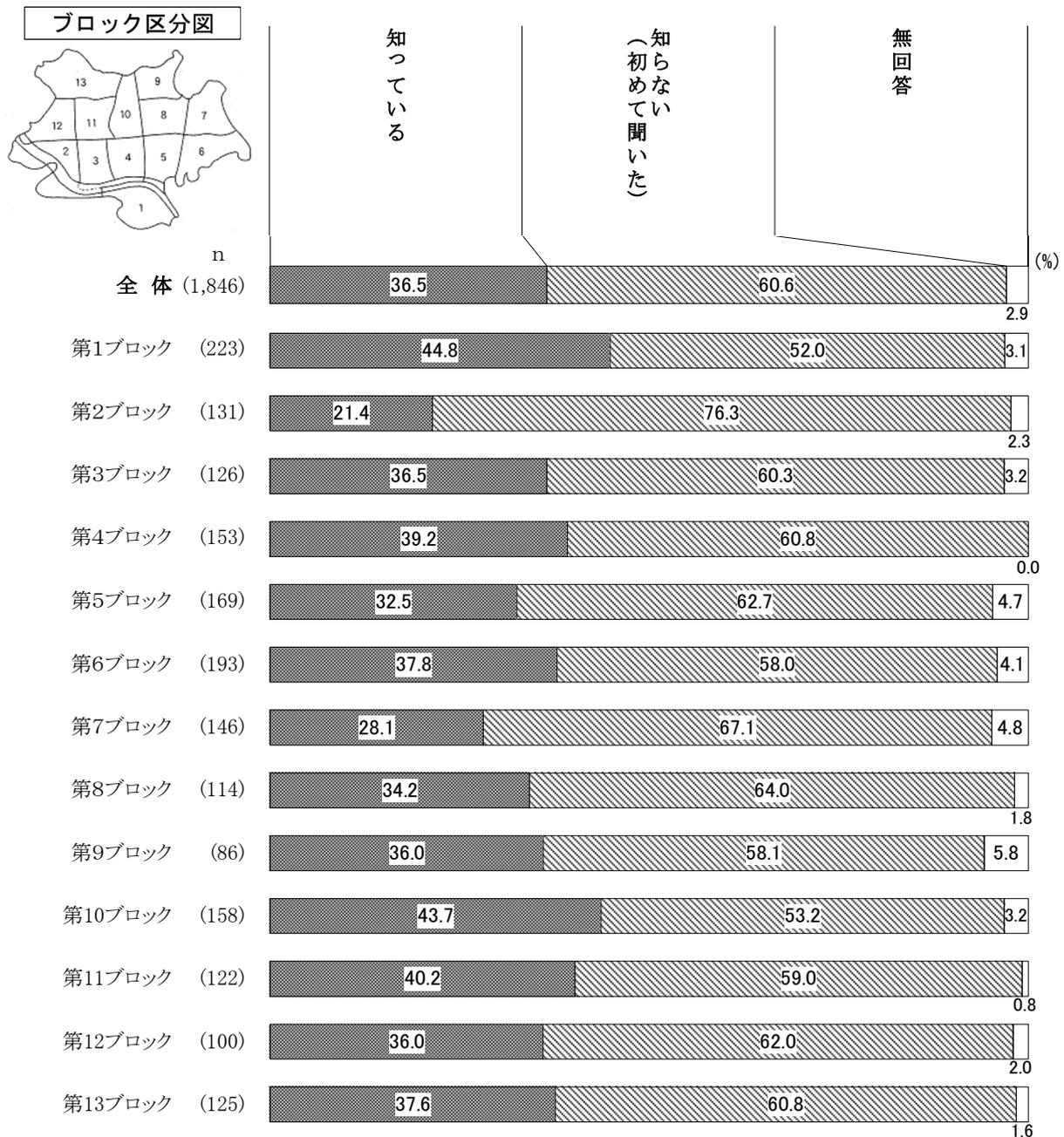
図5-2-1 治安が改善していることの認知



足立区内の治安が改善していることを「知っている」は36.5%である。一方、「知らない（初めて聞いた）」は60.6%となっている。

地域ブロック別で見ると、第1ブロック、第10ブロック、第11ブロックでは、「知っている」が、いずれも4割を超えて、他のブロックより高くなっている。一方、第2ブロックでは、「知っている」は21.4%と全ブロック中最も低くなっている。

図5-2-2 地域ブロック別／治安が改善していることの認知



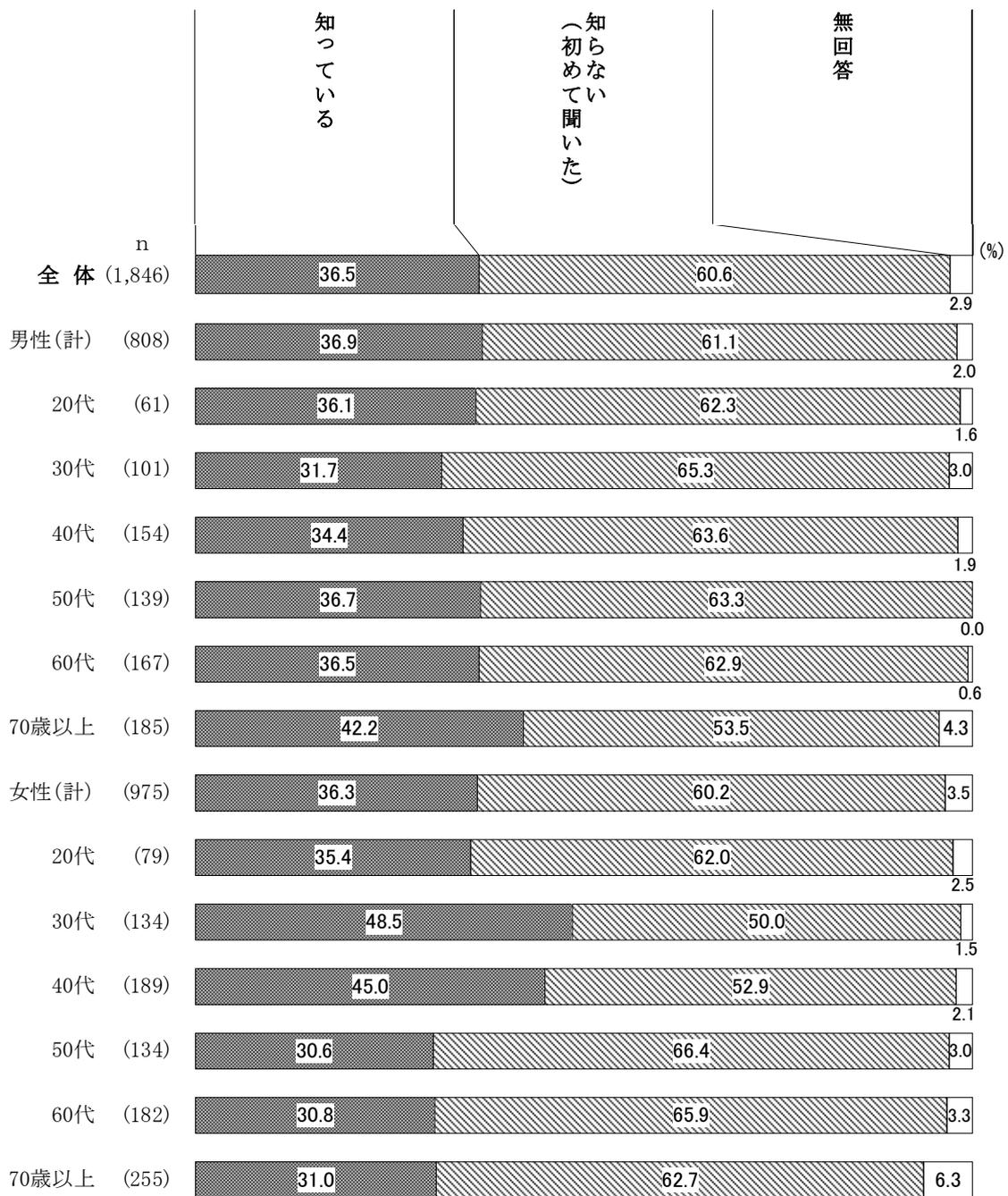
第3章 調査結果の分析

性別でみると、「知っている」は男性36.9%、女性36.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で「知っている」が42.2%と、他の年代より高くなっている。

女性では、30代で「知っている」が48.5%を占めているほか、40代でも45.0%を占めている。

図5-2-3 性別、性・年代別／治安が改善していることの認知



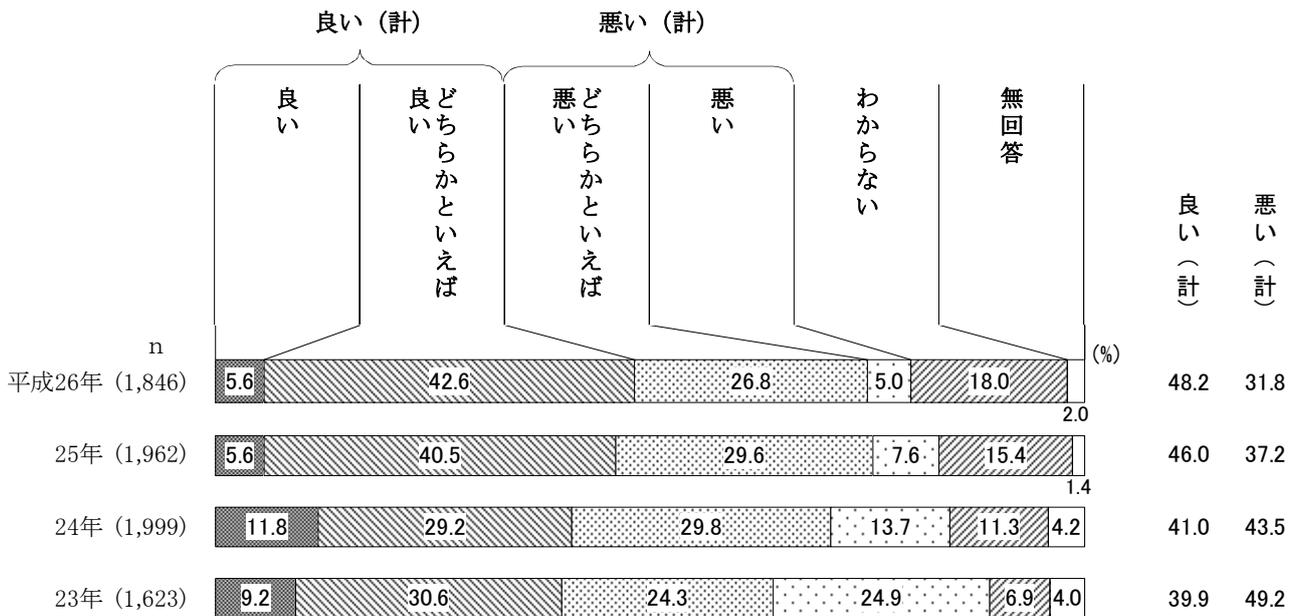
(3) 居住地域の治安状況

■ 【良い】は約半数となり、年々上昇している

問22 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか。
（○は1つだけ）

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

図5-3-1 経年比較／居住地域の治安状況



住んでいる地域の治安について、「良い（そう思う）」が5.6%で、これに「どちらかといえば良い（ややそう思う）」の42.6%を合わせた【良い】は48.2%である。一方、「どちらかといえば悪い（あまりそう思わない）」（26.8%）と「悪い（そう思わない）」（5.0%）を合わせた【悪い】は31.8%となっている。

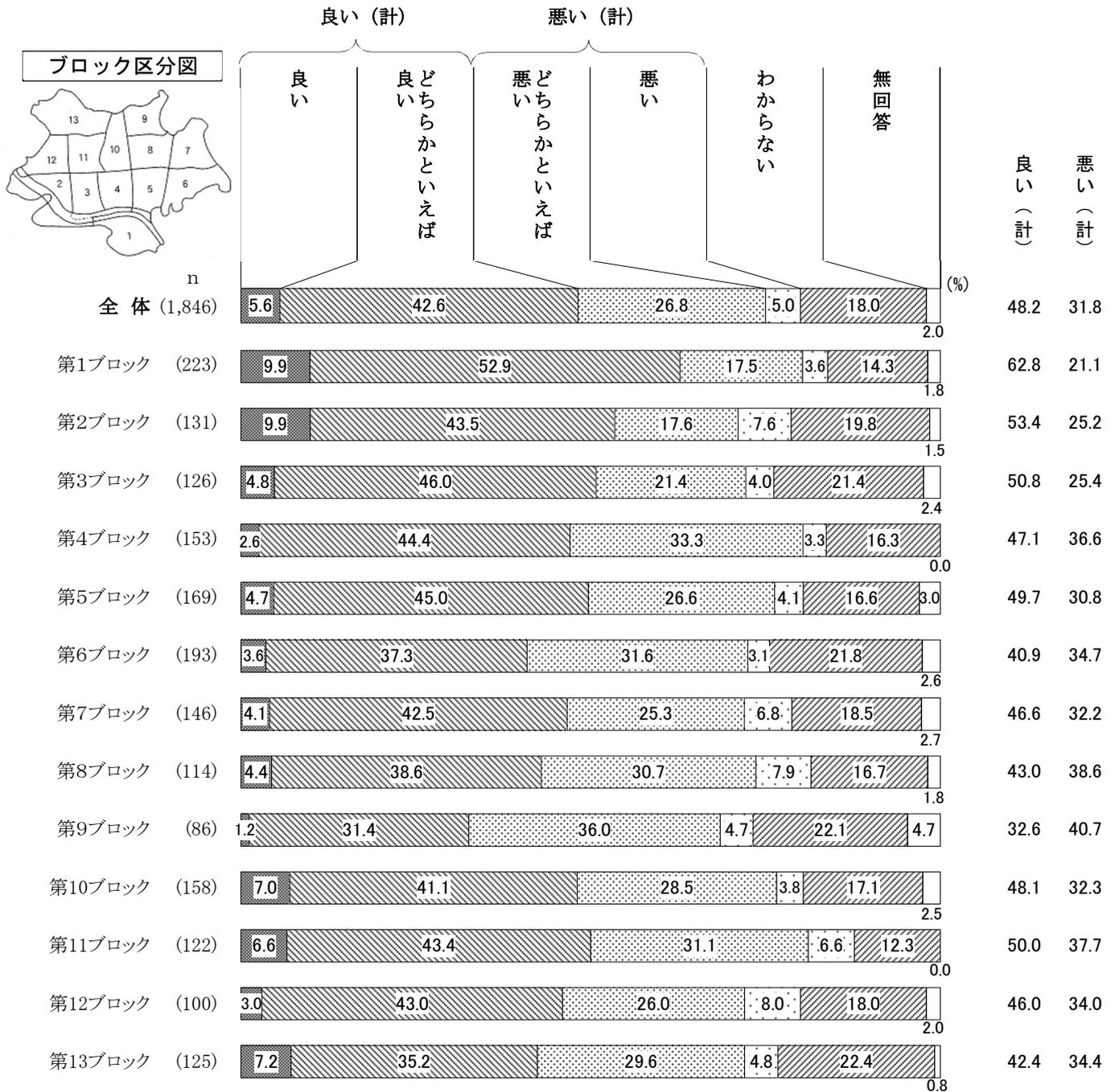
経年でみると、今回調査では【良い】が48.2%と、前回調査の46.0%より2.2ポイント増加している。一方、【悪い】は、前回調査の37.2%より5.4ポイント減少し、今回31.8%となっている。

治安状況については、平成23年から調査方法を変更したため、数値の単純な比較はできないが、前回調査に引き続いて、【良い】が【悪い】を上回っている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、【良い】は第1ブロックで62.8%と最も高く、以下第2ブロック(53.4%)、第3ブロック(50.8%)の順となっている。一方、第4ブロック、第8ブロック、第9ブロック、第11ブロックでは【悪い】が、いずれも3割台半ばを超えている。

図5-3-2 地域ブロック別／居住地域の治安状況

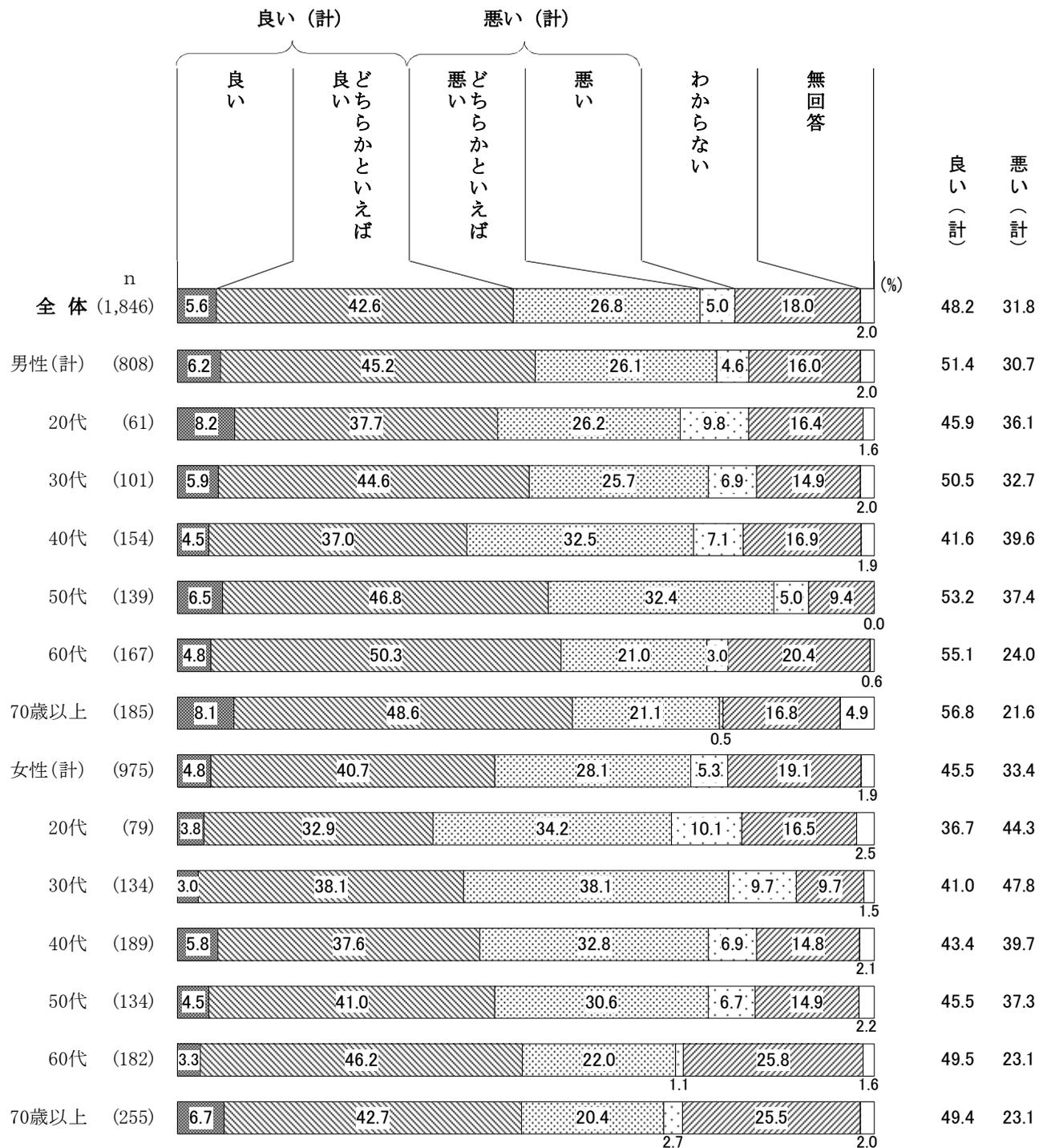


性別でみると、【良い】は男性51.4%、女性45.5%となっている。

性・年代別でみると、男性では、20代、40代を除くと、いずれの年代でも、【良い】との評価が5割を超えている。

女性では、20代、30代で【悪い】が、それぞれ44.3%、47.8%と4割以上を占めている。60代、70歳以上では、【良い】との評価が5割近くを占めている。

図5-3-3 性別、性・年代別／居住地域の治安状況



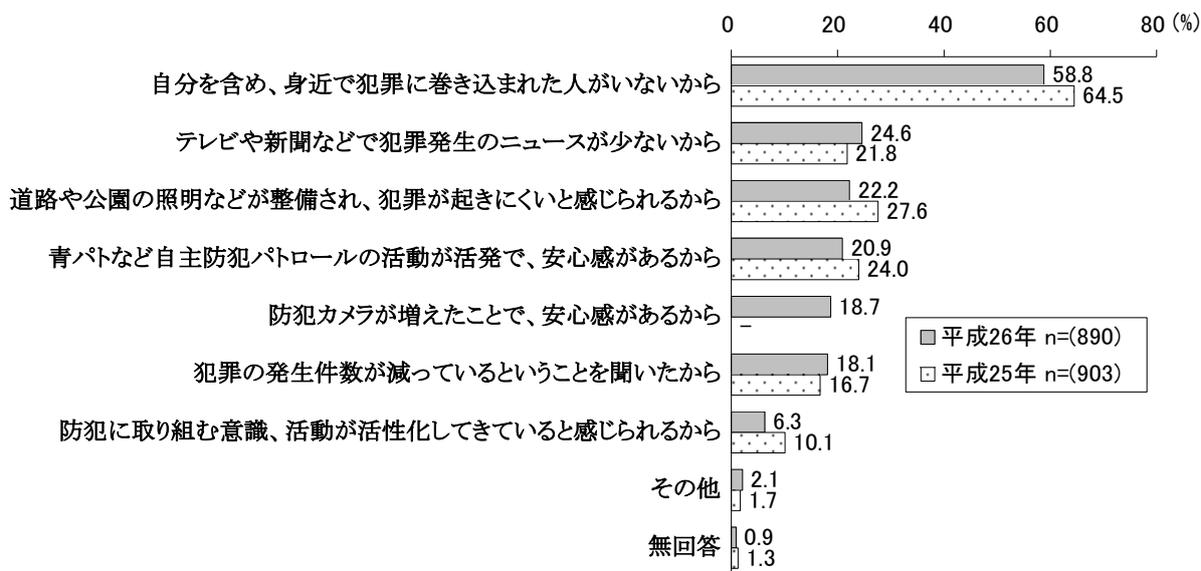
(4) 区内の治安が良いと感じる点

■ 特に多いのが“犯罪に巻き込まれた人がいないから”で、6割弱

問22で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に

問22-1 どのような点で治安が良いと感じますか。(〇は2つまで)

図5-4-1 前回調査比較/区内の治安が良いと感じる点



※「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は、今年度新設。

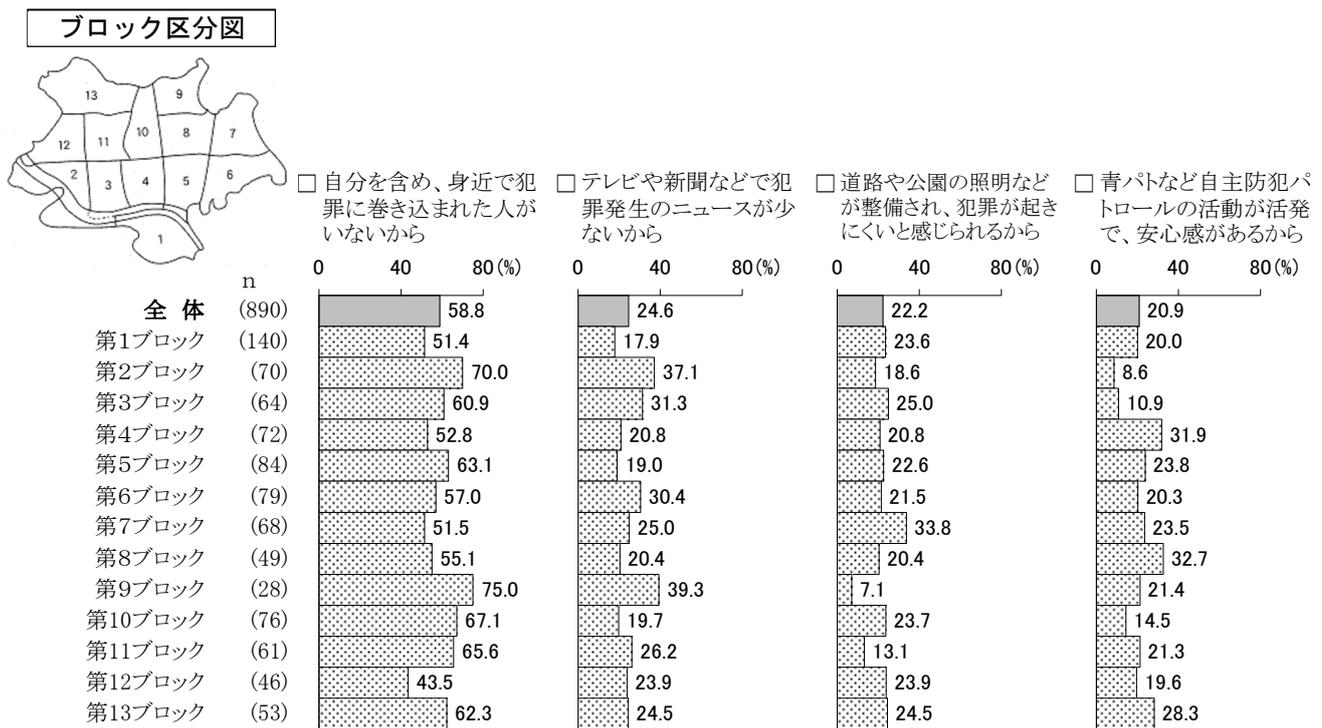
※「防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」は、25年度では「区全体の防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

【良い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が58.8%で最も高く、以下、「テレビや新聞などで犯罪発生ニュースが少ないから」(24.6%)、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」(22.2%)、「青パトなど自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」(20.9%)の順となっている。

前回結果と比較すると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が64.5%から58.8%と低くなっている。

地域ブロック別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は、第2ブロック、第9ブロックで、それぞれ70.0%、75.0%と高くなっている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」は、第7ブロックで33.8%と最も高くなっている。「青パトなど自主防犯パトロール活動が活発で、安心感があるから」は、第4ブロック、第8ブロック、第13ブロックでは3割前後と、他のブロックより高くなっている。

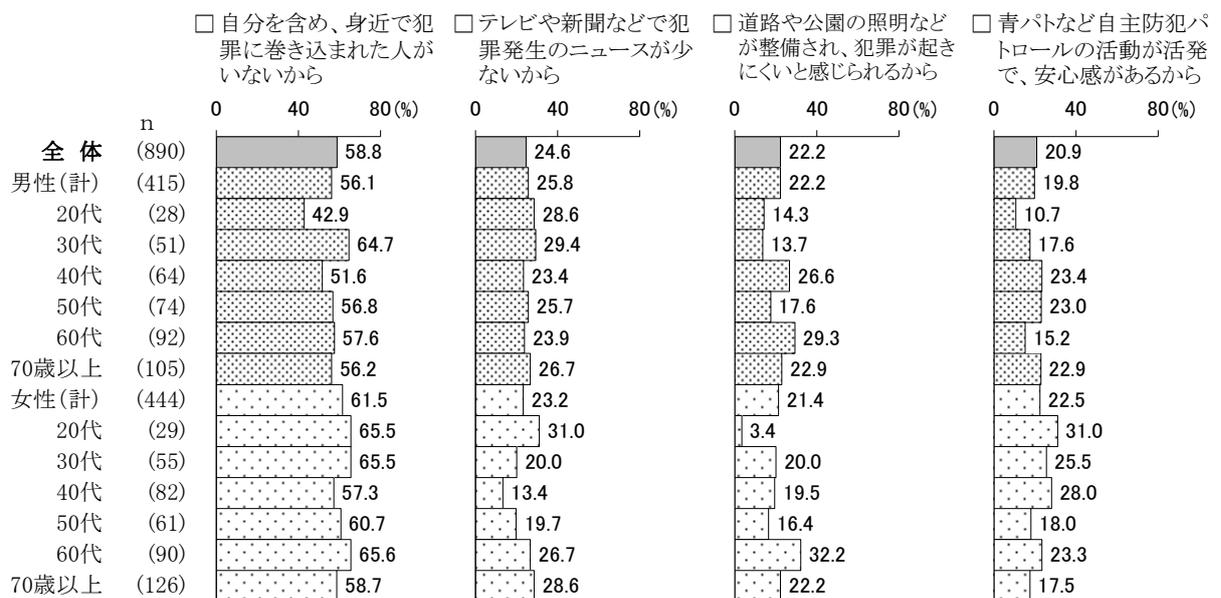
図5-4-2 地域ブロック別／区内の治安が良いと感じる点／上位4項目



性別でみると、特に大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は男性の30代、女性の20代、30代、60代で6割台半ばと高くなっている。

図5-4-3 性別、性・年代別／区内の治安が良いと感じる点／上位4項目

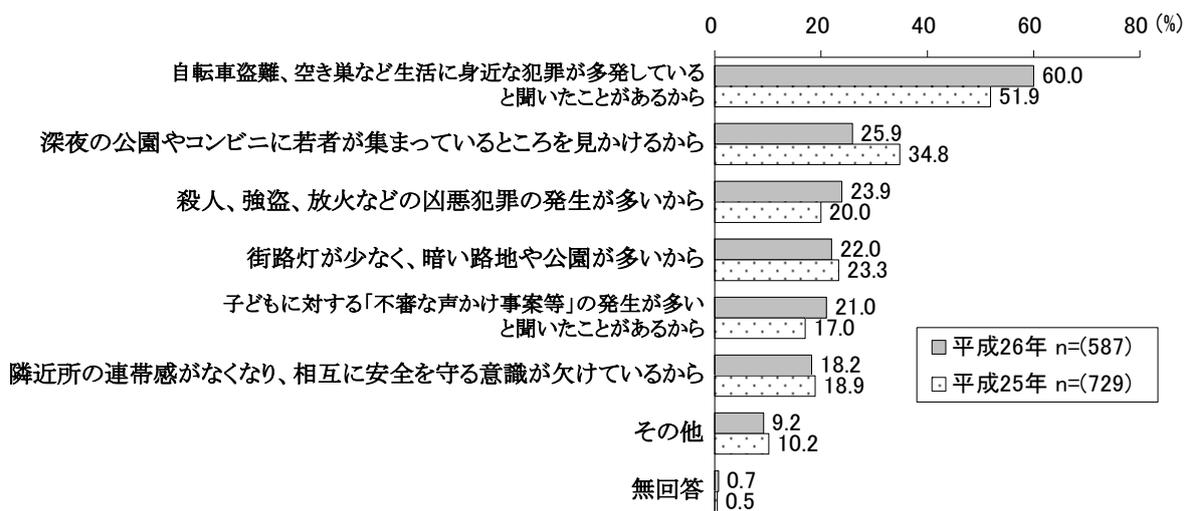


(5) 区内の治安が悪いと感じる点

■ “生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがある”が6割で突出

問22で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に
問22-2 どのような点で治安が悪く感じますか。(〇は2つまで)

図5-5-1 前回調査比較／区内の治安が悪いと感じる点



※「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は、25年度では「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」。

※「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いと聞いたことがあるから」は、25年度では「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いから」。

【悪い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が60.0%で最も高く、以下、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」(25.9%)、「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」(23.9%)、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」(22.0%)の順となっている。

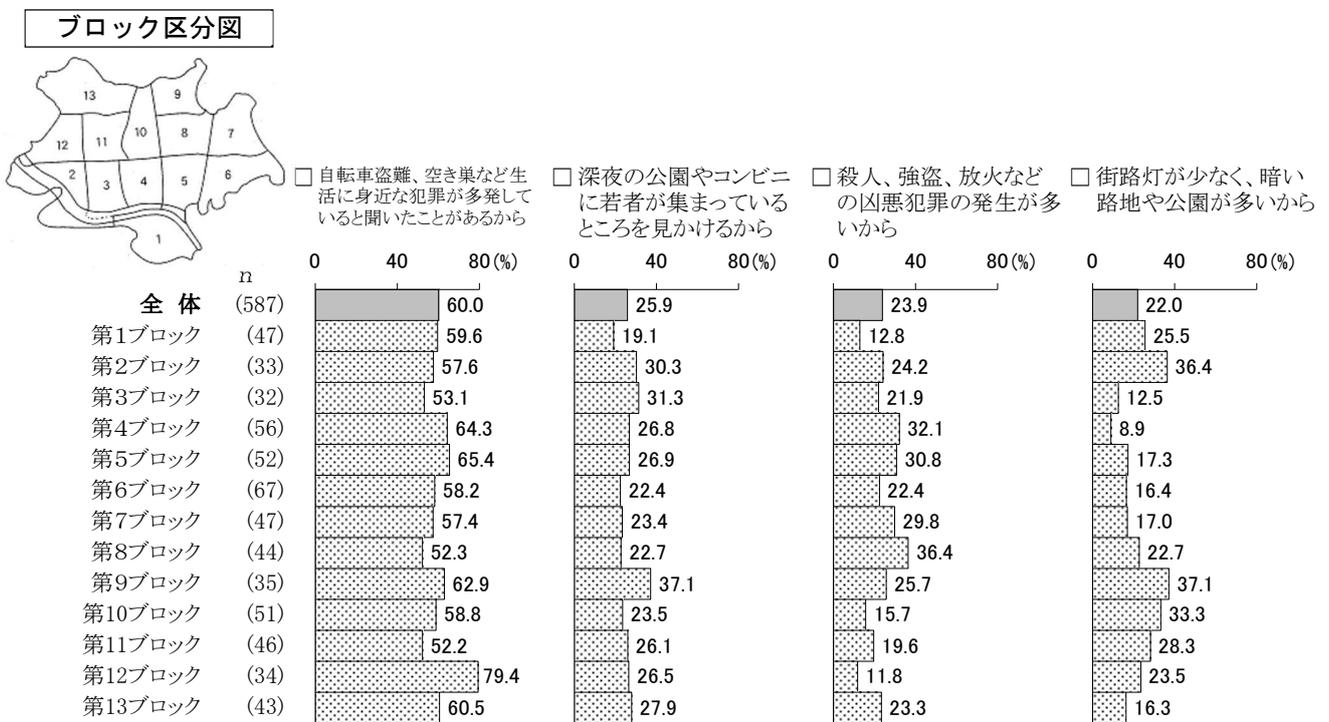
前回結果と比較すると、選択肢の表現を変えており参考に過ぎないが、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は51.9%から60.0%と高く、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」は34.8%から25.9%と低くなっている。

地域ブロック別で見ると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は、第12ブロックで79.4%と全ブロック中最も高くなっているほか、第4ブロック、第5ブロックでは6割台半ば前後と、他のブロックより高くなっている。

「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」については、第9ブロックで37.1%と最も高くなっているほか、第2ブロック、第3ブロックでも3割を超えている。

また、「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」は、第4ブロック、第5ブロック、第8ブロックで3割を超えて、他のブロックより高くなっている。「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」については、第2ブロック、第9ブロック、第10ブロックで3割を超えて、他のブロックより高くなっている。

図5-5-2 地域ブロック別／区内の治安が悪いと感じる点／上位4項目



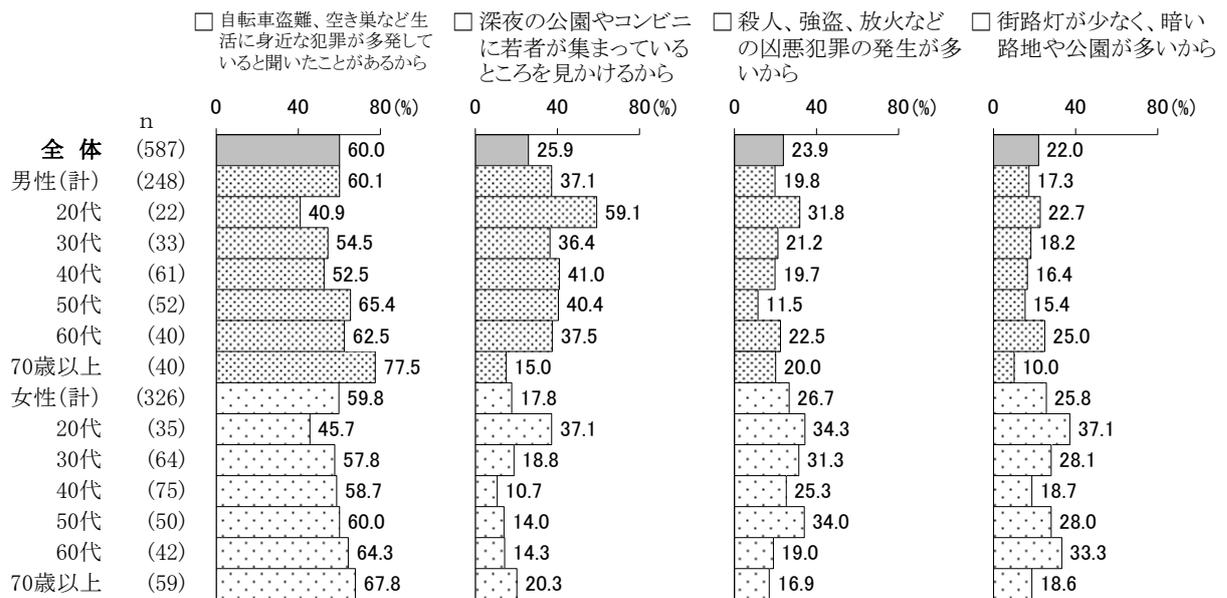
第3章 調査結果の分析

性別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」では、男性60.1%、女性59.8%となっている。

性・年代別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は、男女とも50代以上で6割を超えている。

また、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」については、男性の20代で59.1%となっており、全年代の中で最も高くなっている。

図5-5-3 性別、性・年代別／区内の治安が悪いと感じる点／上位4項目

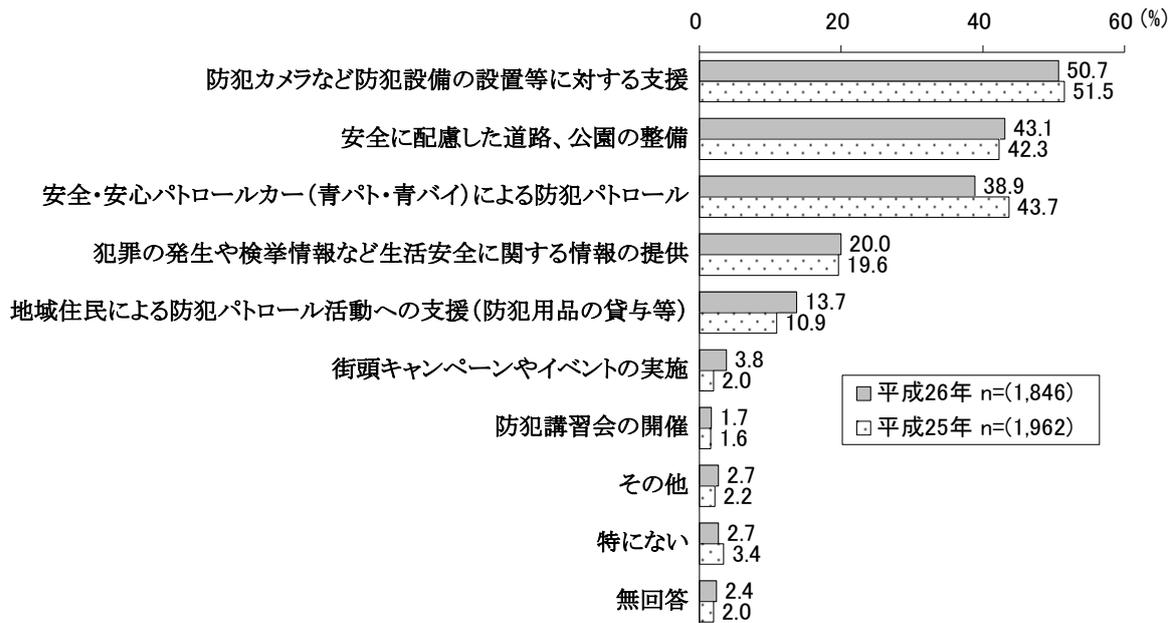


(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

■ “防犯設備の設置等に対する支援”が半数を超え、“安全に配慮した道路、公園の整備”が4割台

問23 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(〇は2つまで)

図5-6-1 前回調査比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと



治安対策として足立区に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」が50.7%で最も高く、以下「安全に配慮した道路、公園の整備」(43.1%)、「安全・安心パトロールカー(青パト・青バイ)による防犯パトロール」(38.9%)の順となっている。

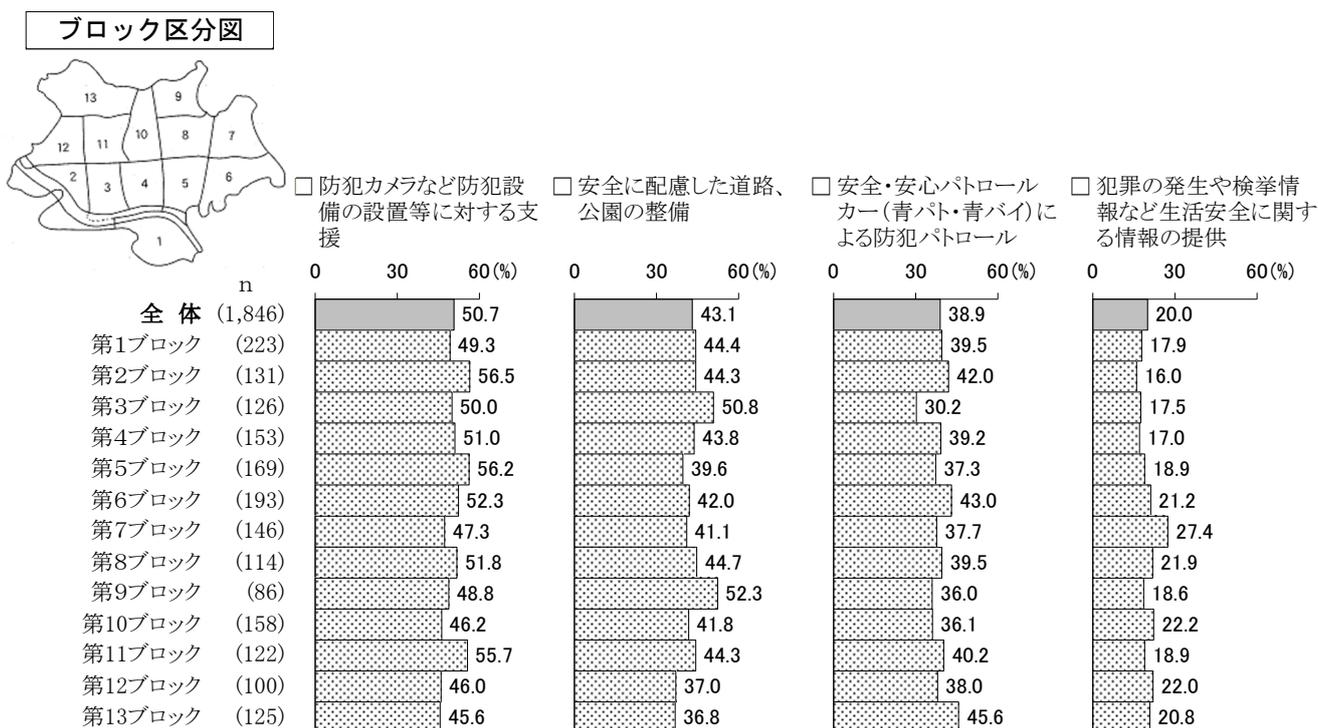
前回結果と比較すると、「安全・安心パトロールカー(青パト・青バイ)による防犯パトロール」が43.7%から38.9%と低くなっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」は、第2ブロックで56.5%と最も高くなっているほか、第5ブロック、第11ブロックでも5割台半ばを超えている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、第3ブロック、第9ブロックで5割を超えて、他のブロックより高くなっている。

また、「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は、第13ブロックで45.6%と最も高くなっているほか、第2ブロック、第6ブロック、第11ブロックでも4割を超えている。

図5-6-2 地域ブロック別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



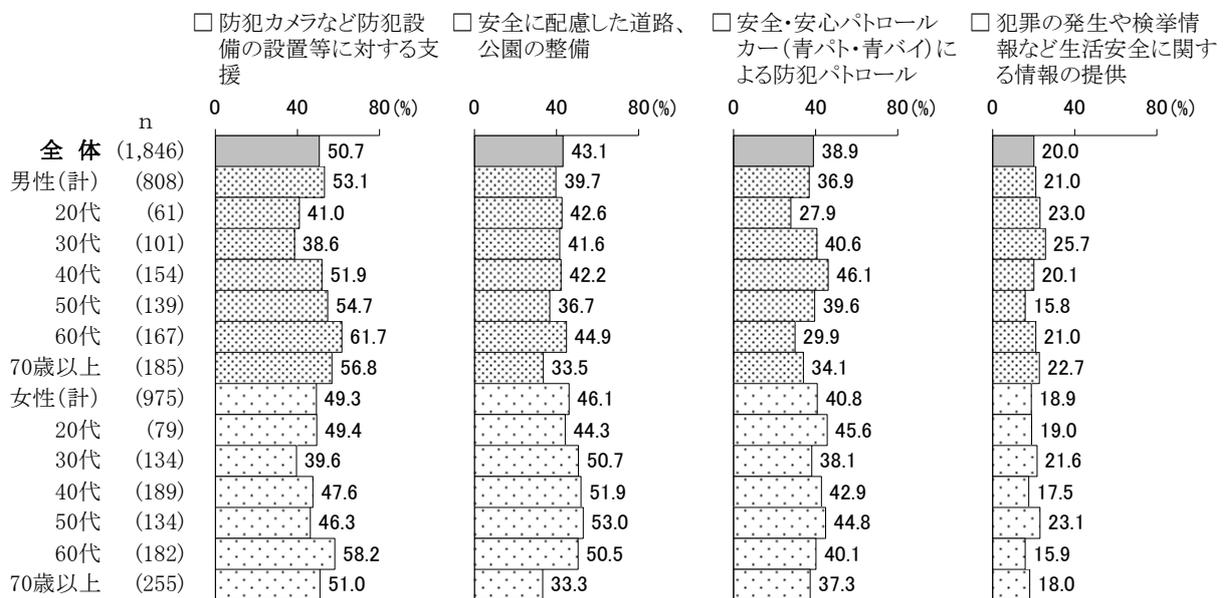
性別でみると、「安全に配慮した道路、公園の整備」は男性39.7%、女性46.1%、「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は男性36.9%、女性40.8%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」は60代で61.7%と高くなっている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、50代、70歳以上を除く、いずれの年代でも4割を超えている。

女性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」が60代で58.2%と、他の年代より高くなっている。「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は、20代、40代、50代、60代で4割を超えて高くなっている。

また、「安全に配慮した道路、公園の整備」は、30代から60代で5割を超えている。

図5-6-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目

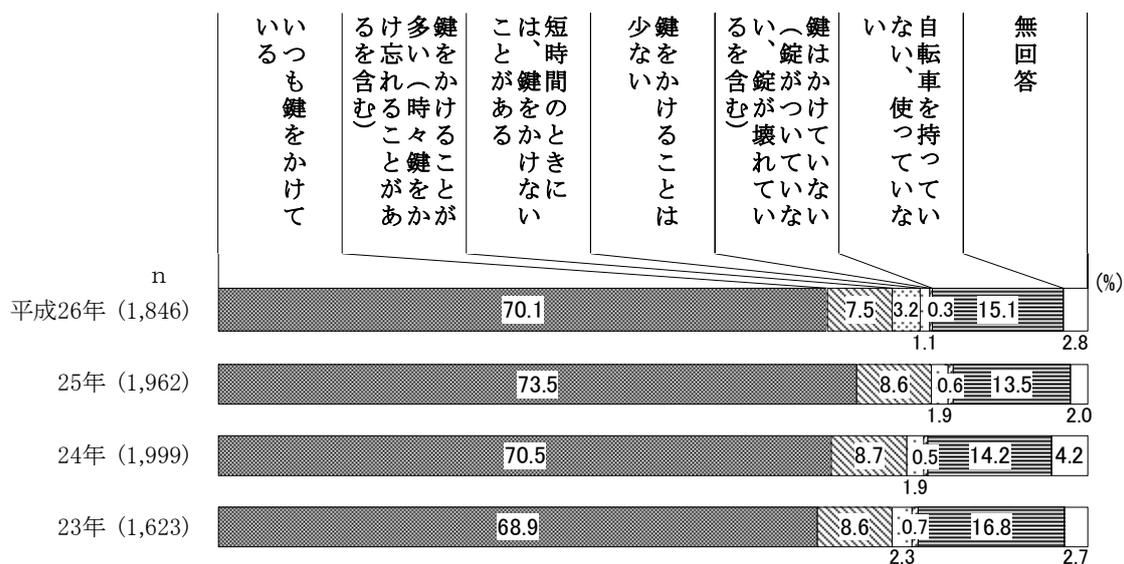


(7) 駐輪時の鍵かけ状況

■ 「いつも鍵をかけている」が7割台を維持

問24 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。
 (○は1つだけ)

図5-7-1 経年比較/駐輪時の鍵かけ状況



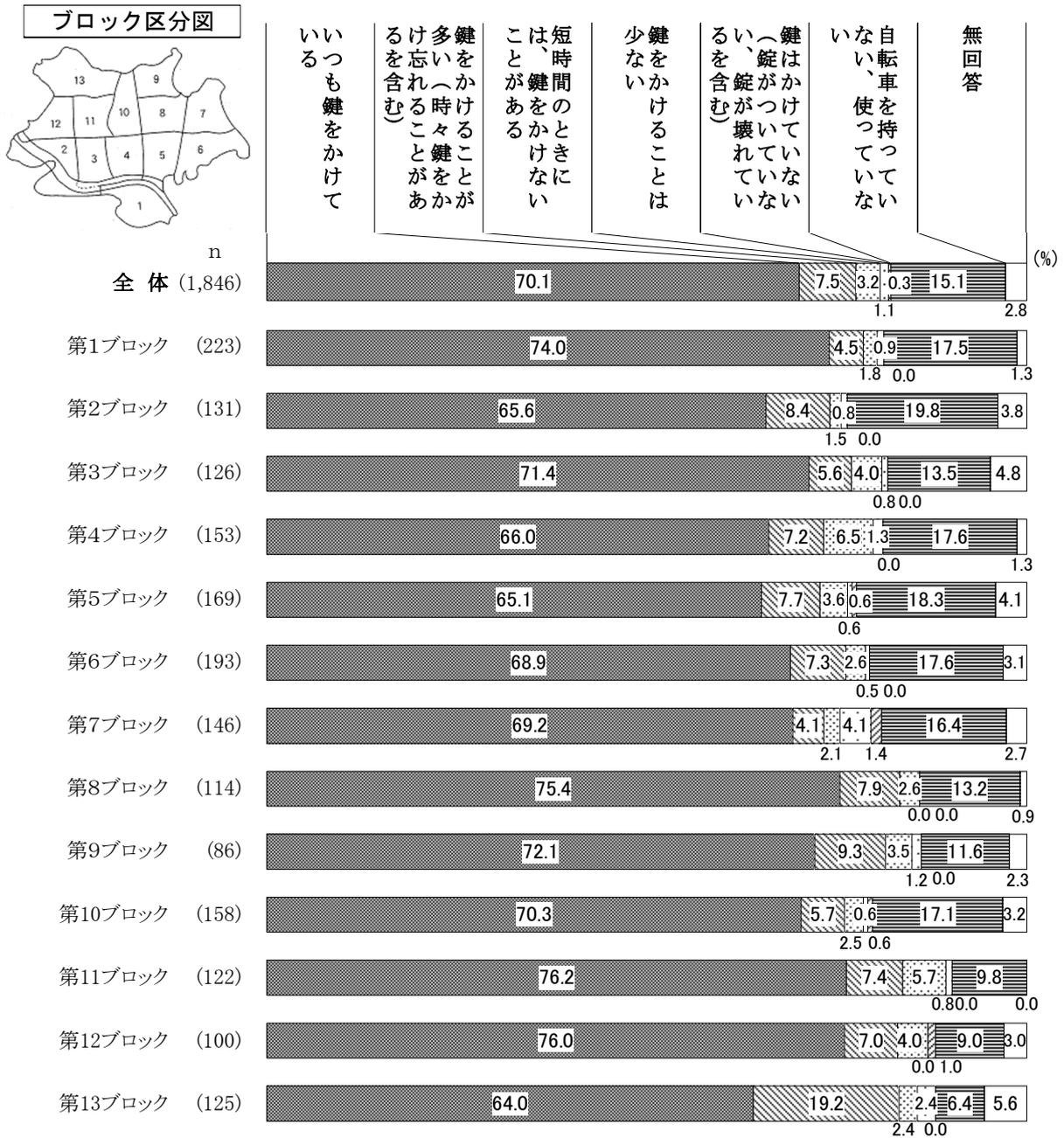
※「短時間のときは、鍵をかけないことがある」は、今年度新設。

自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについては「いつも鍵をかけている」が70.1%で最も高く、次いで「鍵をかけることが多い(時々鍵をかけることあるを含む)」(7.5%)となっている。一方、「短時間のときは、鍵をかけないことがある」は3.2%、「鍵をかけることは少ない」は1.1%、「鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)」は0.3%となっている。

経年でみると、「いつも鍵をかけている」は、今回は70.1%と、前回の73.5%から微減している。

地域ブロック別でみると、第13ブロックを除き、「いつも鍵をかけている」が6割台半ばを超えている。

図5-7-2 地域ブロック別／駐輪時の鍵かけ状況

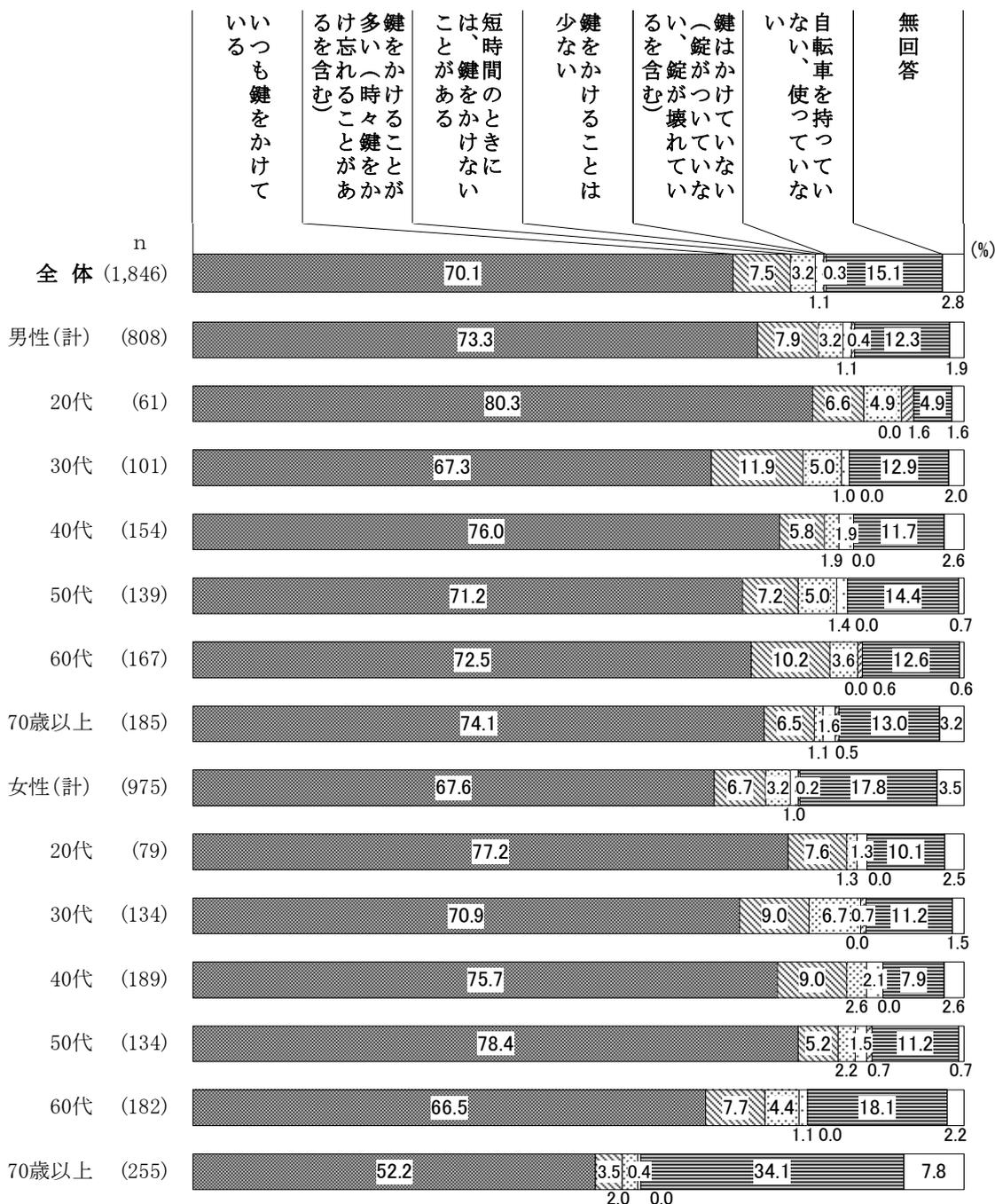


第3章 調査結果の分析

性別で見ると、「いつも鍵をかけている」は男性73.3%、女性67.6%と、男性が女性より高くなっている。

性・年代別で見ると、70歳以上の女性を除くと、男女各年代とも「いつも鍵をかけている」が6割台半ば以上と高くなっている。

図5-7-3 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況



6 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向
 - (3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価
-

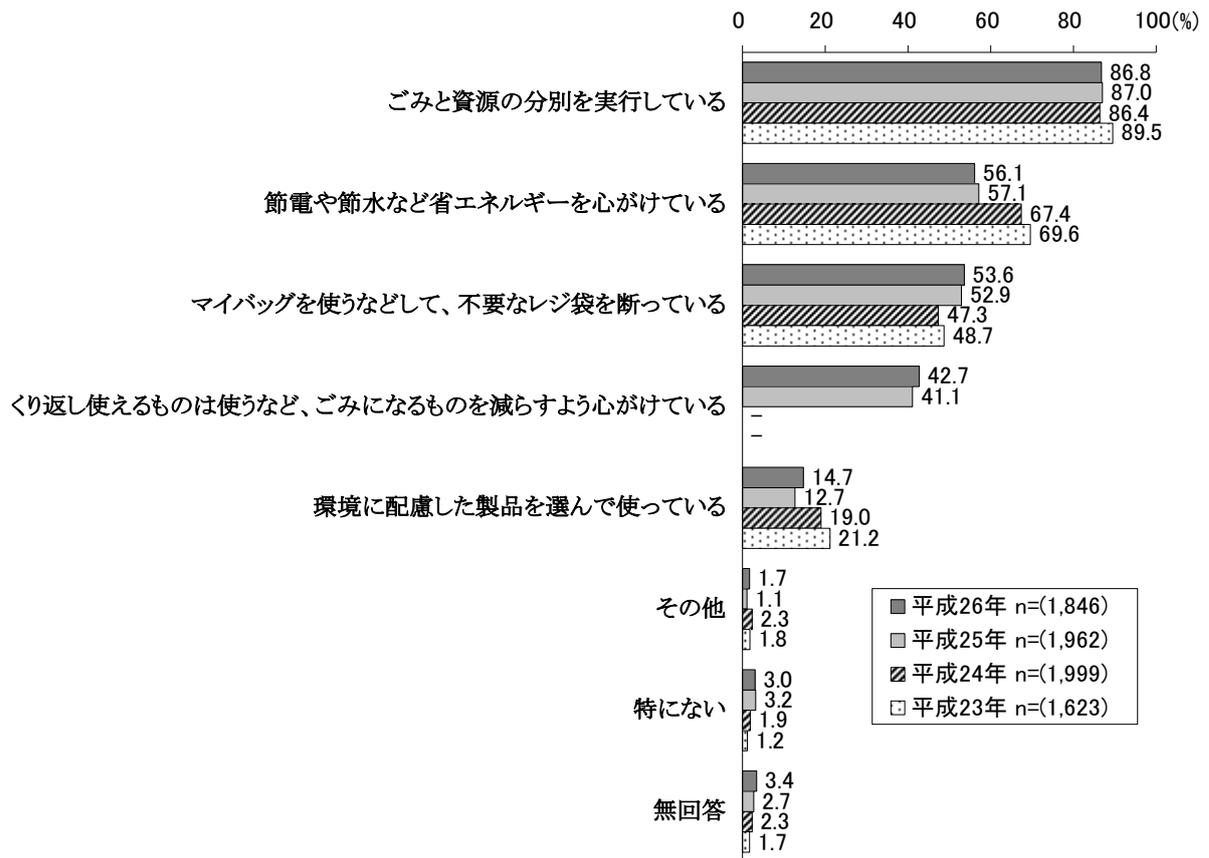
6. 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

■ 「ごみと資源の分別を実行している」が8割台後半を維持

問25 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

図6-1-1 経年比較／環境のために心がけていること



環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が86.8%で9割近い数値を維持し最も高く、以下「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(56.1%)、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(53.6%)の順となっている。

経年で比較すると、上位3項目に大きな変化はみられない。

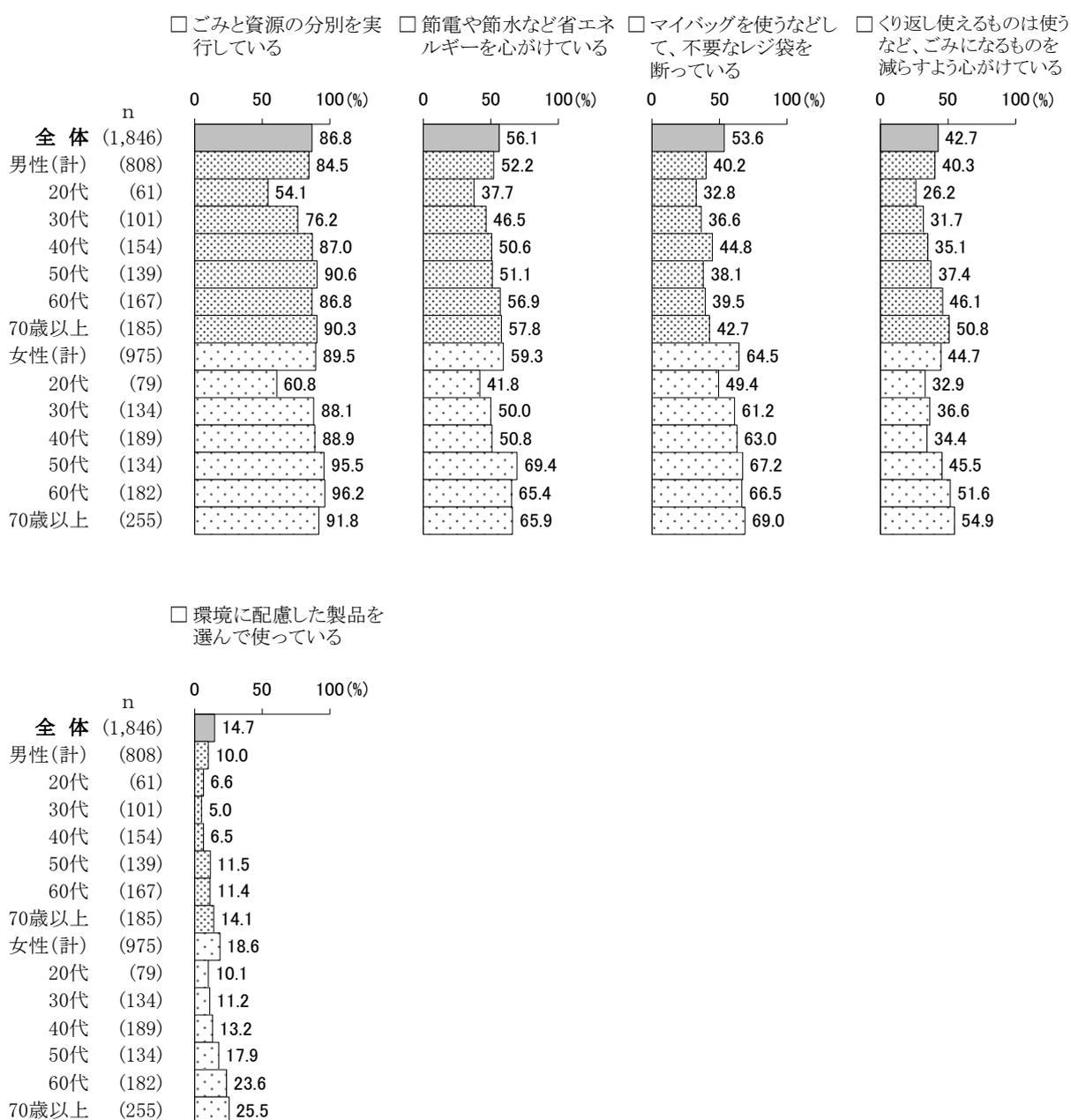
第3章 調査結果の分析

性別でみると、いずれの項目も女性が男性を上回っており、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は男性52.2%、女性59.3%と女性が7.1ポイント高く、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は男性40.2%、女性64.5%と、女性が24.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「ごみと資源の分別を実行している」は、50代、70歳以上で9割を超えている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は20代で37.7%と最も低く、加齢とともに増加し、70歳以上では57.8%となっている。

女性では、「ごみと資源の分別を実行している」は、50代以上で9割を超えている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、50代以上で6割台半ばを超えている。

図6-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること

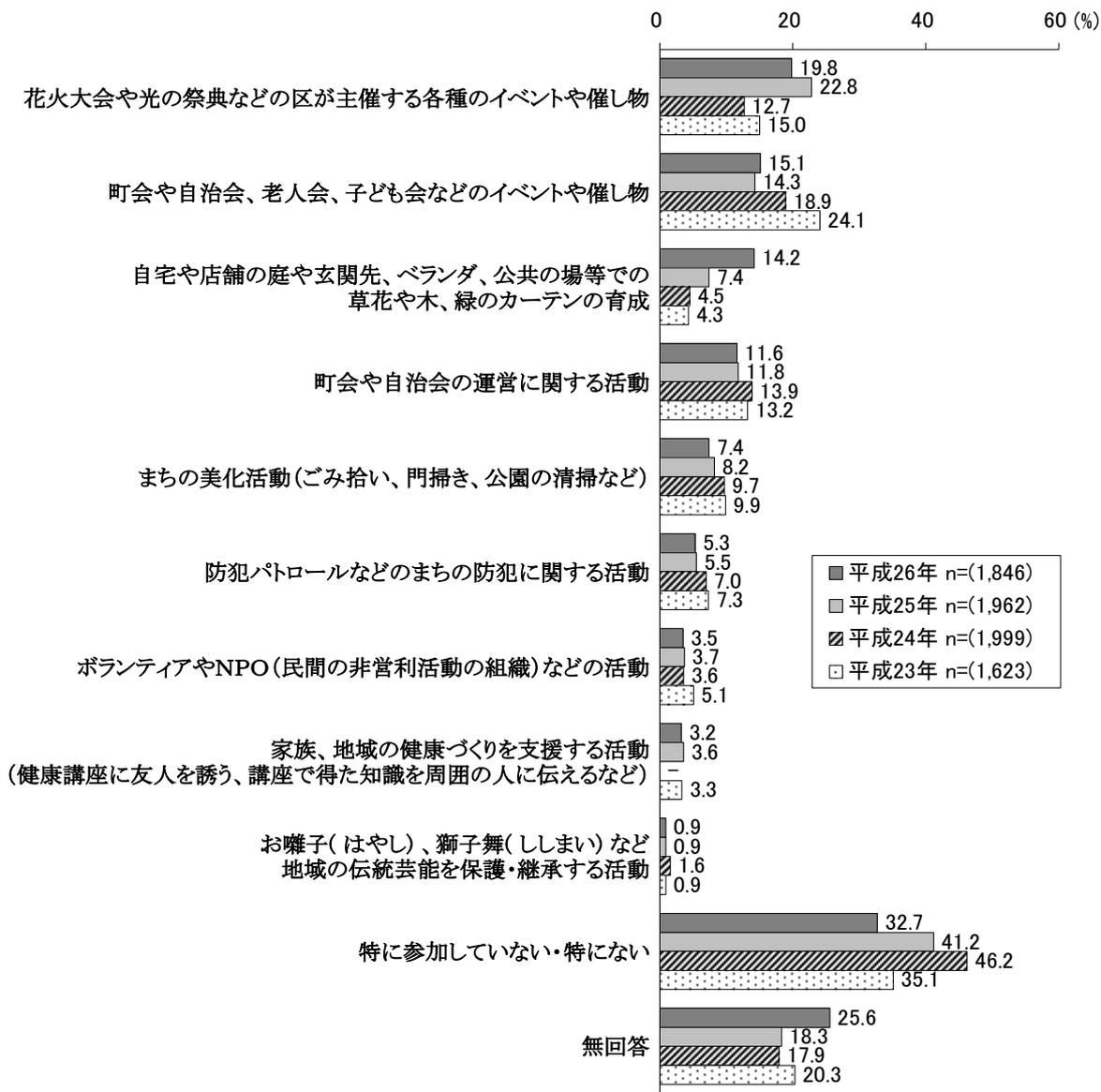


(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向

■ 活動経験・参加意向とも「区が主催する各種のイベントや催し物」が最多

問26 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか。(〇はいずれも、あてはまるものすべて)

図6-2-1 経年比較／この1年間に参加した活動



※24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

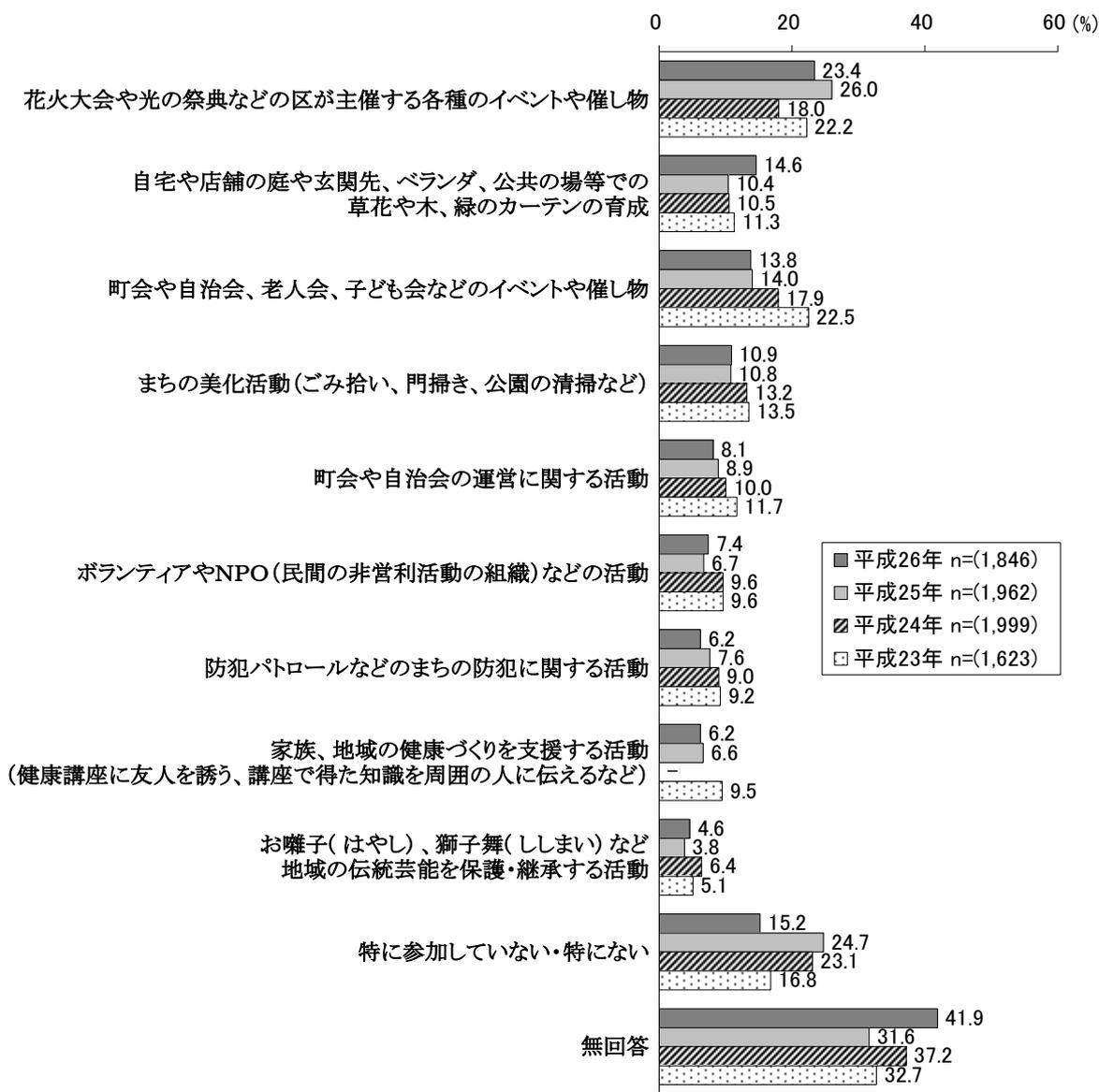
※「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」は、25年度まで「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

この1年間で参加した活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が19.8%で最も高く、次いで「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(15.1%)、「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」(14.2%)となっている。

第3章 調査結果の分析

経年でみると、今回調査では、「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」が6.8ポイント増加している。

図6-2-2 経年比較／今後の参加意向



※24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

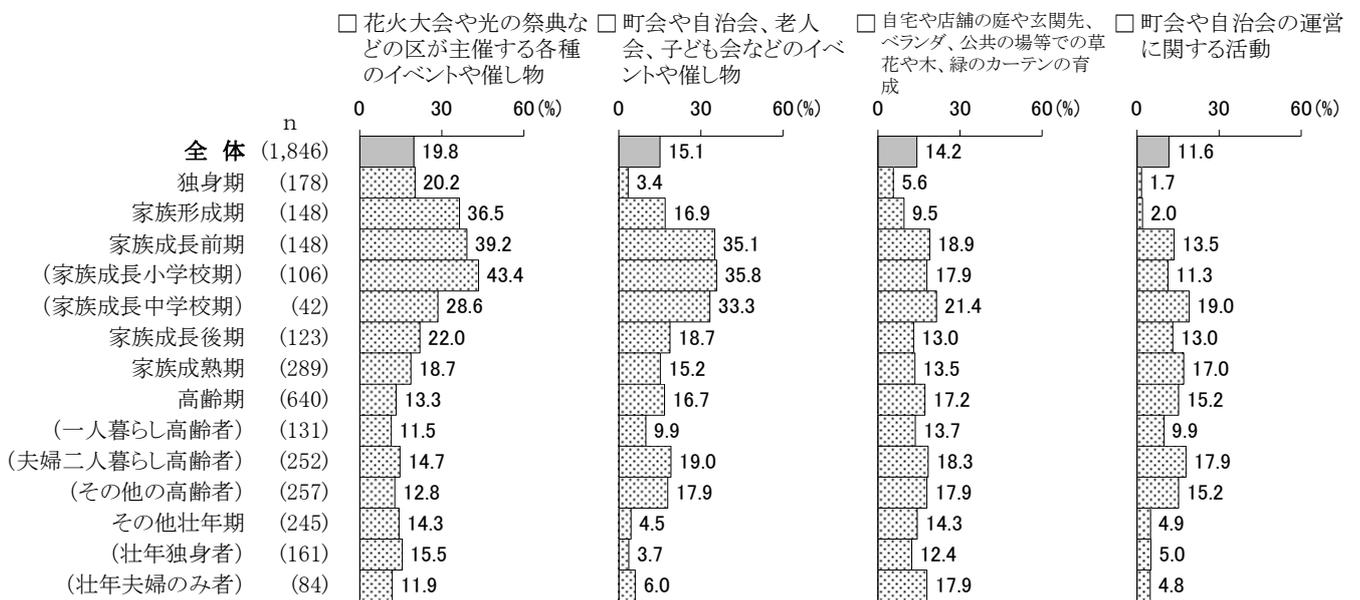
※「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」は、25年度まで「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

引き続き、または今後参加したい活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が23.4%で最も高く、次いで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」(14.6%)、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(13.8%)となっている。

経年でみると、今回調査では、「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」が4.2ポイント増加した。

この1年間で参加した活動をライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、家族成長小学校期で4割を超えて高くなっている。また「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は、家族成長前期、家族成長小学校期、家族成長中学校期で3割台半ば前後と、他のステージに比べて高くなっている。

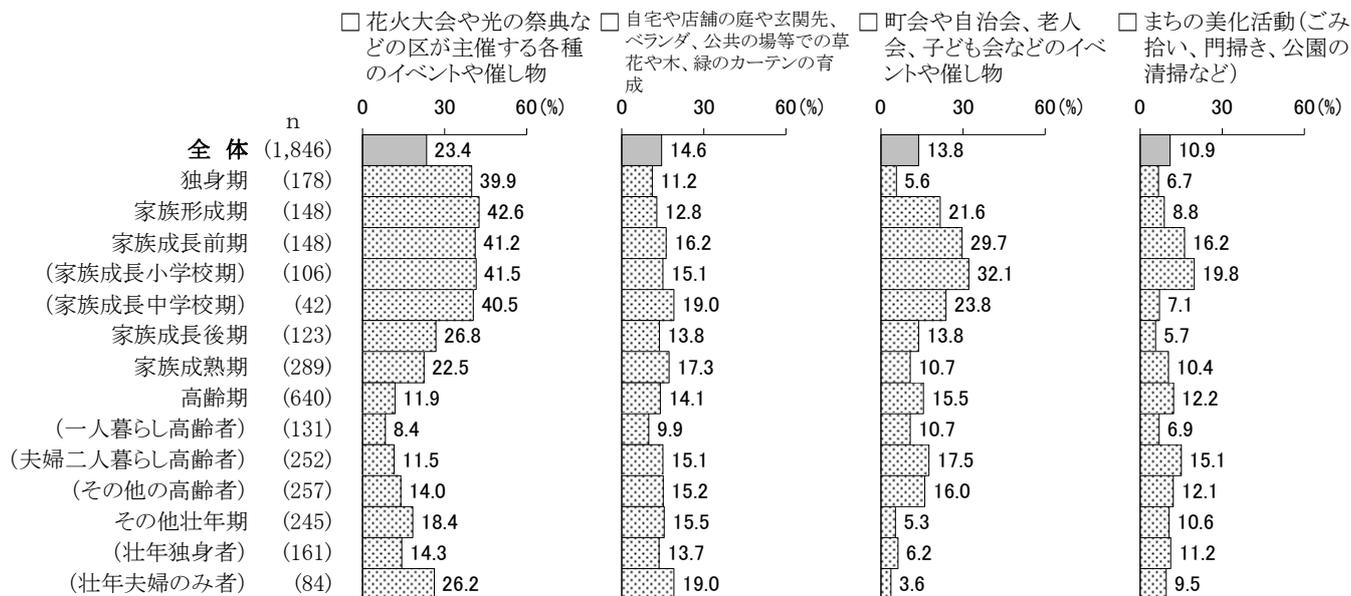
図6-2-3 ライフステージ別／この1年間に参加した活動／上位4項目



第3章 調査結果の分析

引き続き、または今後参加したい活動をライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、独身期、家族形成期、家族成長前期、家族成長小学校期、家族成長中学校期で4割前後と高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は、家族成長前期、家族成長小学校期で3割前後と高くなっている。

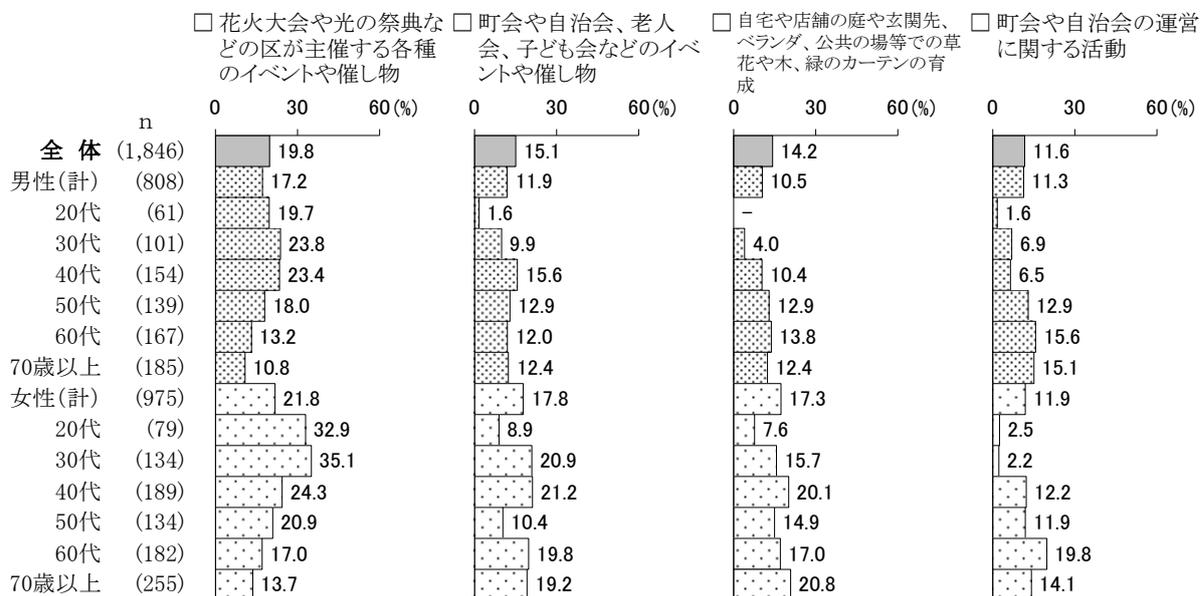
図6-2-4 ライフステージ別／今後の参加意向／上位4項目



この1年間に参加した活動を性別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、男性17.2%、女性21.8%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、女性20代、30代で「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が3割を超えて高くなっている。

図6-2-5 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動／上位4項目

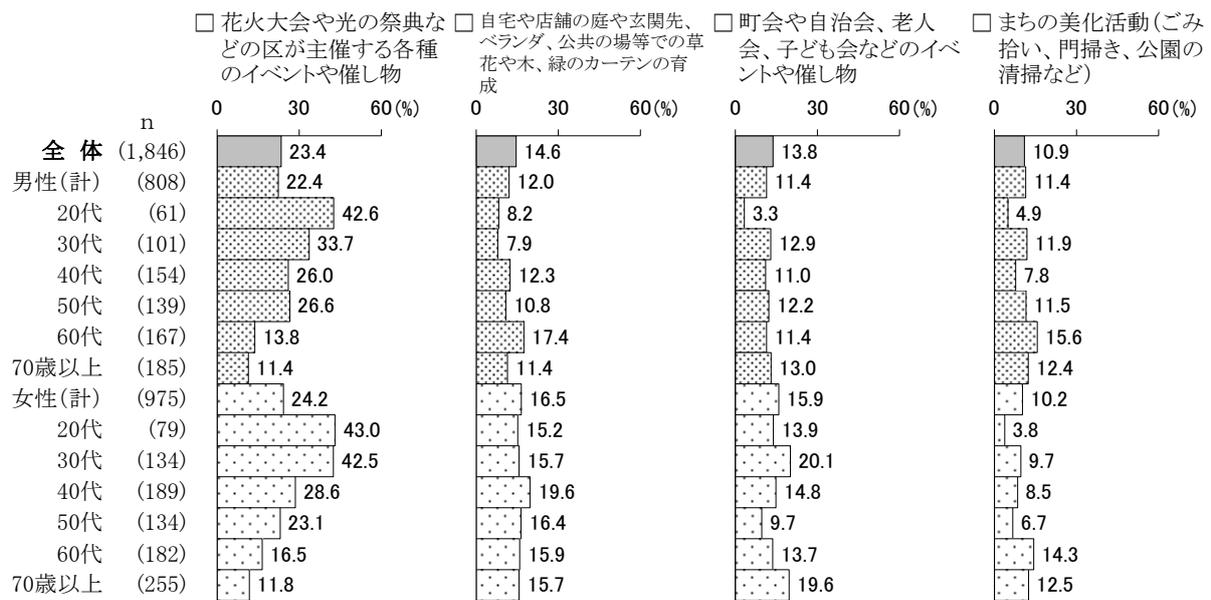


引き続き、または今後参加したい活動を性別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、男性22.4%、女性24.2%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が20代で42.6%と高くなっているほか、30代でも33.7%と高くなっている。

女性では、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が若い年代ほど増加する傾向があり、20代では43.0%となっている。

図6-2-6 性別、性・年代別／今後の参加意向／上位4項目

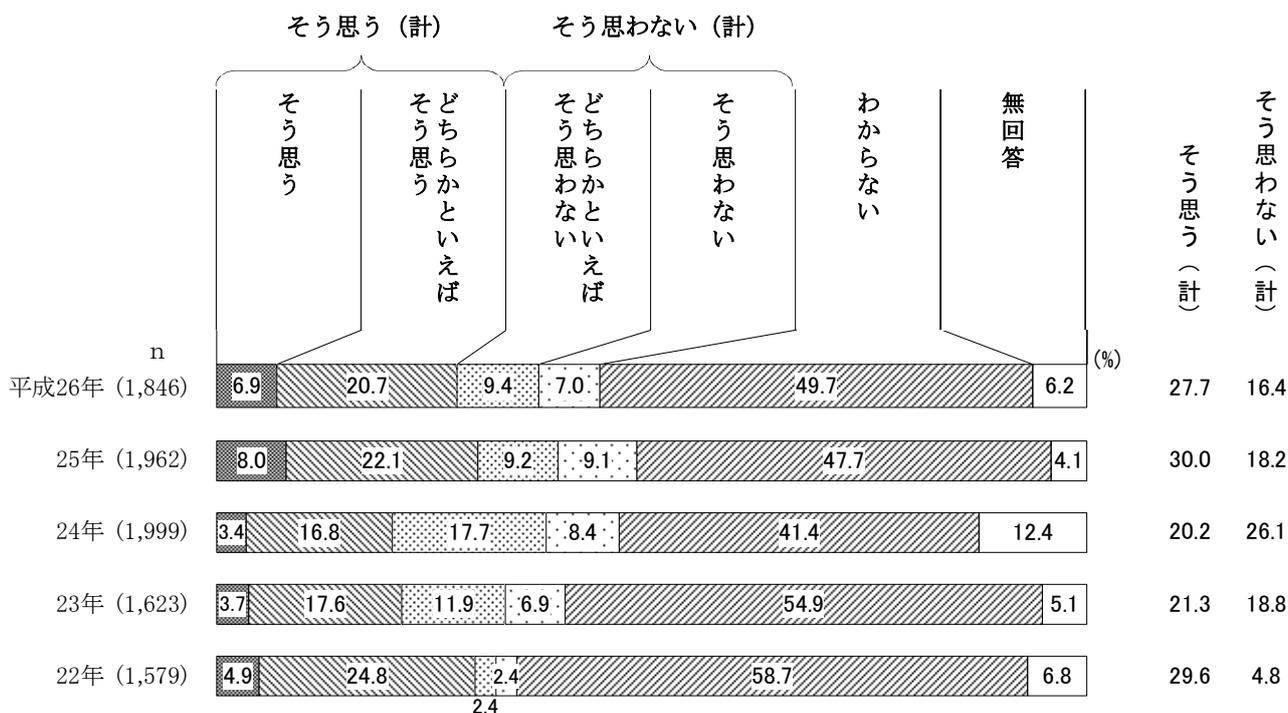


(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

■ 【そう思う】は2割台半ばも、【そう思わない】より10ポイント以上上回る

問27 あなたは、区役所が区民・団体等と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか。（○は1つだけ）

図6-3-1 経年比較／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

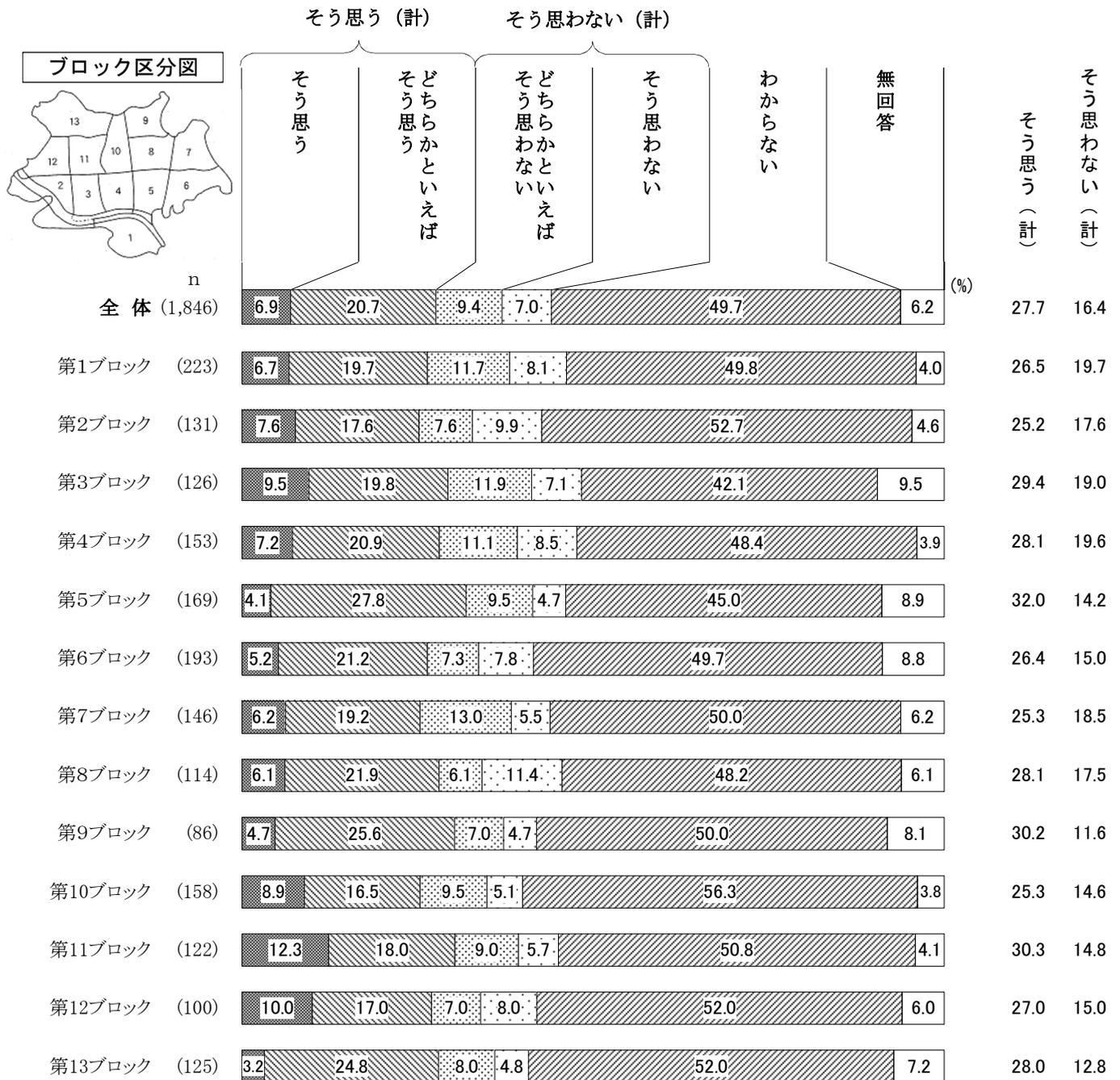


区役所が区民・団体等と協力・連携（協働）して事業を進めていることについて、「そう思う」は6.9%で、これに「どちらかといえばそう思う」の20.7%を合わせた【そう思う】は27.7%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.4%)と「そう思わない」(7.0%)を合わせた【そう思わない】は16.4%となっている。

経年で比較すると、【そう思う】は、前回の30.0%から今回27.7%へと、2.3ポイント減少している。

地域ブロック別で見ると、【そう思う】は、第5ブロック、第9ブロック、第11ブロックで3割を超えて、他のブロックよりやや高くなっている。

図6-3-2 地域ブロック別／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

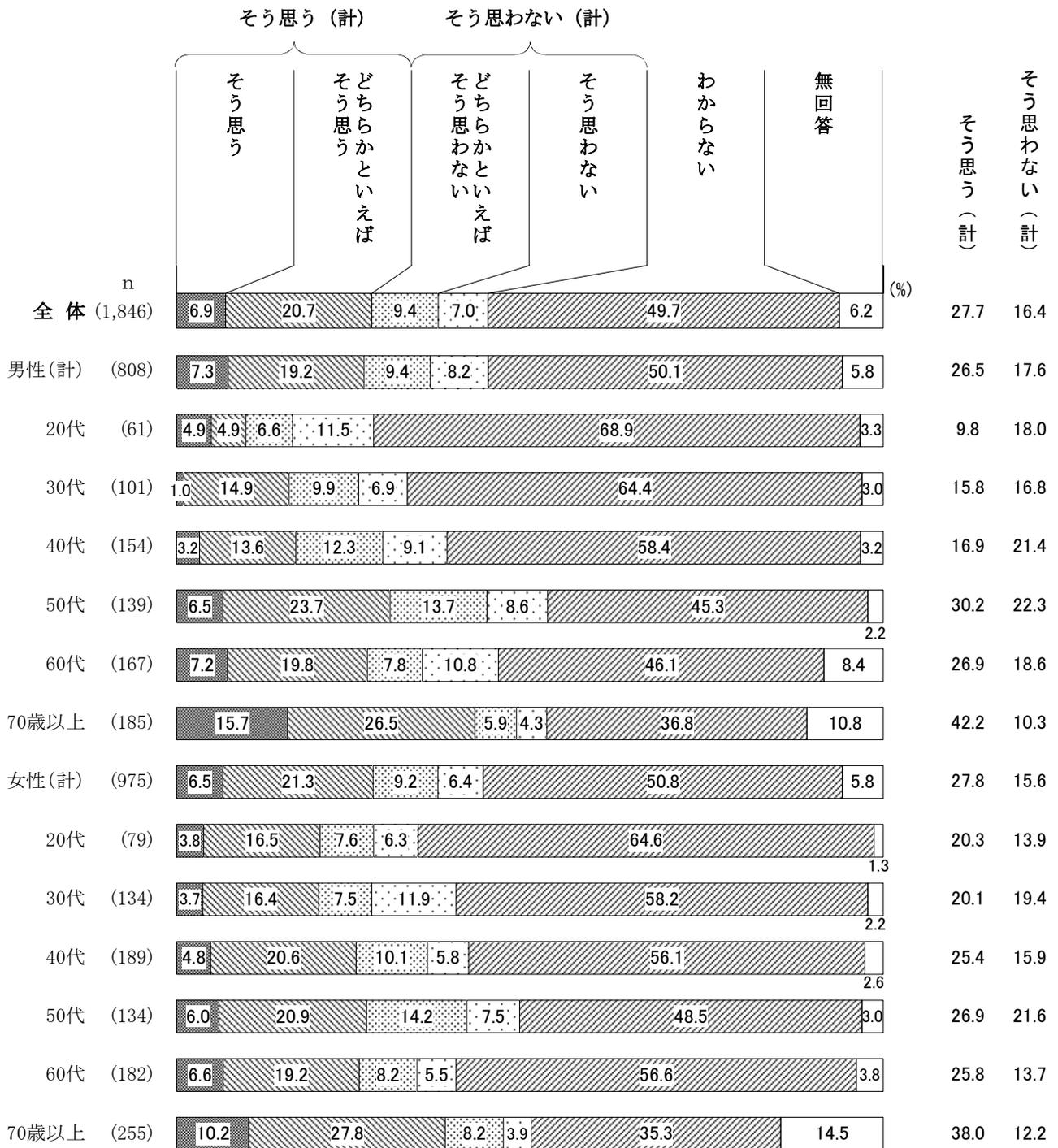


第3章 調査結果の分析

性別でみると、【そう思う】は、男性26.5%、女性27.8%と男性より女性で高くなっている。
 男性では、70歳以上で【そう思う】が42.2%を占めているほか、50代でも30.2%となっている。
 女性では、70歳以上で【そう思う】が38.0%を占めている。

図6-3-3 性別、性・年代別

／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



7 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路
 - (3) 「地域包括支援センター」の認知状況
 - (4) 「地域包括支援センター」の認知経路
 - (5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (6) 協力意向がある活動内容
 - (7) 「成年後見制度」の認知状況
-

7. 「孤立ゼロプロジェクト」など

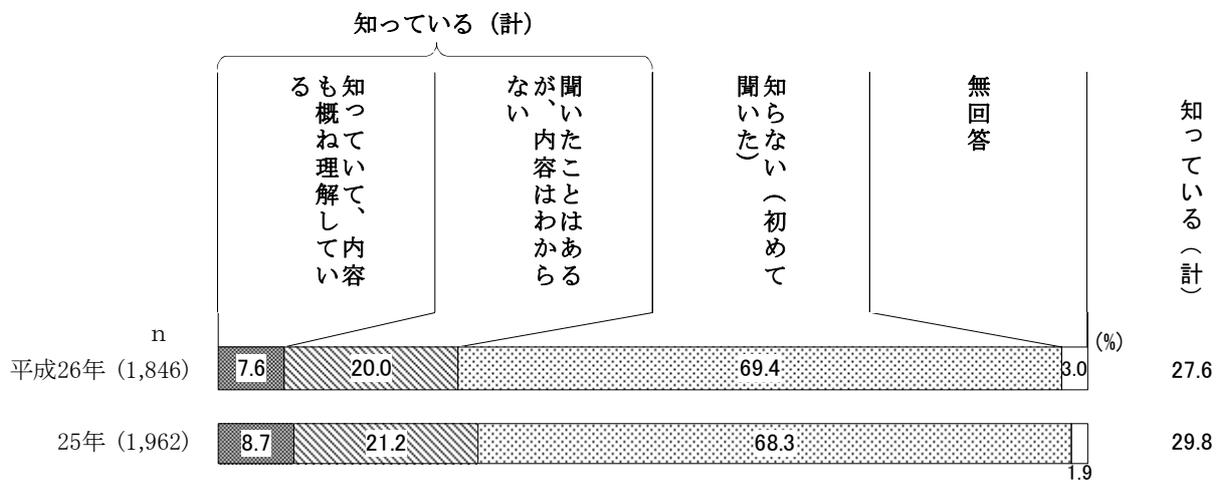
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

■ 【知っている】が2割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」は7割弱

問28 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。
（○は1つだけ）

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図7-1-1 前回調査比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



「孤立ゼロプロジェクト」について、「知っていて、内容も概ね理解している」が7.6%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の20.0%を合わせた【知っている】は27.6%となっている。

一方、「知らない（初めて聞いた）」は69.4%を占めている。

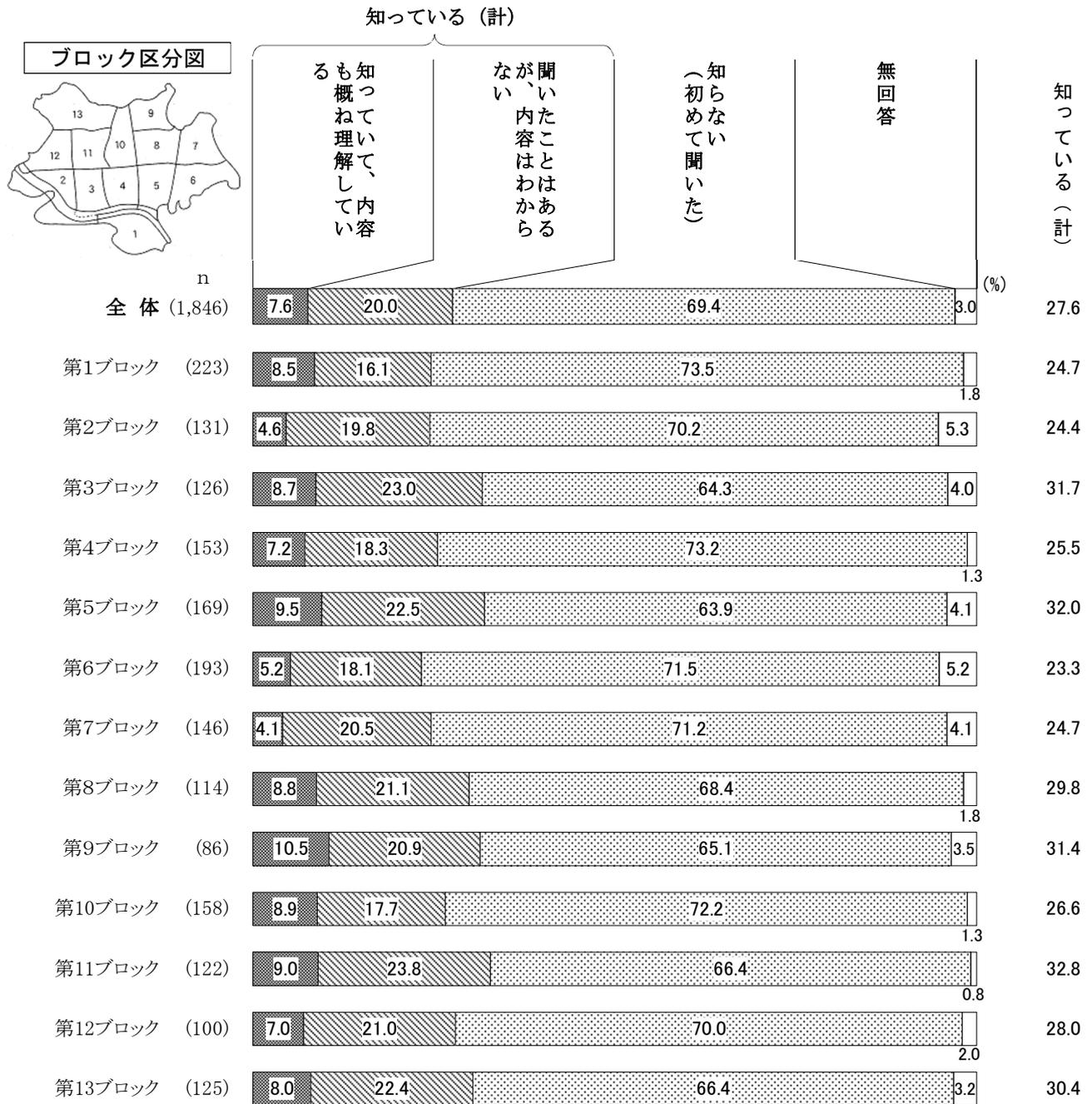
前回結果と比較すると、大きな差はみられない。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、【知っている】は、第3ブロック、第5ブロック、第9ブロック、第11ブロック、第13ブロックで3割を超えて、他のブロックより高くなっている。

地域ブロック別差は、第11ブロック（32.8%）と第6ブロック（23.3%）で最大9.5ポイントであった。

図7-1-2 地域ブロック別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

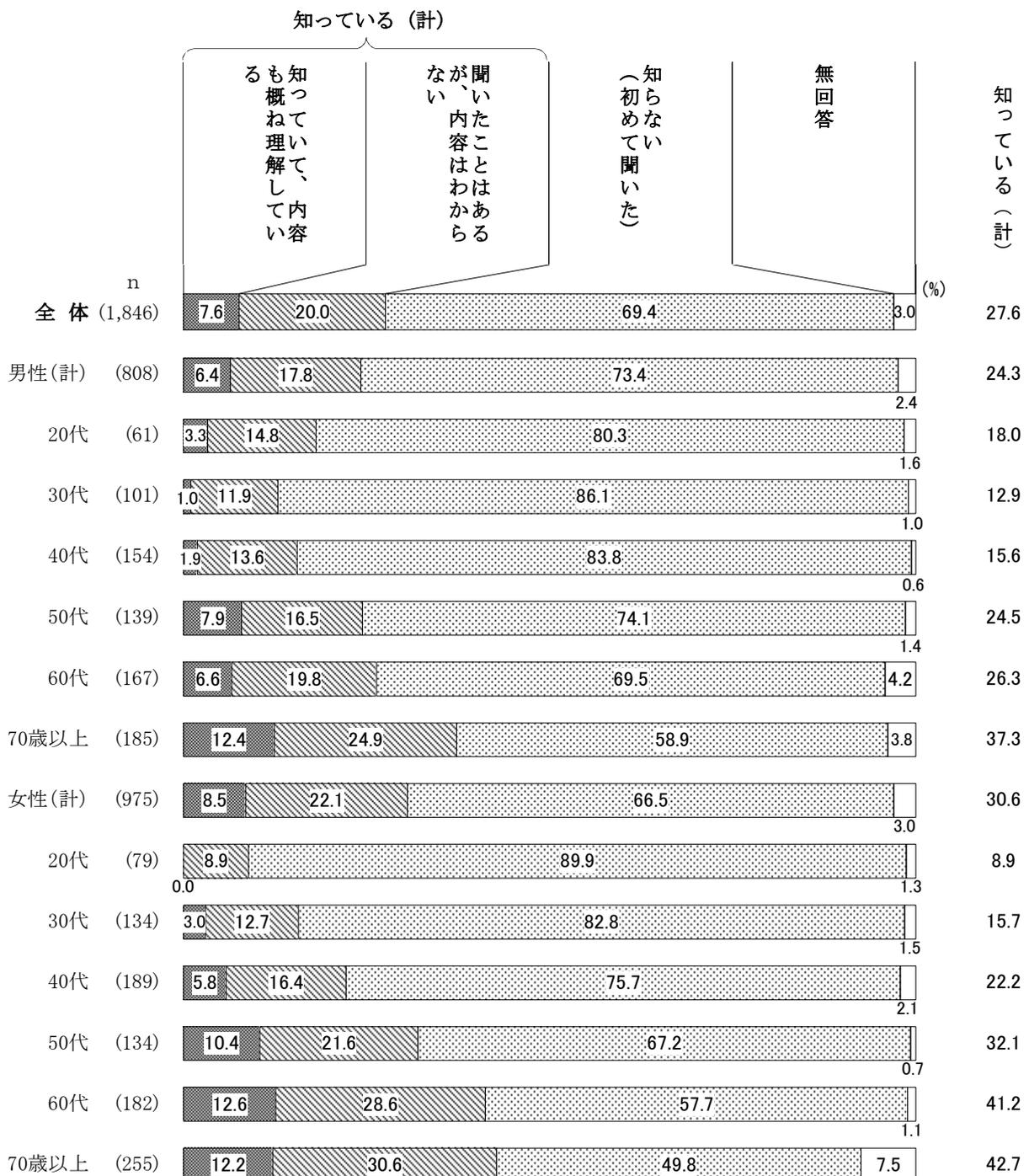


性別で見ると、【知っている】は、男性24.3%、女性30.6%と、男性より女性で高くなっている。
 性・年代別で見ると、女性では、【知っている】は、加齢とともに増加傾向で、60代で41.2%、
 70歳以上では42.7%となっている。

男性でも、30代で一旦落ち込むものの、年代が上がると【知っている】が高くなる点は同様である。

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、年代によって大きな差がある。

図7-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

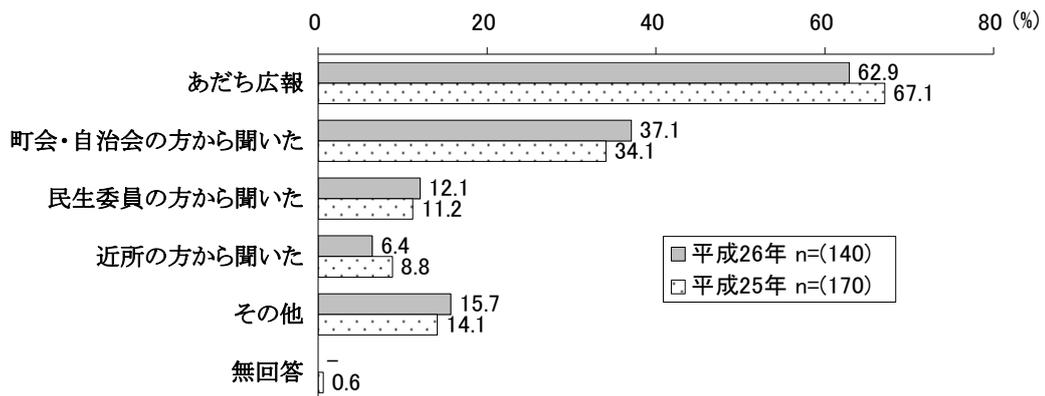
■ 「あだち広報」が6割を超え、多くなっている

問28で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に

問28-1 プロジェクトのことをどのようにして知りましたか。

(○はあてはまるものすべて)

図7-2-1 前回調査比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

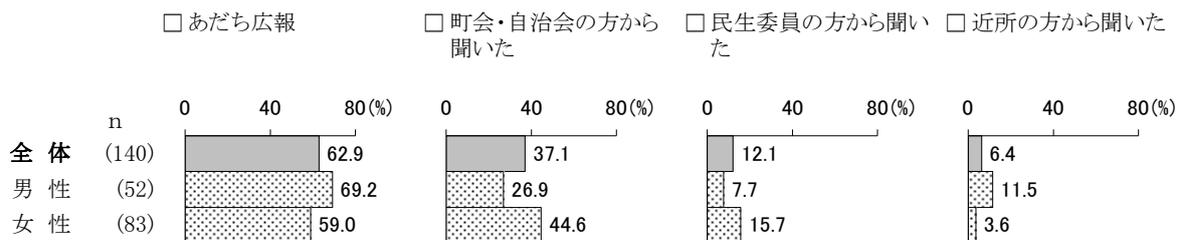


「知っていて、内容も概ね理解している」人に、認知経路を聞いたところ、「あだち広報」が62.9%で最も高く、次いで「町会・自治会の方から聞いた」(37.1%)となっている。

前回結果と比較すると、「あだち広報」が67.1%から62.9%と低くなっている。

性別でみると、「あだち広報」は、男性69.2%、女性59.0%と、男性が女性より10.2ポイント高くなっている。また、「町会・自治会の方から聞いた」は、男性26.9%、女性44.6%と、女性が男性より17.7ポイント高くなっている。

図7-2-2 性別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路



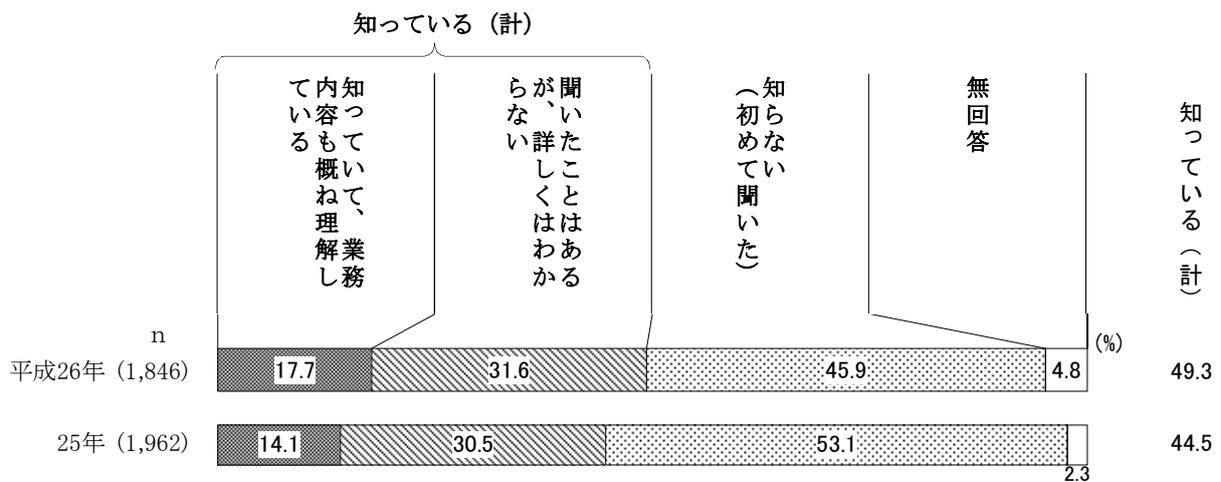
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況

■ 【知っている】が半数に近づく

問29 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図7-3-1 前回調査比較／「地域包括支援センター」の認知状況



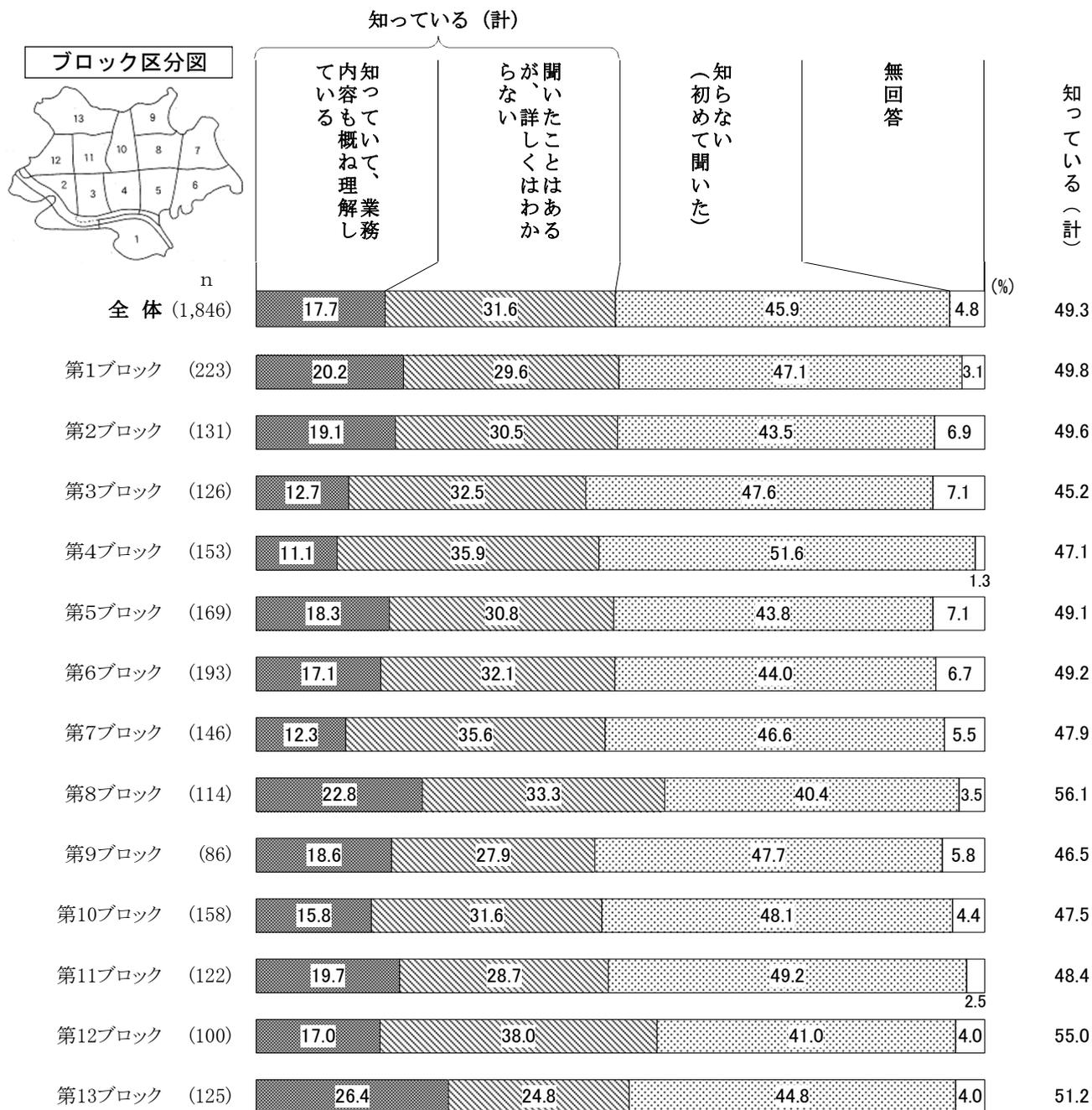
「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が17.7%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」の31.6%を合わせた【知っている】は49.3%である。一方、「知らない (初めて聞いた)」は45.9%を占めている。

前回結果と比較すると、【知っている】は今回49.3%と、前回の44.5%から4.8ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第8ブロック、第12ブロックでは、【知っている】が、それぞれ56.1%、55.0%と、他のブロックよりやや高くなっている。

図7-3-2 地域ブロック別／「地域包括支援センター」の認知状況

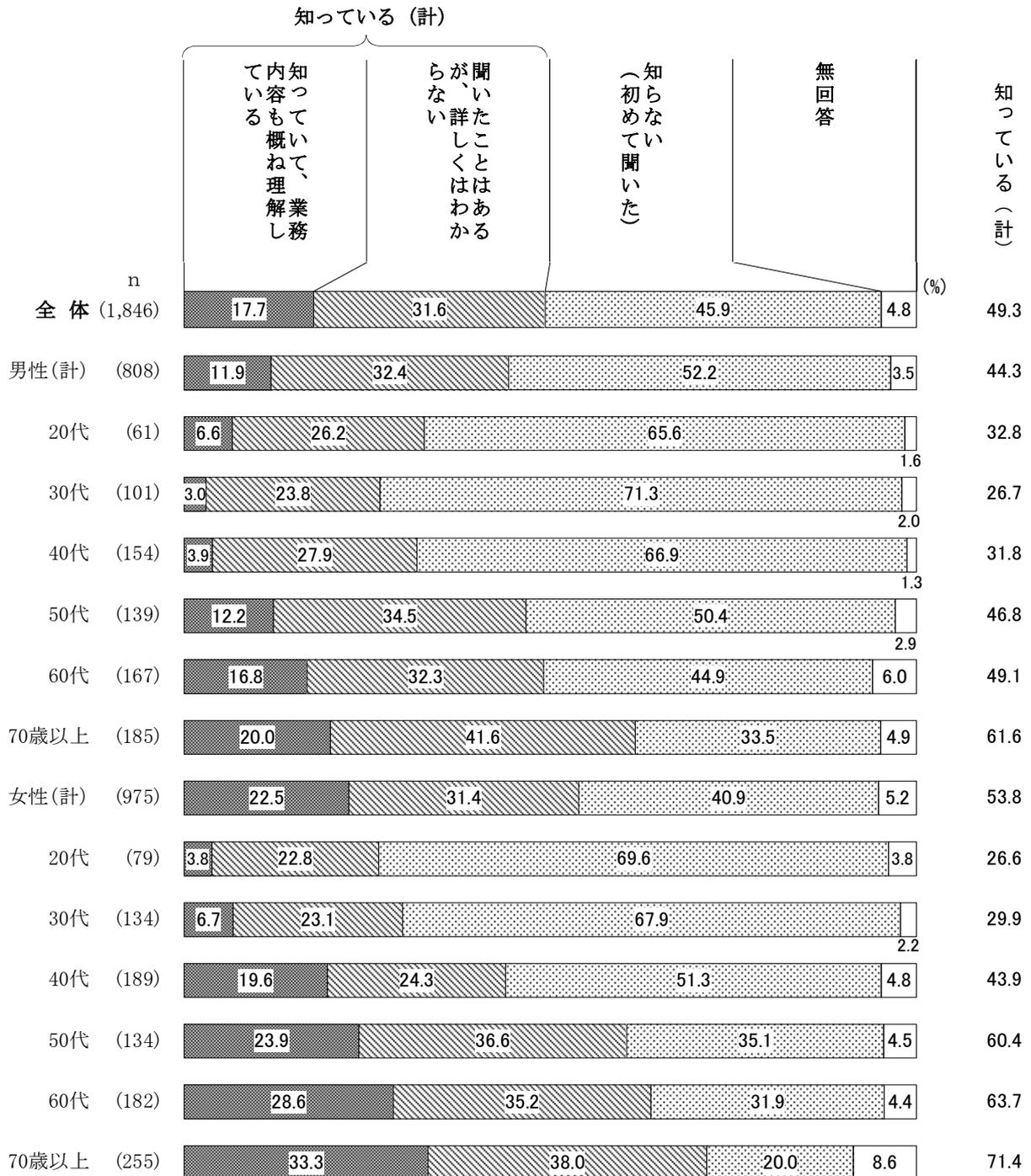


性別でみると、【知っている】は男性44.3%、女性53.8%と男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、女性では、加齢とともに【知っている】が増加傾向であり、70歳以上では71.4%と、7割を超えている。

男性でも、30代で一旦落ち込むものの、年代が上がると【知っている】が高くなる傾向があり、70歳以上では61.6%となっている。

図7-3-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況



(4) 「地域包括支援センター」の認知経路

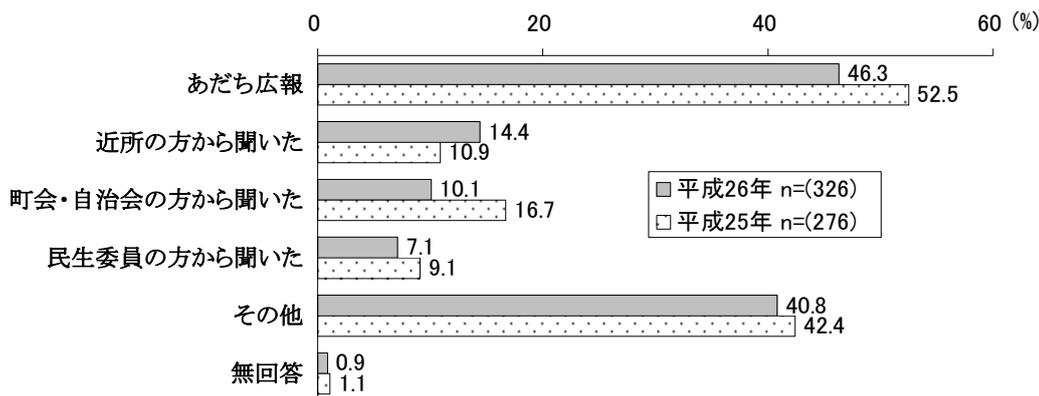
■ 「あだち広報」が4割台半ば

問29で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に

問29-1 「地域包括支援センター」のことをどのようにして知りましたか。

(○はあてはまるものすべて)

図7-4-1 前回調査比較／「地域包括支援センター」の認知経路

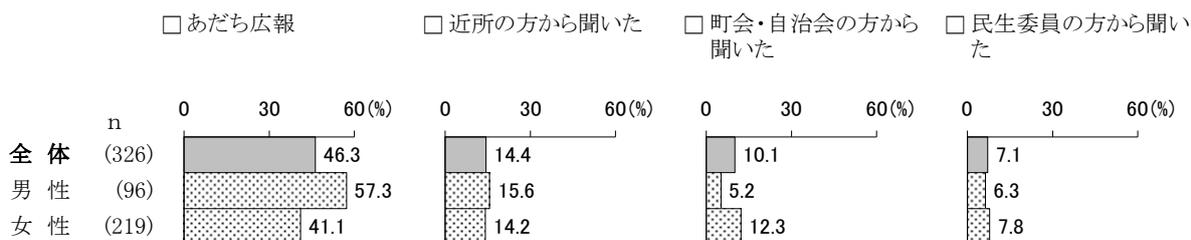


「知っていて、業務内容も概ね理解している」という人に、認知経路を聞いたところ、「あだち広報」が46.3%で最も高く、次いで「近所の方から聞いた」(14.4%)となっている。

前回結果と比較すると、「あだち広報」が52.5%から46.3%と、6.2ポイント低くなっている。

性別で見ると、「あだち広報」は男性57.3%、女性41.1%となっている。また、「近所の方から聞いた」は、男性15.6%、女性14.2%となっている。

図7-4-2 性別／「地域包括支援センター」の認知経路

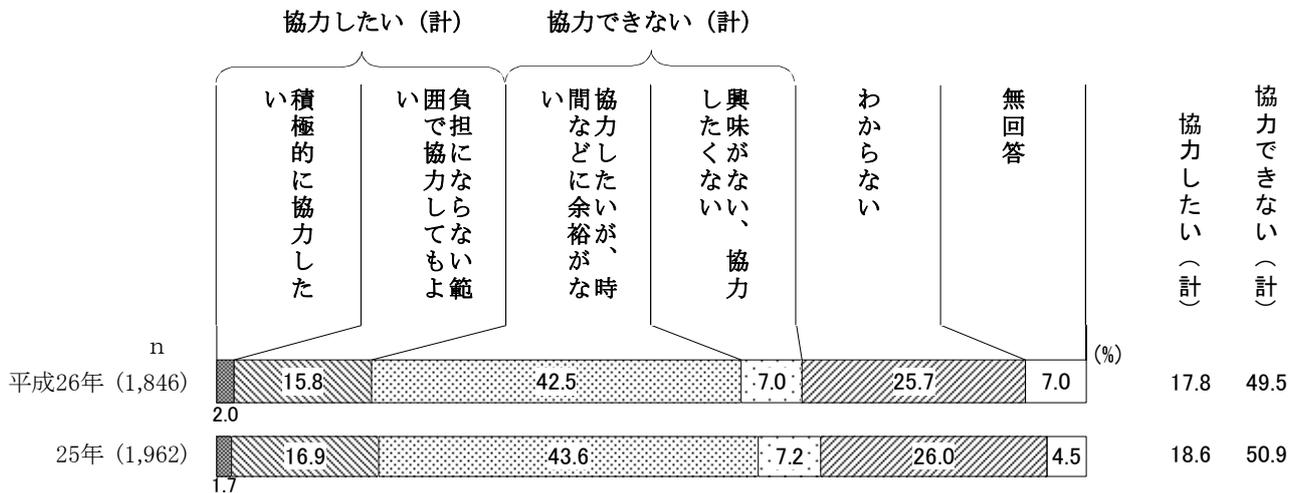


(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■ 【協力したい】の1割台半ばに対し、【協力できない】は5割弱

問30 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか。(○は1つだけ)

図7-5-1 前回調査比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.0%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の15.8%を合わせた【協力したい】は17.8%である。

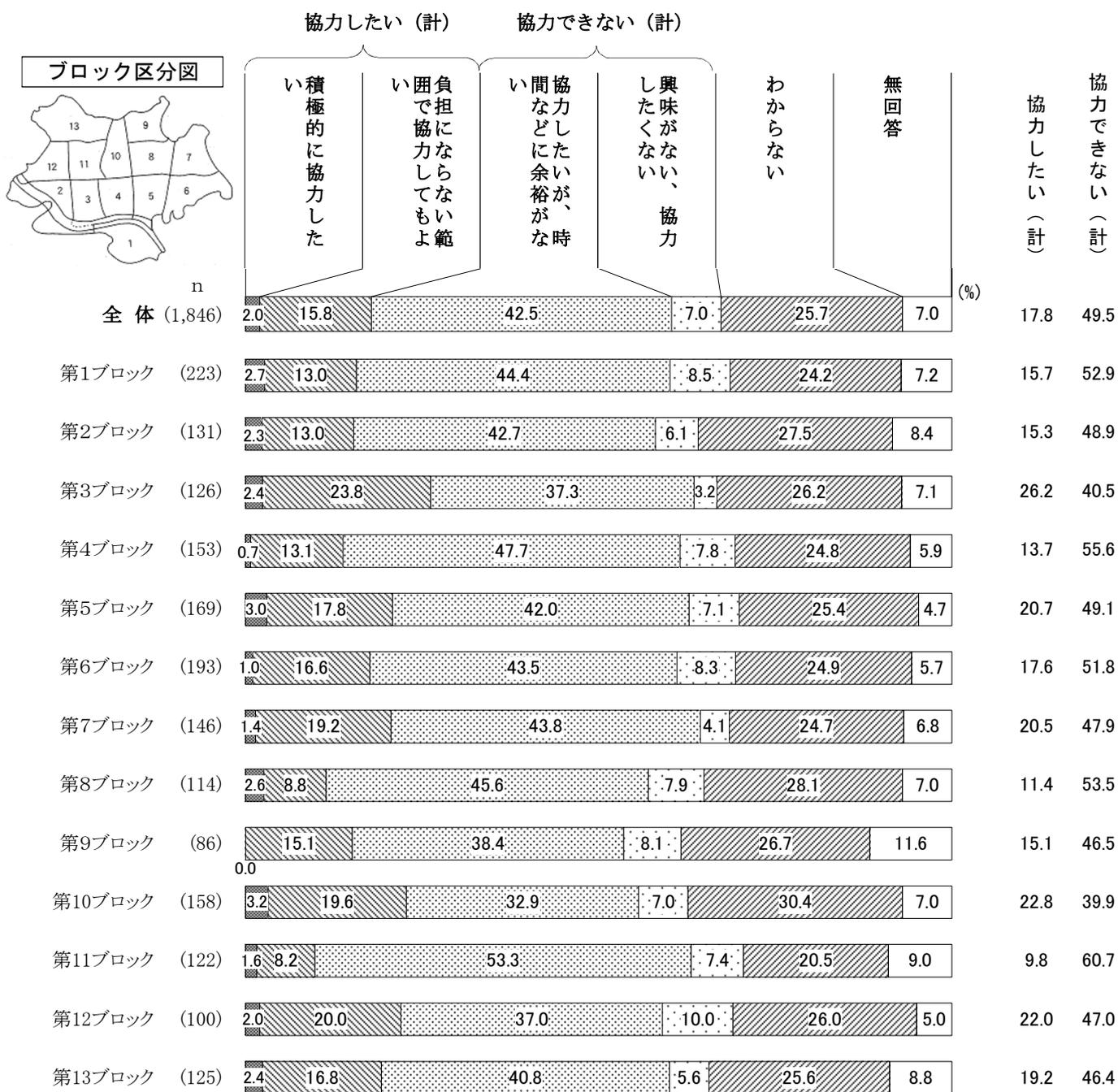
一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は42.5%、「興味がない、協力したくない」は7.0%となっている。

前回結果と比較すると、【協力したい】は18.6%から17.8%と、ほぼ横ばいである。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第3ブロックでは、【協力したい】が26.2%と、全ブロック中最も高くなっている。一方、第11ブロックは【協力したい】が9.8%と最も低くなっている。

図7-5-2 地域ブロック別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

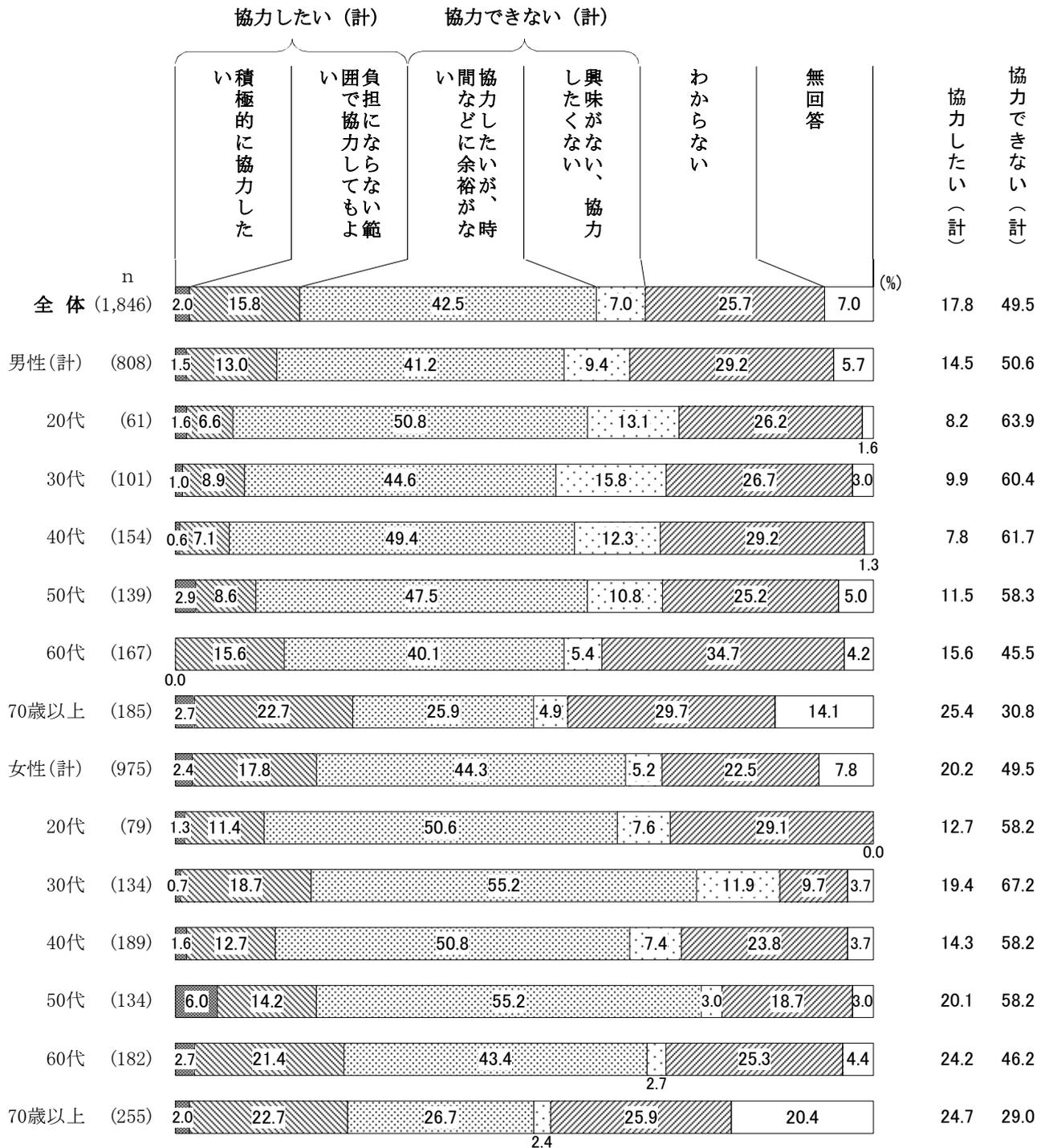


性別でみると、【協力したい】は男性14.5%、女性20.2%となっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【協力したい】が25.4%となっている。40代で【協力したい】は7.8%と、全年代で最も低かった。

女性では、60代、70歳以上で【協力したい】が、それぞれ24.2%、24.7%と、他の年代より高くなっている。

図7-5-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

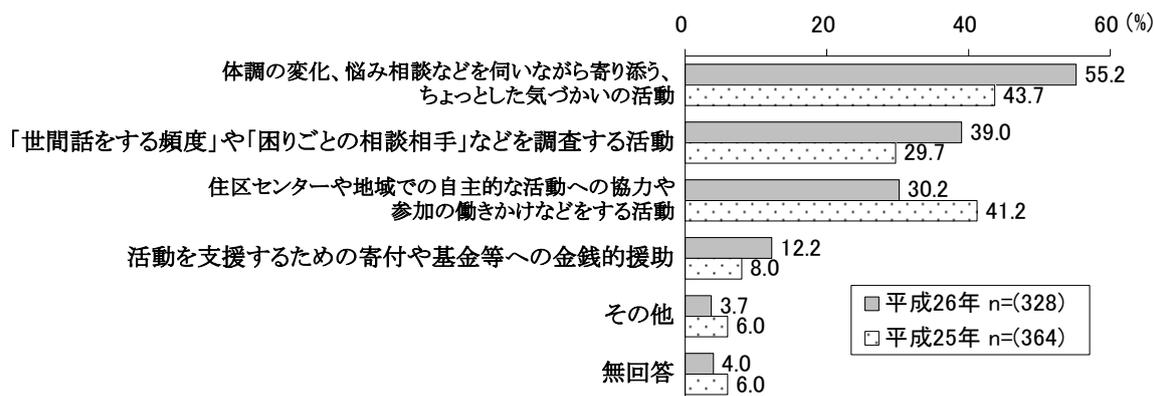


(6) 協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかひの活動” が5割台半ば

問30で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に
問30-1 どのような活動に協力したいですか。(○はあてはまるものすべて)

図7-6-1 前回調査比較/協力意向がある活動内容



平成25年調査の選択肢について

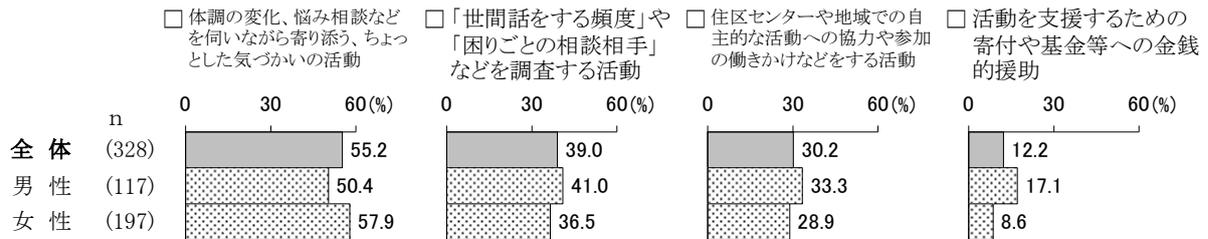
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動＝平成25年調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聞くと、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」が55.2%と最も高く、次いで『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動の39.0%となっている。

前回結果と比較すると、選択肢の表現が違うので参考に過ぎないが、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」は43.7%から55.2%と11.5ポイント、「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動は29.7%から39.0%と9.3ポイント高くなっている。

性別で見ると、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」は男性50.4%、女性57.9%と、女性の方が7.5ポイント高くなっている。また、『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動は男性41.0%、女性36.5%と、男性の方が4.5ポイント高くなっている。

図7-6-2 性別／協力意向がある活動内容

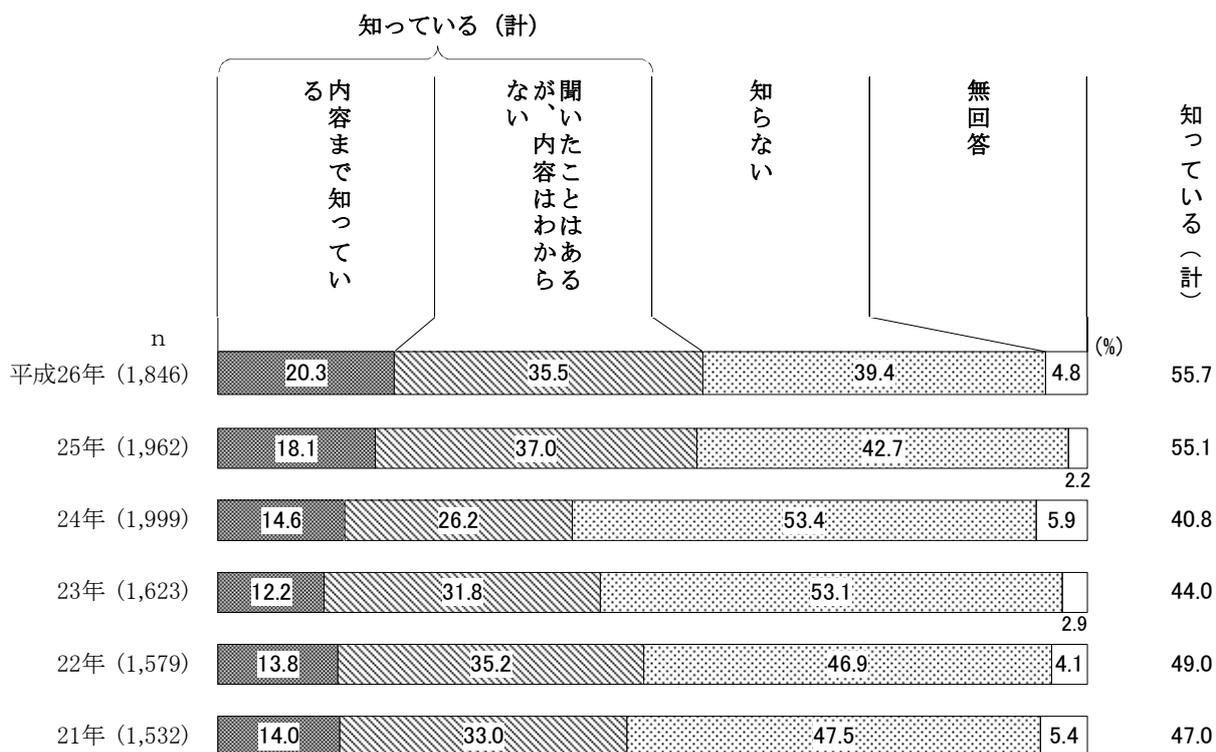


(7) 「成年後見制度」の認知状況

■ 【知っている】は5割台半ば

問31 あなたは、高齢者等の権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。
(○は1つだけ)

図7-7-1 経年比較／「成年後見制度」の認知状況



※ 「聞いたことはあるが、内容はわからない」は、前回まで「名前は知っているが、内容はわからない」。

成年後見制度について、「内容まで知っている」は20.3%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の35.5%を合わせた【知っている】は55.7%と過半数を占めている。一方、「知らない」は39.4%となっている。

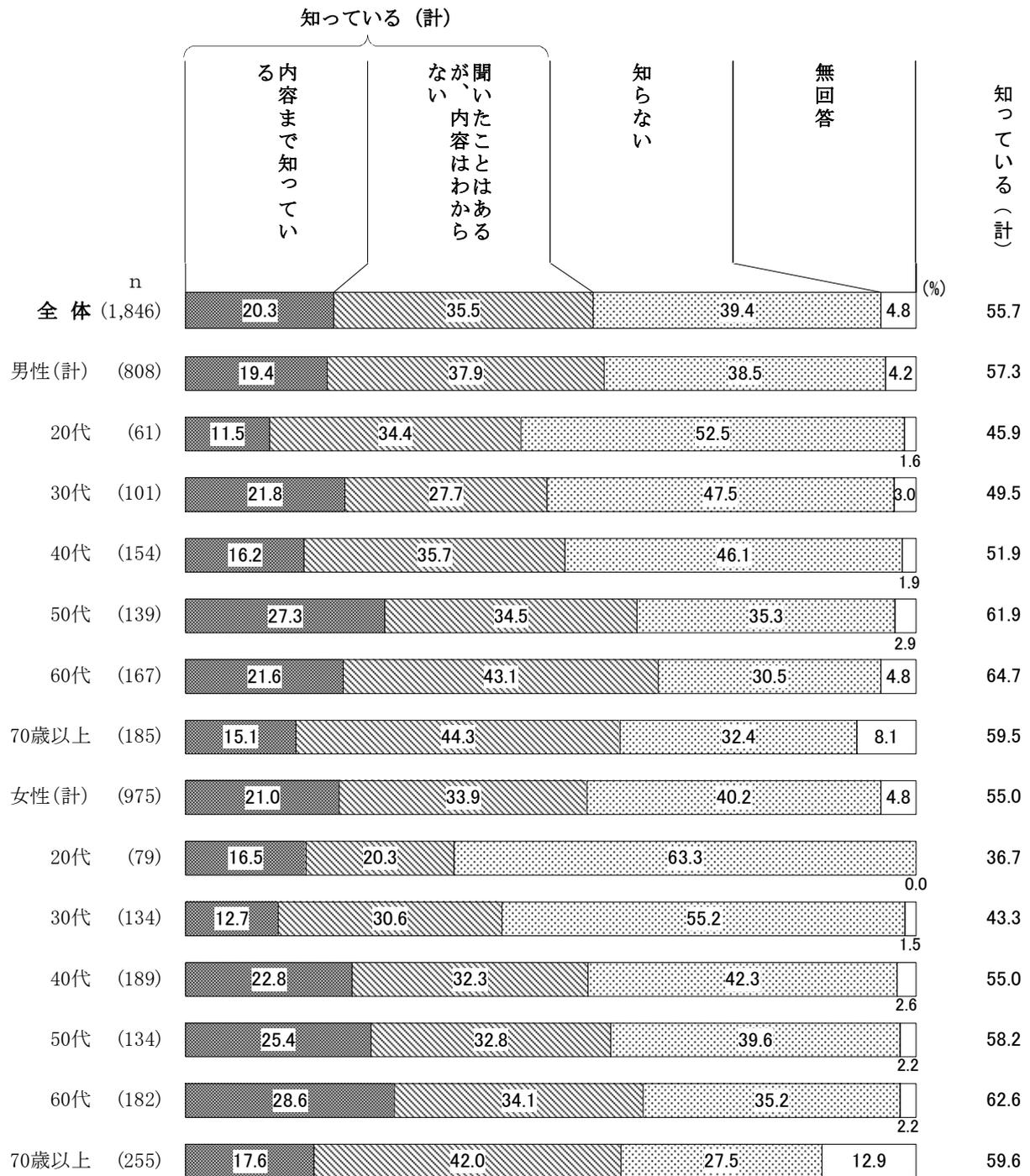
経年で比較すると、【知っている】は前回55.1%から、今回55.7%と、ほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、【知っている】は、男性57.3%、女性55.0%となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代、60代で【知っている】が、それぞれ61.9%、64.7%と高くなっている。

女性では、加齢とともに【知っている】が増加する傾向があり、60代では62.6%と最も高くなっている。

図7-7-2 性別、性・年代別／「成年後見制度」の認知状況



8 ユニバーサルデザイン

-
- (1) ユニバーサルデザインの認知状況
 - (2) ユニバーサルデザインへの関心度
 - (3) ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み
 - (4) ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み
-

8. ユニバーサルデザイン

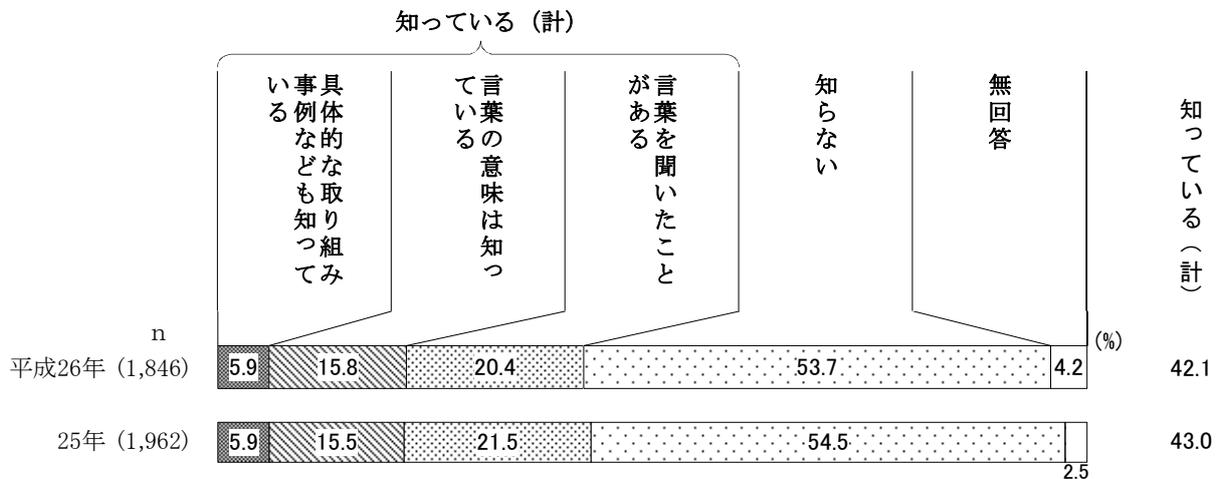
(1) ユニバーサルデザインの認知状況

■ 【知っている】は4割を超える

問32 ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、障がいの有無など個人の様々な状況に関わらず、できる限り多くの人々が利用しやすいように配慮されたデザイン（設計）のことです。あなたは、ユニバーサルデザインについてどの程度知っていますか。

(○は1つだけ)

図8-1-1 前回調査比較／ユニバーサルデザインの認知状況



ユニバーサルデザインについて、「具体的な取り組み事例なども知っている」が5.9%で、これに「言葉の意味は知っている」(15.8%)、「言葉を聞いたことがある」(20.4%)を合わせた【知っている】は42.1%となっている。一方、「知らない」は53.7%と過半数を占めている。

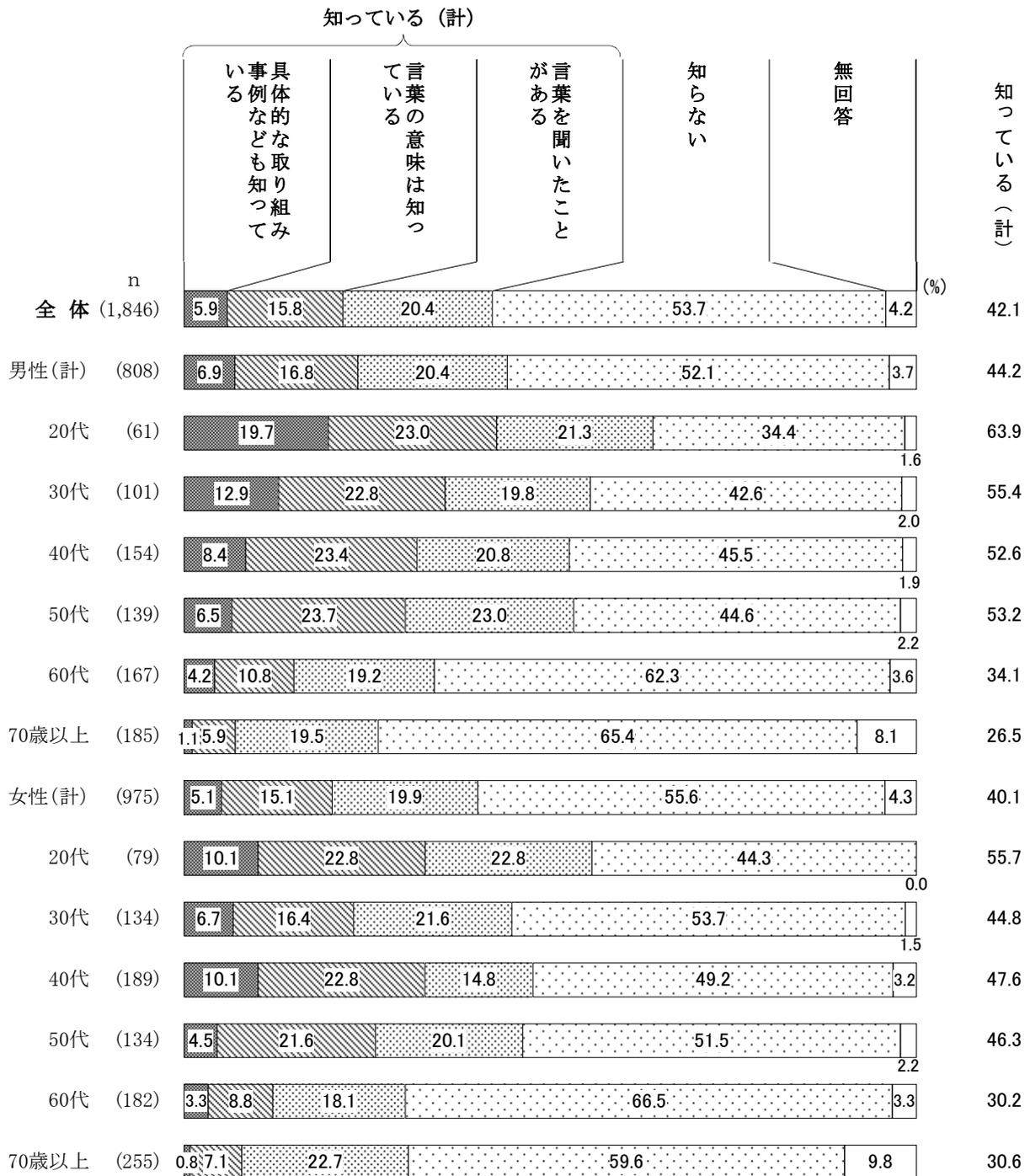
前回結果と比較すると、【知っている】は43.0%から42.1%と、ほぼ横ばいである。

第3章 調査結果の分析

性別でみると、【知っている】は、男性44.2%、女性40.1%と、男性が女性より高くなっている。
 性・年代別でみると、男性では、20代で【知っている】が63.9%を占めているほか、30代、40代、50代でも5割を超えている。

女性では、20代で【知っている】が55.7%と5割を超え、他の年代より高くなっている。
 男女とも60代以上で認知状況は低くなっている。

図8-1-2 性別、性・年代別／ユニバーサルデザインの認知状況

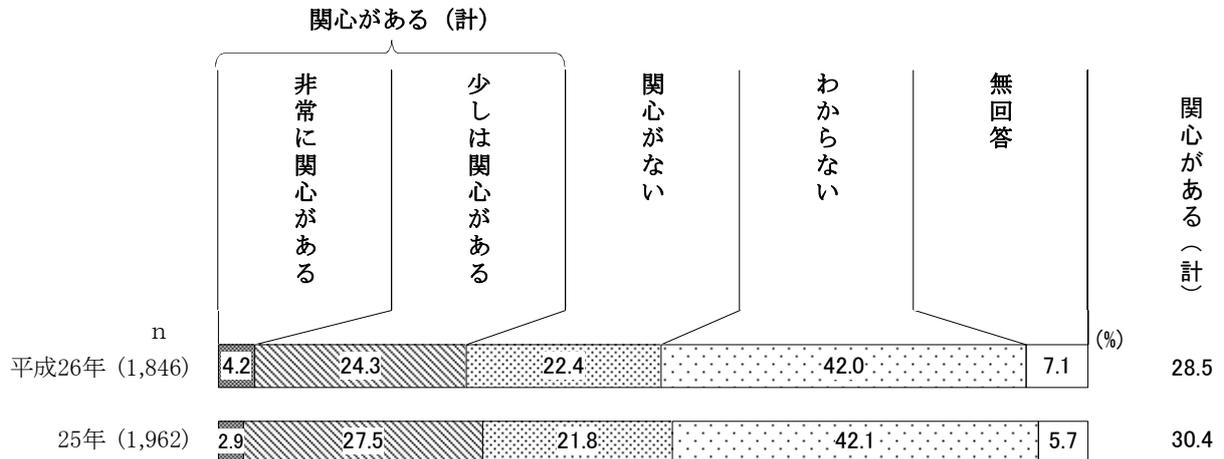


(2) ユニバーサルデザインへの関心度

■ 【関心がある】は3割弱

問33 あなたは、ユニバーサルデザインに関心をお持ちですか。(○は1つだけ)

図8-2-1 前回調査比較／ユニバーサルデザインへの関心度



ユニバーサルデザインに「非常に興味がある」が4.2%で、これに「少しは興味がある」の24.3%を合わせた【関心がある】は28.5%となっている。一方、「関心がない」は22.4%となっている。

前回結果と比較すると、【関心がある】は30.4%から28.5%と微減している。

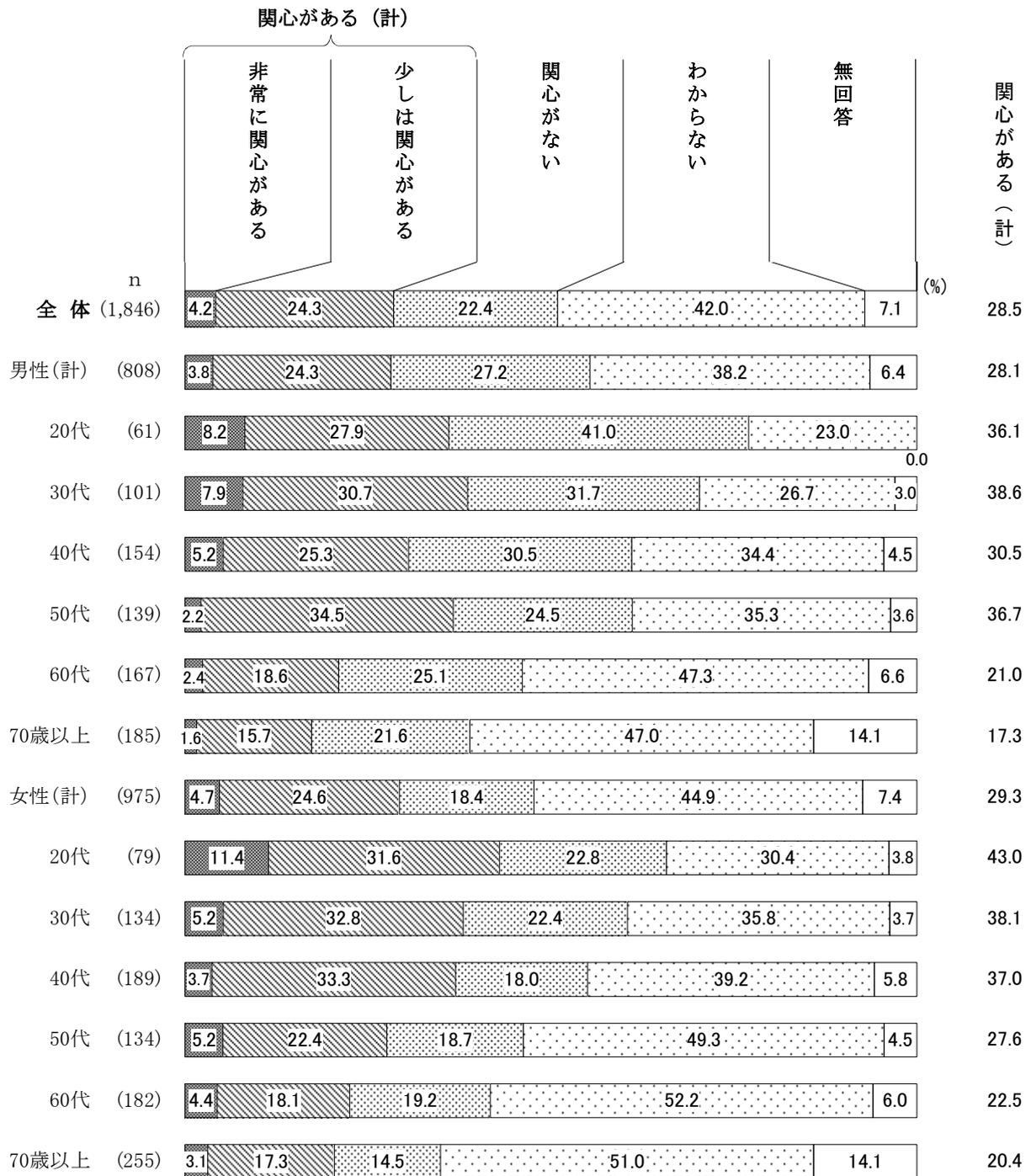
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【関心がある】は、男性28.1%、女性29.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、20代、30代、50代で【関心がある】が3割台半ばを超えている。

女性では、若い年代ほど【関心がある】が増加する傾向があり、20代では43.0%となっている。男女とも60代以上で【関心がある】が低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／ユニバーサルデザインへの関心度

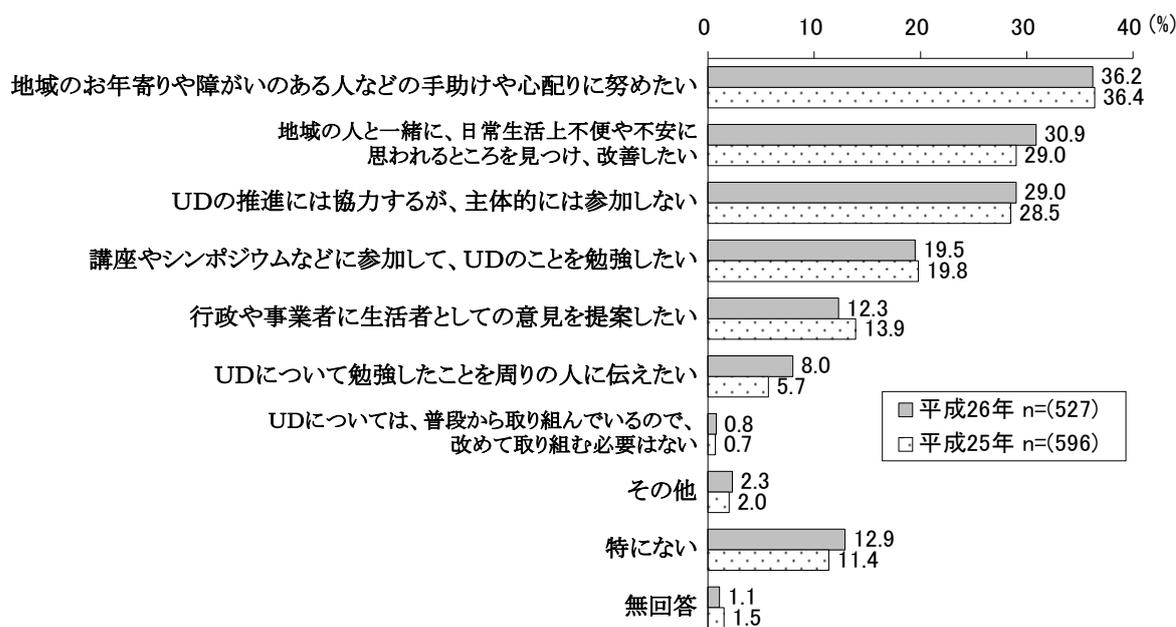


(3) ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み

■ “手助けや心配りに努めたい”が3割台半ば、“地域の人と一緒に、不便や不安に思われることを改善したい”“推進には協力するが、主体的には参加せず”がともに3割前後で上位

問33で「1. 非常に興味がある」、または「2. 少しは興味がある」とお答えの方に
 問33-1 ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）に関することで、今後、あなたはどのような取り組みを行いたいですか。（〇は3つまで）

図8-3-1 前回調査比較／ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み



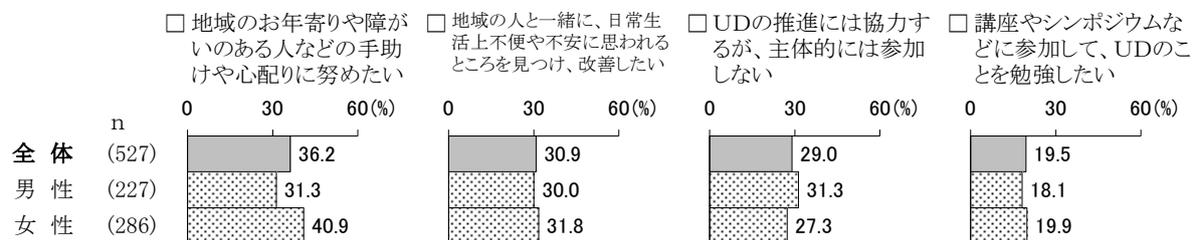
【関心がある】という人に、取り組みたいことを聞くと、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」が36.2%で最も高く、以下「地域の人と一緒に、日常生活上不便や不安に思われるところを見つけ、改善したい」（30.9%）、「UDの推進には協力するが、主体的には参加しない」（29.0%）の順となっている。

前回結果と比較すると、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」は36.4%から36.2%と、ほぼ横ばいである。

第3章 調査結果の分析

性別で見ると、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」は男性31.3%、女性40.9%と、女性の方が高くなっている。

図8-3-2 性別／ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み／上位4項目

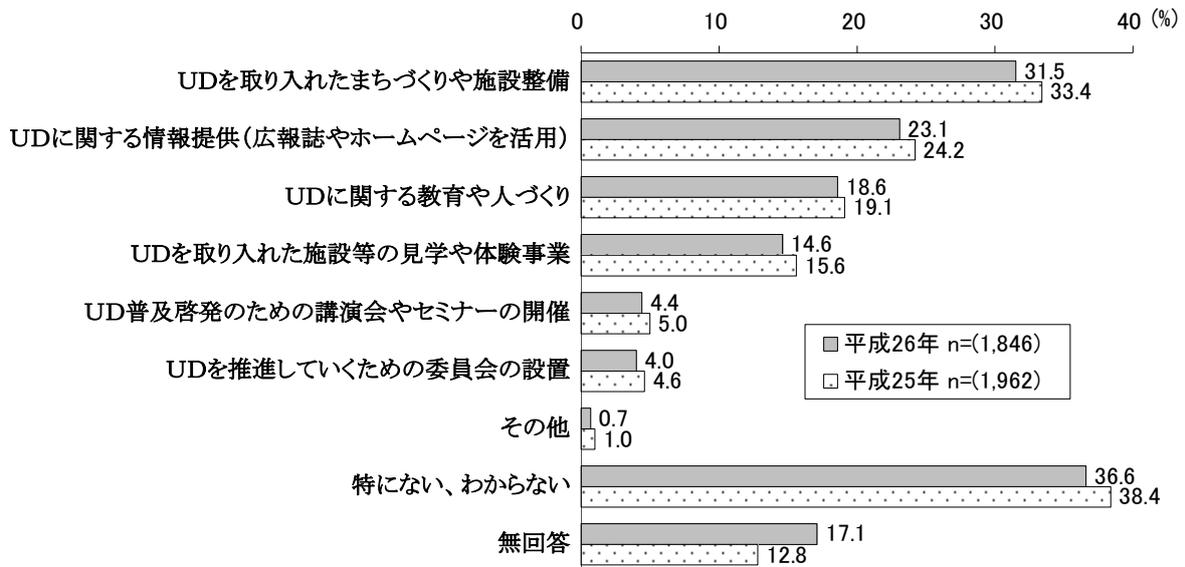


(4) ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み

■ 「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」が3割を超える

問34 あなたは、ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）を推進していく上で、どのような取り組みが必要だとお考えですか。（〇は3つまで）

図8-4-1 前回調査比較／ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み



ユニバーサルデザインを推進していく上で、必要な取り組みとしては、「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」が31.5%で最も高く、以下「UDに関する情報提供（広報誌やホームページを活用）」（23.1%）、「UDに関する教育や人づくり」（18.6%）の順となっている。

前回結果と比較すると、すべての項目で微減している。

第3章 調査結果の分析

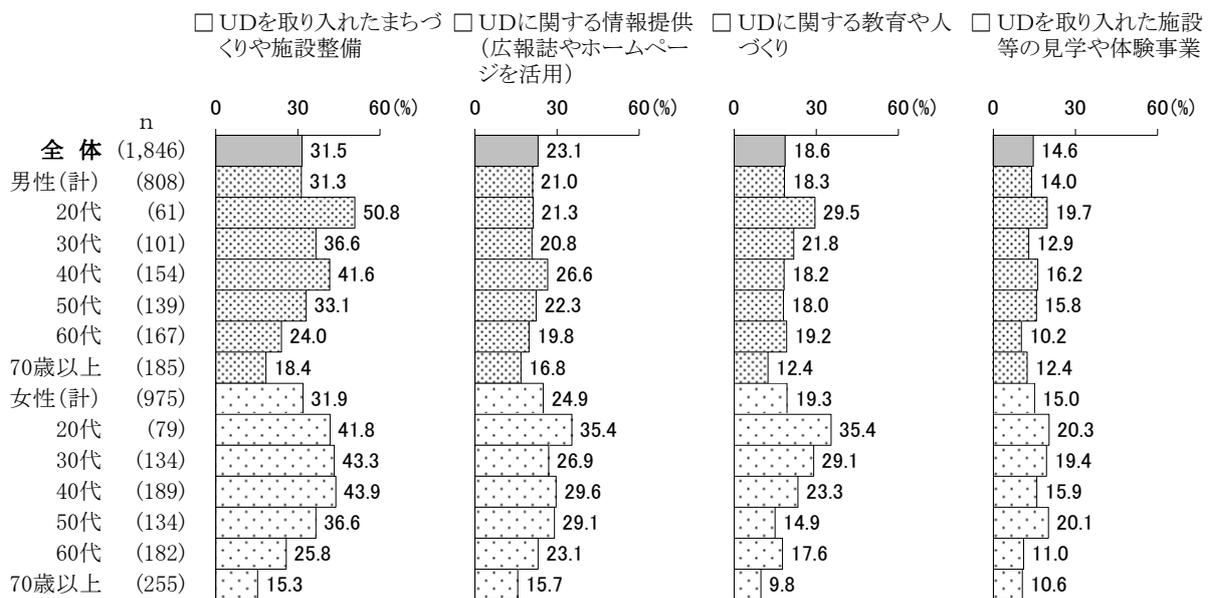
性別でみると、上位4項目について、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」は、20代、40代で、それぞれ50.8%、41.6%と高くなっている。

女性の20代、30代、40代で「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」が4割を超えている。また、20代では、「UDに関する情報提供（広報誌やホームページを活用）」が35.4%と、他の年代より高くなっている。

図8-4-2 性別、性・年代別／ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み

／上位4項目



9 区の取り組み

-
- (1) 満足度と重要度
 - (2) 区政への区民意見の反映度
 - (3) 区に対する気持ち
 - (4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）
 - (5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
 - (6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-

9. 区の取り組み

(1) 満足度と重要度

■満足度は「資源環境対策」が、重要度は「防災対策」が最上位

問35 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください。（○はいずれも、それぞれ1つずつ）

選択肢（区の取り組み）	内 容
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
ニ. 区政全体として	

図9-1-1-① 前回調査比較/現状評価(満足度)

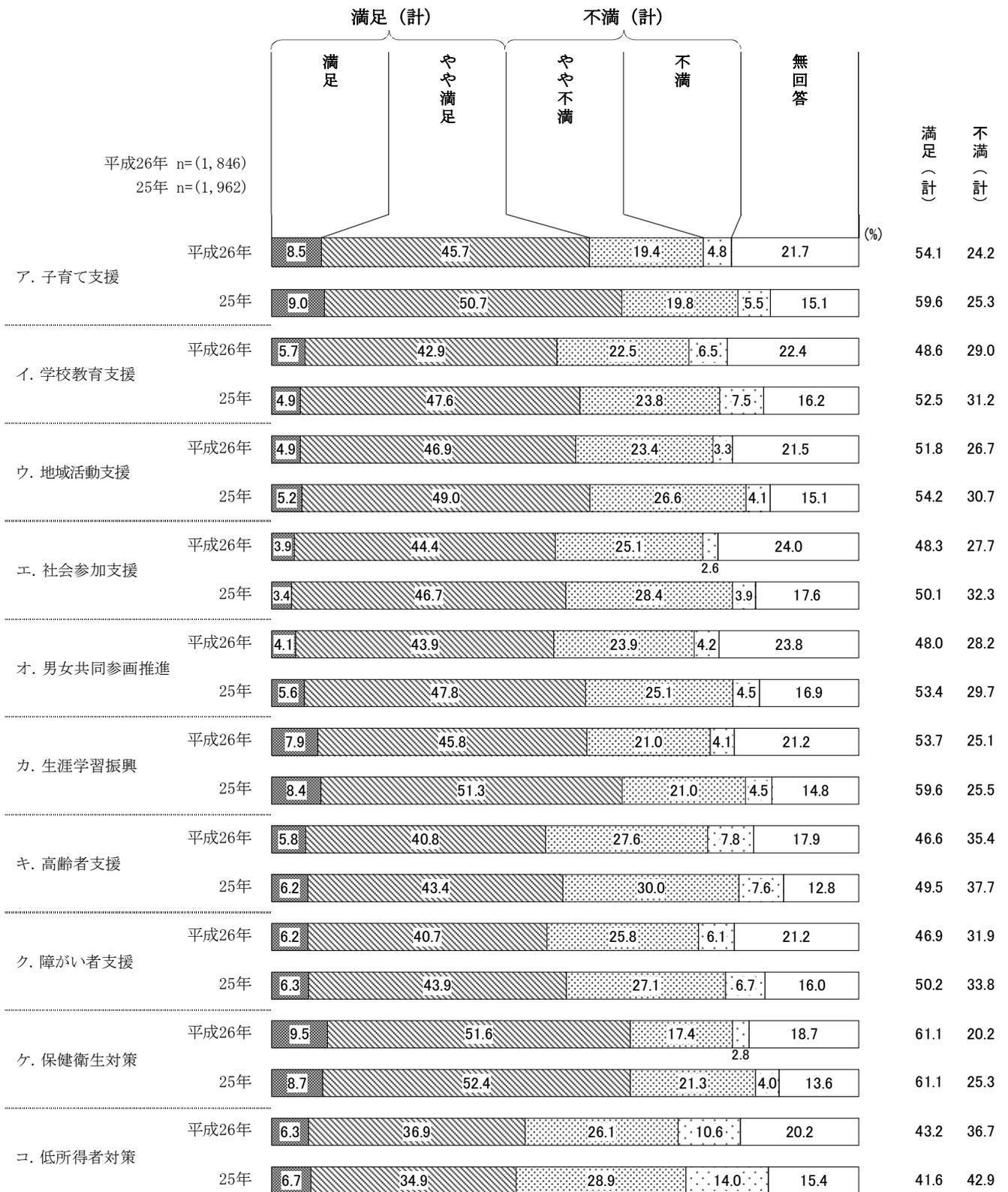
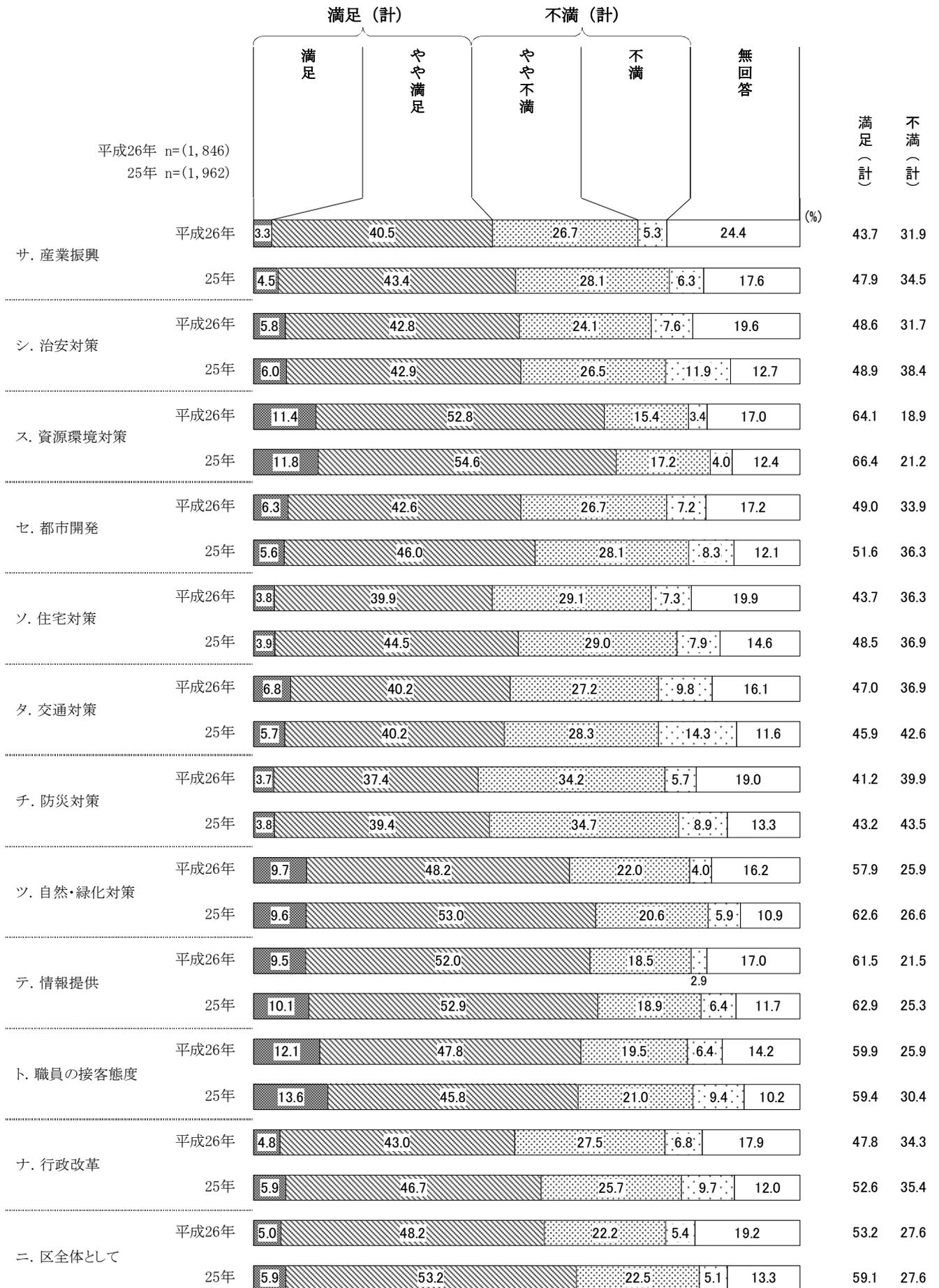


図9-1-1-② 前回調査比較/現状評価(満足度)



第3章 調査結果の分析

区の取り組みについて、各分野に対する現状評価（満足度）をきいた。【満足】（「満足」＋「やや満足」）の高い順でみると、「資源環境対策」が64.1%で最も高く、以下、「情報提供」（61.5%）、「保健衛生対策」（61.1%）、「職員の接客態度」（59.9%）の順で続いている。

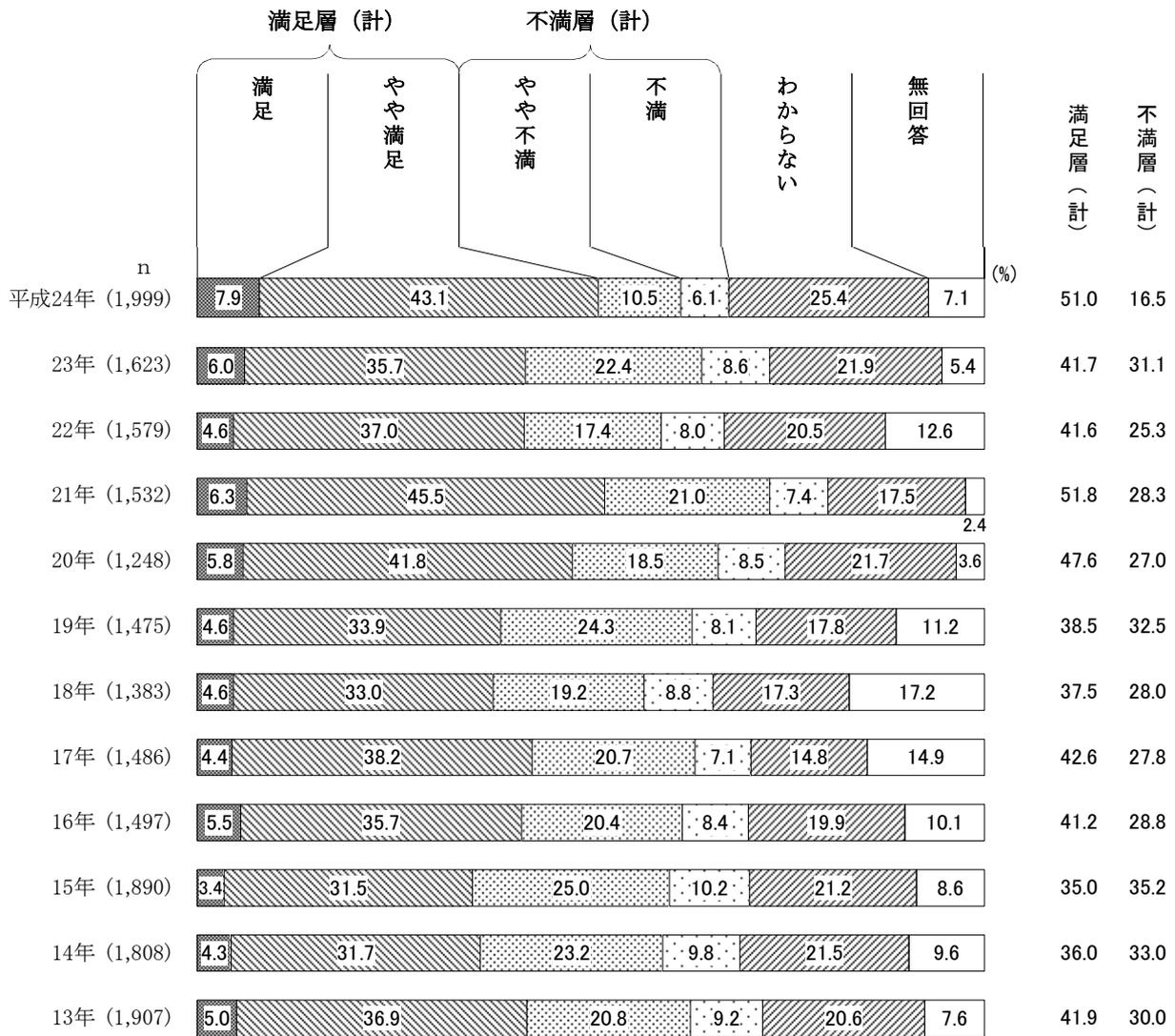
一方、【不満】（「やや不満」＋「不満」）の高いものとしては、「防災対策」（39.9%）、「交通対策」（36.9%）、「低所得者対策」（36.7%）、「住宅対策」（36.3%）があげられる。

前回結果と比較すると、【満足】は、総じて低くなっているが、高くなっているものとして、「低所得者対策」（前回41.6%→今回43.2%）、「交通対策」（前回45.9%→今回47.0%）、「職員の接客態度」（前回59.4%→今回59.9%）があげられる。

一方、【不満】については、前回より高くなったものはない。

参考／区政に対する満足度

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。(○は1つだけ)



※平成24年までは「わからない」という選択肢があるため、結果を単純に比較することはできない

図9-1-2-① 前回調査比較／重要度

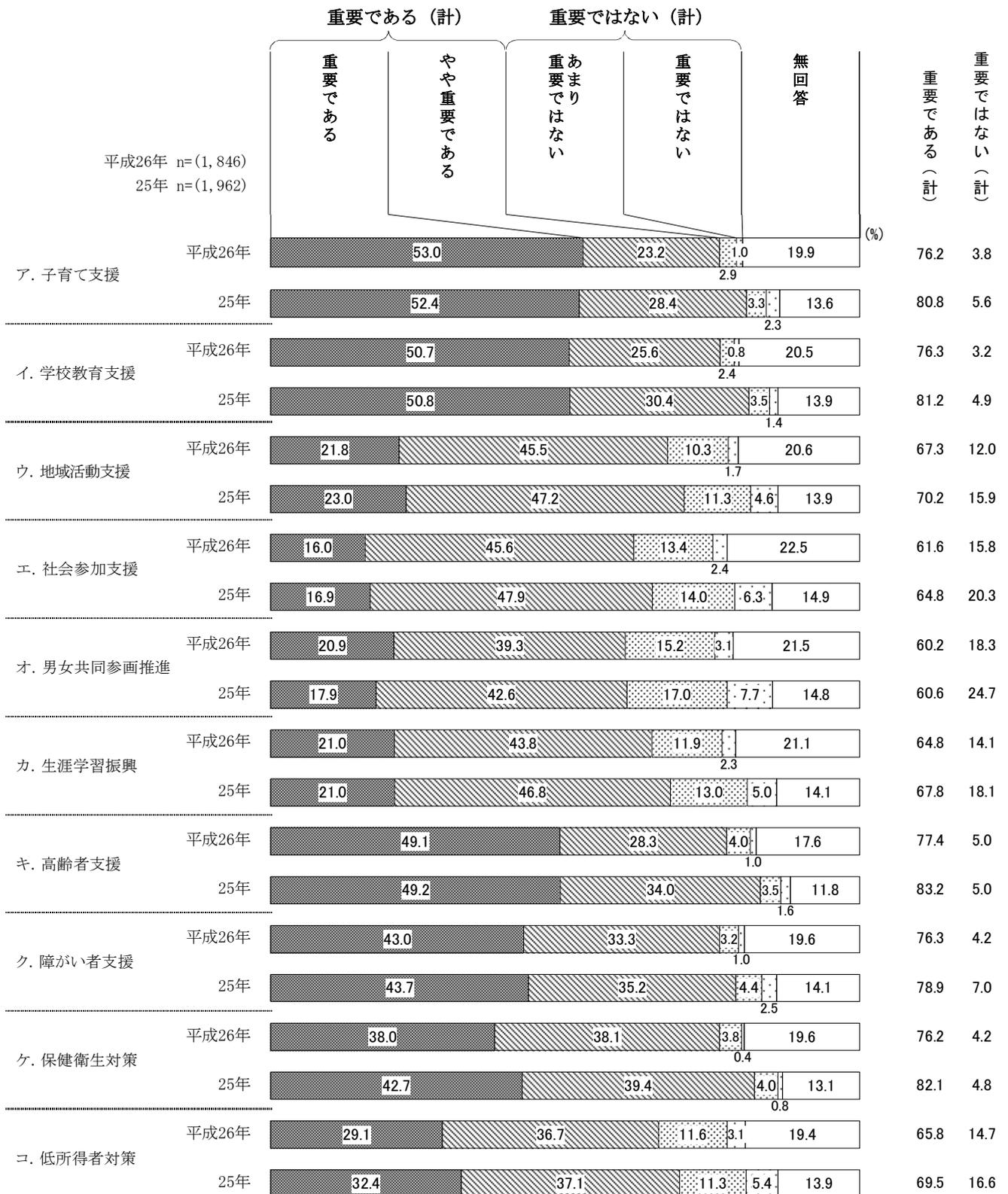
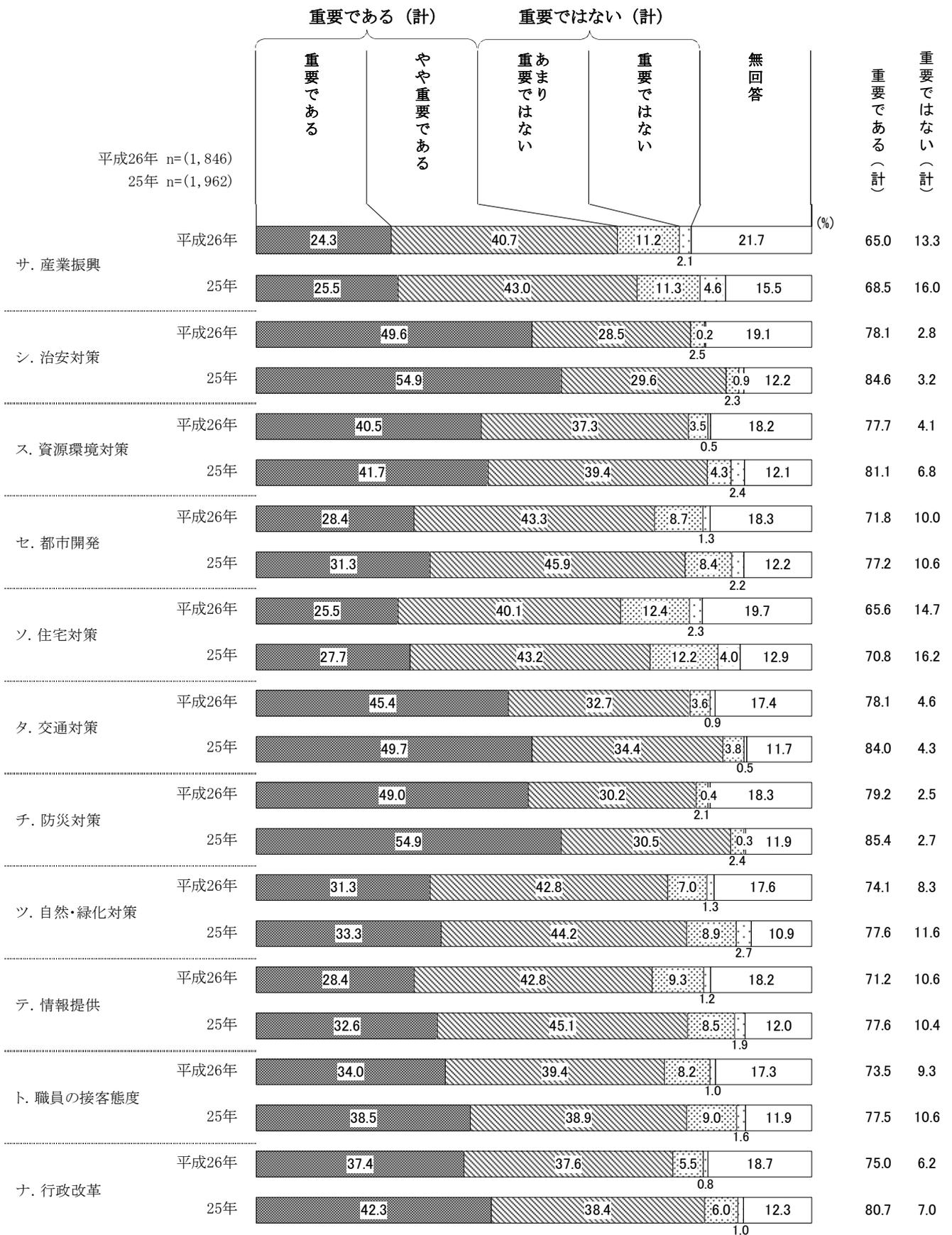


図9-1-2-② 前回調査比較/重要度



第3章 調査結果の分析

区の手配組みについて、各分野に対する重要度をきいた。【重要である】（「重要である」＋「やや重要である」）の高い順でみると、「防災対策」が79.2%で最も高く、以下「治安対策」「交通対策」（ともに78.1%）、「資源環境対策」（77.7%）の順で続いている。

前回結果と比較すると、【重要である】は、すべての項目で前回より低くなっている。

表9-1-1 満足度・重要度の上位5項目

満足度			重要度		
1	資源環境対策	64.1%	1	防災対策	79.2%
2	情報提供	61.5	2	治安対策	78.1
3	保健衛生対策	61.1		交通対策	78.1
4	職員の接客態度	59.9	4	資源環境対策	77.7
5	自然・緑化対策	57.9	5	高齢者支援	77.4

《 現状評価（満足度）、重要度について 》

（１）現状評価（満足度）、重要度の評価点について

各分野の取り組みへの現状評価（満足度）と重要度意識の各選択肢に得点をつけ、現状評価（満足度）、重要度の評価点を算出した。これによって、区民の現状評価（満足度）や重要度意識を明確に捉え、分析することができる。

なお、各選択肢への点数の配分は下記の表のとおりである。

〔 得点配分 〕

現状評価（満足度）	重要度	得点
満足	重要である	4
やや満足	やや重要である	2
やや不満	あまり重要ではない	-2
不満	重要ではない	-4

※「無回答」は、母数から除くためポイントをつけない。

〔 計 算 式 〕

$$\text{現状評価} = \frac{\text{「満足」} \times 4 + \text{「やや満足」} \times 2 + \text{「やや不満」} \times (-2) + \text{「不満」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

$$\text{重 要 度} = \frac{\text{「重要である」} \times 4 + \text{「やや重要である」} \times 2 + \text{「あまり重要ではない」} \times (-2) + \text{「重要ではない」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

（２）現状評価（満足度）について

21施策の現状評価（満足度）は、最も高い〈資源環境対策〉の1.28から、最も低い〈防災対策〉の-0.02の間に分布している。

分野別でみると、資源や自然・緑化等の環境面、保健衛生面、子育て支援や生涯学習の環境面等で評価が高く、防災・所得・住宅・交通等については低くなっている。

（３）重要度について

21施策の重要度は、最も高い〈子育て支援〉の3.11から、最も低い〈男女共同参画推進〉の1.52の間に分布している。

分野別でみると、防災・治安・教育等でポイントが高く、男女共同参画や社会参加等で低くなっている。

(4) 現状評価（満足度）、重要度のプロット図

現状評価（満足度）を横軸に、重要度を縦軸にとって21項目を相対的に評価するため、平均値（満足度平均値0.55、重要度平均値2.40）を境として、4つの領域に分類した。

4つの領域の特性は、以下のとおりである。

A 現状評価（満足度）が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目

グラフ左上のAゾーンに位置する項目は、施策の重要性が広く区民に認識され、とくに施策の推進や改善に対する区民のニーズが高い項目と考えられる。従来の方針の方向について検討を加え、改善していくことが求められる。

B 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より高い項目

グラフ右上のBゾーンに位置する項目は、施策の重要性が十分認識されているとともに、現在の取り組みにも満足している区民が多い項目と考えられる。今後も現在の水準を維持し、着実に取り組んでいくことが求められる。

現状評価（満足度）平均値（0.55）

≪重要度≫	《Aゾーン》 現状評価：平均値より低い 重要度：平均値より高い	《Bゾーン》 現状評価：平均値より高い 重要度：平均値より高い	重要度 平均値 (2.40)
	《Cゾーン》 現状評価：平均値より低い 重要度：平均値より低い	《Dゾーン》 現状評価：平均値より高い 重要度：平均値より低い	
≪ 現状評価（満足度）≫			

C 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より低い項目

グラフ左下のCゾーンに位置する項目は、取り組みの推進に対する期待は高いものの、他の施策と比較してその重要性の認識が低い項目と考えられる。施策の重要性に対する認知を高めるとともに、従来の方針の方向の改善を検討することが求められる。

D 現状評価（満足度）が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目

グラフ右下のDゾーンに位置する項目は、他の施策と比較してその重要性の認識は低いものの、現状の取り組みには満足している項目と考えられる。今後も着実に取り組みの推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高めていくことが求められる。

表9-1-2-① 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	子育て支援	0.86	0.47	0.46	1.07	0.54	1.03	0.94	0.82	0.60	1.33
イ	学校教育対策	0.48	0.46	0.10	0.67	0.27	0.49	0.22	0.63	0.05	0.21
ウ	地域活動支援	0.68	0.77	0.50	0.35	0.90	0.69	0.48	0.32	0.56	0.47
エ	社会参加支援	0.58	0.49	0.36	0.38	0.85	0.65	0.61	0.12	0.21	0.79
オ	男女共同参画推進	0.52	0.46	0.42	0.63	0.53	0.66	0.42	0.13	0.14	0.24
カ	生涯学習振興	0.82	0.72	0.53	0.98	0.82	0.92	0.66	0.67	0.55	0.60
キ	高齢者支援	0.22	-0.08	-0.07	0.06	0.19	0.46	0.08	0.33	-0.16	0.31
ク	障がい者支援	0.38	0.21	-0.17	-0.08	0.47	0.57	0.10	0.30	0.35	0.63
ケ	保健衛生対策	1.17	1.01	0.81	0.98	1.16	1.35	0.84	1.32	0.76	1.46
コ	低所得者対策	0.06	0.15	-0.13	-0.12	0.41	-0.10	-0.12	0.13	0.37	-0.11
サ	産業振興	0.26	0.31	0.04	0.09	0.55	0.21	0.08	0.12	0.15	0.06
シ	治安対策	0.37	0.38	0.04	0.43	0.55	0.23	0.49	0.48	-0.02	0.19
ス	資源環境対策	1.28	1.45	0.98	1.20	1.35	1.47	1.13	1.13	1.08	1.07
セ	都市開発	0.35	0.50	0.04	-0.02	0.42	0.01	0.25	0.12	0.25	0.82
ソ	住宅対策	0.10	-0.01	0.17	-0.02	0.17	-0.04	0.08	-0.06	0.07	-0.03
タ	交通対策	0.17	0.70	-0.21	-0.27	-0.02	-0.21	0.14	-0.10	0.33	0.00
チ	防災対策	-0.02	-0.24	-0.24	-0.47	-0.09	-0.06	0.08	0.09	-0.19	-0.09
ツ	自然・緑化対策	0.90	0.55	0.65	0.90	0.96	0.55	1.25	0.90	0.57	1.08
テ	情報提供	1.13	0.96	0.94	1.01	0.92	1.28	0.78	1.11	1.28	1.23
ト	職員の接客態度	0.93	0.91	0.53	1.02	0.94	1.22	0.51	1.03	0.80	0.86
ナ	行政改革	0.28	0.03	-0.09	0.12	0.17	0.21	0.01	0.40	0.09	0.14
ニ	区政全体として	0.62	0.42	0.47	0.46	0.68	0.62	0.31	0.56	0.71	0.57

※ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

第3章 調査結果の分析

表9-1-2-② 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	0.86	0.98	1.24	1.05	1.01
イ	学校教育対策	0.48	0.93	0.87	0.31	1.04
ウ	地域活動支援	0.68	0.70	1.09	0.63	1.31
エ	社会参加支援	0.58	0.60	0.73	0.71	1.08
オ	男女共同参画推進	0.52	0.54	0.96	0.43	1.10
カ	生涯学習振興	0.82	0.90	1.51	0.78	1.12
キ	高齢者支援	0.22	0.11	0.92	0.35	0.70
ク	障がい者支援	0.38	0.70	1.04	0.51	0.56
ケ	保健衛生対策	1.17	1.29	1.80	1.26	1.46
コ	低所得者対策	0.06	-0.10	0.28	-0.73	0.67
サ	産業振興	0.26	0.10	0.85	0.00	0.72
シ	治安対策	0.37	0.43	0.63	0.13	0.72
ス	資源環境対策	1.28	1.31	1.58	1.02	1.67
セ	都市開発	0.35	0.51	0.64	0.10	0.97
ソ	住宅対策	0.10	0.33	0.32	-0.43	0.65
タ	交通対策	0.17	0.42	0.41	0.12	0.58
チ	防災対策	-0.02	0.20	0.56	-0.07	0.40
ツ	自然・緑化対策	0.90	1.16	1.18	0.96	1.16
テ	情報提供	1.13	1.33	1.49	1.06	1.57
ト	職員の接客態度	0.93	0.92	1.38	1.06	1.02
ナ	行政改革	0.28	0.50	1.06	0.58	0.79
ニ	区政全体として	0.62	0.61	1.20	0.78	1.04

※ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-3-① 地域ブロック別／重要度

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	子育て支援	3.11	3.06	3.28	3.12	3.29	3.07	3.08	3.03	3.19	2.86
イ	学校教育対策	3.09	3.16	3.15	3.10	3.20	2.99	3.08	3.03	3.21	2.93
ウ	地域活動支援	1.90	1.92	1.84	2.34	2.12	2.00	1.74	1.70	1.87	1.74
エ	社会参加支援	1.53	1.67	1.57	1.53	1.60	1.51	1.47	1.59	1.51	1.30
オ	男女共同参画推進	1.52	1.64	1.67	1.74	1.83	1.47	1.24	1.84	1.50	1.16
カ	生涯学習振興	1.76	1.92	2.07	2.20	1.53	1.72	1.58	1.60	1.71	1.85
キ	高齢者支援	2.93	3.02	3.03	2.87	2.86	3.15	2.91	2.91	2.88	2.65
ク	障がい者支援	2.84	2.89	2.86	2.78	2.95	3.03	2.79	2.78	2.80	2.52
ケ	保健衛生対策	2.73	2.83	2.69	2.70	2.98	2.79	2.62	2.48	2.74	2.71
コ	低所得者対策	1.91	1.79	1.70	2.04	1.79	2.12	1.94	2.00	1.63	1.71
サ	産業振興	1.89	1.98	1.83	2.13	1.87	2.25	1.58	1.79	1.88	1.65
シ	治安対策	3.09	2.97	2.91	3.21	3.29	3.27	3.18	3.01	3.02	3.07
ス	資源環境対策	2.78	2.88	2.66	2.76	2.69	2.65	2.73	2.89	2.83	3.07
セ	都市開発	2.18	2.20	2.33	2.65	2.03	2.30	2.10	2.12	2.00	2.33
ソ	住宅対策	1.85	1.82	1.93	2.17	1.79	2.04	1.86	1.85	1.64	1.91
タ	交通対策	2.86	2.72	3.21	3.03	2.82	3.00	2.88	2.73	2.79	3.07
チ	防災対策	3.07	3.25	3.16	3.05	3.09	3.19	3.09	2.82	3.17	3.15
ツ	自然・緑化対策	2.32	2.38	2.56	2.39	2.12	2.40	2.39	2.45	2.17	2.42
テ	情報提供	2.15	2.15	2.13	2.12	2.28	2.16	2.34	1.85	2.44	2.23
ト	職員の接客態度	2.35	2.44	2.18	2.28	2.33	2.22	2.39	2.51	2.53	2.31
ナ	行政改革	2.59	2.68	2.76	2.80	2.59	2.50	2.66	2.58	2.73	2.66

※ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-3-② 地域ブロック別／重要度

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	3.11	3.04	3.27	2.86	3.14
イ	学校教育対策	3.09	3.06	3.38	2.94	2.89
ウ	地域活動支援	1.90	1.85	1.92	1.67	1.98
エ	社会参加支援	1.53	1.37	1.46	1.37	1.84
オ	男女共同参画推進	1.52	1.54	1.11	1.22	1.58
カ	生涯学習振興	1.76	1.73	1.84	1.55	1.57
キ	高齢者支援	2.93	2.76	3.07	2.65	3.03
ク	障がい者支援	2.84	2.87	2.86	2.47	2.99
ケ	保健衛生対策	2.73	2.57	2.84	2.66	2.77
コ	低所得者対策	1.91	2.11	1.82	2.10	2.09
サ	産業振興	1.89	1.78	2.06	1.59	2.04
シ	治安対策	3.09	2.91	3.08	2.93	3.24
ス	資源環境対策	2.78	2.85	2.83	2.44	2.83
セ	都市開発	2.18	2.03	2.13	2.07	2.07
ソ	住宅対策	1.85	1.84	1.50	1.53	2.04
タ	交通対策	2.86	2.56	2.85	2.65	3.01
チ	防災対策	3.07	2.86	3.12	2.70	3.08
ツ	自然・緑化対策	2.32	2.08	2.50	2.09	2.19
テ	情報提供	2.15	2.14	2.02	2.07	1.91
ト	職員の接客態度	2.35	2.42	2.24	2.24	2.39
ナ	行政改革	2.59	2.71	2.42	2.10	2.36

※ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

全21施策の現状評価（満足度）と重要度の関係を見た。

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「交通対策」「高齢者支援」などは、現状評価が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」「子育て支援」は、現状評価、重要度の両面で高くなっている。

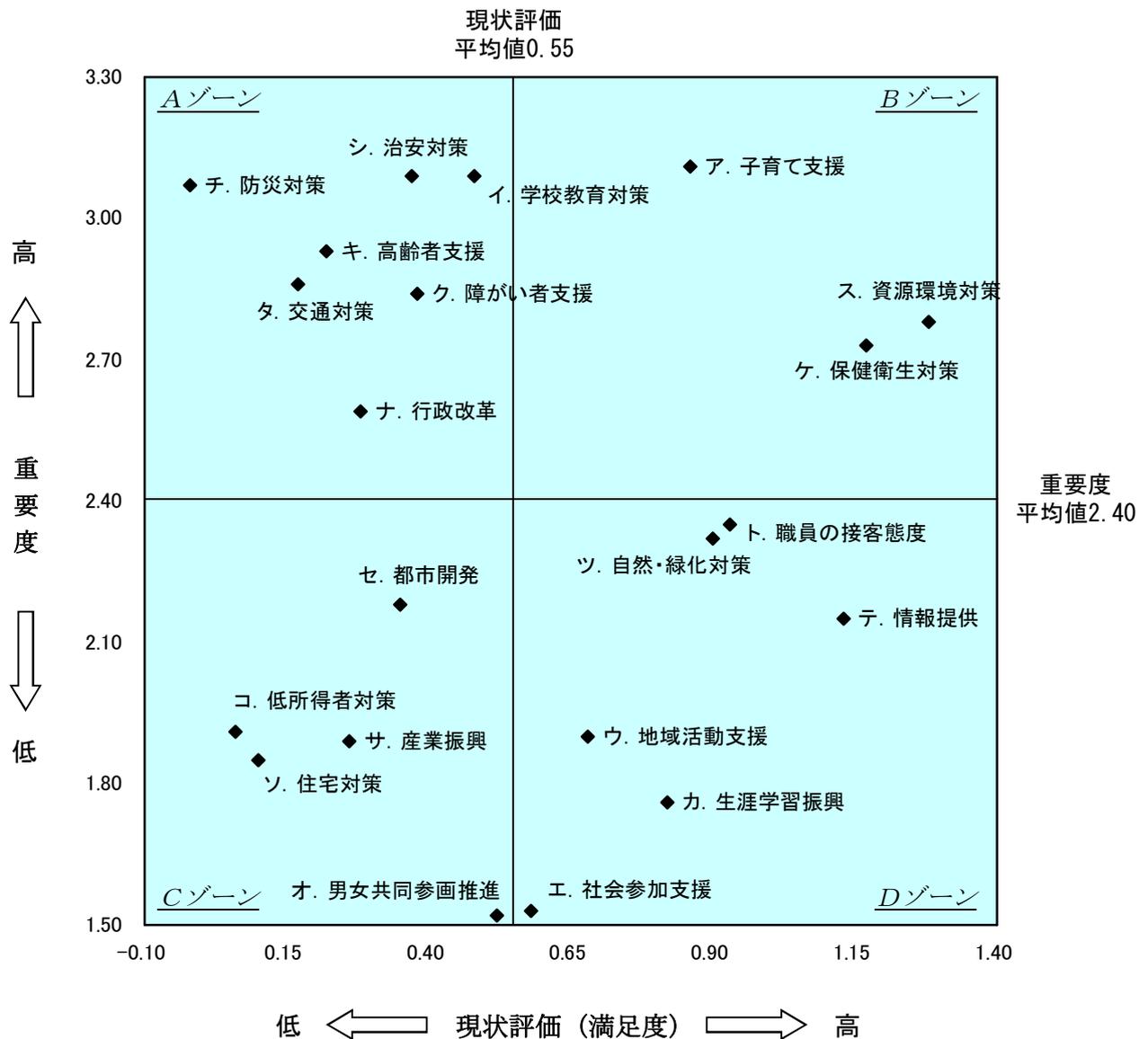
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」「低所得者対策」は、現状評価、重要度の両面で低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」「情報提供」などがあげられている。

図9-1-3 重要度と現状評価（満足度）の関係



各ブロックの現状評価（満足度）と重要度の関係を見た。《第1ブロック》では、

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が特に低く、重要度は極めて高くなっているほか、「高齢者支援」「行政改革」もあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が特に高く、重要度も高くなっているほか、「保健衛生対策」もあげられている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

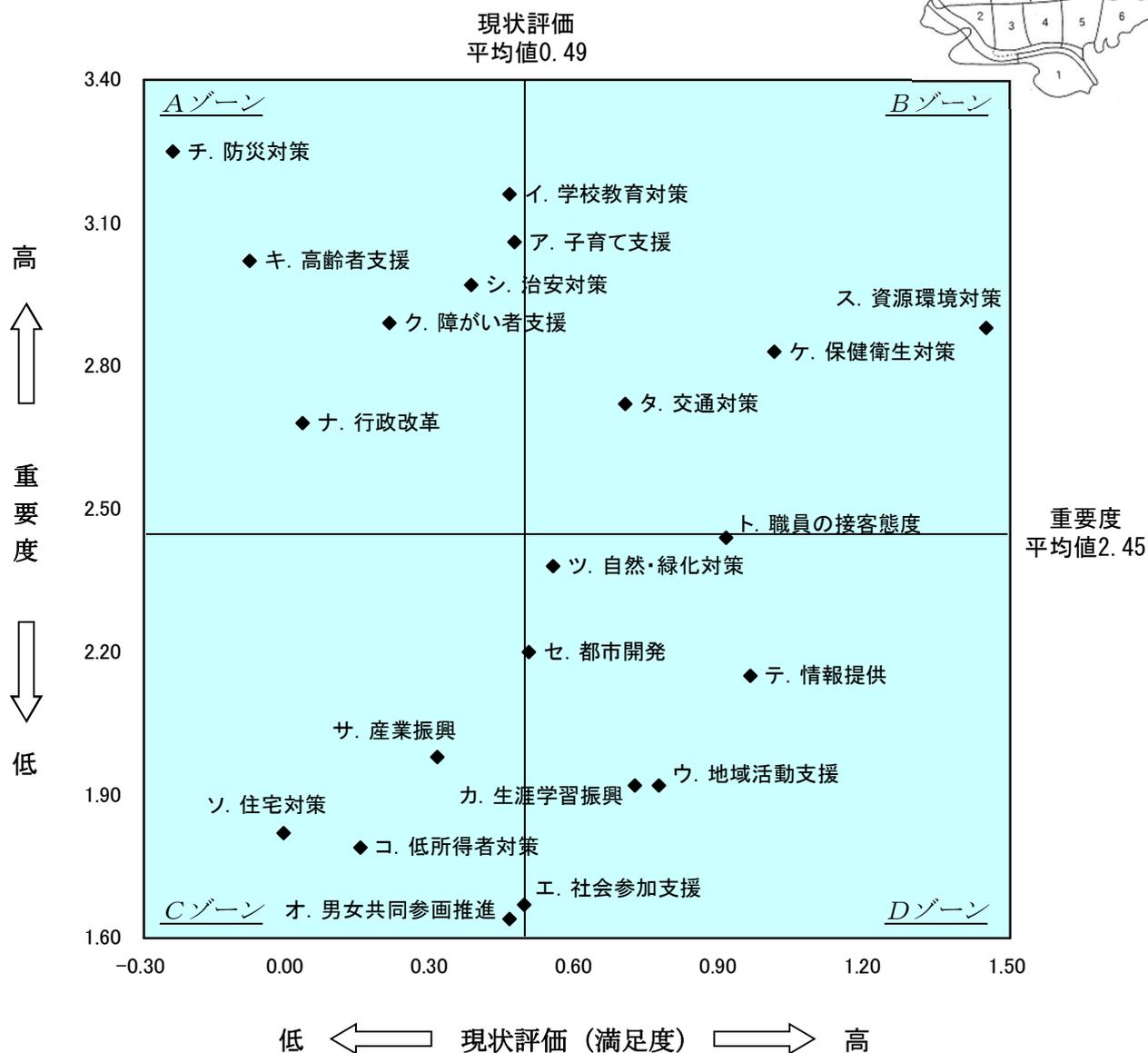
「住宅対策」の満足度が特に低く、重要度も低くなっているほか、「低所得者対策」もあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」「地域活動支援」「生涯学習振興」があげられている。



図9-1-4-① 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第1ブロック



《第2ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」とともに「交通対策」がとくに満足度が低く、重要度は極めて高くなっているほか、「高齢者支援」「障がい者支援」「治安対策」もあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」と「保健衛生対策」の満足度が高く、「子育て支援」の重要度が特に高くなっている。

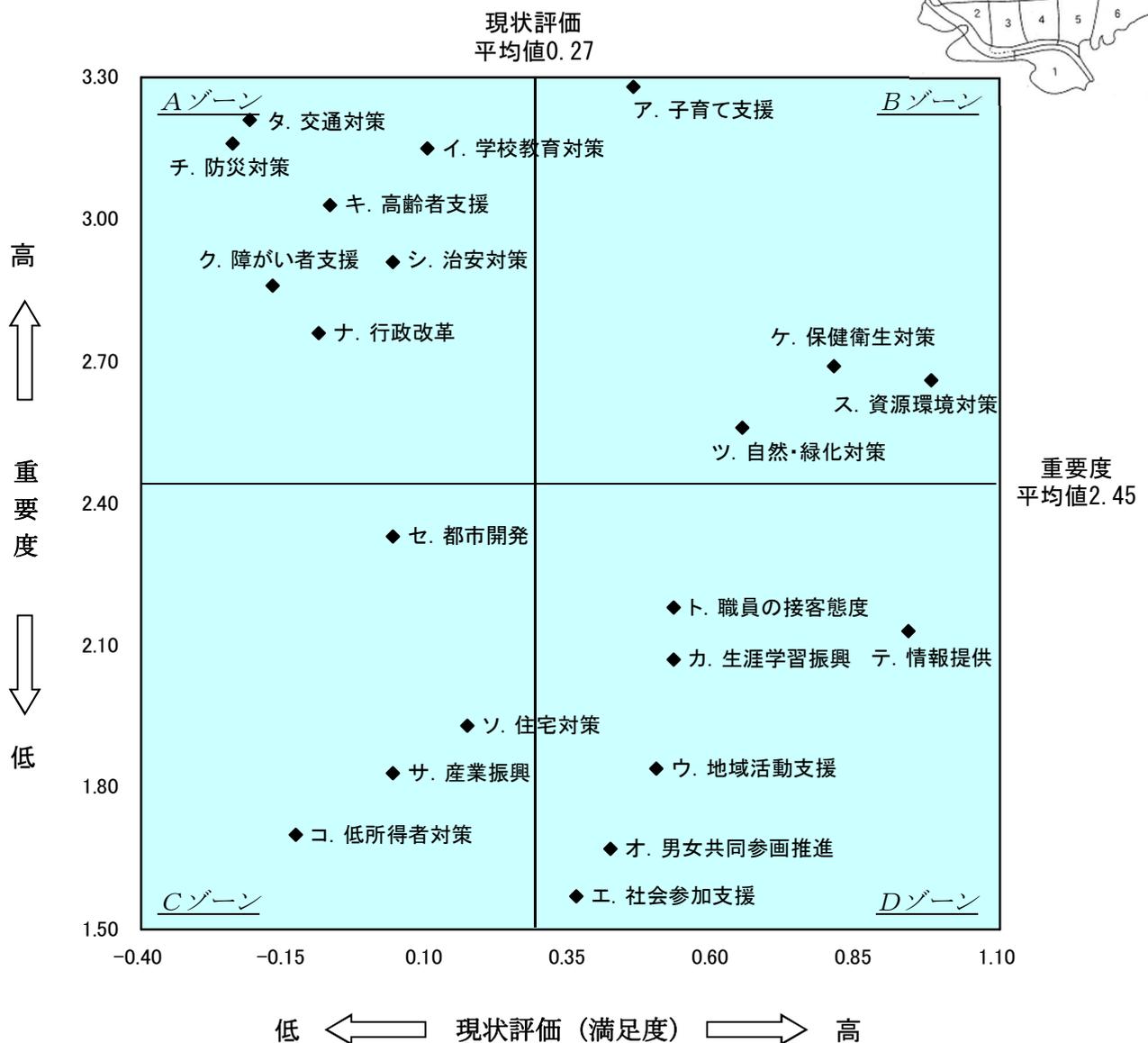
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」が、満足度、重要度も低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」の満足度が特に高くなっている。

図9-1-4-② 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第2ブロック



《第3ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」とともに「交通対策」がとくに満足度が低く、極めて重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「子育て支援」がとくに満足度が高く、重要度も極めて高くなっているほか、「資源環境対策」の満足度も高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」が、満足度、重要度も低くなっている。

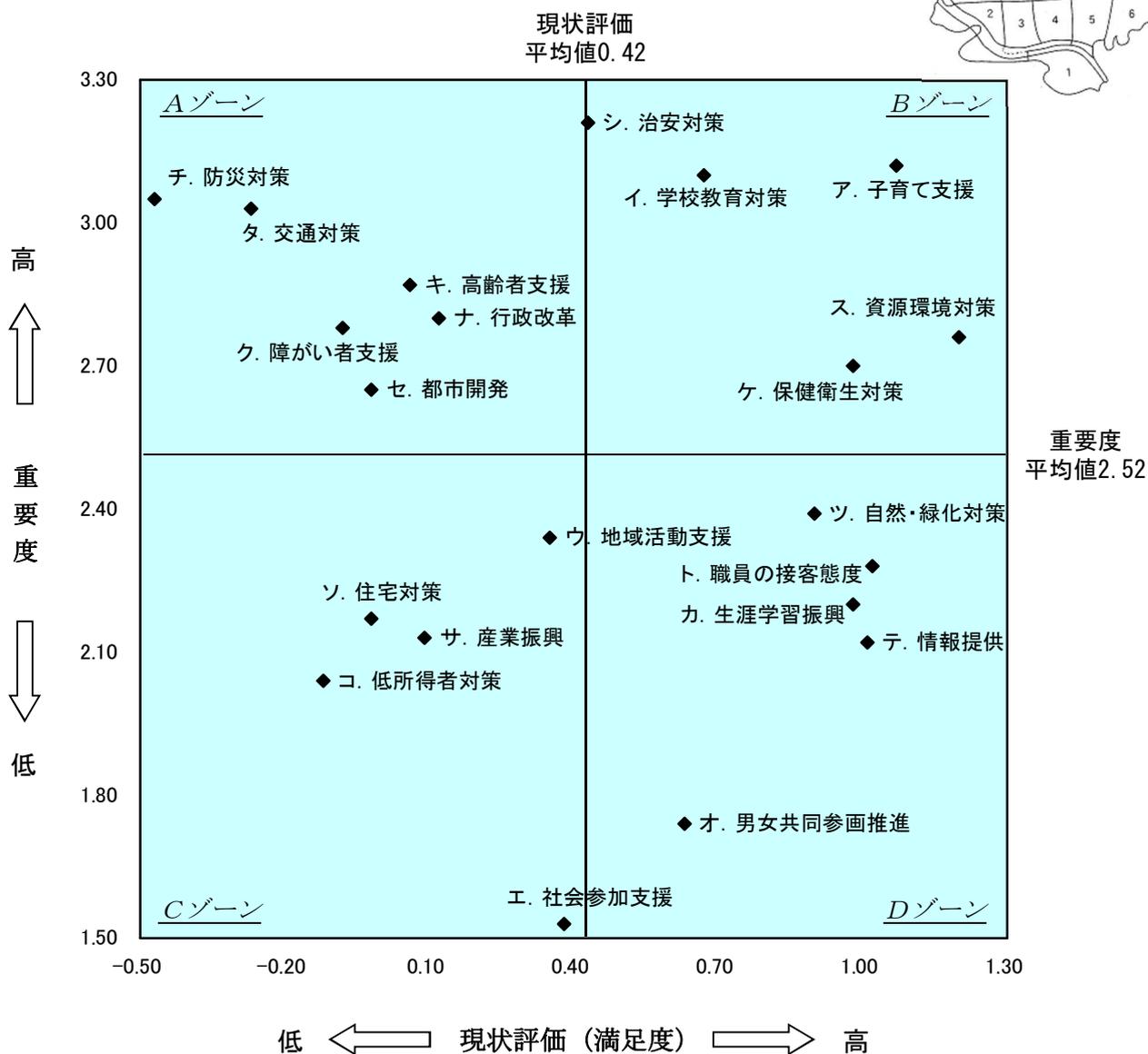
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」の満足度がとくに高くなっているほか、「生涯学習振興」「職員の接客態度」もあげられている。

ブロック区分図



図9-1-4-③ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第3ブロック



《第4ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度がとくに低く、重要度は極めて高くなっているほか、「交通対策」の満足度も低くなっている。また、「学校教育」の重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「保健衛生対策」が満足度、重要度ともに高くなっているほか、「資源環境対策」の満足度も高くなっている。

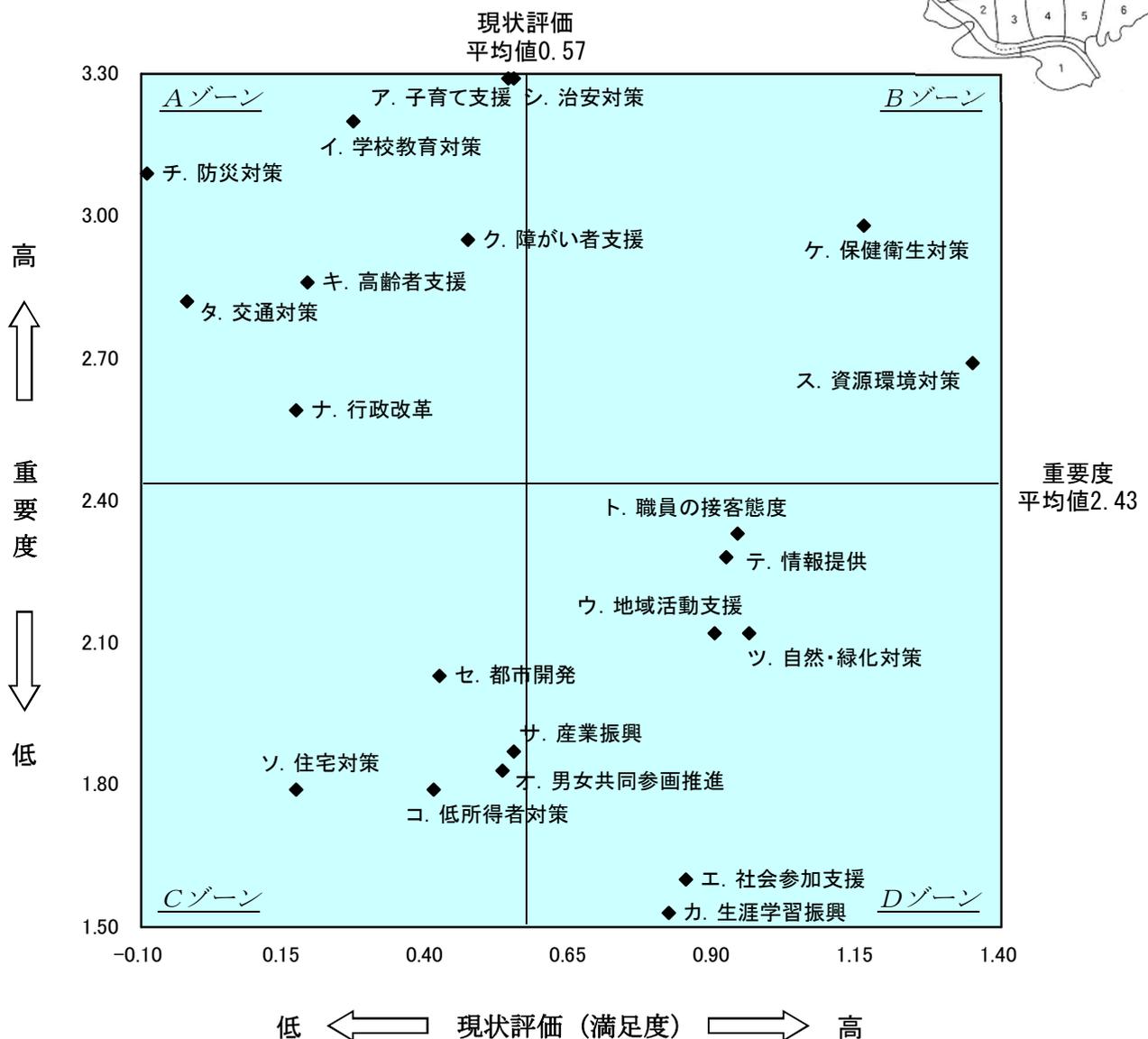
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」が、満足度、重要度ともに低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「社会参加支援」「生涯学習振興」の重要度がとくに低くなっている。

図9-1-4-④ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第4ブロック



《第5ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が低く、重要度が高くなっているほか、「交通対策」の満足度がとくに低くなっている。また、「治安対策」の重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「子育て支援」が、満足度が高く、重要度も高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

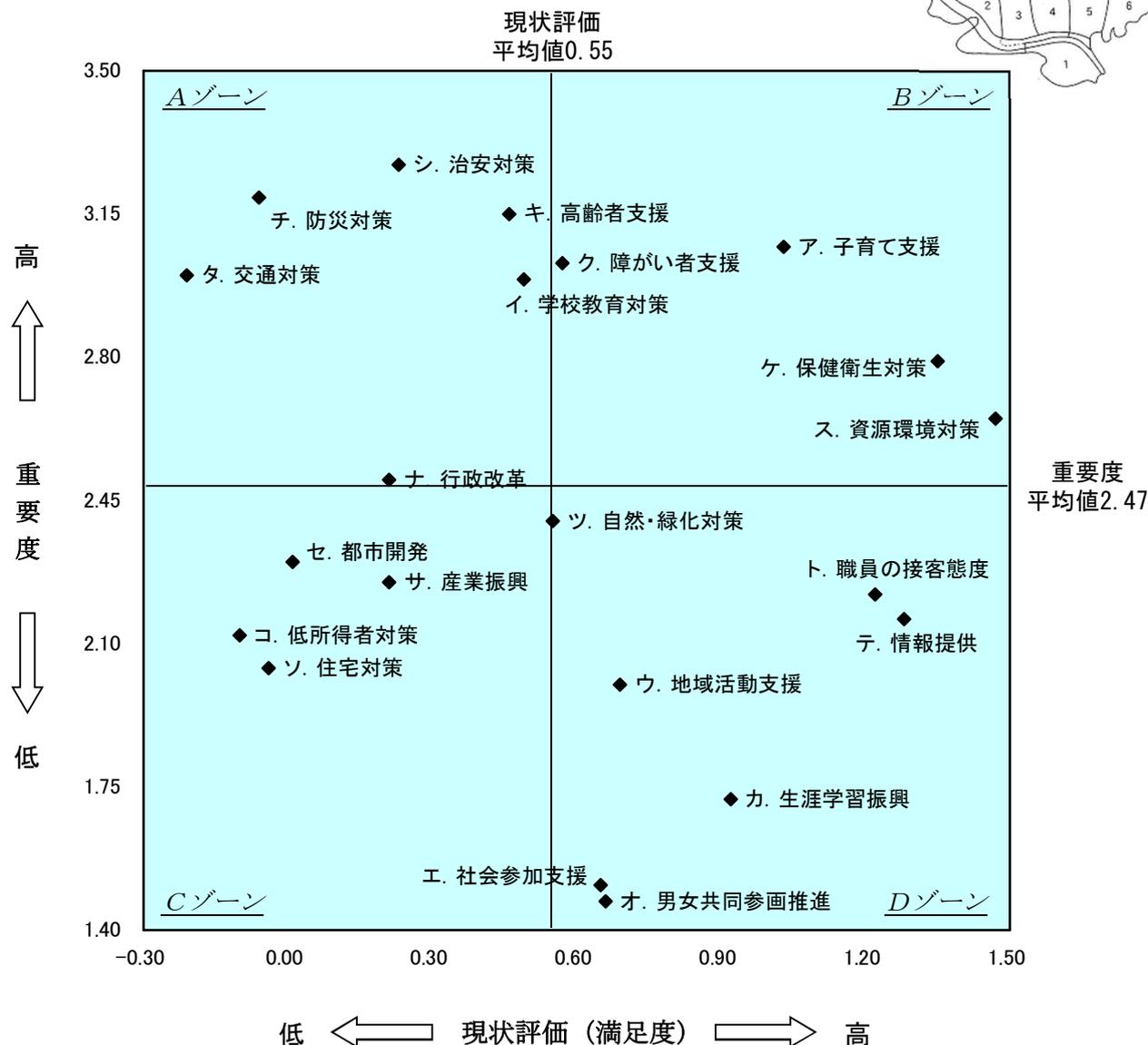
「低所得者対策」「住宅対策」が、とくに満足度が低く、重要度も低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」と「職員の接客態度」の満足度が高くなっている。



図9-1-4-⑤ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第5ブロック



《第6ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「高齢者支援」「交通対策」「障がい者支援」「行政改革」「学校教育対策」があげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高く、「子育て支援」の重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

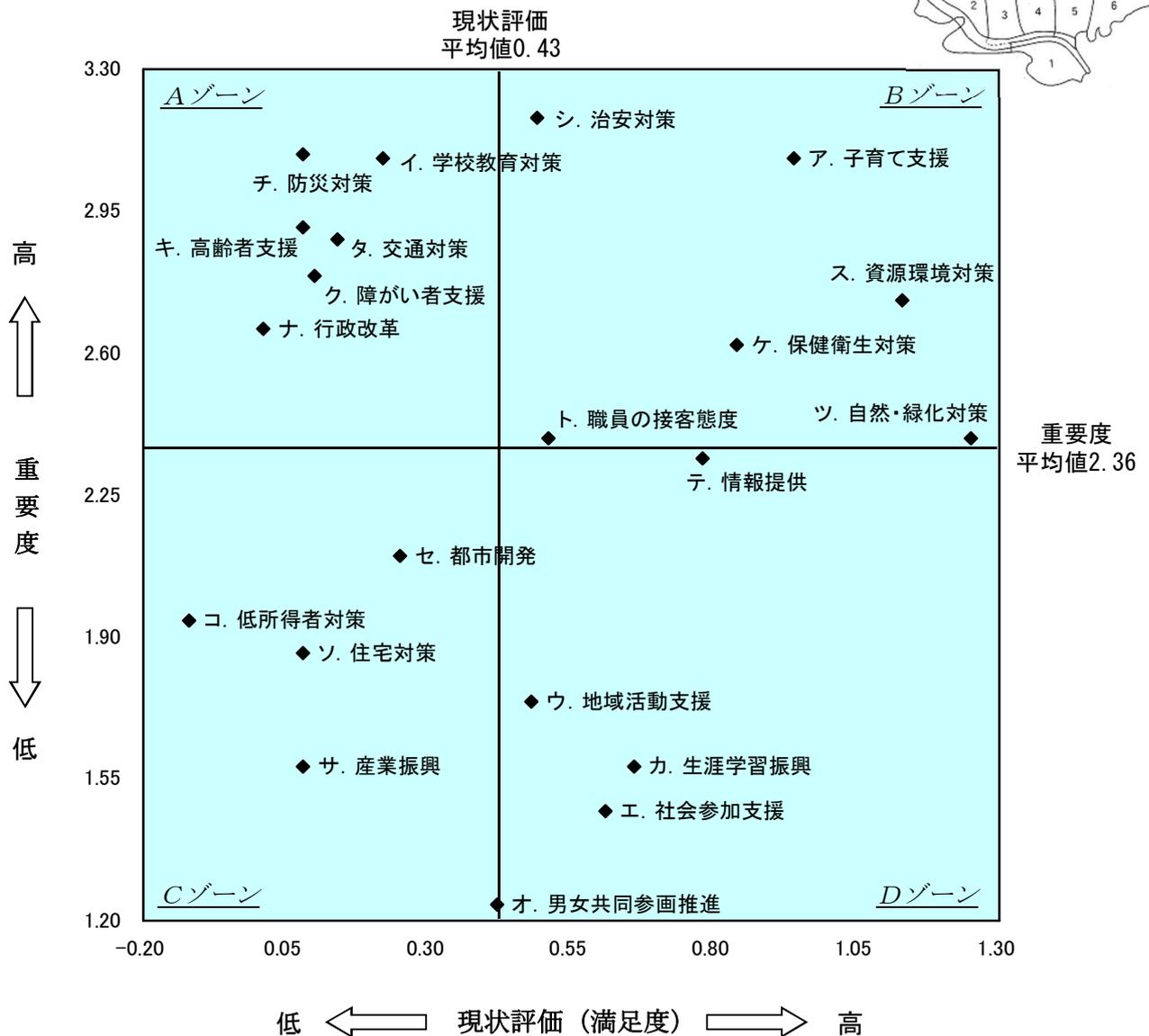
「産業振興」が、満足度、重要度とも低くなっているほか、「低所得者対策」の満足度も低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」「社会参加支援」の重要度が低くなっている。



図9-1-4-⑥ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第6ブロック



《第7ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「交通対策」が、満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」が、満足度、重要度とも特に高くなっているほか、「保健衛生対策」の満足度も高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

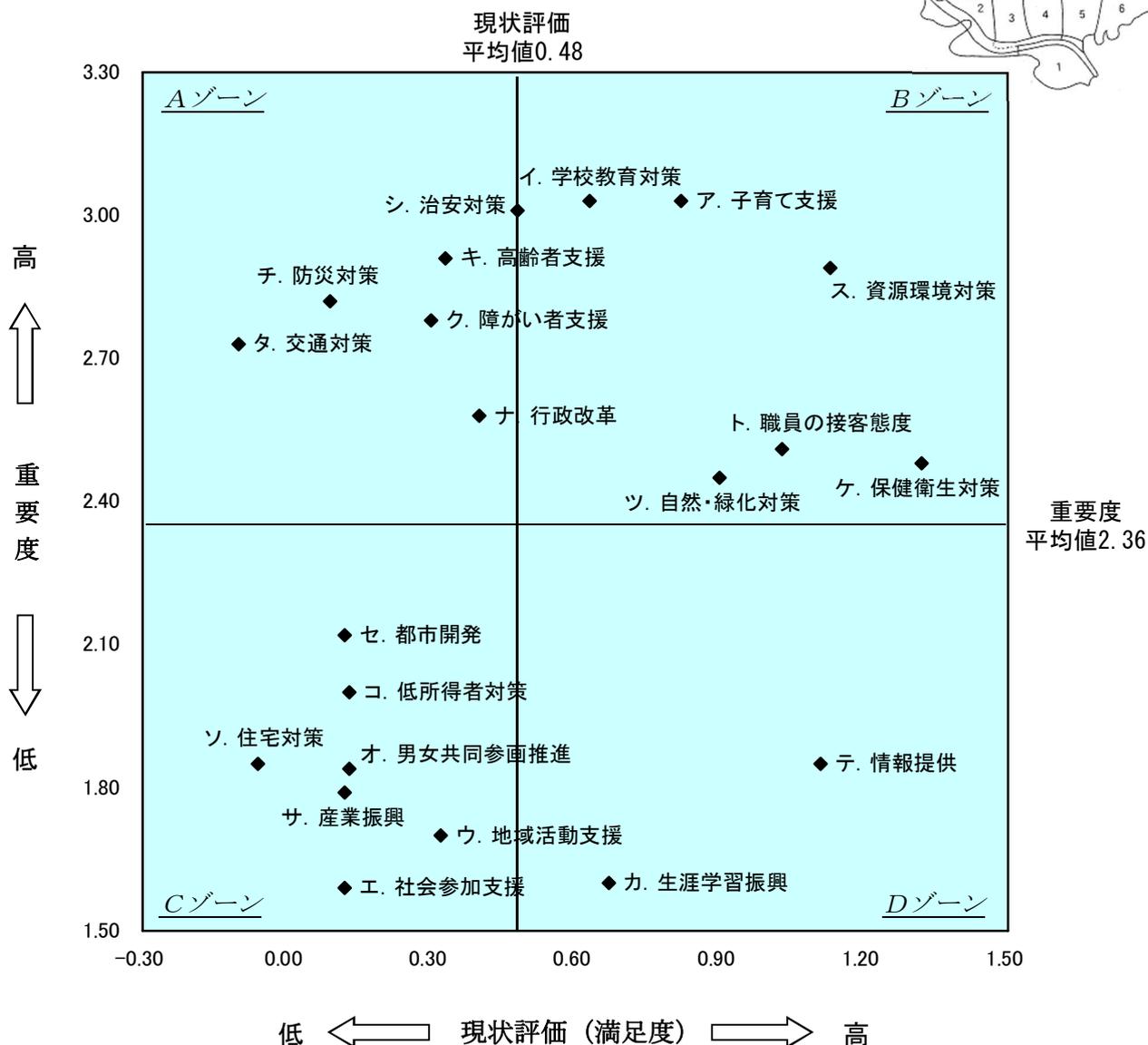
「住宅対策」「産業振興」「男女共同参画推進」が、満足度、重要度とも低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」が、満足度が高く、重要度が低くなっている。



図9-1-4-⑦ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第7ブロック



《第8ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」がとくに満足度が低く、極めて重要度が高くなっているほか、「治安対策」「学校教育対策」もあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」が満足度、重要度とも高くなっているほか、「情報提供」の満足度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

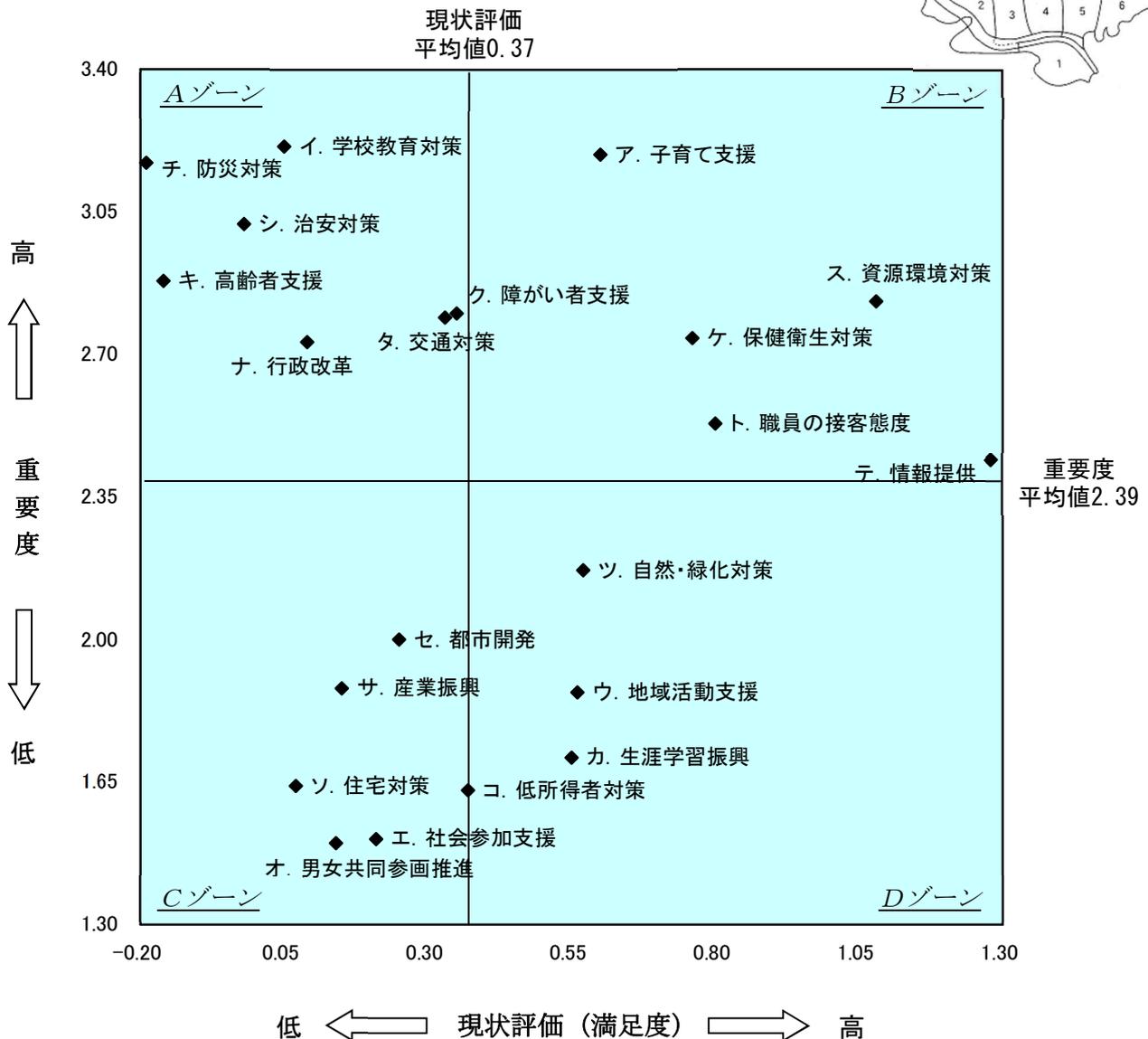
「住宅対策」「社会参加支援」「男女共同参画推進」が、満足度が低く、重要度も低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「生涯学習振興」があげられている。



図9-1-4-⑧ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第8ブロック



《第9ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」とともに「交通対策」が、とくに満足度が低く、重要度は極めて高くなっている。また、「治安対策」の重要度も高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「保健衛生対策」「子育て支援」が、満足度、重要度とも特に高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

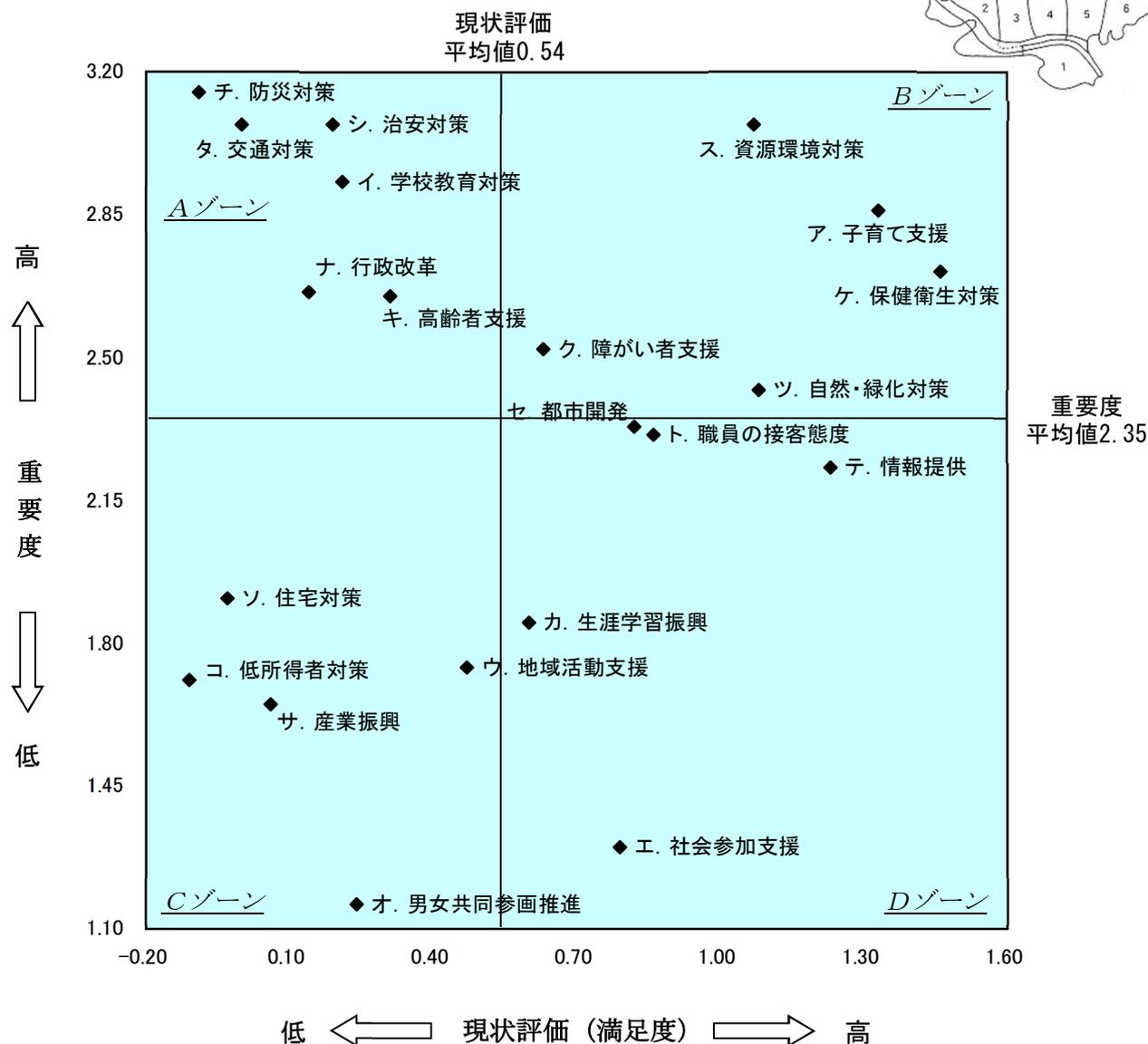
「住宅対策」「低所得者対策」「産業振興」が、満足度、重要度とも低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」の満足度が高く、「社会参加支援」の重要度が低くなっている。



図9-1-4-⑨ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第9ブロック



《第10ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「高齢者支援」「防災対策」「治安対策」が満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」が満足度、重要度とも高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

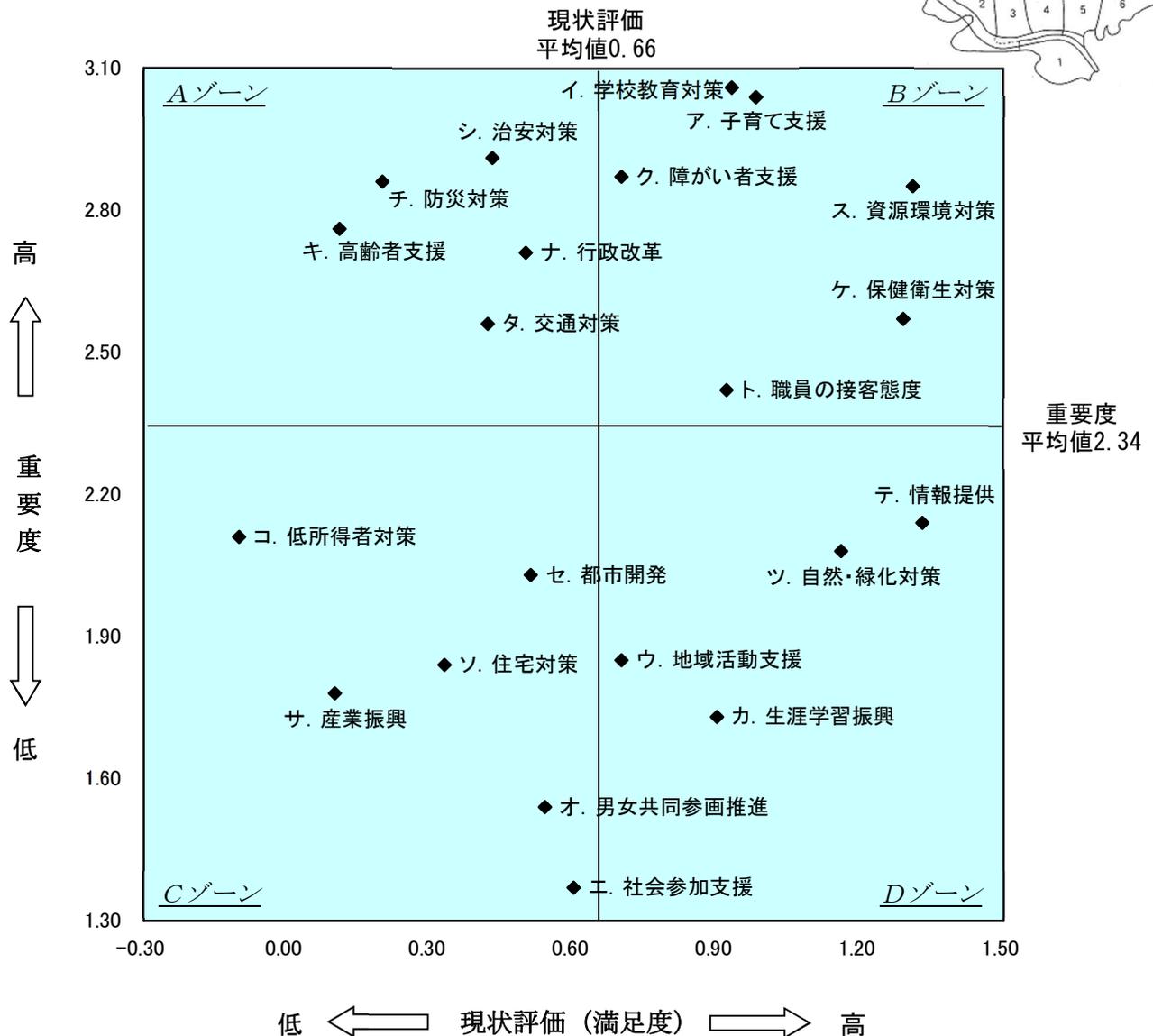
「産業振興」が満足度、重要度とも低くなっているほか、「低所得者対策」の満足度も低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」「自然・緑化対策」の満足度が高くなっている。



図9-1-4-⑩ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係／第10ブロック



《第11ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「治安対策」「交通対策」が満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「保健衛生対策」「資源環境対策」が満足度、重要度とも高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」「住宅対策」が満足度、重要度とも低くなっている。

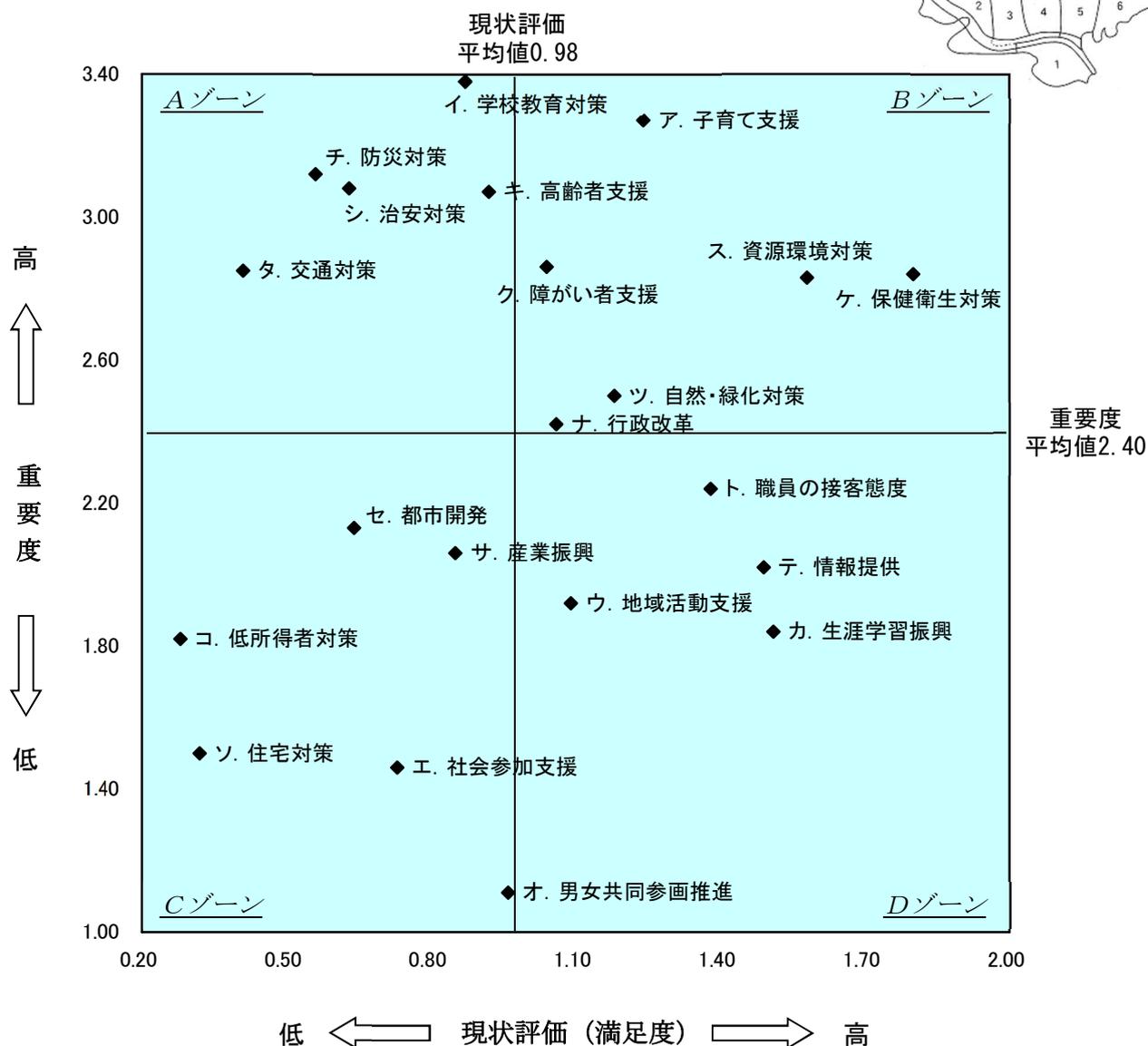
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」「生涯学習振興」の満足度が高くなっている。

ブロック区分図



図9-1-4-⑪ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第11ブロック



《第12ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」は満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「子育て支援」が満足度、重要度とも高くなっている。

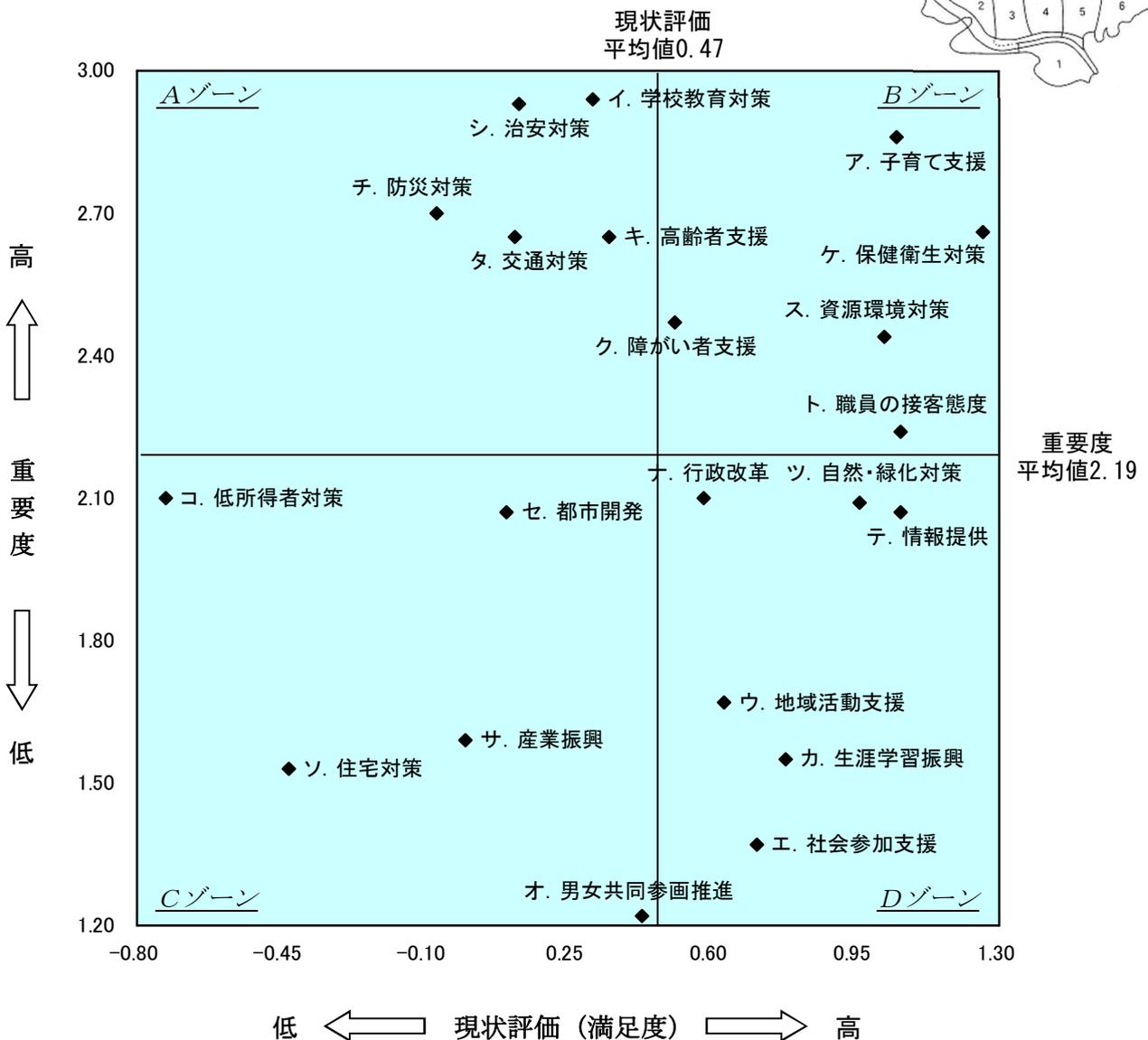
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」が満足度、重要度とも低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」「自然・緑化対策」の満足度が高くなっている。

図9-1-4-⑫ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第12ブロック



《第13ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「交通対策」「障がい者支援」は満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」が満足度、重要度とも高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」「低所得者対策」「産業振興」が満足度、重要度とも低くなっている。

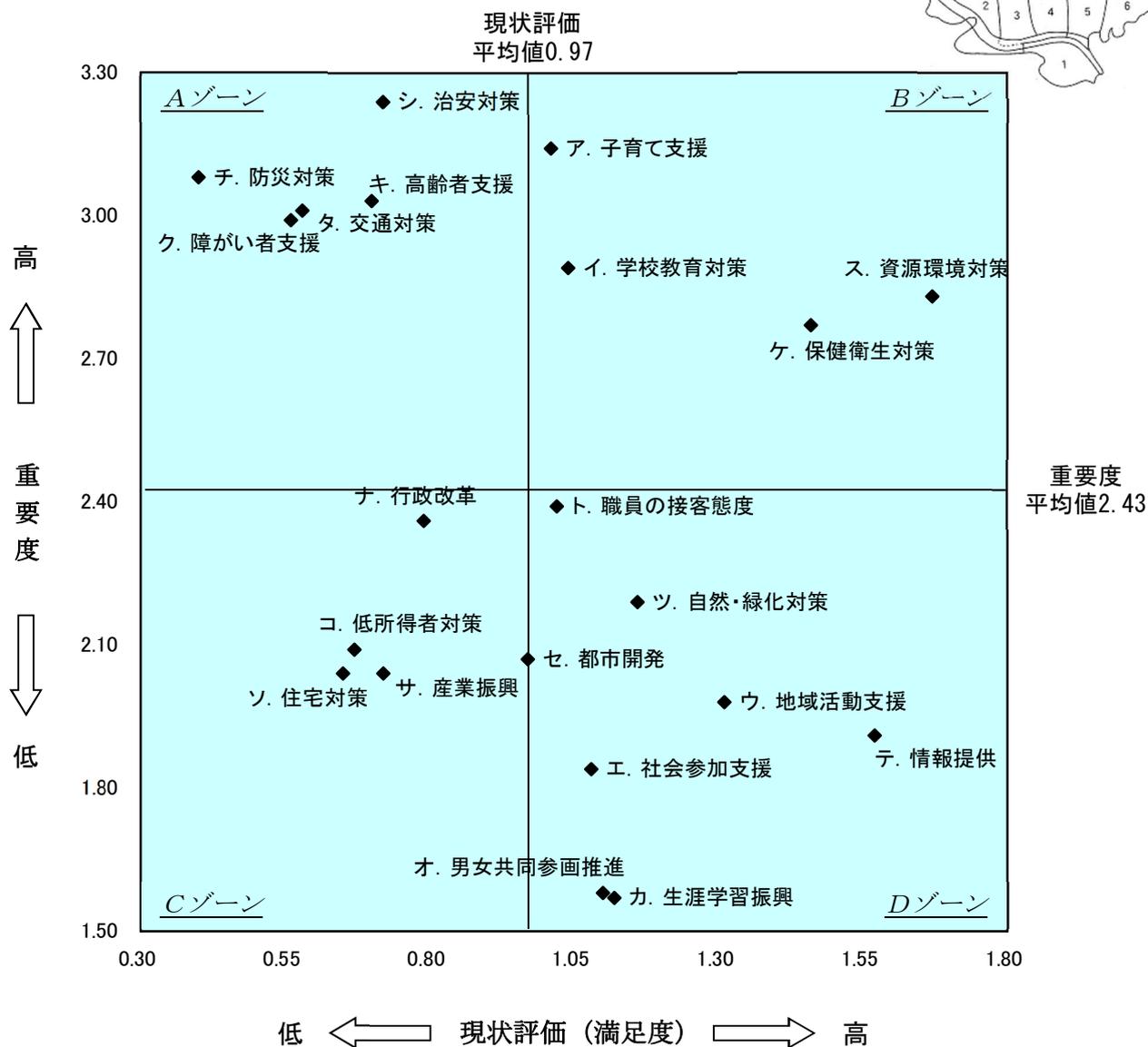
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」の満足度が高くなっている。

ブロック区分図



図9-1-4-⑬ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第13ブロック

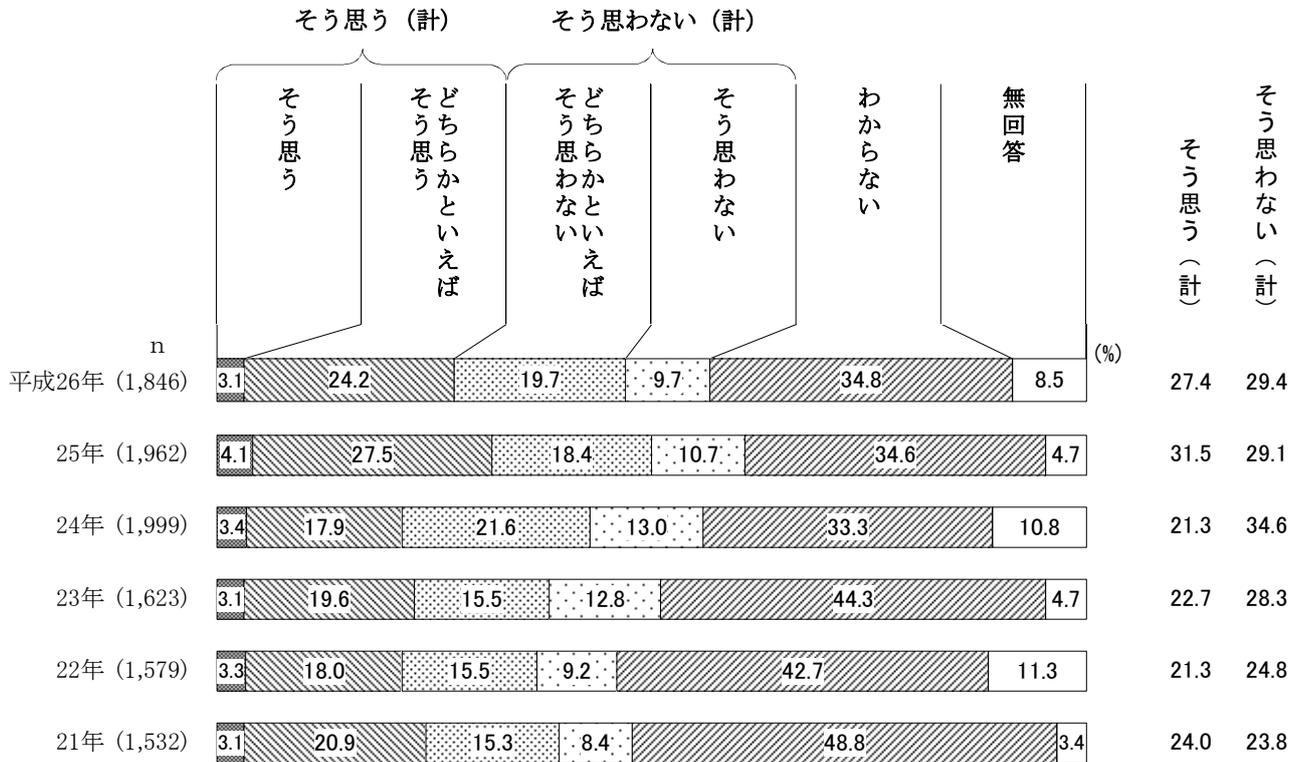


(2) 区政への区民意見の反映度

■ 【そう思う】は2割台半ば

問36 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか。(○は1つだけ)

図9-2-1 経年比較／区政への区民意見の反映度



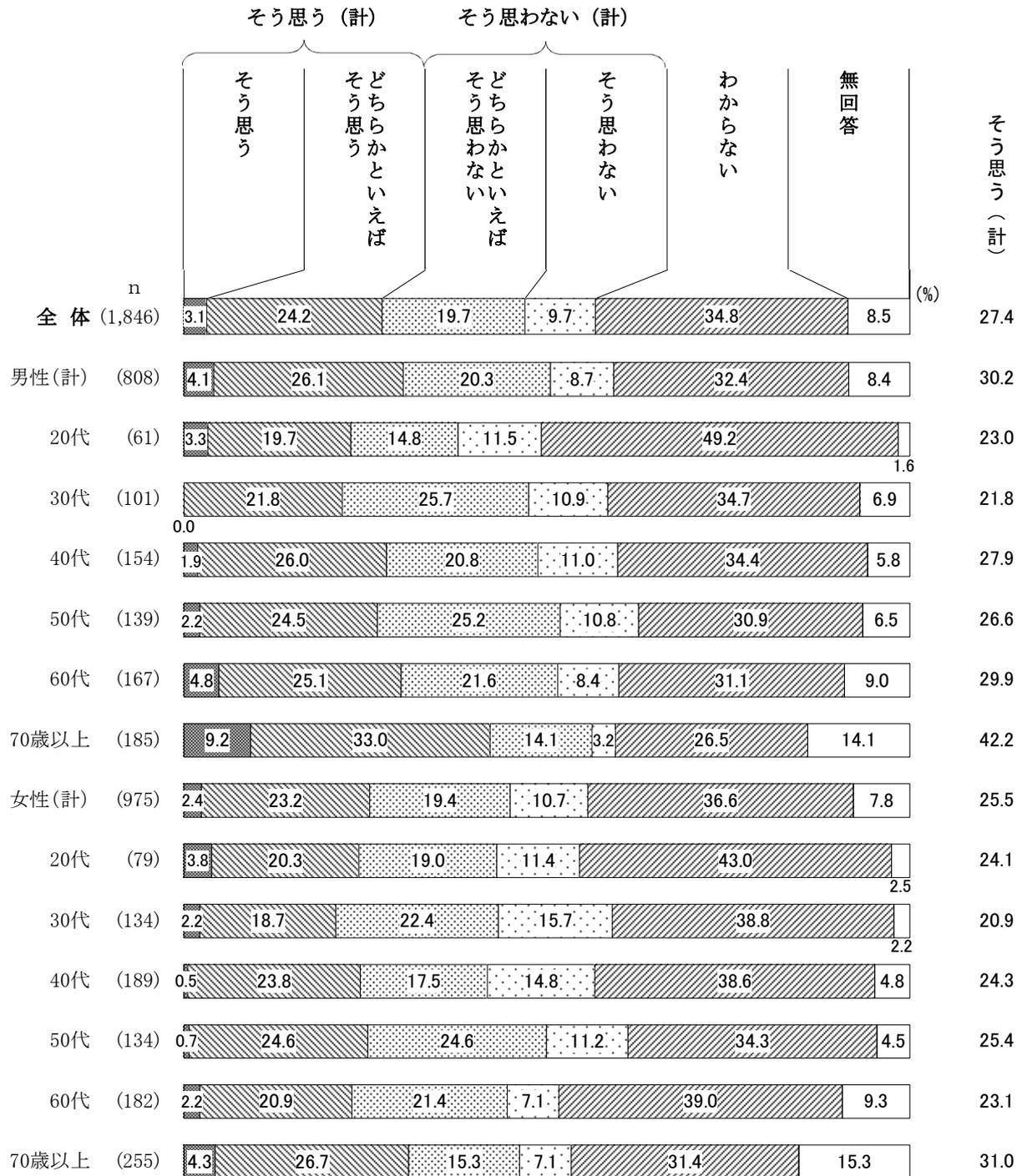
区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえはそう思う」を合わせた【そう思う】は27.4%と、「どちらかといえはそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】(29.4%)を下回っている。

経年で比較すると、【そう思う】は、前回の31.5%から今回27.4%と、4.1ポイント減少している。

第3章 調査結果の分析

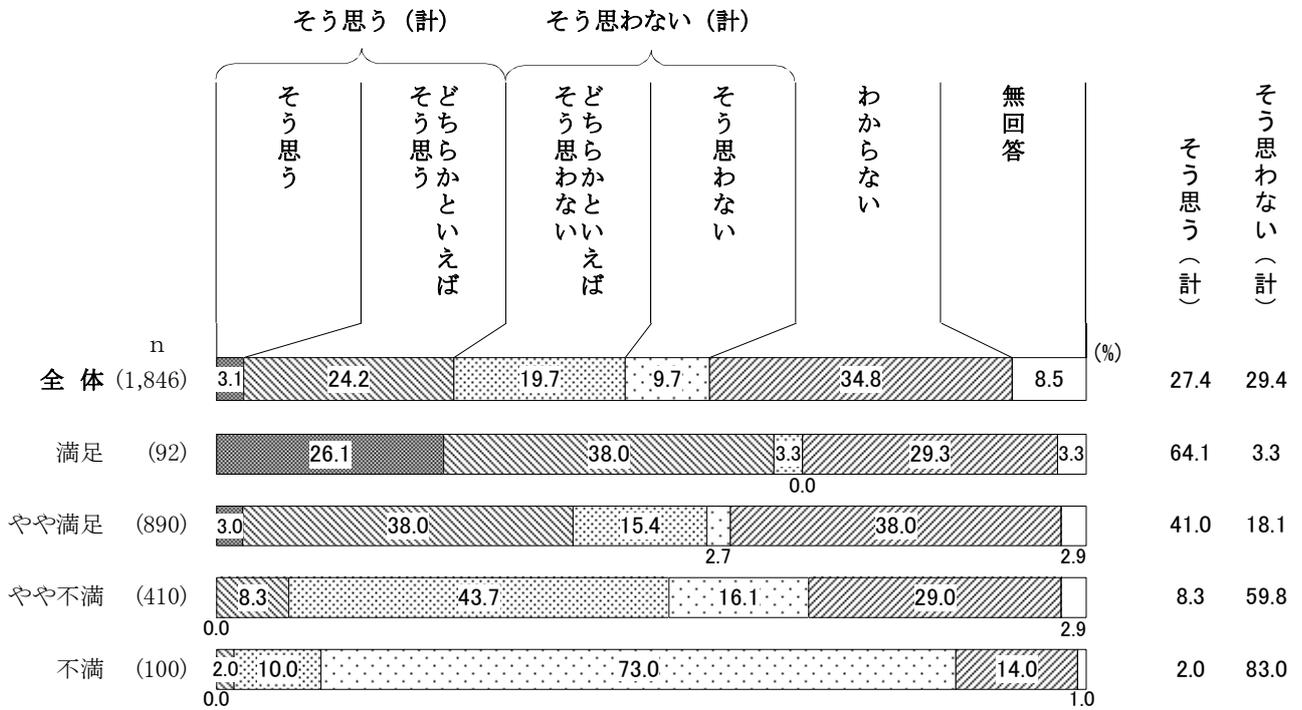
性別でみると、【そう思う】は、男性30.2%、女性25.5%と、男性が女性を上回っている。
 性・年代別でみると、【そう思う】は、男女とも70歳以上で高く、男性42.2%、女性31.0%となっている。

図9-2-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



区政満足度別でみると、満足している層で【そう思う】は64.1%と高くなっている。

図9-2-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度

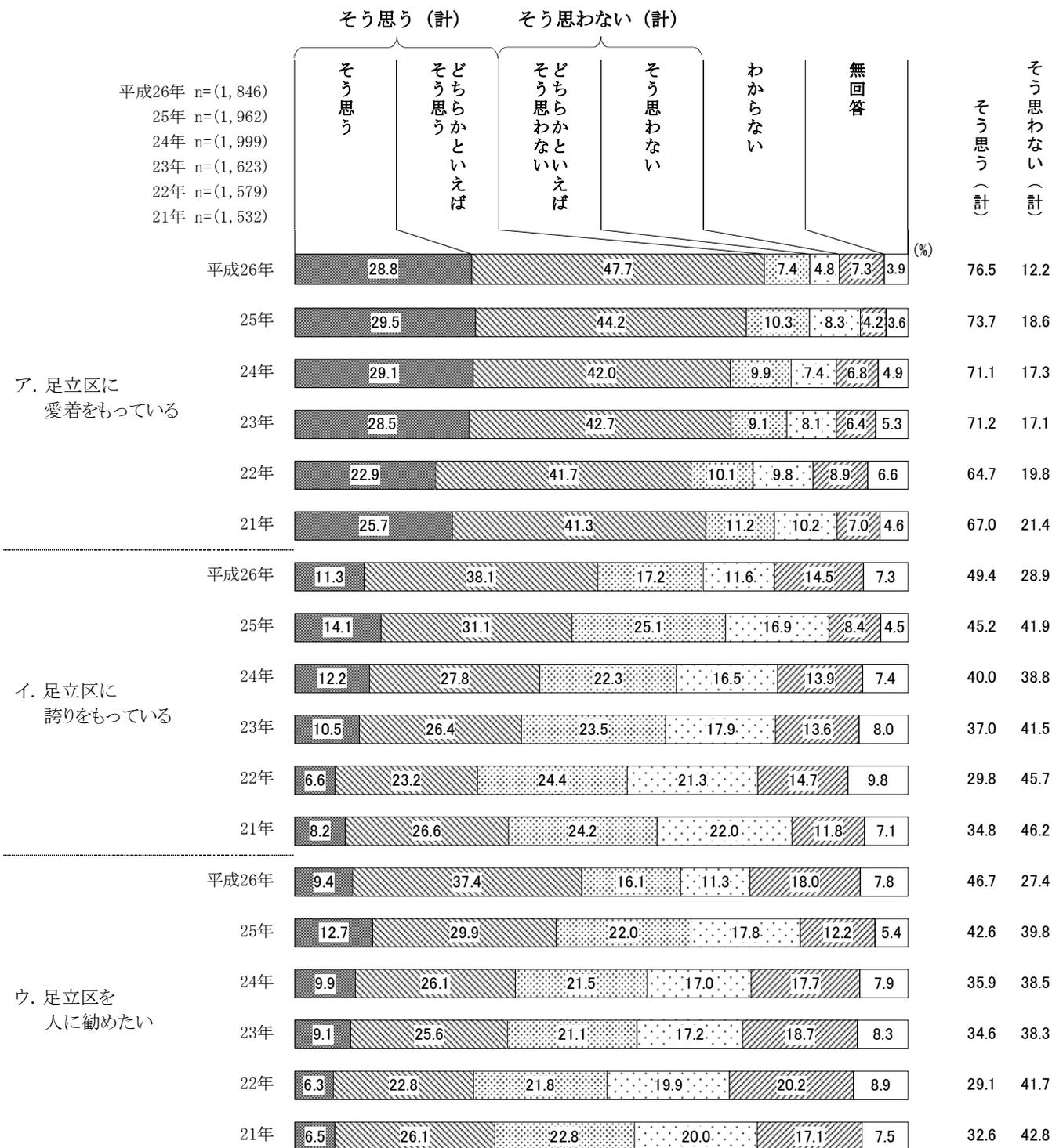


(3) 区に対する気持ち

■ “愛着をもっている、誇りをもっている、人に勧めたい”は、平成21年度調査開始から、いずれも最高値となった

問37 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図9-3-1 経年比較/区に対する気持ち



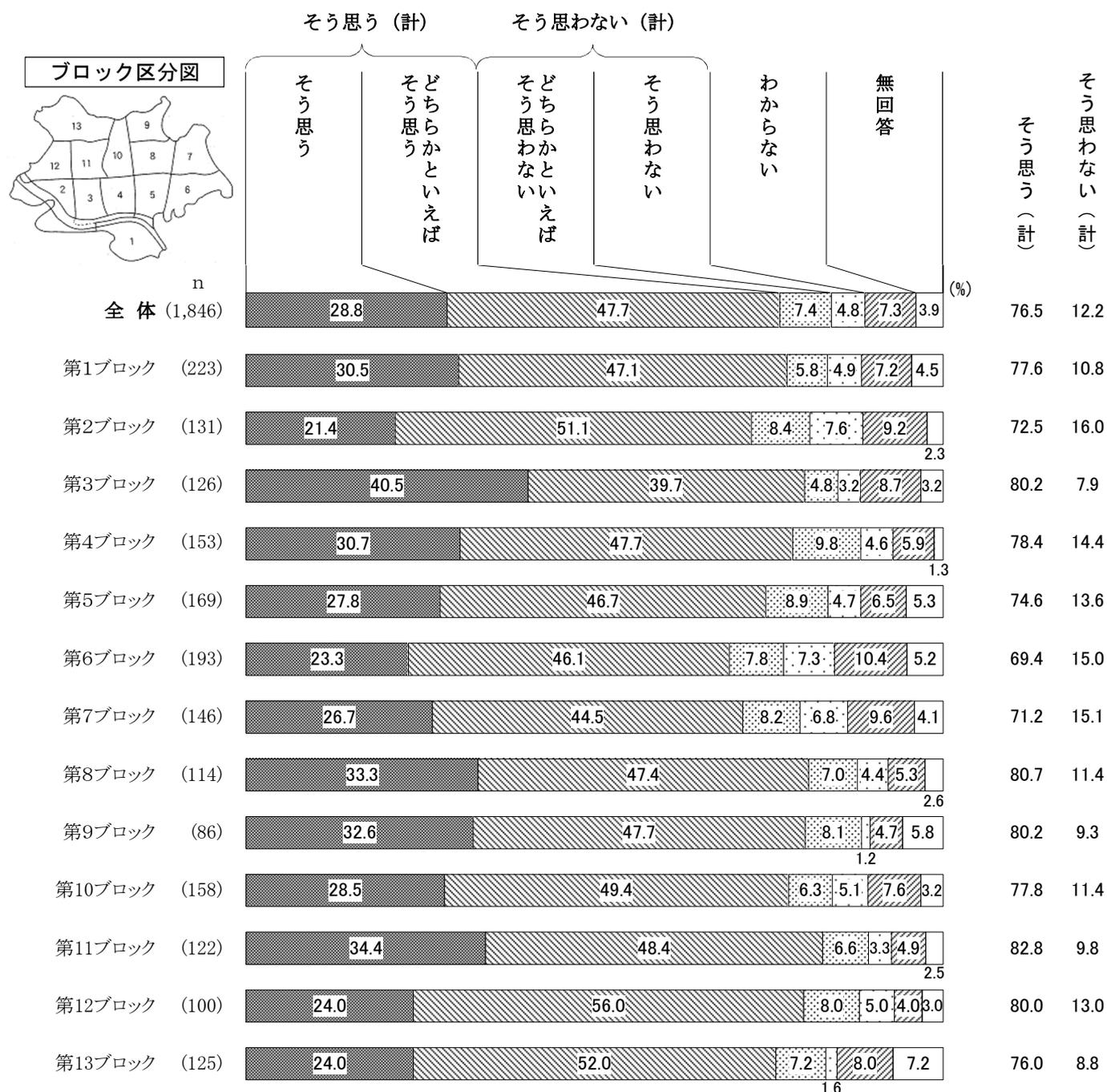
区に対する気持ちについて聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は、〈足立区に愛着をもっている〉が76.5%で最も高く、〈足立区に誇りをもっている〉は49.4%、〈足立区を人に勧めたい〉は46.7%となっている。

また、過去の結果とともにみると、どの項目も【そう思う】は増加傾向にあるが、なかでも〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉は、前回からそれぞれ4.2ポイント、4.1ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析

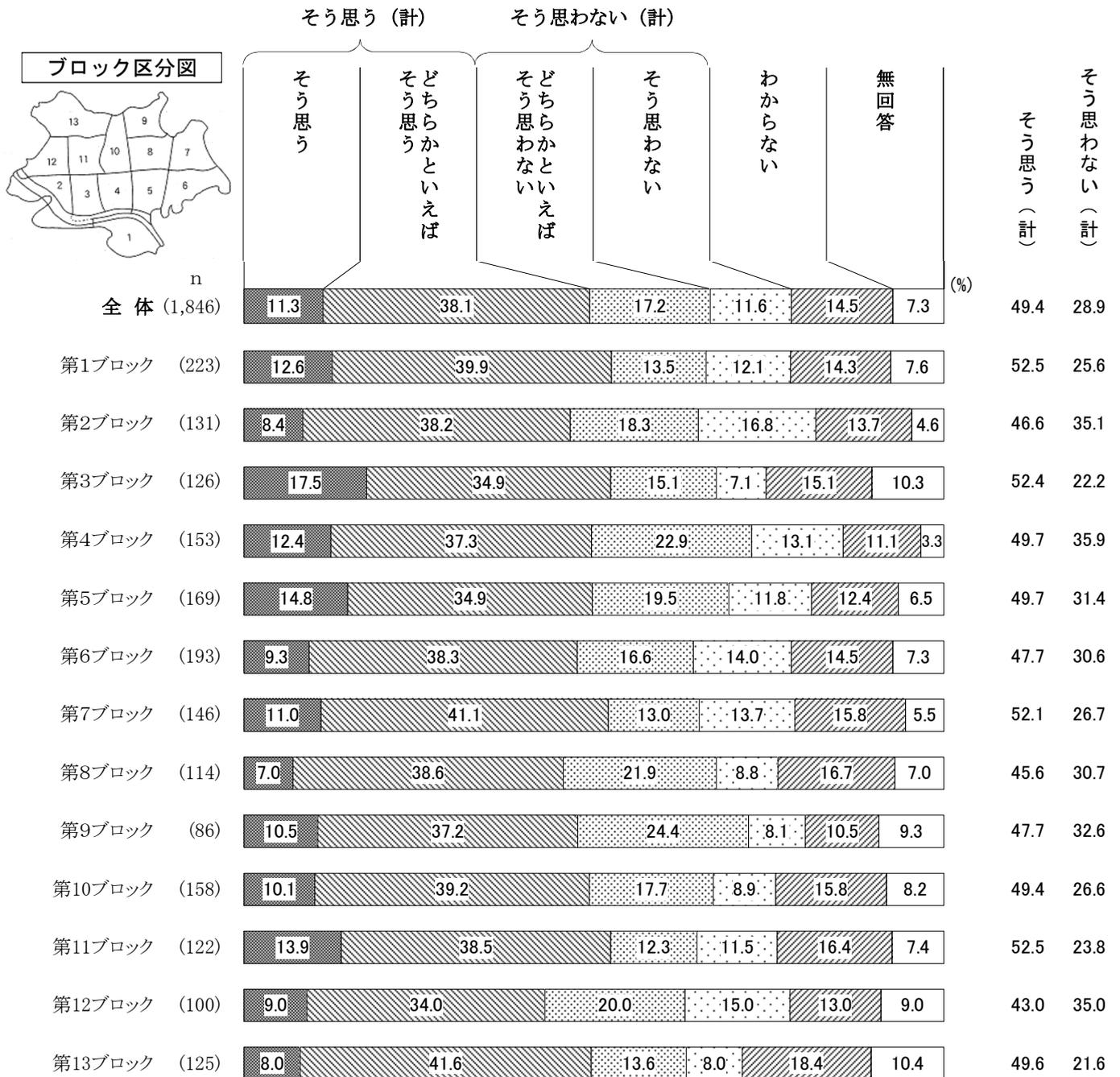
地域ブロック別でみると、〈足立区に愛着をもっている〉では、【そう思う】が第11ブロックで82.8%と最も高く、第3ブロック、第8ブロック、第9ブロック、第12ブロックでも8割を超えている。

図9-3-2-① 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉では、【そう思う】が第1ブロック、第11ブロックで、ともに52.5%と最も高く、第3ブロックで52.4%、第7ブロックでも52.1%となっている。

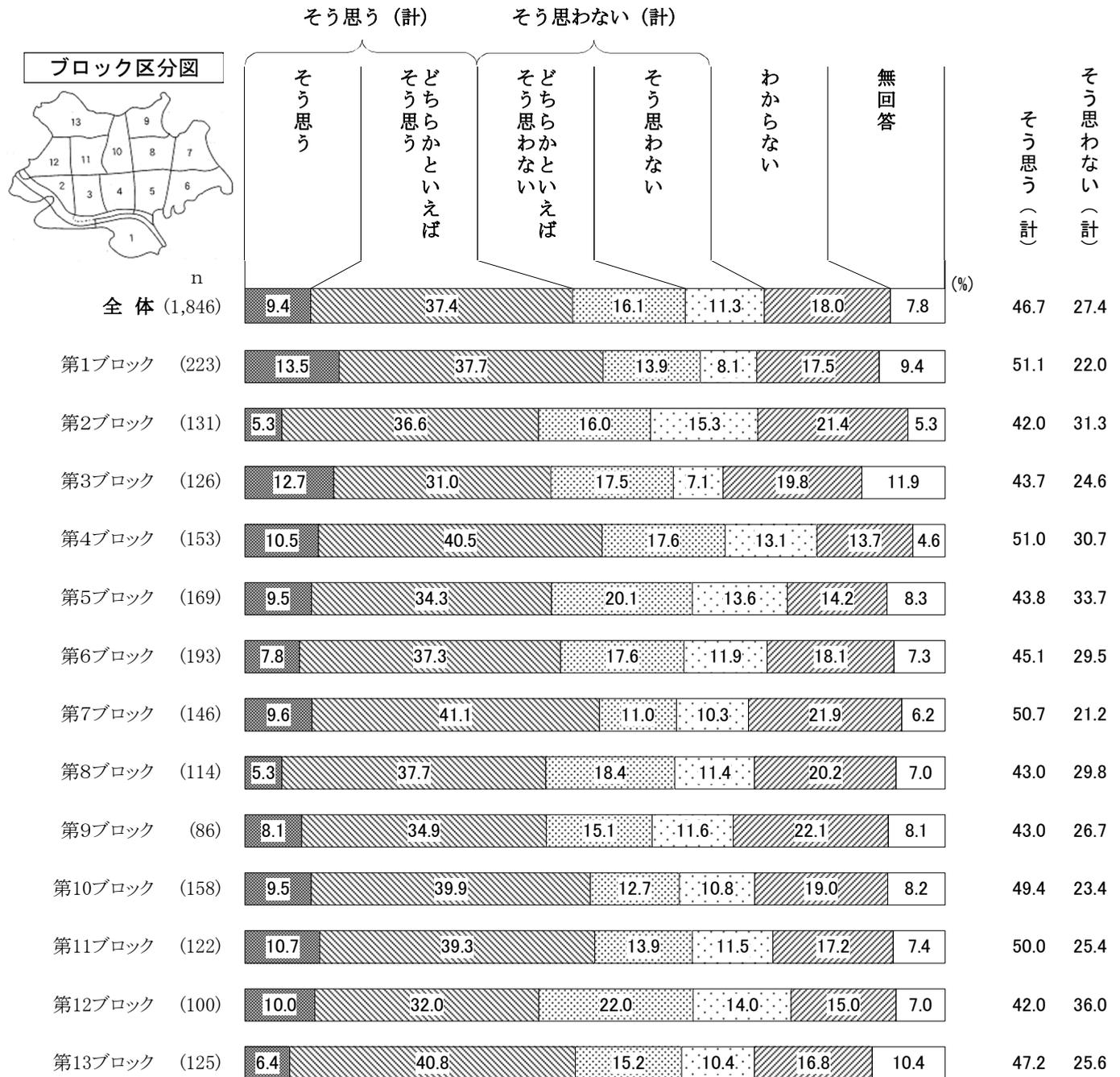
図9-3-2-② 地域ブロック別/区に対する気持ち/足立区に誇りをもっている



第3章 調査結果の分析

〈足立区を人に勧めたい〉では、【そう思う】が第1ブロック、第4ブロック、第7ブロック、第10ブロック、第11ブロックで5割前後と、他のブロックよりやや高くなっている。

図9-3-2-③ 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

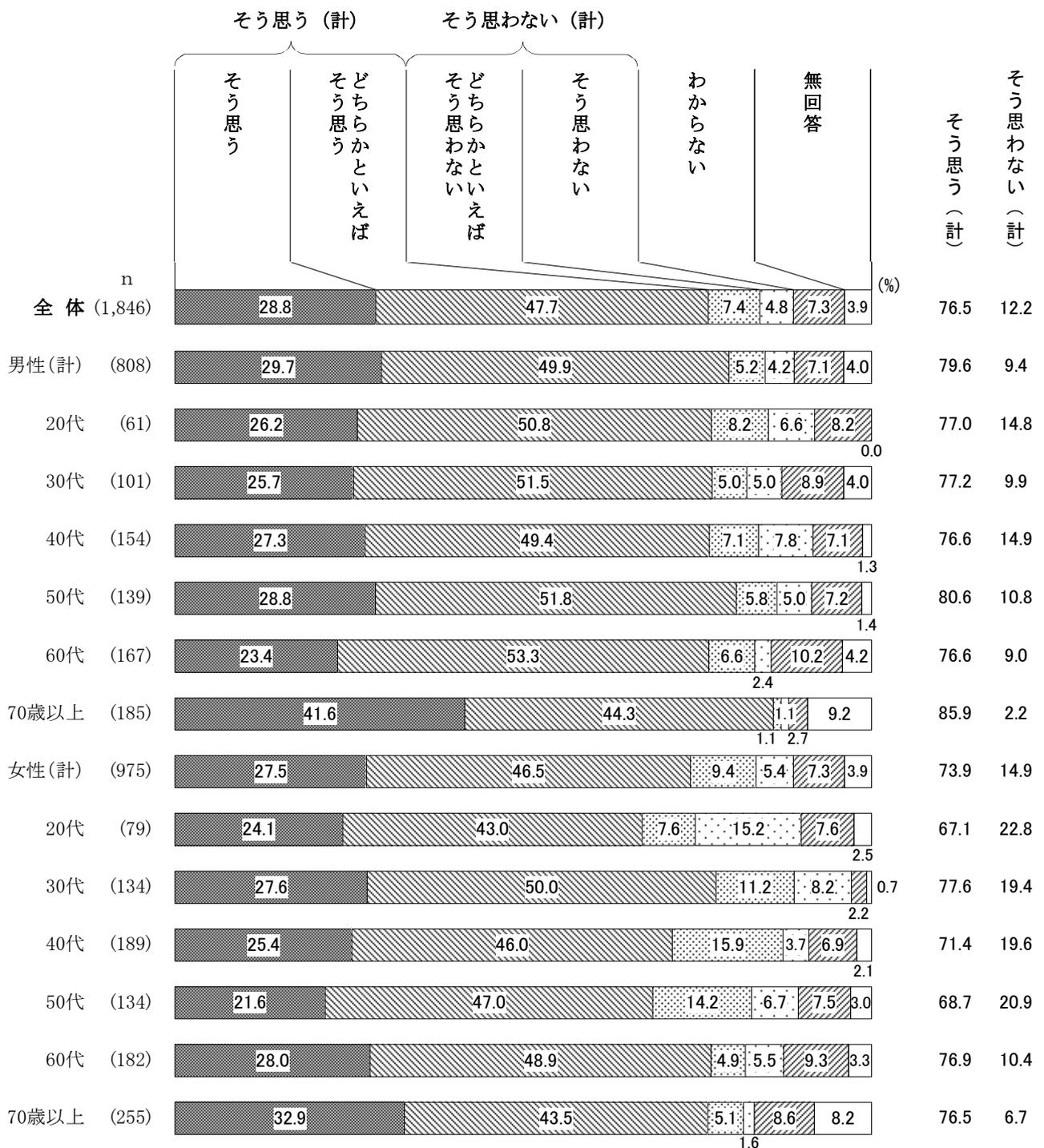


〈足立区に愛着をもっている〉について性別で見ると、【そう思う】が男性79.6%、女性73.9%と、男性の方が高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では【そう思う】が、50代、70歳以上で8割を超えて、他の年代より高くなっている。

女性では【そう思う】が、30代、60代、70歳以上で、それぞれ77.6%、76.9%、76.5%と高くなっている。

図9-3-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



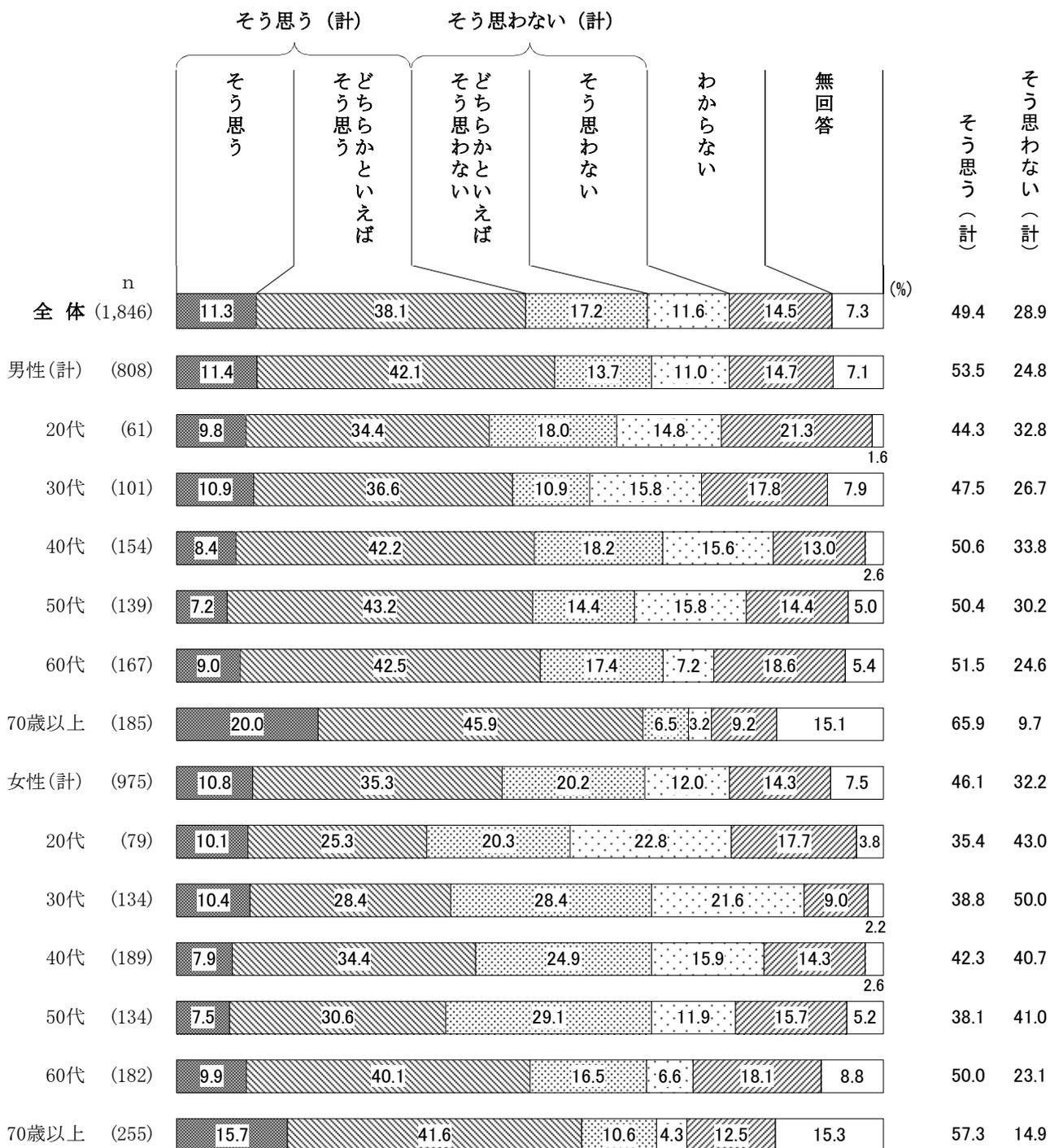
第3章 調査結果の分析

〈足立区に誇りをもっている〉について性別で見ると、【そう思う】が男性53.5%、女性46.1%と、男性の方が高くなっている。

性・年代別で見ると、【そう思う】が、男性の場合、40代以上では5割を超え、特に70歳以上では65.9%となっている。

女性の場合、【そう思う】は、60代、70歳以上で、それぞれ50.0%、57.3%と高くなっている。

図9-3-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

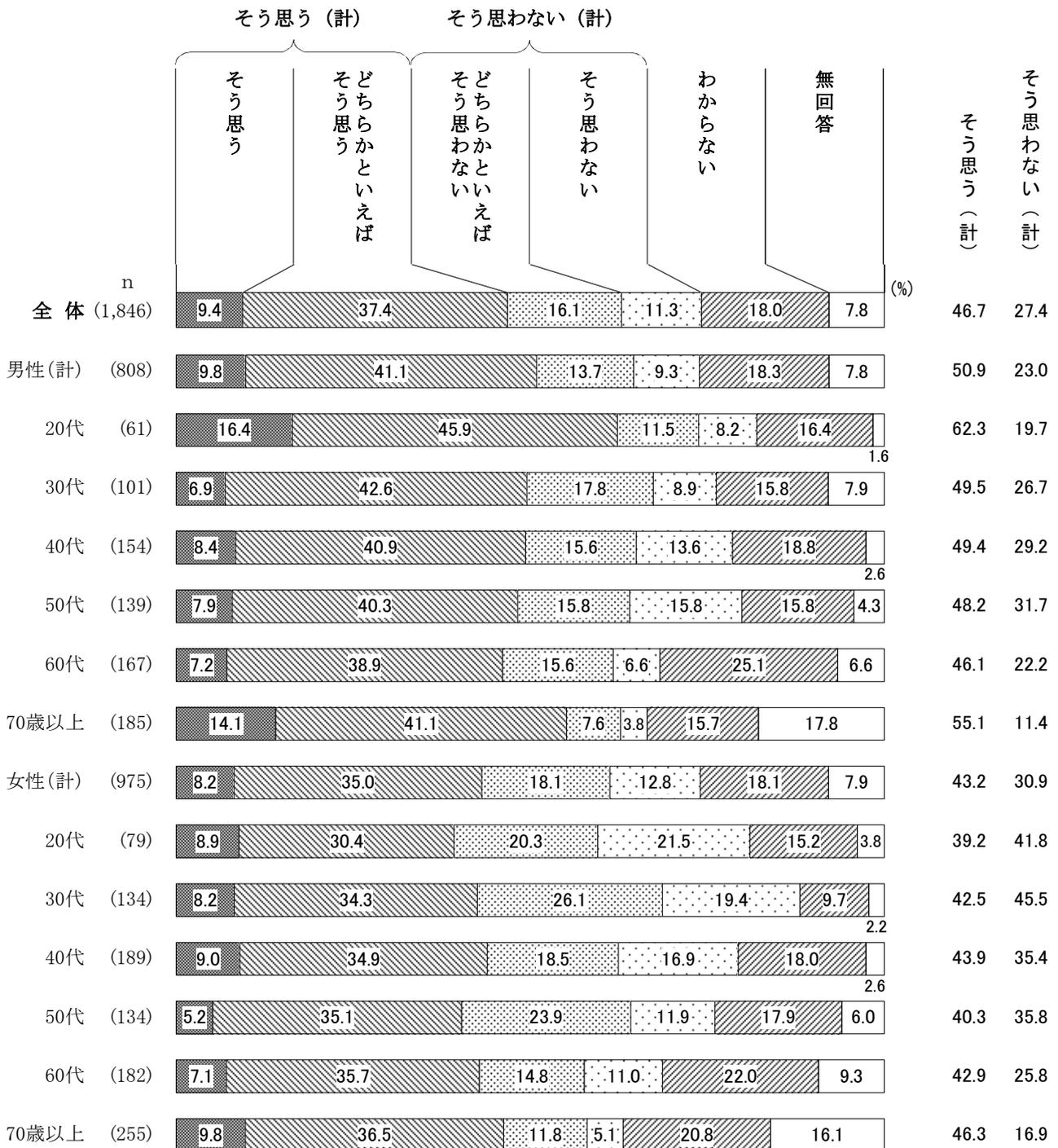


〈足立区を人に勧めたい〉について性別でみると、【そう思う】が男性50.9%、女性43.2%と、男性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、【そう思う】が、男性では20代と70歳以上で、それぞれ62.3%、55.1%と高くなっている。

女性では、【そう思う】が、20代を除くと、いずれの年代でも4割を超えている。

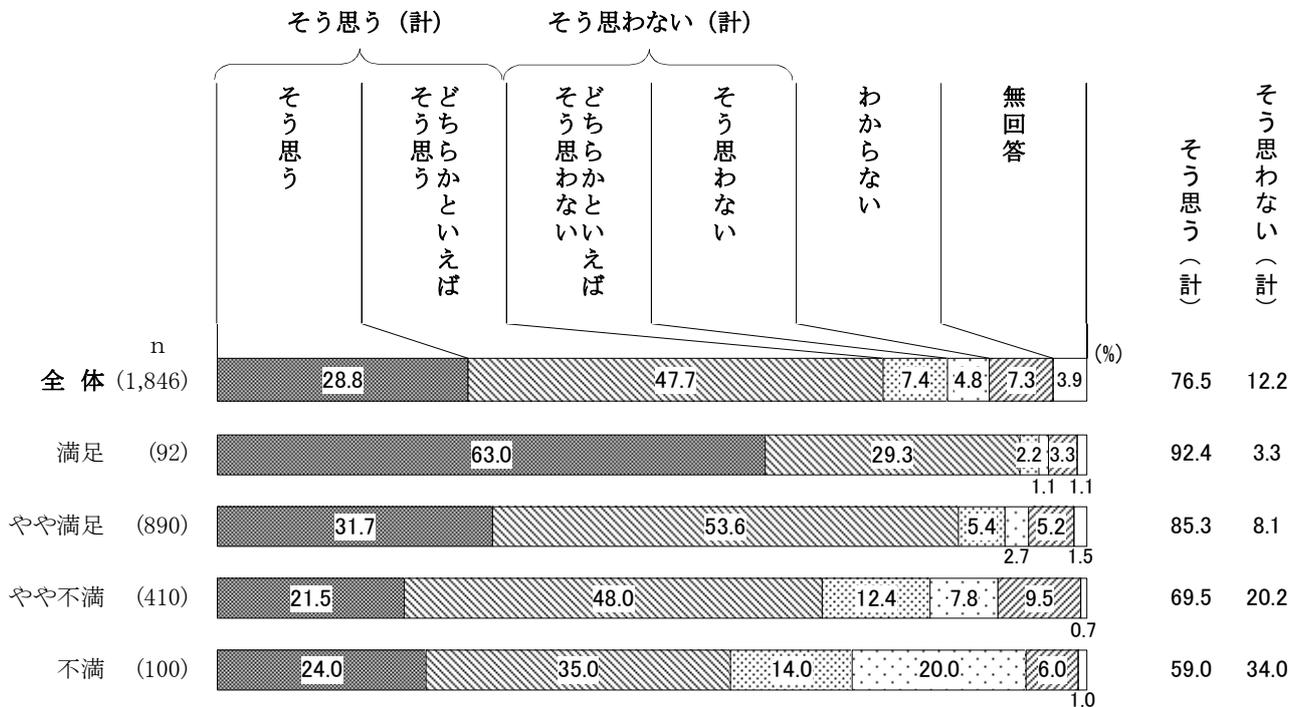
図9-3-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



第3章 調査結果の分析

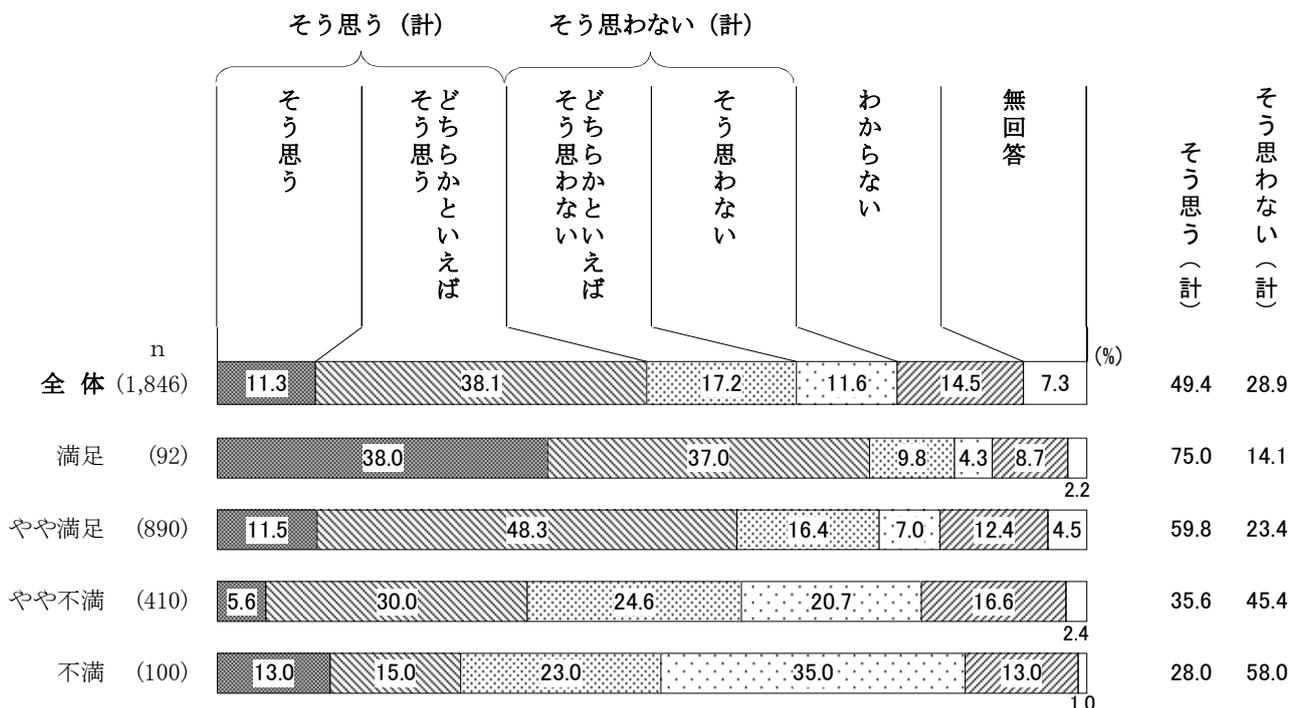
〈足立区に愛着をもっている〉について区政満足度別で見ると、【そう思う】が満足している層で92.4%と、極めて高くなっている。

図9-3-4-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉について区政満足度別で見ると、【そう思う】が満足している層で75.0%と高くなっている。

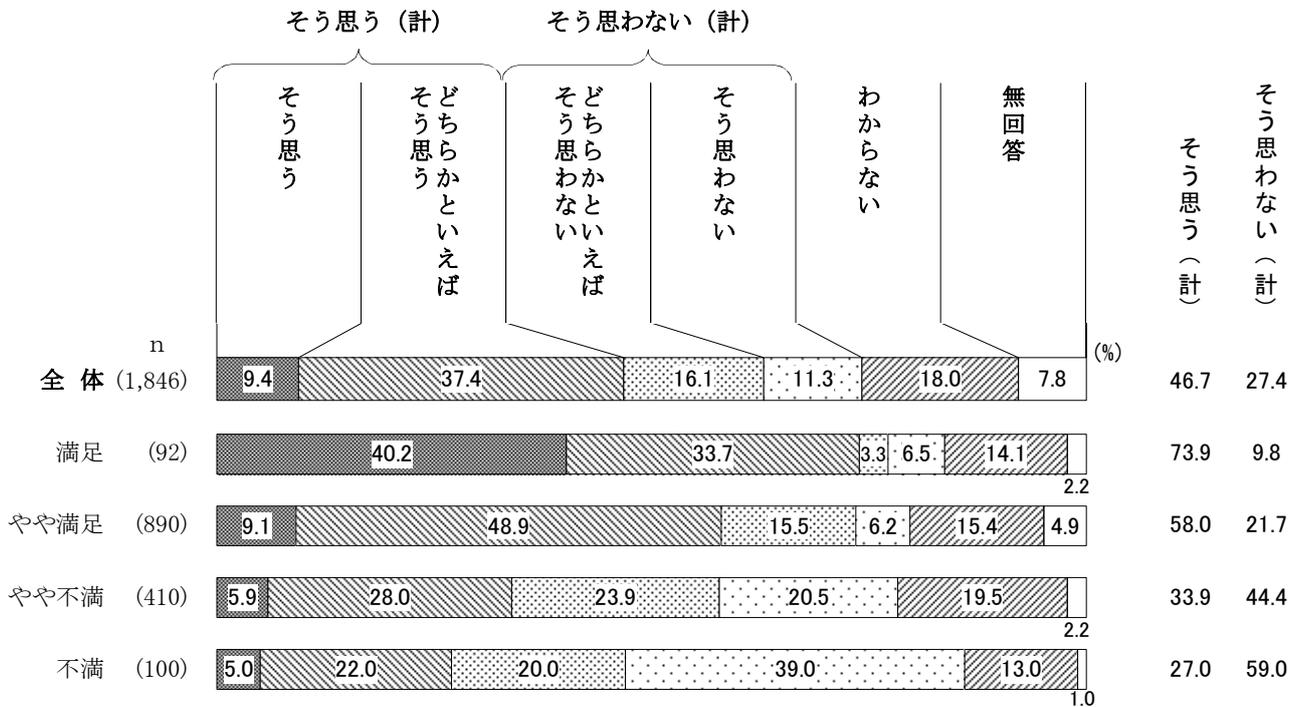
図9-3-4-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



〈足立区を人に勧めたい〉について区政満足度別で見ると、【**そう思う**】が満足している層で73.9%と高くなっている。

また、不満だという層は、【**そう思う**】が27.0%と最も低くなっている。

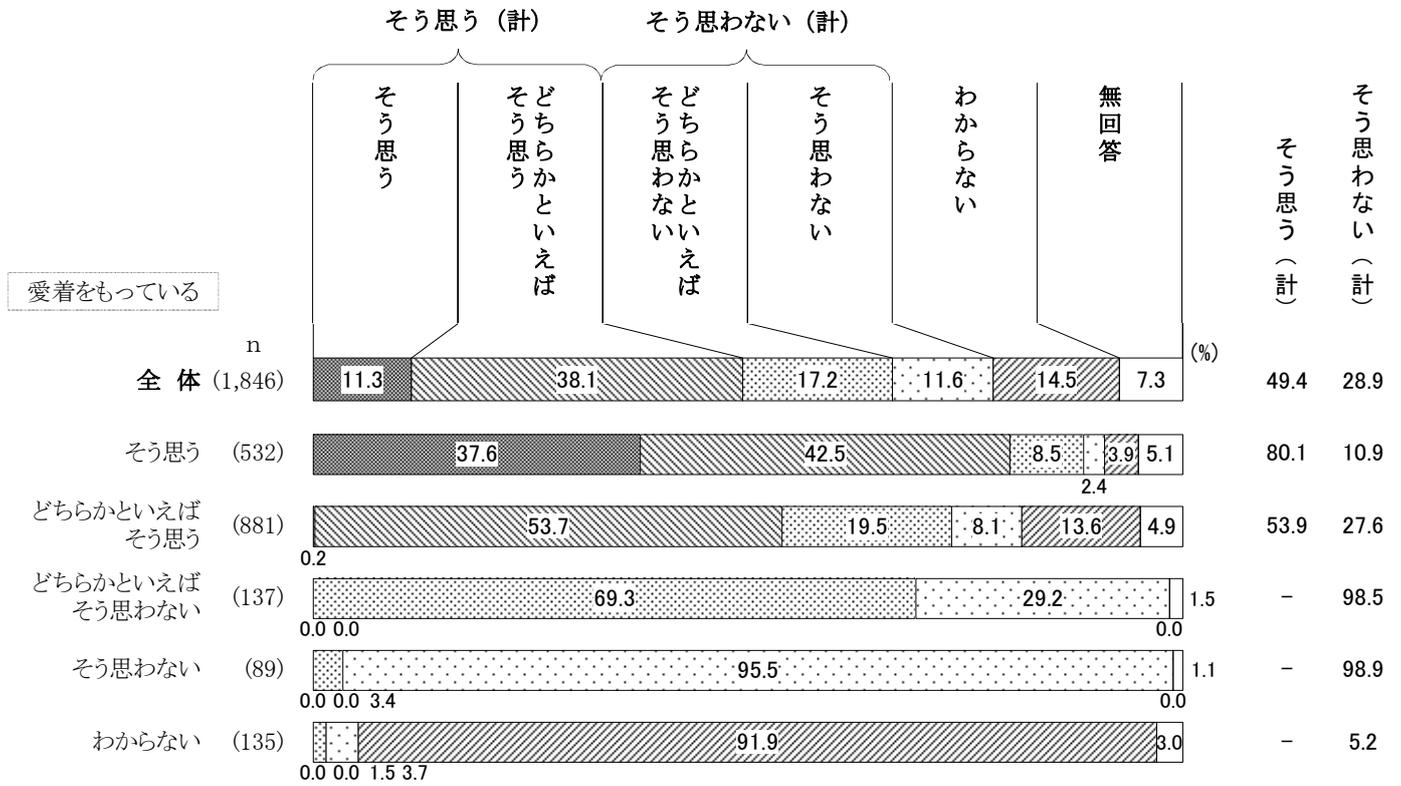
図9-3-4-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



第3章 調査結果の分析

区への愛着度別に区への誇りをみると、愛着度が強まるにつれて、【そう思う】は増加し、愛着をもっている<そう思う>という層では80.1%に達している。

図9-3-5 区への愛着度別/区に対する気持ち/足立区に誇りをもっている



(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）

問37で「3. どちらかといえばそう思わない」、または「4. そう思わない」に1つでも○をつけた方に

問37-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思う理由を記述していただいたところ、571名から延べ1,012件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■治安・防犯（201件）

- ・治安が悪い。近隣区と比べて犯罪の起きた物件（住宅）が滅茶苦茶多い。
- ・軽犯罪件数がワーストより脱せたのは知っているが、件数はいまだに高いことには変わらないため。
- ・最近足立区に引越して来たのですが、とても治安の悪さを感じます。正直夜の7・8時台でも不審者に声をかけられるので本当にこわいです。
- ・テレビのニュース等で、足立区が出ると犯罪であることが多くてがっかりする。人に勧める事はできないと思う。

■足立区のイメージ（89件）

- ・まだまだ根強い悪いイメージを持っている人が多く、それをぬぐいさることのできるようなアピールが思いつかない。
- ・住んでいると良い所なのですが、足立区以外の人からの足立区のイメージが本当に悪いです。悲しい現実です。
- ・治安の悪いイメージが定着している。
- ・足立区住まいと言う事が恥ずかしい。他区の人から大変イメージが悪いからである。何と言っても過去の犯罪の多さ。

■住宅・住環境・住みやすさ（85件）

- ・千住地区は特に土地が狭く、住宅が密集して道路も狭く住環境が悪い。
- ・駅周辺が都市住宅ばかりでイメージが悪い。駅近に家を持ちたい人にとっては、他のエリアが魅力的に見える。
- ・他の区と比べたことがないので、良いか悪いかの判断は出来ない。他にも、もっと住みやすい地域があれば足立区に未練はない。
- ・生まれ育った町ではない為か、あまり愛着がわかない。

■道路・交通（80件）

- ・交通の便が悪かった頃のイメージ（陸の孤島）と言われていて住むのを勧められない。
- ・東西の交通の便がとにかく悪い。西新井に越して来ましたが、北千住と西新井以外の地域では通勤通学がづらい。駅やバス停まで自転車で行くしかないのに駐輪場が少ない、高い。

第3章 調査結果の分析

- ・交通の便が悪い。バスももっといろんな所から出してほしい。駅まで行くのが大変。
- ・道路整備がされていない。都内に行くのに交通運賃が高い。

■住民の質や意識面（69件）

- ・土地柄、イメージが悪い。住んでいる人が質の悪い人が多い。
- ・生まれ育った街だから愛着はあるが、他22区と比べれば治安が悪く住民の質も悪い。
- ・品格のない大人がたくさんいて、それを見て育つ子供も同じようになるので、まず大人の教育から！
- ・ガラが悪い人が多いというイメージをもたれがち。また実際にそういう人が多いと感じるから。

■学校・教育（58件）

- ・子供を持つ親として他区と比べてかなり学力が低いのが気になります。
- ・自分の生まれ育った区でもあるが、自分が親となり子育てしている中で、中・高校生のガラの悪さが目につく事があるので、足立区の高校には入学させたくないとよく耳にしたりします。
- ・生活しやすいと思うが、向上心や常識を持つ親世代が他と比べて少なく、教育面で不満がある。特に小学校の地域格差はひどい。若い世代を増やすためにも子育て世代の要望は良く聞き、どんどん取り入れていくべきだと思う。
- ・ニュース他で、悪い面で足立区・足立区とよく耳にする。この所給食の点でやっとな良い面での足立区がクローズアップされたが、年少者達の非行が目立つのが残念。

■区や区政（50件）

- ・刑事事件・不法外国人等も23区でトップ、減少の兆しもなく区で対策を考慮すべきである。他人には足立区に住んでいると恥ずかしくて言えない。
- ・他の土地に住む人からのイメージが悪い為、他区、他県に対してのイメージアップにつながる発信をして欲しい。
- ・治安がよくないせいもあります、区の職員さんの仕事を外部に委託しているからです。プライバシーなど守られるわけないと思います。
- ・以前の区長時代に他の区から所得のない人をたくさん受け入れ、区の財政を悪くし、悪化させた。区民に他区より優しくない。

■区の見どころ・観光・文化・施設（50件）

- ・誇りに思うほど目立った、際立ったものが無いから。全てでなくても良い。一つでもあれば誇りに思えると思う。
- ・何も自慢になる物（場所、食べ物）などなく、特徴がないため。
- ・足立区生まれで今日まで暮していますので愛着をもっています。そして住みやすいと思っています。だけれども自慢できる事が私にはありません。
- ・郷土博物館が実にもったいない。一度訪れ、再度行きたくなるような空間だろうか？その内容、展示方法、そのものが足立だと思ふ。わくわくするような人を呼べるような文化が花火以外にないのが足立。展示が地味でも、これぞ、という店でも館内に配置するとか工夫次第で人は呼べる。文化が栄えなければ魅力ある町にはならぬ。

■マナー（49件）

- ・人の質が悪い。マナーやモラルに対して意識が低い人が多い。夕方の公園などもっとパトロールしてほしいです。中学生、高校生のタバコなどマナーひどいです。
- ・中年の方々のマナーが悪い（歩きタバコ・自転車の乗り方）。自転車同士の出会いがしらでぶつかりそうになったことが最近2度あり、2回とも右側をブレーキなしで走る中年女性で、おまけに「危ないじゃない！！」と文句を言われたりした。怖い。
- ・深夜の打ち上げ花火やオートバイで走り回る等の騒音・治安の悪さやマナーの悪さ・民度の低さ等から誇りや人に勧めたいと思いません。
- ・タバコをくわえながらの歩行や自転車は毎日見えます。母親としての意識レベルが低く、夜中に幼い子どもが走りまわっています。特に30才～40才の主婦、子供の叱り方が判らないのかナ。びっくりです。又、子供も同じで親とそっくり。マナー悪い。

■環境・衛生・公園（36件）

- ・公園が多い事はいいのかもしれないが、トイレが汚い（洋式にしてほしい）。夜間危険地帯と化している。いつ大きな事件が起きてもおかしくない環境である。
- ・愛着を持っています。しかし、もっと町に緑が欲しいです。古くからの家が手離される毎に、小さい区画の家々が増え、空間や緑が減っていくのが残念です。
- ・緑が多く、公園も多いが、ゴミなどのマナーが悪い。公園に中高男子がタバコ吸ってポイすてしているのを見ると人には勧められない。
- ・街がごちゃごちゃして、落ち着かない。ゴミ屋敷があつたり、綾瀬川、コンクリの壁、水は汚れ近づけない。オウム（アレフ）、小菅刑務所、自慢する話が出来ない。子供から大人まで遊び場がない。

■子育て・保育（28件）

- ・保育園の需要のみに応え、子どもの未来にとって大切な保育の質を落とす結果になっていると思うから。
- ・子育て世代が多い割にはあまり住みやすいと思えないからです。保育所の問題、治安の問題、改善されていると感じないところです。
- ・子どもを育てるなら他区で制度がしっかりしている所に引っ越したい。待機児童問題が深刻なイメージがある。
- ・一番お金のかからない赤ちゃんから中学生までは医療費や助成金が支援されるが、一番お金のかかる高校生や大学生に支援されないのはなぜ？

■所得や収入の低さ（25件）

- ・貧困による負の連鎖が有ると思う。そのため教育が不十分で、職業の選択が困難であつたり、社会のマナーが身に付いていない人が多い印象。低所得、低教育が根源的な問題として有るのを感じる。
- ・足立区は低所得者が多い。治安が悪い。低レベルだと周りの人が思っている為。
- ・足立区＝低所得者のイメージで自慢は出来ない。他区からバカにされている（ネットe t c）。でも住みやすいし人も良心的なので自分は住み続けたい。
- ・低所得者の多い区。ガラが悪い等々、とにかく他の区、県からの評判は最悪。足立区に住んでいると言いたくない。早く引っ越したい。

■税金（19件）

- ・区には都住が沢山あり、杉並方面の人達が生活苦しくなると足立区へ行けばよいと以前何度も聞いた。イメージが悪い。税金払う人が少ないから区の税が他の区より高い。
- ・税金が高すぎる、年寄りでは払いきれない。
- ・他の区の事を知らないが、住民税が高い。収入が増えて、あらためて高いと思う。
- ・低所得者が多いと思うので、そういった人のために税金が使われていると思うとはらだたい。

■都市開発（16件）

- ・五反野駅は利用者が多いが、駅が小さすぎ。銀行が1つしかない。駅前の道路が狭く危険。道幅が狭いのが問題。駅前の開発計画はないのか。
- ・整備されている地区とそうでない地区との格差が激しい。
- ・駅周辺の整備については進んでいる感はありますが、私が住んでいる場所は往来が少ないため、環境整備に目が向けられていません。財政投入効果を考えるとやむをえないのかもしれませんが、満足感はありません。
- ・街づくりにセンスがない。

■地域活動やコミュニティ（16件）

- ・以前（幼少期）は、人と人との関わり、コミュニケーションが活発であったが、昨今外国人（マナーを知らない）の流入、他地区からの移住者増で警戒心が働いているのか、地域住民のコミュニケーションが薄れている。
- ・人情があり下町の気安さがありますが？代々住み続けている人と転入者とのコミュニケーションが図れればと、感想です。
- ・町会の地域によって異なると思うが、当町会是他から移住してきた家庭に対して対応が悪い。今後、この子供達が足立区、この地域に住みやすい町会作りが必要だ。
- ・地域の半数ほどしか自治会に加入して居らず、災害時の互助のイメージが全く浮かばない。人間関係も希薄であり住みよいとは思えない。

■生活保護（16件）

- ・仕事をしないで生活支援を受けている人が多いという事を聞いたり、そう思います。
- ・生活保護受給者が多いこと。低所得者が多いイメージがあり、ガラが悪い奴が多い区との印象がある。
- ・年金暮らしで苦労しているのに近所に生活保護の人たちがいて、毎日優雅に遊んで暮らしている。見直しはしているのでしょうか？せめて出すなら、年金額位におさえてほしい。払った人達はバカみたい。
- ・生活保護者天国と言われていています。区民として情けなく思います。

■医療・福祉（15件）

- ・福祉にもっと力を入れて欲しい。医療ケアの方がまったく進んでいない。糖尿病ばかりが目立っている気がしてならない。障がい児に住みやすい区になってほしい。
- ・北千住は賑やかで人口も多いのに大病院がない。

- ・近くの医療機関がここ数年でどんどんなくなり、他区を利用している。また、便利な店も減って住みにくくなっている。「街が充実していいよ」とは勧められない。
- ・医療実績。施設が良い病院がない。全体的に環境が良くない。

■外国人・他区からの移住者（14件）

- ・長く生活しているので住みやすさはあるが、安全とは言えないし、外国人が多く、よく外国語で夜中にけんかをしている。夜は電気がある場所でも少し怖い。
- ・逆にこれ以上他県からマナーの悪い方が流入しない方が！
- ・日本人以外の居住者が増えていることに対し、若干の不安を感じている。

■買い物の不便さ（14件）

- ・買い物に不便を感じる。新鮮なものが手に入りにくい、スーパー等の閉店が早い。遅くまで開いている店は品質の悪い物が多く買う気にならない。
- ・商業施設が少ないので欲しいものが都心にしかないからやや不便。20代～40代くらいが利用するショッピングセンターが近くにないため、買い物が不便。
- ・私の回りに商店街がなくなり買物に不自由。
- ・交通の便が悪く、買い物（商店）が少ないため、バスなどを使い、遠いところまで出なくてはならない。住んでいてあまりいいと思っていない。

■足立区以外に良い区がある（11件）

- ・他の区でも魅力的な所、目黒区・港区等があり足立区を特別に勧められるとは思わない。愛着があるのはおそらく生まれ育った所だからでしょう。
- ・足立区よりもっと住みやすい区があるから。
- ・都内はもっと魅力的な区もある為。
- ・イメージが特にならない（港区＝企業、文京区＝静かで学問の区、足立区は特に思いつかない）

■生涯教育・施設（11件）

- ・区の中心部では施設やサービスが充実しているが、当地域ではそれが充実していない。学校も第2校舎を建設したり無駄が多い。
- ・公共施設（図書館、美術館、音楽ホール）身近にない。子どもの為の教育施設、文化施設が少ない。
- ・図書館や公共の施設が遠くて利用出来ない。
- ・住めば都、的な愛着はあるが、人に勧めるだけの魅力が全くない。魅力となるべき、文教的な所が抜けている。生活、また生活と現実的なところばかり強調。美術館なし、舎人公園にも運動場が立派にあるが、さみしい限り。

■高齢者・障がい者支援（10件）

- ・近隣の方々が親切であり、住んでいる所が比較的便利で、障がいを持っている私にはどうにか生活はできているが、何かあった時にどうすればいいのか、分からない事が多いので。
- ・若い人（現役世代）への支援が足りないと感じます。23区でも高齢者が多いので制度が偏るのは仕方ないと思いますが、それではどんどん人は減り、負のスパイラルに。

第3章 調査結果の分析

- ・年配者と若者に対する区のお金の使い方にも不満があるので。
- ・高齢になっての移住に後悔をしている為。すべてそこへ考えてしまう為。多くの友達と別れてしまった。なじめない。

■資源環境（8件）

- ・町が汚い（タバコのポイ捨て・ネコの糞尿被害・ごみ収集が午後まで来ない・街路樹などの草木の手入れが出来ていない）
- ・足立区には良心的な人も沢山住んでいるのに、ゴミを平気で捨てる人、マナーの悪い人も多く、治安の面で誇りを持ってない。
- ・東京オリンピックなのに、このまま資源ゴミ生計者が増えたら足立区は本当にスラムになってしまいます。「万引き・置き引き・ひったくり」どう人に勧めるのでしょうか。
- ・ゴミ出しが汚い、ゴミの分別を無視。

■災害・防災（7件）

- ・（風水害時）災害が起きた時が心配。
- ・千住は、荒川と隅田川に挟まれ災害時の危険性が高い。
- ・足立区は土地的に水没する危険があるため、お金があったら安全な他の区へ引越したいと思う。
- ・災害の時の地盤沈下、液状化。

■就業・企業（5件）

- ・ブラック企業が多く労働条件が悪い。
- ・企業のモラルの低さと教育不足を強く感じる。区から指導してほしい。
- ・働く場が少ない。
- ・生活保護の方が多すぎるから、働く意欲がなくなる。

■その他（30件）

- ・足立区に住んで2年であり、平日はフルタイムで仕事をしている為、足立区のことを良く知らない為。
- ・足立区についてまだよくわからないというのが現実で、これからいろいろと勉強していきたい。
- ・いじめを徹底してやり続ける人がいるから。
- ・愛着もあるし、人にも勧めていいと思うが、誇りには思わない。

(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問38 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、605人からの延べ1,185件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■区政全般に関する意見・区長や区役所への意見（136件）

- ・場当たりの区政、目先だけの区政、年寄りを大切にしない区政、目立ちたがりの区政。もっと地に足を付けていろいろな角度から見て区政を実施してほしい。現在の区政には不満足だ。もっとしっかりしてほしい。
- ・区長自ら区役所への道をゴミ拾いしている姿に敬服します。
- ・区役所の建物が広すぎててもあましている階が目立ち、無駄が多いように感じる。特に上階になるほど。
- ・区役所（本庁）が駅から遠すぎて不便。出張所で出来る手続きを多くして欲しい。

■医療・福祉（92件）

- ・足立区に大きな総合病医院が出来たら良いと思う。
- ・生活保護の支給を慎重にされたほうが良いと思います。まわりでパチンコをしたり、カラオケスタジオで遊んでいると話を聞きます。
- ・医療関係、特に精神医療の各病院の待遇と精神病への理解と啓蒙を推進の運動を日本全国に展開してもらいたいです。
- ・足立区というと良くないイメージがついていますが、子どもの医療費は中学生まで無料だし、そういった福祉のサービスが充実しているし、とても暮らしやすいです。

■交通機関・道路の整備（76件）

- ・交通の便を良くしてほしい。駅までバス1本しかない。最寄り駅よりバスに乗るのですが終バスが早すぎる。幹線道路までの橋と道路の整備をととのえてほしい。
- ・はるかぜ号を各方面に。乗る場所が無い。遠いです。
- ・舍人ライナーは大変便利であるが、通勤・通学時間帯の混雑は殺人的です。とにかくあの座席の造りを改善して欲しい、それだけでも大分収容人数が増えるのではないかと思います。
- ・道路や町の整備が一向に進んでいない地域があり、優先度がどうなっているのかわからない。

■高齢者支援・介護（75件）

- ・今現在、そして将来的にもっと必要になってくる、公的な高齢者支援施設を増やしていくべきだと思います。どうしても民間の施設は費用が高く、費用の問題で考えてしまう人も多いと思います。
- ・70才以上には月3回の入浴券や年令証明（住基カード等）見せて自転車の無料など、いろいろ高齢者に対して優しい施策が実施されているので、感謝しています。
- ・国民年金が1ヶ月4万少ししかないのに、介護保険料は勝手に高くなってきて、夫の年金も安く二人合わせて11万少ししかないので暮していけません。

第3章 調査結果の分析

- ・老々介助対策をお願いします。

■税金について（72件）

- ・国民健康保険料・住民税が私にとって高いと思います。
- ・在宅介護をしている者に対して手厚い税額の減税をお願いしたい。
- ・収入があっても税金をごまかしている人が多いのが、足立には多いように思います。もっとチェックして下さい。
- ・足立区は低所得者が多く、高所得主に対する特別区民税があります。しかし、40万円程度の所得でさえ対象にされます。これは他の区での一般的なサラリーマンの収入と変わらないので、足立区に住むと出ていくお金が増えてしまう為出て行く人が多く、低所得者の割合が多くなり負の連鎖になっています。

■子育て支援（68件）

- ・子育て支援をもっと手厚くして欲しい。低所得者に優しくして欲しい。
- ・発達障がい児（小学生）がおり週に一度情緒の支援学級に通級しています。内容が大変よく、又、そのような場所に通える機会に恵まれ区には大変感謝しています。
- ・認可保育園を増やして欲しいです。
- ・待機児童対策を宜しくお願い致します。

■都市開発（63件）

- ・大学の誘致やつくばエクスプレスの開通などで街並みは整備され、賑わいを見せています。一方で閑散とした商店街。商店街の活性化によって人が集まる街づくりをしていただきたいです。
- ・もっと若い人に住みたいと思ってもらえるような個性ある街づくりを！
- ・豊かな自然を活用した集客により、区の活性化を図ってほしい。区の東側（北千住近く）だけでなく、区全体に平等に開発地域を設けてほしい。
- ・アスファルト道路でなく石畳できれいな道路による環境。

■広報・情報公開について（55件）

- ・情報開示をきちんとやってほしい！インターネット、HPでの情報提供をもっとわかりやすくしてほしい。WEBページのリンク切れが多いので、マメにメンテした方が良いと思います。
- ・足立区ホームページなどで子育てサロンや児童館などの写真を付けて紹介してもえると雰囲気も分かっていいのだけど…。
- ・足立区の予算を分かりやすく説明するよう、公表してほしい。公報に寄せる区長の寸評が楽しみで、読ませてもらっています。
- ・区民に対する情報をもっと積極的に知らせるように（福祉）などは、聞かないと教えない、知らせない事が多い。情報を持っている人だけが利用できるというのが現実だと思います。

■環境対策・公園（54件）

- ・公園は充分あるが管理がへたで不充分、公園の管理など近所でやりたい人に任せてもいいと思う。
- ・ベランダに布団を干したいのですが、マンションの管理会社から「景観を損なうので、外に見える

ように布団を干さないでと区から？言われている」と言われました。観光地でもないのになぜ布団も干せないのか疑問です。

- ・公園の水飲みの蛇口がすぐ壊されますが、そのたび、根気よく修理してくださり感謝。公園の掃除も良くしてくださいます。
- ・中川周辺の整備をもっとして欲しいです。(ウォーキングゾーンを作る・雑草の対策)

■職員の対応 (52件)

- ・できればこれからは窓口の人にゆっくり話していただきたい。特に年寄りにはゆっくりと。あまりにも早口すぎます。
- ・区の職員が窓口職務中に携帯電話等を使っているのを多々見かけるが、パソコンのあるところで携帯電話を使う事は業務上必要ですか？携帯電話等にパソコン情報を移すこともできるので、個人情報漏えいや名簿業者への転売など、危険があります。
- ・区役所の窓口に行くと、人によって上から目線で話す職員が結構いる。分からないから聞きに行っているのに、専門用語などを使ってむしろ難しく説明することがある。
- ・以前よりだいぶ改善されたが、区役所の窓口対応を良くしてもらいたい。例えば、ひとつの窓口が混んでいる時、手の空いている人がすぐに対応する等してほしい。
- ・区民事務所の対応は非常に良いと思う。

■治安対策 (50件)

- ・区内に広い公園があつてとても良いと思います。ただ公園の周りにはかなり騒音があるのが残念です。バイクの音だったり、改造車のエンジン音、夜中のこれらの音はどうにかならないのでしょうか。
- ・街中をきれいにして下さい。北千住ターミナルなのにホームレスやあまりに汚い人が寝ていたり、どうにかして下さい。
- ・治安が悪いイメージを持たれますが、パトロールなども多く、帰りが遅いですが、比較的安心して過ごしています。
- ・防犯カメラを多く設置し、小さな犯罪も防いでほしい。

■学校教育 (40件)

- ・教育内容が学力に偏っている。調和のとれた人格形成をするためには、知、徳、体の3つを育成することが大切と考えている。
- ・足立区の給食は評判が良いのはいいのですが、それ以外でも子供の学力向上や環境に力を入れてほしいです。
- ・教育レベルの向上により、足立区民の質を上げてほしい。お金をかけなくとも、一定レベル(他の区と同レベル)の教育が受けられるよう、公共の学校のレベルアップ、塾等の補助教育(機関)への支援、補助金制度等の充実。
- ・子供の教育体制をもっと良くして欲しい。学校が少ない、古い。数を増やせないのであれば、質を向上する必要があると思います。

■マナーについて (39件)

- ・ビューティフルウィンドウズ運動があるが、区施設の近くに住んでいるが利用者のタバコに困って

第3章 調査結果の分析

いる。(施設職員のタバコ利用にも困っている)

- ・日常感じている事ですが、自転車の無灯火、自転車でのスマホ、歩きスマホ、高齢者にとっては本当に危険です。
- ・タバコやゴミのポイ捨て、ペットの飼育など、公共マナーの取締りを強化してほしい。
- ・足立区花火大会のマナー。

■足立区のイメージ (37件)

- ・足立区のイメージを上げてもらいたい。足立の人はもちろん、他の地区の人からも住みたい暮らしたい街になるようになってほしいです。
- ・足立の観光名所を1つでもとりあげ作って欲しい。
- ・足立区＝ガラが悪い・治安が悪い・下町イメージがついてしまい、他区や他県の人からもバカにされる。
- ・足立区は住みやすいのですが、清潔なイメージがありません。

■防災対策 (35件)

- ・駅前の道路の電線を見る度に震災の時が怖いと思う。人通りの多い道路だけでもむき出しにしない等、災害対策を施してほしい。
- ・足立区役所からの防災無線(スピーカー)情報が聞き取りにくい、内容がわからない。災害情報をメール配信などに力を入れていますが、携帯電話を持っていない者はどのように知ればいいのか？
- ・私の子供が通っている校舎は耐震対策はしてあるものの、雨漏りはするし床はキュッキュッときしんでとても気になります。こんな校舎では本当に大きな地震がきた時に耐えられるのか不安です。
- ・河川の津波、大雨対策の強化をお願いしたい。

■業務の外部委託・個人情報について (26件)

- ・一部の窓口を民間に委託した問題が新聞に載りました。経費の節約と目的に行ったらしいですが経費が増加したとの事です。やはり大事な場所は区の職員が担当してこられたのが区民として安心です。
- ・区の窓口が民間委託することに不安があります。区が個人情報を保障できるのでしょうか？
- ・民間委託後、窓口の対応や接客や事務処理能力が大変悪化し『たらい回し』も増え、公的手続きが順調に行われず生活に支障をきたして困っている。
- ・何でも民活を導入すれば良いと思いません。個人情報の守秘義務のある部門はやはり職員があたりの方が安心です。人の口は防げないのですから。公務員はその規範より信頼しているから一般人とは違うのです。

■議員・職員数について (23件)

- ・議員が多すぎる。議員が何をやっているのか分からない。税金を無駄使いしない為に、給与等経費に目を向けていたいと思う。本当に必要なことに使われているかと。
- ・議員の給与・諸手当の引き下げ(みんな裕福)、議員手当の廃止。みんな他より裕福(土地・ビルなど所有)。

- ・駅前での選挙活動の時、狭い通りに活動員達がいって通るのが困難でせめて人数を少なくしてほしい、駅まで通れない。
- ・区議会議員の領収書のない経費を認めるべきではない。特権階級意識が強すぎる。議員も主婦も同じ「一区民」です。足立区を良くしたいと思うなら大金を使わずもっと頭を使って下さい。頭が使えないならもっと体（足）を使ってください。税金はみんなが身を削ってお支払いしているのです。

■生涯学習（21件）

- ・区のいろいろな施設を受付曜日、時間など融通してほしい。
- ・スポーツなら足立区が良い環境と思われるような施設や大学、高校、国立科学センターなどの勧誘をして、若い力のある足立区を目指していただきたい。
- ・近くに児童館・図書館がないので作ってほしい。
- ・住区センターなどの利用とか、もっと活発なセミナー、勉強会、これから高齢者が増えるので、60代70代のためのイベント、元気になれる企画があれば良い。

■障がい者支援（19件）

- ・私は障がい者です。区の補助ありがとうございます。年一回の区長との対話集会に参加していますが、各障がい者団体の陳情がなかなか受理されず、残念に思っています。
- ・福祉の重要性と言う割には、障がい者や障がい児に対して選択肢が少ない。利用を希望しても定員がいっぱい等の理由で利用出来ない場合や、回数が少ない。その職にかかわる職員の人数も足りない。
- ・子ども達の多動障がいの子が増えてきています。専門の区立の小学校→中学校→高校→大学とサポートしてもらえる学校が足立区に欲しいです。
- ・バリアフリー化が遅れている。運動施設があっても障がい者が使いづらい。歩道にまだまだ傾斜がある。

■資源環境対策（19件）

- ・資源ごみの回収前（早朝）に、資源ごみの盗難があまりにも多く見かけるので、盗難防止のパトロール等を行ってほしい。
- ・近所の家の庭でゴミを燃やして、臭いがすごく困っています。区のどの課に相談・解決してもらえるのか教えてほしいです。
- ・以前区に電話させてもらったが、資源ゴミを搾取している者がいる（千住）。徒党を組みリーダーは朝から酒を飲み、公園の回り千住大橋駅のガード下等で資源を集め、業者に引き取りを行わせている。区として広報だけでなくパトロール等を行うべき、何の為の資源なのか？
- ・足立区は公園がたくさんあって良いのですが、小さい公園は汚い所が多いです。大きい公園はシルバーセンターの方でしょうか？毎日掃除に来ていて、きれいで良いのですが。私の住宅近くの公園はゴミがよく落ちていて汚い感じの公園なので、公園へゴミを捨てていく人もいるようで少し残念な気がします。

■区の行事やイベントについて（17件）

- ・足立区主催の「お見合い広場」、「情報交換会」、「助け合い広場」「弱者救済センター」があればいい

第3章 調査結果の分析

といつも思っております。

- ・駅前商業施設開発やものづくりをする企業や職人さんが足立には多いと思うので、ものづくりイベントやハンドメイド市、フリマや野菜市など、他区県に足を運んでもらえるような他区に負けない足立区にしかないイベントをたくさんやってほしい。
- ・夏の花火大会は最近では全国にいられているレベルなので、千住側の土手に桜並木を作って、春は花見、夏は花火、冬はマラソン、とイベントをすれば、他地域から人が集まり、地域経済は活発になると思うし、住みたいと思う人が増えるのでは。ただ、毎年思うことですが“トイレ”をもっと増やして下さい。無人（ガムテープやロープ、シート）での場所の確保は禁止に。
- ・足立区の花火大会は（9月か）10月の開催にしてほしい。気温もちょうどいいし、天候も落ち着いている。「東京の秋は足立区の花火」として他所との差別化を図る。「東京の夏は隅田川の花火」なんだろうと思う…。

■雇用促進（17件）

- ・精神カウンセリングや教育も含めた就業支援の拡充を望みます。生涯現役は区の税収となり健康増進につながり保険料も抑えることにつながると思います。
- ・足立区では中小企業の育成が大事。力を入れてほしい。年寄りの活用で健康維持とボケ防止につながると思います。働きたい高齢者は多いです。シルバー人材センターの活用で医療費の削減が図れるのでは？
- ・高齢化が進むので、働ける環境を作り若年の生活保護支給は見直し、少しでも働く事を義務づけるべきです。
- ・多くの事業を業務委託していること、派遣会社から人を雇うのは反対です。区内の人をパート、アルバイトで雇用すれば、派遣会社に支払い分で区内の人が潤うのでは。

■地域活動支援・ボランティア（15件）

- ・子供達（小学生）に老人との交流の場を増やしてほしい。老人ホームなど、現実を見せて何か一つでも心に残れば良いと思う。
- ・自治体にかんがりの補助金を出しているが、その恩恵を受けているのは一部の町会関係者がほとんど。町会・自治会の運営見直しの助言をすべき。
- ・緑化しているがその後の手入れがほとんどされず、かかれていたり、雑草が多い。教育的にも良くないと思う。ボランティアを動員してもいいと思う。
- ・生まれも学校も仕事も足立区の保護者達にはうんざり。井の中の蛙です。新しく転居してきた人達は、地主の方針で自治会も入れない。こんなんでも良いのでしょうか？

■保健衛生対策（15件）

- ・近所の古民家の一部で商店街、肉、揚げ物を販売する店、今どき水洗トイレでは無く、汲み取りの車が来ると辺りが異様な臭い、悪臭がする。食べ物を売る店。考えられません。現代のニーズに改善してほしいです。
- ・区政でぜひ“ノラ猫対策”について取り上げてもらいたい。家の周りに無責任にノラ猫にえさを与える人のせいで、どんどん増え、ふんによる衛生面悪化、猫の飛び出しによる老人の怪我など大変なことになっている。道にあちこちにふんがあり、子供も小さいので衛生面が大変心配。犬猫のふ

んに対する罰則条例をぜひ作ってほしい。

- ・足立区は公園がたくさんあって良いのですが、小さい公園は汚い所が多いです。私の住宅近くの公園はゴミがよく落ちていて汚い感じの公園なので、公園へゴミを捨てていく人もいるようで少し残念な気がします。
- ・ペットに優しい区にしてほしい。

■その他（69件）

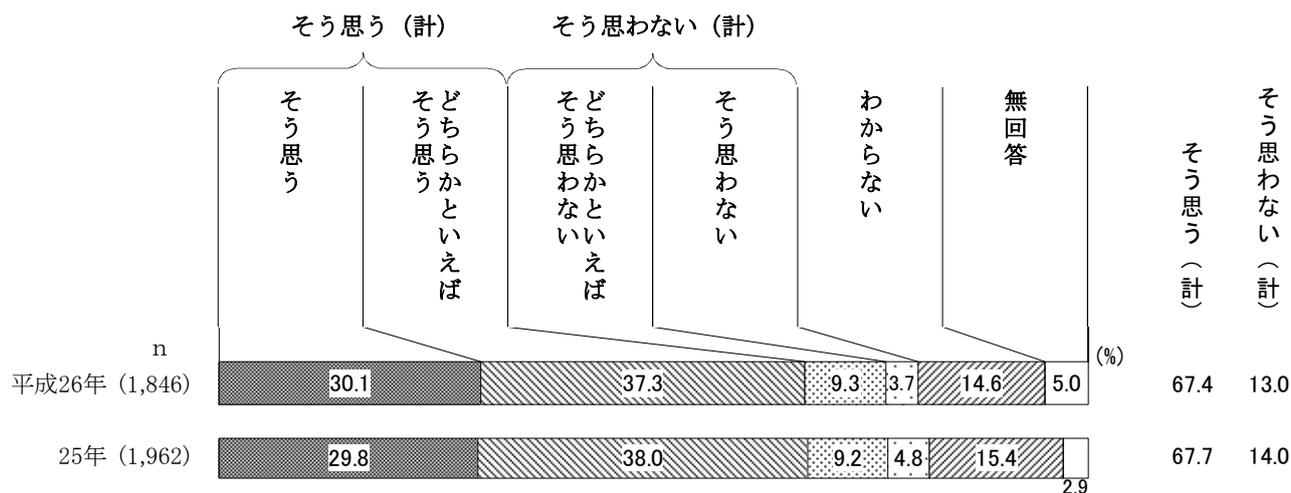
- ・車道と歩道がいっしょになっている通勤・通学・生活道路の制限速度は、住民が安心して生活でき、車より人間優先の愛着が持てる町にするために、20km/h以下が望ましい。
- ・都営住宅に住んでいる外国人の方が複数で同居している。日本人で優先して入りたい人達が、住めない現実、なんとか出来ないか。
- ・今、世の中は不況です。区のほうで運転資金等の5～10年スパンでご協力願いたいです。足立区で頑張りたいです。
- ・2020年の東京オリンピックに興味があります。足立区はどう取り組むのか？とても興味があります。

(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

■ 7割近くの方が有効な内容だと思っている

問39 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいいたします。今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。(〇は1つだけ)

図9-6-1 前回調査比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



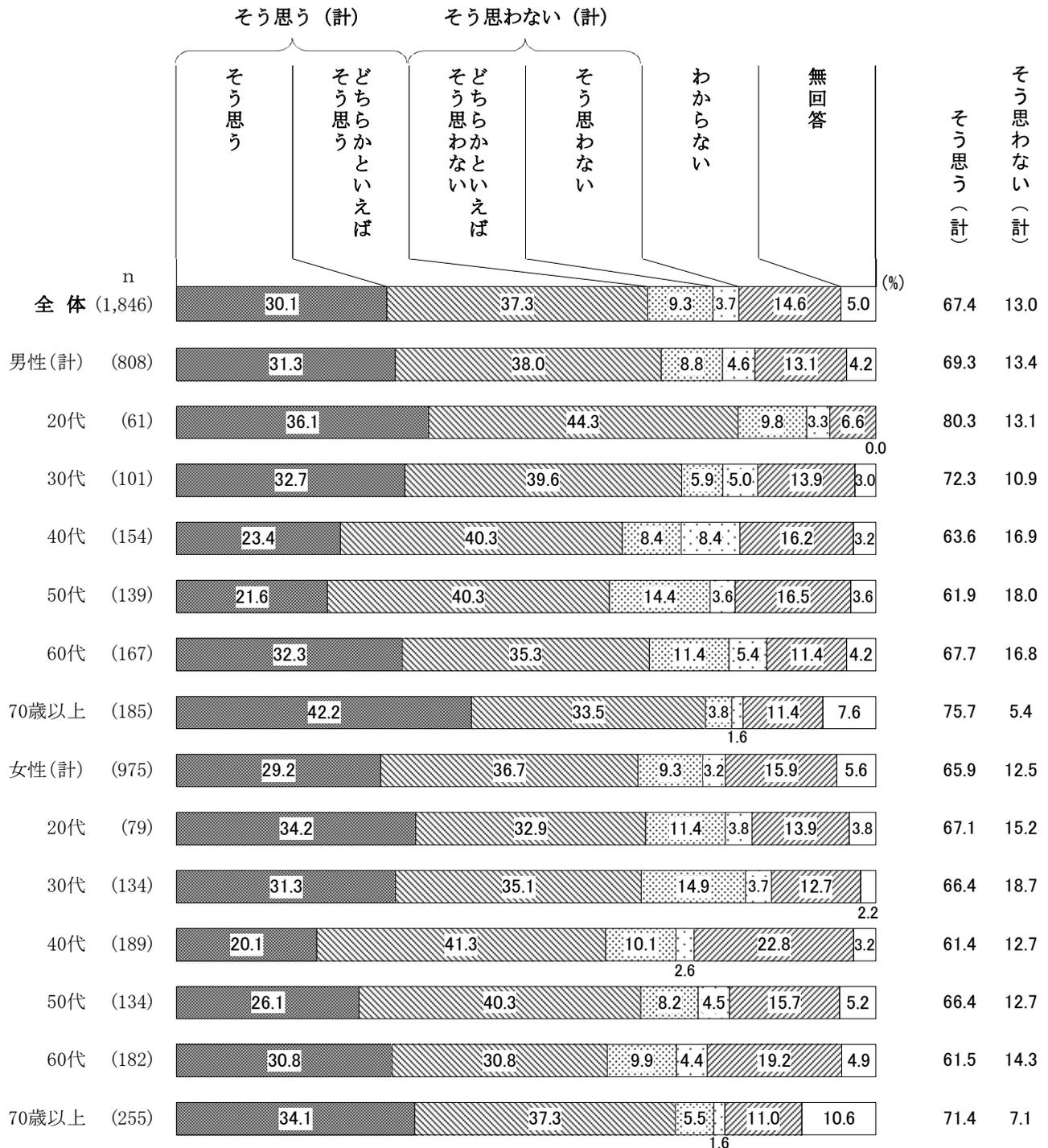
本調査の質問内容が、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】が67.4%となっている。

前回結果と比較すると、大きな差はみられない。

性別でみると、【そう思う】は、男性69.3%、女性65.9%となっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性の20代、30代、70歳以上、女性の70歳以上で、7割を超えている。

図9-6-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



第4章 使用した調査票

平成26年度（第43回）足立区政に関する世論調査

ご回答にあたって

1. 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内等のことわり書きをよくお読みください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。
6. この調査票は、無記名式となっています。調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありません。
7. このページの右上の「ブロックNo.」は、区内を13の地域に分けて分析する際の区別のため用いるもので、これによってお名前や住所が判明するということはありません。
8. お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理いたします。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**9月25日（水）**までにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。



[調査主体] 足立区政策経営部広報室区政情報課
担当：区政情報係
足立区中央本町1-17-1

[お問合せ先] お問い合わせコール あだち
3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／年中無休）

[調査受託機関] 株式会社 サーベイリサーチセンター

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は次のどちらですか。(〇は1つだけ)

1. 男性	43.8%	2. 女性	52.8	無回答	3.4
-------	-------	-------	------	-----	-----

F 2 あなたは何歳ですか。(〇は1つだけ)

1. 20~24歳	3.6%	6. 45~49歳	9.8	11. 70~79歳	17.0
2. 25~29歳	4.0	7. 50~54歳	7.3	12. 80歳以上	7.2
3. 30~34歳	6.2	8. 55~59歳	7.6	無回答	2.8
4. 35~39歳	6.6	9. 60~64歳	8.5		
5. 40~44歳	8.9	10. 65~69歳	10.5		

F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか。(〇は1つだけ)

1. 1年未満	2.2%	3. 5~10年未満	7.7	5. 20年以上	68.0
2. 1~5年未満	6.8	4. 10~20年未満	12.6	無回答	2.7

F 4 あなたのお住まい(住居)は次のどれにあたりますか。(〇は1つだけ)

1. 一戸建て持家	45.0%	6. 社宅・公務員住宅・寮	1.1
2. 一戸建て借家	1.7	7. 間借り・住み込み	0.8
3. 分譲マンション	18.5	8. その他()	0.7
4. 賃貸マンション・アパート	16.0	無回答	2.7
5. 公団・公社・都営住宅・区営住宅	13.5		

F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか。(〇は1つだけ)

1. 自営業・事業主	10.2%	6. 学生	1.4
2. 自由業(開業医、弁護士、芸術家など)	0.7	7. 無職(年金生活を含む)	22.0
3. 会社員・公務員	29.7	8. その他()	3.3
4. パート・アルバイト	15.2	無回答	2.7
5. 主に家事に従事(専業主婦など)	14.8		

F6 あなたの就労場所（就学場所）は次のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

1. 自宅	9.8%	5. 茨城、神奈川、埼玉、千葉	10.0
2. 足立区内	31.6	6. その他（ ）	2.0
3. 足立区外の東京22区	42.7	無回答	0.3
4. 23区以外の東京	3.8		

F7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

1. ひとり暮らし	14.3%	4. 祖父・祖母	2.1	7. 兄弟・姉妹	6.8
2. 配偶者	58.6	5. 子ども	43.0	8. その他（ ）	2.5
3. 父・母	17.2	6. 孫	3.3	無回答	2.9

F8 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

※「子ども」は同居・別居を問いません

◎ 独身で子どもがいない	1	21.9%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる			
┌ 一番上の子どもが小学校入学前	2	0.4
└ 一番上の子どもが小学生	3	0.5
┌ 一番上の子どもが中学生	4	0.5
└ 一番上の子どもが高校・大学生	5	1.2
┌ 一番上の子どもが学校卒業	6	8.4
◎ 配偶者がいて子どもがいない	7	9.4
◎ 配偶者がいて子どもがいる			
┌ 一番上の子どもが小学校入学前	8	5.5
└ 一番上の子どもが小学生	9	5.3
┌ 一番上の子どもが中学生	10	2.0
└ 一番上の子どもが高校・大学生	11	6.0
┌ 一番上の子どもが学校卒業	12	26.6
└ 無回答			12.4

次のページからも引き続きお答えください ⇒



お住まいの地域について、おうかがいたします

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
ア. 通勤や通学などの交通の便がよい	33.2%	35.5	12.0	11.7	1.5	6.1
イ. 子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている	13.4	33.3	12.6	6.8	25.1	8.7
ウ. 地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている	8.7	32.2	18.9	10.2	23.6	6.4
エ. よく行く、または行きたい公園がある	17.3	26.1	17.2	21.0	11.5	6.8
オ. 普段の買い物が便利である	38.9	34.7	10.3	10.6	0.7	4.8
カ. 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている	8.4	22.0	24.8	37.1	2.9	4.8
キ. 快適で安全なまちづくりが進められている	5.9	36.1	25.0	16.3	11.3	5.5
ク. 景観・街並みが魅力的になってきている	5.7	30.7	25.4	24.3	8.4	5.5

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	減少		増加		わからない	無回答	
	明らかに減っている	どちらかといえば減っている	以前と変わらない	どちらかといえば増えている			明らかに増えている
ア. ごみやタバコのポイ捨て	12.7%	40.2	30.0	4.5	3.1	4.9	4.6
イ. ペットのふん	10.2	34.9	28.7	9.5	5.7	6.3	4.6
ウ. まちなかの花や緑	2.5	8.7	46.4	25.8	5.3	6.7	4.5
エ. 防犯パトロール	3.5	6.2	42.3	22.3	6.2	15.3	4.3

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(〇は1つだけ)

1. 暮らしやすい	21.9%	3. どちらかといえば暮らしにくい	16.7
2. どちらかといえば暮らしやすい	55.0	4. 暮らしにくい	2.9
		無回答	3.4

(問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に)
問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか。(〇は3つまで)

1. 自然が少ないこと	15.7%
2. 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	22.9
3. 交通の便が悪いこと	36.9
4. 買い物がしにくいこと	30.6
5. 子育て環境が悪いこと	11.0
6. 教育環境が整っていないこと	8.3
7. 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	44.6
8. 職場や学校から遠いこと	3.6
9. 災害対策が不十分なこと	12.4
10. 治安が良くないこと	30.0
11. 家の広さなどの居住環境が悪いこと	8.8
12. 地域の間人間関係が希薄なこと	14.9
13. 行政のサービスが良くないこと	9.6
14. その他 ()	7.7
無回答	0.8

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

1. ずっと住み続けたい	35.8%	4. わからない	15.3
2. 当分は住み続けたい	40.0	無回答	3.1
3. 区外に転出したい	5.7		

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいいたします

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。(○は1つだけ)

1. 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	19.5%
2. 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	47.9
3. 特に用意していない ⇒ 問6へ	30.1
無回答	2.5

(問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に)

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(○はあてはまるものすべて)

1. 水	89.7%	10. 消火器	24.0
2. 食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)	86.3	11. ペット対策用品(ケージ・エサ等)	8.8
3. あかり(ろうそく・懐中電灯等)	82.7	12. 水の確保用品(ポリタンク・水袋等)	29.3
4. 情報収集手段(携帯ラジオ等)	54.1	13. 救助用工具(バール・ハンマー等)	9.9
5. 医薬品(常備薬を含む)	40.8	14. ヘルメット	15.3
6. 衣類	28.5	15. 救急セット	21.9
7. 生理用品	17.0	16. 避難ロープ	9.9
8. 簡易トイレ	18.7	17. 防災袋(非常用持出袋)	33.8
9. 電池・予備バッテリー	48.5	18. その他()	2.9
		無回答	1.0

(問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に)

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1週間分以上	3日以上 1週間分未満	1日以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア. 水	11.9%	26.4	44.9	11.8	4.5	0.4
イ. 食料	6.1	29.5	46.9	13.7	3.2	0.7

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

《 問7へお進みください 》

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか。(〇は1つだけ)

1. 町会・自治会からもらう	10.8%	5. 考えていない	41.3
2. 知人、親戚からもらう	3.6	6. その他 ()	9.2
3. 区役所からもらう	6.8	無回答	0.9
4. 通常どおりスーパーなどで購入する	27.4		

ここから再び、すべての方におうかがいたします

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか。(〇は1つだけ)

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

1. すべての家具類に対策を行っている	3.2%	3. 対策をしている家具類は少ない	36.0
2. 対策をしている家具類が多い	23.9	4. 対策を行っていない	34.7
		無回答	2.2

(問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方へ)
問7-1 どのような理由からですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 方法がわからない	11.2%
2. 金具などが高価である	13.6
3. 家具にキズをつけたくない	9.3
4. 建物の壁にキズをつけたくない	23.8
5. 建物に取り付ける場所がない	15.4
6. 室内に危険性のある家具類がないため不要である	23.4
7. 面倒である	28.1
8. 手が届かない等、手助けがないと取り付けができない	15.6
9. 地震で家具が倒れたり移動するとは思わない	5.0
10. (賃貸のため)勝手に取り付けられない	18.5
11. その他 ()	10.0
無回答	2.2

第4章 使用した調査票

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか。

(〇は1つだけ)

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、
③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

1. 知っていて、既に利用した	1.0%	4. 知らない	82.4
2. 知っているが、利用したことはない	8.1	無回答	4.4
3. 知っているが、対象とならないので利用できない	4.2		

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(〇は5つまで)

1. 町会・自治会等地域の防災力向上に係る支援	23.5%
2. 子どもへの防災教育の充実	12.4
3. 講演会等による普及啓発や区主催の訓練	2.8
4. 耐震診断・耐震改修事業などの促進	18.9
5. 木造密集地域等災害危険箇所の解消	16.4
6. ライフラインやエネルギーの確保	56.5
7. 津波対策	8.1
8. 関係機関・他自治体等との応援体制の充実	10.6
9. 災害に関する情報提供体制の充実	28.3
10. 災害時医療体制の充実	40.8
11. 帰宅困難者対策	20.7
12. 避難所の管理運営体制の充実	17.8
13. 避難所施設の設備等の充実	34.7
14. 災害時における要配慮者(※)対策の充実	11.3
15. 女性の視点に立った防災対策	9.5
16. 災害時のペット対策	10.1
17. 水・食料の備蓄の充実	52.8
18. 非常用トイレの確保など衛生対策の充実	52.3
19. その他 ()	2.1
20. 特にない	0.8
無回答	3.5

※災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

区の情報発信のあり方について、おうかがいたします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム(A-メール)等で区の情報発信するほか、25年度からはツイッターやフェイスブックなどによる情報発信も開始しました。

問10 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。

(〇はあてはまるものすべて)

1. あだち広報	76.1%	7. 町会・自治会掲示板・回覧板	35.4
2. ときめき	43.8	8. 新聞(区内紙、一般紙)	18.0
3. あだちわたしの便利帳	26.0	9. テレビ、ラジオ	18.5
4. インターネット (区のホームページ、A-メール、 ツイッター、フェイスブック)	26.7	10. JCN足立(ケーブルテレビ)	11.9
5. ポスター、チラシ	12.7	11. 人から聞く	12.5
6. 区民事務所などの窓口	5.4	12. 防災無線	4.8
		13. その他()	0.5
		14. 特に入手していない	7.7
		無回答	3.0

問11 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 財政状況や予算などに関する情報	22.8%
2. 国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報	49.7
3. 健診や生活支援など健康や福祉に関する情報	61.9
4. 出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報	22.9
5. イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報	26.9
6. 災害や気象に関する情報	47.9
7. 光化学スモッグや大気測定などの測定値情報	22.8
8. ごみ・リサイクルなど環境に関する情報	39.2
9. その他()	2.1
10. 特になし	4.5
無回答	4.4

問12 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか。(〇は1つだけ)

1. 十分に得られている	2.8%	3. 得られないことが多い	16.6	5. 必要と思ったことがない	8.6
2. ある程度得られている	61.7	4. まったく得られない	2.4	6. 区の情報に関心がない	3.3
				無回答	4.7

(問12で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に)

問12-1 どのような理由からですか。(〇は1つだけ)

1. 情報が探しにくい	34.2%	4. 情報の内容がわかりにくい	17.1
2. 情報の探し方がわからない	30.8	5. 情報量が少ない	11.7
3. 情報伝達が遅い	3.7	6. その他()	1.7
		無回答	0.9

問13 あなたは、「お問い合わせコールあだち」を利用したことがありますか。(〇は1つだけ)

1. 利用したことがある	4.9%	3. 「お問い合わせコールあだち」を知らない	
2. 知っているが利用したことはない	24.1		67.6
		無回答	3.5

健康について、おうかがいいたします

足立区では、患者数が多く重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問14 あなたは、糖尿病という病気を知っていますか。(〇は1つだけ)

1. 知っている	83.9%	3. 知らない	0.8
2. 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	14.0	無回答	1.4

※ 糖尿病とは血液中のブドウ糖の濃度（血糖値）が高くなり、その状態が続いてしまう病気です。インスリンという血糖値を調節するホルモンの量が不足したり、働きが悪くなったりすることが原因です。日本人の糖尿病の大部分は、過食・肥満・運動不足・ストレスといった生活習慣や遺伝が要因となっているため、予防が大切です。

問15 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 神経障がい (手足のしびれ)	34.2%	5. 脳梗塞	28.9	10. 足の壊疽	67.4
2. 網膜症	30.1	6. 心筋梗塞	31.4	11. その他()	1.1
3. 白内障	23.3	7. 口の渇き	50.1	12. わからない	5.9
4. 腎不全	39.4	8. 人工透析	47.1	無回答	2.4
		9. 失明	71.1		

問16 あなたは、食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

1. 知っている	47.0%	3. 知らない	20.9
2. 詳しくは知らないが、聞いたことがある	30.9	無回答	1.2

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜を良くかんで食べるのが効果的です。

問17 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか。（○は1つだけ）

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1. できている	9.0%	3. あまりできていない	38.0	5. わからない	4.3
2. だいたいできている	29.2	4. できていない	17.9	無回答	1.6

問18 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください。（○はそれぞれ1つずつ）

	あてはまる	あてはまらない	無回答
ア. 現在の健康状態はよい	68.0%	26.8	5.3
イ. 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	21.3	71.5	7.2
ウ. 習慣的にタバコを吸っている	22.5	70.9	6.7
エ. 安心して受診できる医療機関が身近にある	64.7	31.3	4.0

問19 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください。（○はあてはまるものすべて）

1. 毎年健康診断を受けている	60.6%
2. がん検診を定期的に受けている	15.0
3. 毎日朝ごはんを食べている	67.6
4. 毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるように心がけている	49.8
5. 主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている	43.3
6. 食品の表示（添加物、消費期限など）を見て購入している	43.9
7. 食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている	53.8
8. 健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある	36.7
9. その他（)	4.7
10. 特にない	4.7
無回答	1.2

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、おうかがいたします

問20 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1. 知っていて、活動を実践している	3.8%	4. 知らない	56.6
2. 知っているが、特に何も行ってない	16.5	(初めて聞いた)	
3. 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	20.7	無回答	2.4

問21 あなたは、平成25年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が減少し、治安が改善していることを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 警察が犯罪について、被害の届出等によりその発生を確認した件数。ただし、交通違反等を除きます。

1. 知っている	36.5%	2. 知らない（初めて聞いた）	60.6	無回答	2.9
----------	-------	-----------------	------	-----	-----

問22 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか。

（○は1つだけ）

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1. 良い	5.6%	3. どちらかといえば悪い	26.8	5. わからない	18.0
2. どちらかといえば良い	42.6	4. 悪い	5.0	無回答	2.0

（問22で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に）

問22-1 どのような点で治安が良いと感じますか。（○は2つまで）

1. 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	18.7%
2. テレビや新聞などで犯罪発生のニュースが少ないから	24.6
3. 犯罪の発生件数が減っているということを知ったから	18.1
4. 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	58.8
5. 青パトなど自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	20.9
6. 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから	22.2
7. 防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから	6.3
8. その他（ ）	2.1
無回答	0.9

問22-2へ

(問22で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に)

問22-2 どのような点で治安が悪いと感じますか。(〇は2つまで)

1. 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	23.9%
2. 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	60.0
3. 子どもに対する「不審な声かけ事案等」の発生が多いと聞いたことがあるから	21.0
4. 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	22.0
5. 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	25.9
6. 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	18.2
7. その他 ()	9.2
無回答	0.7

ここから再び、すべての方におうかがいいたします

問23 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。

(〇は2つまで)

1. 犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	20.0%
2. 防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援	50.7
3. 地域住民による防犯パトロール活動への支援(防犯用品の貸与等)	13.7
4. 防犯講習会の開催	1.7
5. 街頭キャンペーンやイベントの実施	3.8
6. 安全に配慮した道路、公園の整備	43.1
7. 安全・安心パトロールカー(青パト・青バイ)による防犯パトロール	38.9
8. その他 ()	2.7
9. 特にない	2.7
無回答	2.4

問24 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。(〇は1つだけ)

1. いつも鍵をかけている	70.1%
2. 鍵をかけることが多い(時々鍵をかけ忘れることがあるを含む)	7.5
3. 短時間のときには、鍵をかけないことがある	3.2
4. 鍵をかけることは少ない	1.1
5. 鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)	0.3
6. 自転車を持っていない、使っていない	15.1
無回答	2.8

環境・地域活動について、おうかがいたします

問25 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. ごみと資源の分別を実行している	86.8%
2. くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	42.7
3. マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	53.6
4. 環境に配慮した製品を選んで使っている	14.7
5. 節電や節水など省エネルギーを心がけている	56.1
6. その他 ()	1.7
7. 特にない	3.0
無回答	3.4

問26 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか。(〇はいずれも、あてはまるものすべて)

内 容	この1年間に参加された活動	引き続き、または今後参加したいと思う活動
1. 町会や自治会の運営に関する活動	11.6%	8.1
2. 町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物	15.1	13.8
3. 花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物	19.8	23.4
4. ボランティアやNPO（民間の非営利活動の組織）などの活動	3.5	7.4
5. まちの美化活動（ごみ拾い、門掃き、公園の清掃など）	7.4	10.9
6. 自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成	14.2	14.6
7. 防犯パトロールなどのまちの防犯に関する活動	5.3	6.2
8. お囃子、獅子舞など地域の伝統芸能を保護・継承する活動	0.9	4.6
9. 家族、地域の健康づくりを支援する活動（健康講座に友人を誘う、講座で得た知識を周囲の人に伝えるなど）	3.2	6.2
10. 特に参加していない・特にない	32.7	15.2
無回答	25.6	41.9

問27 あなたは、区役所が区民・団体等と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか。(〇は1つだけ)

1. そう思う	6.9%	4. そう思わない	7.0
2. どちらかといえばそう思う	20.7	5. わからない	49.7
3. どちらかといえばそう思わない	9.4	無回答	6.2

「孤立ゼロプロジェクト」等について、おうかがいたします

問28 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。
 (○は1つだけ)

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1. 知っていて、内容も概ね理解している	7.6%	3. 知らない（初めて聞いた）	69.4
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	20.0	無回答	3.0

→ (問28で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に)

問28-1 プロジェクトのことをどのようにして知りましたか。
 (○はあてはまるものすべて)

1. あだち広報	62.9%	4. 近所の方から聞いた	6.4
2. 町会・自治会の方から聞いた	37.1	5. その他（ ）	15.7
3. 民生委員の方から聞いた	12.1		

問29 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか。(○は1つだけ)

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

1. 知っていて、業務内容も概ね理解している	17.7%	2. 聞いたことはあるが、詳しくはわからない	31.6
		3. 知らない（初めて聞いた）	45.9
		無回答	4.8

↓ (問29で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に)

問29-1 「地域包括支援センター」のことをどのようにして知りましたか。
 (○はあてはまるものすべて)

1. あだち広報	46.3%	4. 近所の方から聞いた	14.4
2. 町会・自治会の方から聞いた	10.1	5. その他（ ）	40.8
3. 民生委員の方から聞いた	7.1	無回答	0.9

問30 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか。(〇は1つだけ)

1. 積極的に協力したい	2.0%	4. 興味がない、協力したくない	7.0
2. 負担にならない範囲で協力してもよい	15.8	5. わからない	25.7
3. 協力したいが、時間などに余裕がない	42.5	無回答	7.0

→(問30で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に)
問30-1 どのような活動に協力したいですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動	39.0%
2. 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、 ちょっとした気づかひの活動	55.2
3. 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけ などをする活動	30.2
4. 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助	12.2
5. その他 ()	3.7
無回答	4.0

問31 あなたは、高齢者等の権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。

(〇は1つだけ)

1. 内容まで知っている	20.3%	3. 知らない	39.4
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	35.5	無回答	4.8

ユニバーサルデザインについて、おうかがいたします。

問32 ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、障がいの有無など個人の様々な状況に関わらず、できる限り多くの人々が利用しやすいように配慮されたデザイン（設計）のことです。あなたは、ユニバーサルデザインについてどの程度知っていますか。（〇は1つだけ）

1. 具体的な取り組み事例なども知っている	5.9%	4. 知らない	53.7
2. 言葉の意味は知っている	15.8	無回答	4.2
3. 言葉を聞いたことがある	20.4		

問33 あなたは、ユニバーサルデザインに関心をお持ちですか。（〇は1つだけ）

1. 非常に関心がある	4.2%	3. 関心がない	22.4	無回答	7.1
2. 少しは関心がある	24.3	4. わからない	42.0		

（問33で「1. 非常に関心がある」、または「2. 少しは関心がある」とお答えの方に）

問33-1 ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）に関することで、今後、あなたはどのような取り組みを行いたいですか。（〇は3つまで）

1. 講座やシンポジウムなどに参加して、UDのことを勉強したい	19.5%
2. UDについて勉強したことを周りの人に伝えたい	8.0
3. 地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい	36.2
4. 地域の人と一緒に、日常生活上不便や不安に思われるところを見つけ、改善したい	30.9
5. 行政や事業者に生活者としての意見を提案したい	12.3
6. UDについては、普段から取り組んでいるので、改めて取り組む必要はない	0.8
7. UDの推進には協力するが、主体的には参加しない	29.0
8. その他（ ）	2.3
9. 特にない	12.9
無回答	1.1

問34 あなたは、ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）を推進していく上で、どのような取り組みが必要だとお考えですか。（〇は3つまで）

1. UDを取り入れたまちづくりや施設整備	31.5%
2. UDに関する教育や人づくり	18.6
3. UDに関する情報提供（広報誌やホームページを活用）	23.1
4. UD普及啓発のための講演会やセミナーの開催	4.4
5. UDを取り入れた施設等の見学や体験事業	14.6
6. UDを推進していくための委員会の設置	4.0
7. その他（ ）	0.7
8. 特にない、わからない	36.6
無回答	17.1

足立区の取り組みについて、おうかがいたします

問35 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください。（〇はいずれも、それぞれ1つずつ）

区の取り組み	内 容	現状評価（満足度）				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	8.5%	45.7	19.4	4.8	21.7
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	5.7	42.9	22.5	6.5	22.4
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	4.9	46.9	23.4	3.3	21.5
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	3.9	44.4	25.1	2.6	24.0
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	4.1	43.9	23.9	4.2	23.8
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	7.9	45.8	21.0	4.1	21.2
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	5.8	40.8	27.6	7.8	17.9
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	6.2	40.7	25.8	6.1	21.2
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	9.5	51.6	17.4	2.8	18.7
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	6.3	36.9	26.1	10.6	20.2
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	3.3	40.5	26.7	5.3	24.4
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	5.8	42.8	24.1	7.6	19.6
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	11.4	52.8	15.4	3.4	17.0

区取り組み	内容
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
ニ. 区政全体として	

現状評価（満足度）				
満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
6.3%	42.6	26.7	7.2	17.2
3.8	39.9	29.1	7.3	19.9
6.8	40.2	27.2	9.8	16.1
3.7	37.4	34.2	5.7	19.0
9.7	48.2	22.0	4.0	16.2
9.5	52.0	18.5	2.9	17.0
12.1	47.8	19.5	6.4	14.2
4.8	43.0	27.5	6.8	17.9
5.0	48.2	22.2	5.4	19.2

区の取り組み	内 容
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど

重要度				
重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
53.0%	23.2	2.9	1.0	19.9
50.7	25.6	2.4	0.8	20.5
21.8	45.5	10.3	1.7	20.6
16.0	45.6	13.4	2.4	22.5
20.9	39.3	15.2	3.1	21.5
21.0	43.8	11.9	2.3	21.1
49.1	28.3	4.0	1.0	17.6
43.0	33.3	3.2	1.0	19.6
38.0	38.1	3.8	0.4	19.6
29.1	36.7	11.6	3.1	19.4
24.3	40.7	11.2	2.1	21.7
49.6	28.5	2.5	0.2	19.1
40.5	37.3	3.5	0.5	18.2

区の取り組み	内 容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	28.4%	43.3	8.7	1.3	18.3
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	25.5	40.1	12.4	2.3	19.7
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	45.4	32.7	3.6	0.9	17.4
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	49.0	30.2	2.1	0.4	18.3
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	31.3	42.8	7.0	1.3	17.6
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	28.4	42.8	9.3	1.2	18.2
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	34.0	39.4	8.2	1.0	17.3
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	37.4	37.6	5.5	0.8	18.7

問36 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか。(〇は1つだけ)

1. そう思う	3.1%	4. そう思わない	9.7
2. どちらかといえばそう思う	24.2	5. わからない	34.8
3. どちらかといえばそう思わない	19.7	無回答	8.5

《 裏が最終ページです 》

問37 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
ア. 足立区に愛着をもっている	28.8%	47.7	7.4	4.8	7.3	3.9
イ. 足立区に誇りをもっている	11.3	38.1	17.2	11.6	14.5	7.3
ウ. 足立区を人に勧めたい	9.4	37.4	16.1	11.3	18.0	7.8

(問37で「3. どちらかといえばそう思わない」、または「4. そう思わない」に1つでも○をつけた方に)

問37-1 足立区に愛着を持ってない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

問38 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

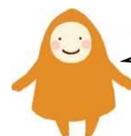
問39 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいいたします。

今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。

(○は1つだけ)

1. そう思う	30.1%	4. そう思わない	3.7
2. どちらかといえばそう思う	37.3	5. わからない	14.6
3. どちらかといえばそう思わない	9.3	無回答	5.0

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、
返信用封筒に入れて 9月25日(水) までにご投函ください。



ご協力ありがとうございました

第43回 足立区政に関する世論調査

2015年3月発行

発行 足立区

編集 足立区政策経営部広報室区政情報課
東京都足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5111 (代表)

実施 (株)サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里2-40-10
電話 03-3802-6724

印刷登録番号26-460

この報告書は再生紙を使用しています。



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室区政情報課

この報告書は再生紙を使用しています。